

北米・中南米地域
2023 年度テーマ別評価
「日系社会連携事業がもたらす
事業効果の可視化」
最終報告書

2024 年 12 月

独立行政法人
国際協力機構（JICA）

株式会社メトリクスワークコンサルタンツ
株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング

評価
JR
24-045

目次

1. 評価の概要	1
1.1. 評価の背景	1
1.2. 評価の目的・対象	1
1.3. 実施体制	2
1.4. 評価期間	3
1.5. 評価にかかる留意事項	3
1.6. 本報告書の構成	3
2. 日系社会連携事業の方針・実績	4
2.1. JICA 日系社会連携事業の方針	4
2.2. 評価対象各スキームの概要・実績	5
2.2.1. 助成金交付事業	5
2.2.2. 日系社会次世代育成研修	8
2.2.3. 日系社会リーダー育成事業	10
2.2.4. 日系社会研修	11
2.2.5. 海外移住資料館	15
2.3. 評価対象5スキームを中心とした日系社会連携事業のセオリー・オブ・チェンジ (ToC)	16
3. 事業効果の検証	19
3.1. 評価の方法	19
3.1.1. 評価手法	19
3.1.2. データ収集	19
3.2. 助成金交付事業の評価	23
3.2.1. アウトカム・指標	23
3.2.2. アンケート回答団体属性	24
3.2.3. 分析結果	25
3.3. 日系社会次世代育成研修の評価	28
3.3.1. アウトカム・指標	28
3.3.2. アンケート回答者属性	29
3.3.3. 分析結果	30
3.4. 日系社会リーダー育成事業の評価	41
3.4.1. アウトカム・指標	41
3.4.2. アンケート回答者属性	42
3.4.3. 分析結果	43
3.5. 日系社会研修(通常枠及び日系サポーター枠)の評価	53
3.5.1. 研修参加者へのアウトカム発現状況	54
3.5.2. 日本国内の課題解決へ向けたアウトカム発現状況	69
3.6. 海外移住資料館の評価	74
3.6.1. アウトカム・指標	74
3.6.2. アンケート回答者属性	75
3.6.3. 分析結果	75

4. 現地調査3カ国の詳細分析	80
4.1. ブラジル	80
4.1.1. ブラジル国概況	80
4.1.2. 現地調査結果	82
4.2. パラグアイ	94
4.2.1. パラグアイ国概況	94
4.2.2. 現地調査結果	96
4.3. ボリビア	102
4.3.1. ボリビア国概況	102
4.3.2. 現地調査結果	104
5. 評価結果及び提言・教訓	116
5.1. 日系社会連携事業全体の評価結果	116
5.1.1. アウトカム・指標	116
5.1.2. 分析結果	116
5.2. 日系社会連携事業の戦略性強化に向けた提言	124
5.3. 個別のスキームに対する提言	126
5.3.1. 助成金交付事業	127
5.3.2. 人材育成事業	127
5.3.3. 海外移住資料館	131
5.4. 日系社会連携事業 ToC の改訂	132
5.4.1. 日系団体・研修参加者等中南米側関係者のアウトカムに関する ToC の改訂	132
5.4.2. 日本国内の課題解決へ向けたアウトカムに関する ToC の改訂	136
5.5. 継続的なデータ収集方法に関する提案	139
5.5.1. アウトプットに関するデータ	139
5.5.2. アウトカムに関するデータ	139
別添1. ウェブアンケート最終版	別添1 - 1
別添2. 現地調査日程	別添2 - 1

1. 評価の概要

1.1. 評価の背景

我が国の計画的移住は、明治元年（1868 年）から始まり、第二次世界大戦後は国の重要施策として推進された。戦後の海外移住者数は 1957 年ごろにピークを迎え、労働力不足が顕著となった高度経済成長期に減少、1993 年度には国の海外移住者送出業務が終了した。国際協力機構（JICA）は、戦後、前身である海外移住事業団など¹から継続して、世界全体の日系人約 500 万人の約 6 割に相当する約 308 万人が暮らす中南米地域を主な対象として、1993 年度まで国の海外移住者送出業務を担うとともに、移住先国での定着と生活の安定を図るための支援を行ってきた²。

中南米地域は極めて親日的な国々であるが、そこには日系社会が我が国との強い絆となっているという背景が存在する。海外移住事業団から現在の国際協力機構へと組織変更し、また、国内外の政府開発援助（ODA）を取り巻く環境変化の中で、JICA は常に中南米日系社会との協力の在り方を検討してきた。2023 年 6 月に改定された開発協力大綱では、中南米日系社会は、共創を実現するための連帯を強化すべきパートナーとして位置づけられている。具体的には、必要な移住者支援を継続することに加え、日系社会との連携に向けた取り組みを強化することは、JICA の役割である国際社会における日本への信頼感向上、開発途上地域と日本との関係強化、これを通じた日本の経済社会の活性化に貢献するものであると考えられている。

これまで JICA では中南米日系社会を対象として、助成金交付事業、日系社会次世代育成研修（以下、次世代研修）、日系社会リーダー育成事業（以下、リーダー育成事業）、日系社会研修、ボランティア派遣、海外移住資料館、その他事業（民間連携事業、草の根技術協力事業、中南米日系社会との連携調査団等）を実施してきた。これらをまとめて**日系社会連携事業**という。

上述のとおり日系社会連携事業は、親日派・知日派人材育成、中南米地域の ODA 対象地域における開発のパートナーの育成、日本国内の課題解決に資するとの考えから実施されてきている。他方で、移住政策の一環として実施されてきた歴史的背景もあり、これまで体系的な評価が実施されていない。2023 年 6 月に実施された「行政事業レビュー」においても長期的なアウトカムの定量指標を検討する必要性が指摘されたことを受け、これまでの事業成果を定量的・定性的に分析し、効果発現状況を測る指標を設定し、指標に係るデータを継続して収集・分析する仕組みを立ち上げることが、今後の日系社会連携事業にとって重要であると考えられる。

1.2. 評価の目的・対象

本業務の目的は、以下 3 点である。

¹ 戦後の海外移住事業は、「財団法人日本海外協会連合会（海協連、1954 年設立）」と、「日本海外移住振興株式会社（移住会社、1955 年設立）」により、国の施策として推進された。これら二つの機関を統合して、1963 年に「海外移住事業団」が設立され、1974 年に JICA（当時「国際協力事業団」）が海外移住事業を継承した。

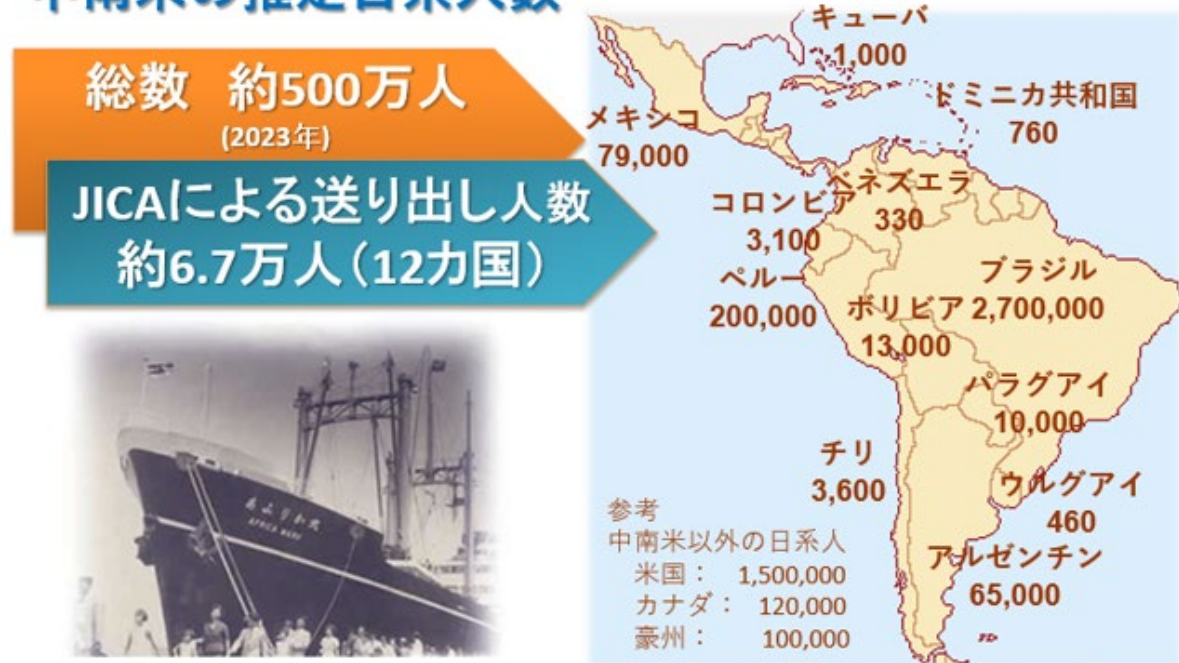
² 2023 年 JICA 作成「日系社会連携事業の方針 参考資料」より。なお、日系人人数は外務省による 2023 年 10 月 1 日現在統計（<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100646175.pdf>）参照。

1. 日系社会連携事業（旧移住者支援事業）が中南米日系社会の維持・発展、及び日本と日系社会との連携の促進に影響を与えたとの仮説に基づき、事業の成果を定量的・定性的に分析する
2. 評価・調査結果を今後の日系社会連携事業の改善・方向性の検討材料とするための知見としてとりまとめ、併せて、事業成果を対外発信するための材料を提供する
3. 日系社会連携事業の効果発現状況を測定するための指標とそのデータを継続して収集・分析するための仕組みの提案を行う

評価対象は、2015 年度から 2022 年度までに実施された事業のうち、特に日系社会への直接的な裨益を目的とする i) 助成金交付事業、ii) 次世代研修、iii) リーダー育成事業、iv) 日系社会研修、v) 海外移住資料館の 5 スキームである。

調査対象国は日系社会連携事業対象国となっている 12 カ国（ブラジル、ボリビア、パラグアイ、ペルー、アルゼンチン、メキシコ、コロンビア、チリ、キューバ、ドミニカ共和国、ベネズエラ、ウルグアイ）であり、このうち、ブラジル、ボリビア、パラグアイの 3 カ国を現地調査対象国とした。

中南米の推定日系人数



図表 1-1 中南米各国における推定日系人数

出典：2023 年 JICA 作成「日系社会連携事業の方針 参考資料」より。

1.3. 実施体制

本業務は株式会社メトリクスワークコンサルタンツと株式会社コーエイリサーチ&コンサルティングの 2 社による共同企業体メンバー 5 名によって実施した。

1.4. 評価期間

本業務は 2024 年 1 月から 12 月にかけて実施した。

1.5. 評価にかかる留意事項

日系社会連携事業には本業務対象の 5 スキーム以外にも日系社会海外協力隊、中南米日系社会との連携調査団、起業家支援プログラム等が存在している。これらについては現地調査国で関連情報としてヒアリングができた範囲での情報収集に留まること、日系社会連携事業として実施されている各種活動のうち、上述の 5 スキームに限定してアンケート及びヒアリング調査のうえ、日系社会連携事業の評価結果や提言の導出をしていることに留意が必要である。

1.6. 本報告書の構成

本報告書は 2023 年度テーマ別評価「日系社会連携事業がもたらす事業効果の可視化」の評価調査結果をとりまとめたものである。1 章では、本業務の背景、目的、評価対象事業等の業務全体の概要を記載し、続く 2 章では、JICA による日系社会連携事業の全体方針及び、本業務の評価対象となっている 5 スキームの概要と実績をまとめた。また、評価実施に先立ち JICA 担当部署と協議のうえ作成した日系社会連携事業のセオリー・オブ・チェンジ（ToC）も 2 章に掲載している。3 章がアンケート調査、ヒアリング調査（現地調査及びオンライン調査）の結果を分析してとりまとめた各スキームの評価結果である。なお、各スキームの評価結果に入る前に、3.1. において評価の方法を記載している。3 章の各スキーム評価結果とは別に、現地調査対象国において確認された特筆すべき事柄や、それに基づく各対象国における事業評価結果と提言を 4 章にまとめている。最後に 5 章において、日系社会連携事業全体の評価結果、評価結果に基づく提言をとりまとめた。そのうえで、今後の日系社会連携事業の方向性や戦略を検討する材料となるよう、調査結果を踏まえた改訂版 ToC 及び、今後の日系社会連携事業の効果検証に必要となる継続的なデータ収集方法に関する提案も掲載した。

2. 日系社会連携事業の方針・実績

2.1. JICA 日系社会連携事業の方針

2000 年に開催された海外移住審議会の意見書等においては、日系社会を今後とも日本と移住先国との「架け橋」の役割を担う重要な外交資産であると位置づけており、国際協力においても「イコール・パートナー」として移住先国や第三国における連携事業を推進していくことが重要になってくると提言している。その後、2014 年の安倍総理（当時）の中南米歴訪や 2017 年 3-5 月に外務大臣の下に設置された「中南米日系社会との連携に関する有識者懇談会」、同年の中南米経済・文化交流促進会議、2019（令和元）年度成長戦略（革新的事業活動に関する実行計画）等で日系社会との連携強化が謳われ、2023 年 1 月に外務省内に中南米日系社会連携推進室が新設されるなど、日本政府及び外務省レベルで、日系社会との絆の更なる強化に向けた取り組みが推進されてきている³。これらを受け、第 5 期 JICA 中期計画（2022-2026 年度）において「日系社会との連携」が柱の一つとして明記され、予算も（目）日系社会連携費を独立させるなど、日系社会連携推進の枠組みが形成されてきている⁴。

上記の変遷をふまえ JICA 中南米部が 2024 年 1 月に打ち出した「日系社会連携事業の方針」では、以下 3 点を今後の日系社会連携事業の方針として掲げている。

1. 世代交代しつつある日系社会の持続的発展の後押し

若い世代が日系人としてのアイデンティティを獲得・涵養していくことが日系社会の持続・発展の基本となること、日系社会における非日系の人々の存在感が増してきていること等の変化を捉え、親日派・知日派の育成に取り組む。

2. 開発協力における共創パートナーとしての連携強化

中南米諸国において重要な位置を占めるに至った日系社会をイコール・パートナーとして捉え、共創を通じて各国・他国・他地域の経済社会開発に共に取り組む。

3. 日系社会との連携による日本の国内課題解決への貢献

中南米及び本邦の日系社会と協働し、外国にルーツを持つ児童の教育やキャリア開発、外国人の高齢化問題等、日本国内の多文化共生に係る課題解決に取り組む。

³ 令和 5 年行政事業レビュー「独立行政法人国際協力機構運営費交付金（日系社会との連携事業）」参考資料より（<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100512990.pdf>）。

⁴ JICA 中南米部 2024 年 1 月「日系社会連携事業の方針」

2.2. 評価対象各スキームの概要・実績

2.2.1. 助成金交付事業

1) 事業概要

助成金交付事業は、日系社会の定着及び生活の安定に貢献することを目的に、日系団体が実施する医療衛生・高齢者福祉、日本語教育・文化等の事業や施設に対して助成金を交付する事業である。従来、前年度交付決定額を上限として年々助成額を減少させ、日系団体事業が自律的に運営されることが目指されており、継続事業のみが対象となり新規事業の募集はしてこなかった。しかし、新型コロナ特例措置として、2020 年及び 21 年度にこれまで助成実績のなかった日系団体も対象とし、大規模な助成交付を行った。助成金交付事業の概要は下表のとおりである。

図表 2-1 助成金交付事業の概要

目的	日系社会の定着及び生活の安定に貢献する
事業概要	（継続事業）日系団体が実施する医療衛生・高齢者福祉、日本語教育、文化、施設等整備などの事業に対して、助成金を交付。 （新型コロナ対策）新型コロナ禍において、日系団体の実施する事業や施設の感染防止対策や事業継続を目的とした助成金を交付。
対象	日系団体が運営する医療衛生・高齢者福祉、日本語教育・文化の事業・施設
要件	- 当該事業の目的が助成金の交付により円滑に達成されると認められること。 - 当該事業の計画及び方法が目的を達成するために適切であること。 - 当該事業の予想される成果が特定の者の利益にのみ寄与するものでないと認められること。 - 当該事業が営利を目的とするものでないこと。
対象国 (2015-2022 年度実績)	アルゼンチン、ウルグアイ、コロンビア、チリ、ドミニカ共和国、パラグアイ、ブラジル、ペルー、ボリビア、メキシコ（10 カ国）。うち、継続枠助成対象はウルグアイとチリを除く 8 カ国であり、2022 年時点でも継続しているのはアルゼンチン、コロンビア、ドミニカ共和国、ブラジル、ボリビアの 5 カ国。
支援期間	申請は毎年度。
交付決定額	2022 年度支出額：6.1 億円 - 新型コロナ特例措置：2020-2021 年度：46.7 億円（122 団体、延べ 248 事業）

出典：JICA 公表資料より評価チーム作成。

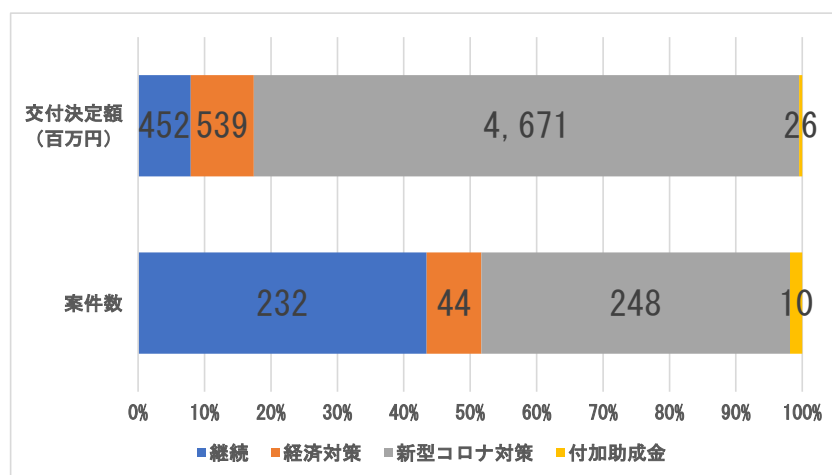
2) 事業実績

2015-2022 年度の助成金交付事業実績を助成枠別交付決定額でまとめたものが図表 2-2 である。上述の継続枠、新型コロナ対策枠に加え、補正予算による経済対策と付加助成金がある。調査対象 8 年間全体では、交付決定額合計は約 56.9 億円であった。全体交付決定額は 2015 年以降、減少傾向にあったが、新型コロナ対策を機に増加している。2021 年度は新型コロナ対策枠で 43 億円以上、1 件の交付額が 1 億円以上の案件も 14 件あり、1 件当たりの最高交付額は 3 億円であった。コロナ対策終了後の 2022 年度は継続枠が再び増加され、約 6.1 億円となっている。図表 2-3 からわかるように、新型コロナ対策が交付決定額全体の 8 割以上、案件数全体の約 46% を占める。また、助成事業の分野別（図表 2-4）では、継続、新型コロナ対策、経済対策では「医療・福祉」が大半を占める。付加助成では「日本語教育・文化活動」の助成が多い。継続では「日本語教育」が、経済対策とコロナ対策では「農協」が「医療・福祉」に次いで多い。

図表 2-2 2015-2022 年度助成枠別交付決定額（百万円）

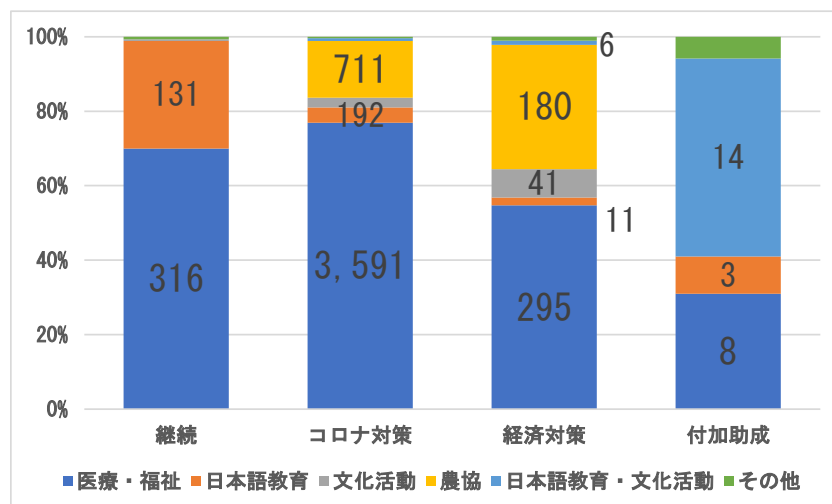
年度	継続	新型コロナ対策	経済対策	付加助成金	合計
2015	72	0	0	0	72
2016	60	0	0	5	64
2017	61	0	0	5	66
2018	56	0	0	0	56
2019	58	0	0	2	60
2020	53	334	0	0	387
2021	24	4,337	0	14	4,374
2022	69	0	539	0	608
合計	452	4,671	539	26	5,688

出典：JICA 提供資料より評価チーム作成。



図表 2-3 助成枠別交付額・案件数

出典：JICA 提供資料より評価チーム作成。



図表 2-4 分野別交付決定額（百万円）

出典：JICA 提供資料より評価チーム作成。

助成金交付事業は、継続枠が本来の姿であり、新型コロナ対策枠は世界的にこれまでに類をみな

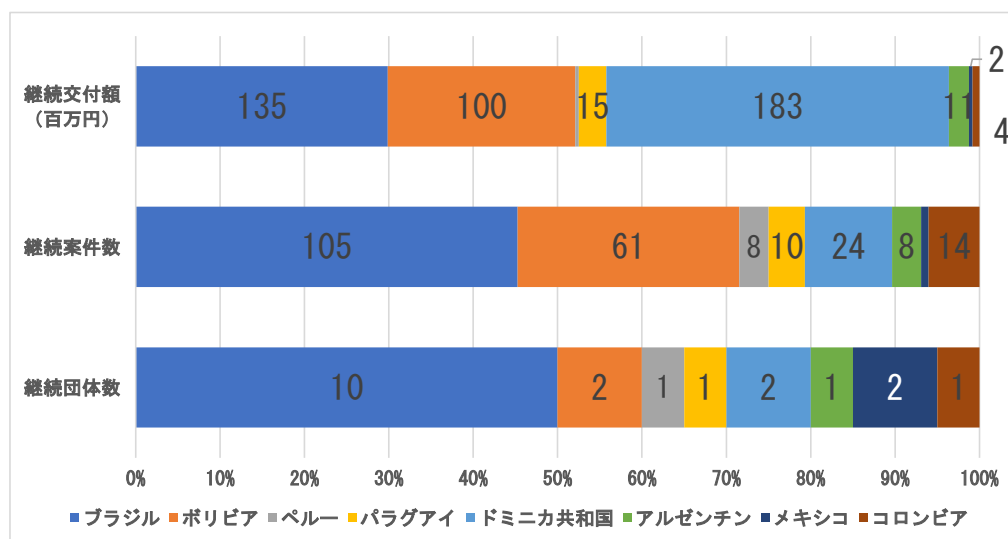
い大きな影響を与えたコロナ禍に対応した特別な措置といえる。このため、以下に継続枠と新型コロナ対策枠に分けて、実績と傾向を分析する。

① 継続枠

2015-2022 年度の合計 8 年間で継続枠対象となっているのは合計 8 カ国（ウルグアイとチリは継続枠の対象となっていない）、20 団体、232 案件、約 4.5 億円である。新型コロナ対策のあった 2021 年度は継続枠実施が少ないが、2022 年度に再び増加している。

国別にみると、図表 2-5 に示すように継続枠の交付額がもっとも大きいのはドミニカ共和国の約 1.8 億円で次いで、ブラジル、ボリビアとなっている。案件数では、ブラジル(105)、ボリビア(61)、ドミニカ共和国(24)の順に多い。対象団体数ではブラジル(10)、ボリビア・ドミニカ共和国・メキシコ(2)の順に多い。対象団体は少しずつ卒業し、2015 年の 20 団体から 2022 年の 12 団体まで減っており、対象国も 2022 年にはブラジル、ボリビア、ドミニカ共和国、アルゼンチン、コロンビアのみとなっている。

分野別では、「医療・福祉」が交付決定額の約 7 割、案件数で約 6 割、「日本語教育」が交付決定額の約 3 割、案件数で約 4 割を占めている。ボリビア、ドミニカ共和国では「医療・福祉」事業の助成、アルゼンチン、メキシコ、コロンビアでは「日本語教育」事業の助成を実施してきている。



図表 2-5 継続枠の国別交付額、案件数、団体数

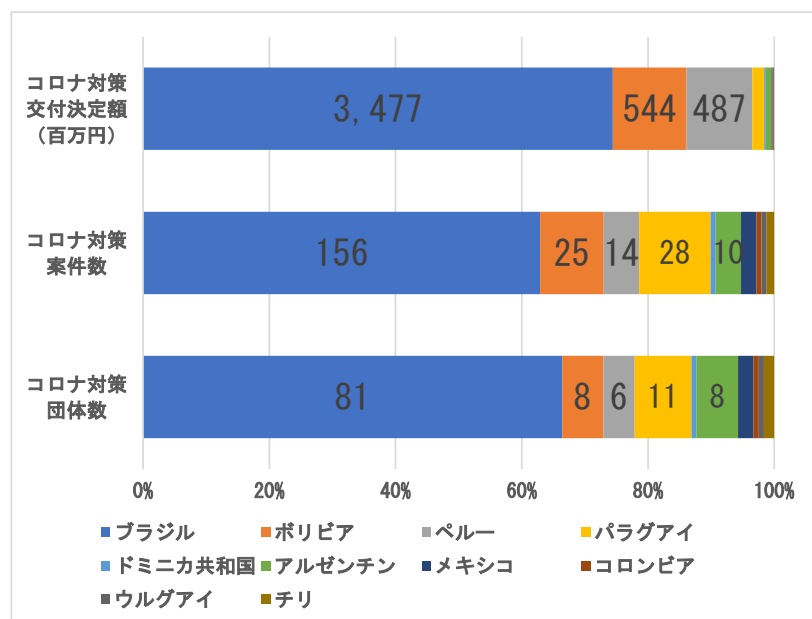
出典：JICA 提供資料より評価チーム作成。

② 新型コロナ対策枠

交付決定額は 2 年間で 46 億円以上と継続枠とは比較にならない大きな額となっている。122 団体に対し、延べ 248 事業のための助成金が交付された。図表 2-6 に示すように、対象はブラジルが額・案件数・対象団体数ともに大半を占める。ブラジルに次いで、額ではボリビア、ペルー、案件数ではパラグアイ、ボリビア、対象団体数ではパラグアイ、ボリビア、アルゼンチンが多い。

分野別では、交付決定額の約 8 割が「医療・福祉」、約 15%が「農協」である。案件数では「日本

語教育」が約半数を占める。ブラジルとペルーでは「医療・福祉」が、ボリビアでは「農協」が主な事業分野である。交付額は小さいが、メキシコとコロンビアでは「日本語教育」が、ウルグアイとチリでは「文化活動」が大半（あるいは全て）を占めた。



図表 2-6 新型コロナ対策枠の国別交付額、案件数、団体数

出典：JICA 提供資料より評価チーム作成。

2.2.2. 日系社会次世代育成研修

1) 事業概要

次世代研修は、中南米地域等への移住者の定着・安定のために移住者子孫教育として 1987 年度に「日本語学校生徒研修」として開始され、2012 年度から名称が「日系社会次世代育成研修」となった。従来、中学生を対象に実施されてきたが、2015 年度からは高校生プログラムと大学生プログラムが加わった。なお、コロナ禍の影響で 2020 年及び 21 年度はオンラインでの実施となった。次世代研修の概要は下表のとおりである。

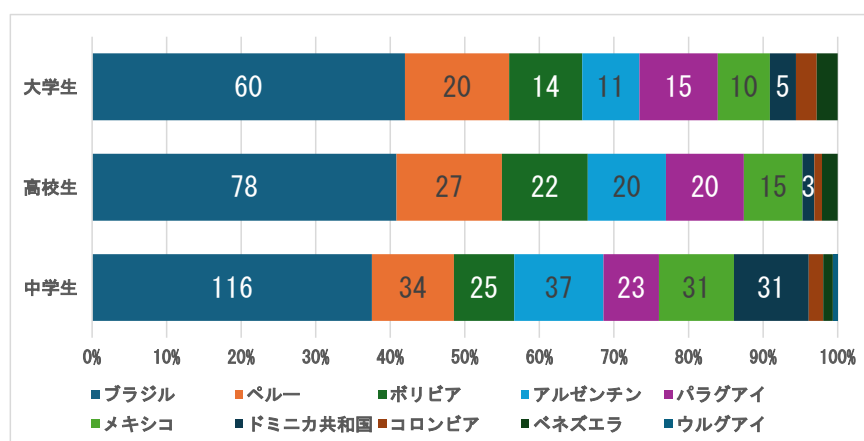
図表 2-7 日系社会次世代育成研修の概要

目的	- 海外移住の歴史に関する学習、体験入学、日本人学生との交流、ホームステイ等を通じて、自分たちのルーツに対する理解と日本に対する理解を深め、日系人としてのアイデンティティの強化を図る。 - 日系社会の次代を担う人材の育成に寄与する。
対象者	(日系人団体が運営する日本語学校に在籍する) 中学生 - 高校生、大学生
対象国	アルゼンチン、コロンビア、ドミニカ共和国、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ、ウルグアイ (10 カ国)
要件	- 海外移住者及び概ね日系 3 世までの海外移住者の子孫であること。 - 研修参加時点で、日本の中学生／高校生／大学生相当の年齢であること。 - 現地の日系団体が運営する日本語学校／高校／大学に在籍し、成績優秀、品行方正かつ将来の日系社会の発展に貢献するのに十分な素質があると認められること。 - 自分のルーツである日本についての理解を深める強い意志があること。 - 心身ともに健康で、本邦での集団生活に耐えられること。 - 親権者の同意が得られること。 - 日常会話レベルの日本語力、または英語力を有すること。(高校生・大学生)
研修期間	約 1 か月
人数	・ 約 100 名 (内訳：中学生約 50 名、高校生約 30 名、大学生約 20 名) / 年 累計 1,775 名 (2022 年 3 月 31 日時点)
研修内容	移住学習 (海外移住資料館等の見学、移住に関する講義・ワークショップ、出身国・移住地の日系移民の歴史や文化)、日本の中学・高校での学習体験、日本体験・日本語学習 (文化体験、科学施設見学、ホームステイ、日本語学習)、研修旅行 (日系アイデンティティの構築、国際協力講座、日本文化・科学技術の理解、日本の産業界との交流 日本の社会・職業文化の理解)、プレゼン指導、専攻分野の日本の大学見学 (大学生)

出典：JICA 公表資料より評価チーム作成。

2) 事業実績

2015-2022 年度の実績では、中学生が 10 カ国から 309 人、高校生と大学生がウルグアイを除く 9 カ国からそれぞれ 191 人、143 人の参加となっている。ウルグアイからは中学生プログラムへの 2 名の参加のみである。招へい実績を国別にまとめると図表 2-8 のようになる。どのプログラムにおいてもブラジルからの若者が全体の約 4 割を占めている。男女比の 2015-2019 年度の実績は男性が約 4 割、女性が約 6 割となっている。



図表 2-8 2015-2022 年度の日系社会次世代育成研修国別参加人数

出典：JICA 公表資料より評価チーム作成。

2.2.3. 日系社会リーダー育成事業

1) 事業概要

リーダー育成事業は、中南米地域の日系人の本邦における修学を通して、将来の日系社会を担い得るリーダーを育成することを目的とし、2000年度から実施されている。大学院の修士課程及び博士課程での修学のための奨学金を付与するものである。コロナ禍の2020年、2021年度も継続的に実施してきたが、その影響で来日が遅れるケースや、入国時隔離、受入先大学の授業がオンラインとなったケースもあった。

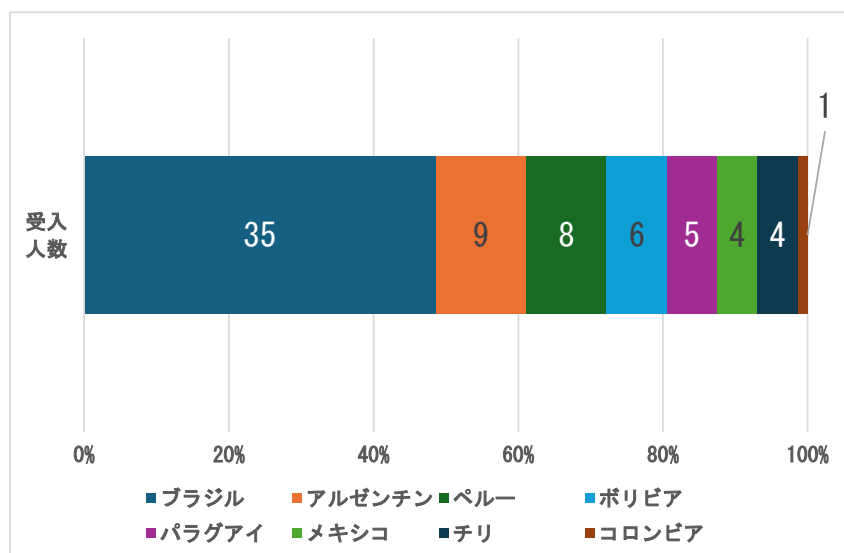
図表 2-9 日系社会リーダー育成事業の概要

目的	中南米地域の日系人の本邦における修学を通して、将来の日系社会を担い得るリーダーを育成する。
対象者	大学院生（修士課程・博士課程）
要件	・ 日系人（概ね3世までとする。）であること。 ・ 事業実施年度（留学先大学の課程が開始する年度をいう。以下同じ。）の初日である4月1日現在で、年齢が40歳未満であること。 ・ 事業実施年度の前年度末までに大学を卒業していること又は卒業見込みであること（事業実施年度時点で修士号及び博士号のいずれも取得していない者を優先）。 ・ 留学先の大学院正規生又は学部・大学院の研究生・科目等履修生としての入学が決定しているか、すでに在籍していること、又は、大学院より正規生としての入試合格後の受入につき内諾を得ているか、その内諾は得られずとも研究生等としての試験に合格した場合の受入につき内諾を得ていること。 ・ 日常生活に支障のない日本語能力を有すること。 ・ 就労中である場合、留学先大学入学前に退職又は休職し学業に専念できること。 ・ 規定する場合を除いて留学期間は就労しないこと。 ・ 心身ともに健康であること。
対象国	アルゼンチン、ウルグアイ、コロンビア、チリ、ドミニカ共和国、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ（11カ国）
支援期間	修士課程2年間、博士課程3-4年間
人数	約20名／年（毎年10-20名受入） 累計232名（2022年3月31日時点）
専攻分野	日系社会・居住国の経済発展、社会開発に寄与する分野

出典：JICA 公表資料より評価チーム作成。

2) 事業実績

2015-2022年度の実績では、ウルグアイ、ベネズエラ、ドミニカ共和国を除く8カ国から合計72名が留学している。ブラジルからの留学生が全体の約半数を占めている。受入大学は日本全国の32大学で、専攻分野は多岐にわたるが、保健医療や民間セクター開発、農業・農村開発、ガバナンス等が多い。2015-2021年度の実績では、男女比は男性が約6割、女性が約4割、学位別では修士号約76%、博士号約21%、不明約3%となっている。



図表 2-10 2015-2022 年度の日系社会リーダー育成事業国別参加人数

出典：JICA 公表資料より評価チーム作成。

2.2.4. 日系社会研修

1) 事業概要

日系社会研修は、日系社会の発展と移住先国の国造りに貢献する人材を育成することを目的に 1971 年度に開始され、2018 年度から名称が「日系社会研修」となった。従来、日系人を対象としていたが、2018 年度から日系人に限定せず、日系社会と日本との連携に主導的役割を果たすことが期待される人物に拡大している。日本の地方自治体、大学、公益法人、NGO 等の団体等が提案団体（受入団体）となり、数週間から 10 か月の期間、研修員を受け入れて実施する国民参加型事業である。研修分野としては、日本文化継承教育、高齢者福祉、人材育成、農業・農村開発、民間セクター開発等となっている。2020 年度からは、多文化共生推進／日系協力型（通称「日系サポーター」、以下、日系サポーター）も日系社会研修内に新たに加わり、主に言語面で在日日系人をサポートする実習を行い、日本の日系人集住都市の多文化共生・地方創生に貢献することを目的とした研修制度が始まっている。日系社会研修はコロナ禍の 2020 年、21 年度はすべてオンラインで実施し、2022 年 8 月から対面での受入を再開した。

図表 2-11 日系社会研修の概要

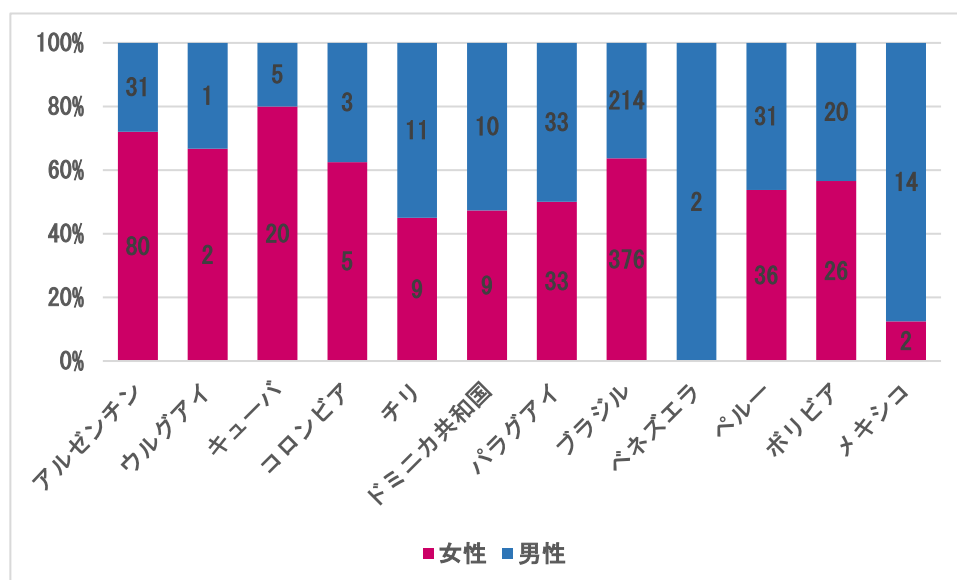
目的	【通常枠・日系サポーター枠共通】 - 日本の地方自治体、大学、公益法人、NGO等の団体等から提案を受け、日系社会の発展と移住先国の国造りに貢献する人材を育成する。 - 加えて、国民に幅広く、事業への参加を促進する。 【日系サポーター枠】 - 教育機関、NPO、地方自治体、企業等で、在日日系人に対する日本語・母国語教育、幼児教育、教科指導、行政サービス等の研修を受けながら、主に言語面で在日日系人をサポートする実習を行い、自身の専門性を磨くと共に、日系人集住都市の多文化共生・地方創生に貢献する。
対象者要件	- 中南米地域の日系社会と日本との連携に主導的な役割を果たす意思を有すること。（2018年度から対象を日系人に限定せず、日系社会と日本との連携に主導的役割を果たす人物に拡大。） - 国籍が、事業対象国あるいは日本国であること。 - 主たる生活基盤が事業対象国にあること。 - JICA在外事務所、日系諸団体等の推薦が得られること。 - 研修参加年度の4月1日時点で満21歳以上であること。
対象国	アルゼンチン、ウルグアイ、キューバ、コロンビア、チリ、ドミニカ共和国、ボリビア、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、メキシコ（12カ国）
研修期間	（1）集団研修 人数：原則6名以上、期間：3か月以内 （2）個別研修 人数：1または2-3名程度、期間：短期個別研修が3か月未満、長期個別研修が3か月以上10か月以内
人数	約140名／年 1971年度以降、累計5,157名（2022年3月31日時点）
研修内容	- 日本の地方自治体、大学、公益法人、NGO等の団体等から提案を受け、JICAがこれらの団体等に日系社会研修員受入の実施を委託して行う国民参加型事業。 - 主な研修内容は、日系社会の支援に貢献できる分野として、日本文化継承教育、高齢者福祉、人材育成、農業・農村開発、民間セクター開発等。 - 研修実施場所は提案団体または研修実施機関となり、日本国内に限る。 2020年度以降は日系サポーターも実施している。

出典：JICA公表資料より評価チーム作成。

2) 事業実績

本スキームは入手可能なデータの関係上、2017-23年度の実績をまとめた。対象年度全体で合計973人が参加しており、男女別の内訳は男性375人（38.5%）、女性598人（61.5%）と女性の方が多くなっている。参加人数は国によって大きく異なるため、単純に国ごとで比較できないが、女性が参加者の6割を超える国が5カ国存在している。JICAが実施している研修・留学生事業全体における女性の割合は2023年度は34.7%となっており、日系社会研修の女性割合は高いものとなっている⁵。

⁵ JICA. (2023). 「2023年度（令和5年度）業務実績等報告書」
（https://www.jica.go.jp/about/disc/jisseki/_icsFiles/afieldfile/2024/06/26/jisseki_2023.pdf）より。



図表 2-12 2017-2023 年度の日系社会研修参加者の国別男女比率
(棒グラフ上の数字は人数)

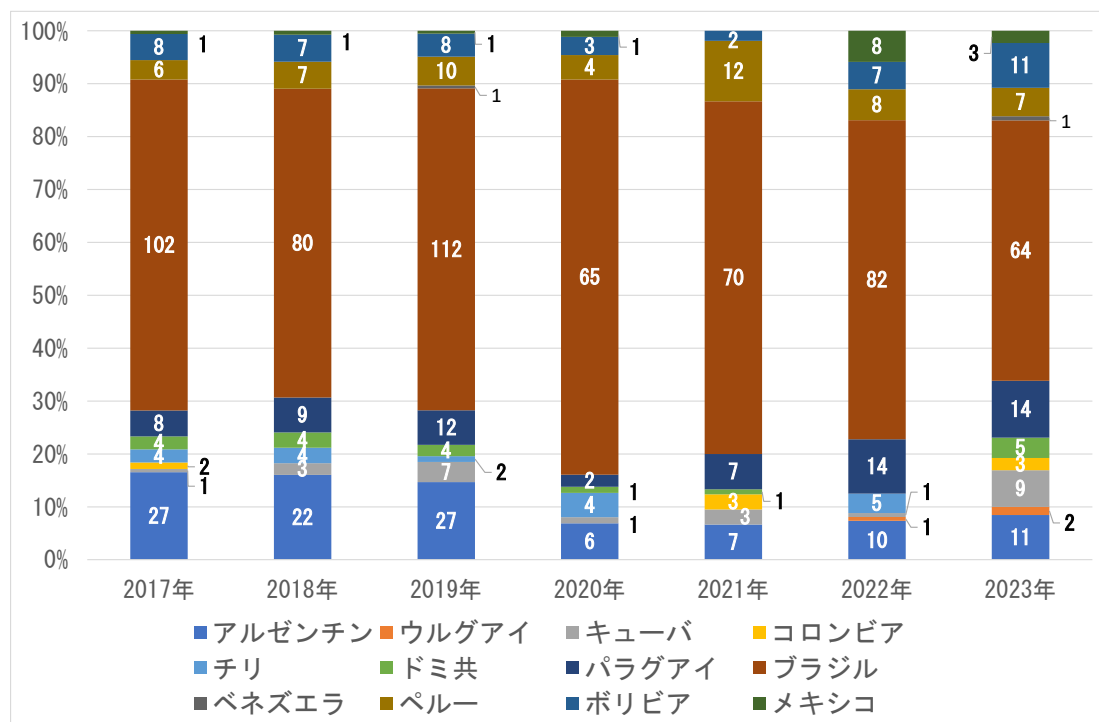
出典：JICA 提供資料より評価チーム作成。

なお、日系社会研修は通常枠と日系サポーター枠では研修目的が異なり、実施期間も日系サポーター枠は 2020 年度以降となるため、実績の詳細はこれらを分けて分析した。

① 通常枠

全年度（2017-2023 年度）中、合計 302 コースに 942 人が参加した。コース分野別では民間セクター開発（23.8%）件、保健医療（22.2%）がもっとも多いが、年度ごとにみると民間開発セクターのシェアが減少し、保健医療、教育分野のシェアが増加傾向にある。研修内容は様々であり、例として「日本文化活動コーディネーター育成」、「沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化」、「日本伝統文化継承 和太鼓・伝統芸能を通じた教育活動」、「改善と 5S」、「六次産業化、農商工連携」、「歯科矯正」、「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」といったものがある。

国別の参加人数では、全年度ではブラジルが 575 人（61.0%）ともっとも多く、次いでアルゼンチンが 110 人（11.7%）、パラグアイが 66 人（7.0%）となっている。近年では変わらずブラジルが多いものの、パラグアイやボリビアがシェアを増やしている。



図表 2-13 2017-2023 年度の日系社会研修（通常枠）国別参加人数
出典：JICA 提供資料より評価チーム作成。

なお、これらは実際に研修実施に至った案件の実績であるが、前述のとおり本スキームは日本国内の団体が提案団体となり研修員を受け入れて実施する国民参加型事業となっている。毎年、国内団体からの提案を受け JICA が採択する案件数のうち、実際の実施に至る実現率はコース数で見ると 2018 年は 51%、19 年は 60%、コロナ禍の遠隔実施の影響のあった年度を除き、23 年が 48%となっている。受入可能最大人数を 100 とした場合の充足率は 2018 年度が 39%、19 年度が 46%、23 年度が 34%となっている。実現しなかった主な理由は日系社会連携事業の通常予算が限られていることに加えて、研修で想定される参加要件を満たす応募者がいなかったことである。

② 日系サポーター枠

日系サポーター枠が開始された 2020 年から 23 年度までに合計 28 件が実施され、31 名が参加した。これまでのところブラジル、ペルー、メキシコ、アルゼンチン、チリの 5 カ国からの参加となっており、ブラジル、ペルーが主である。28 件の受入団体は、複数回受け入れている団体もあり 16 団体となっている。

本制度の「日本語・母国語教育、幼児教育、教科指導、行政サービス等の研修を受けながら、主に言語面で在日日系人をサポートする実習を行い、自身の専門性を磨くと共に、日系人集住都市の多文化共生・地方創生に貢献する」という性格上、分野としてはほとんどが教育、提案（受入）団体は、在日日系人・外国人の多い地域の国際交流協会や在日日系人・外国人の言語・生活支援を実施している民間団体が多い。研修内容としては「在日日系人コミュニティの活動支援」「外国につながりをもつ子どもたちへの学習支援と日本社会の多文化共生」などである。なお、採択された案件が実際に実施に至る実現率はコース数で見ると 23 年度は 75%となっており、開始した 20 年度から年々上がってきている。

2.2.5. 海外移住資料館

1) 事業概要

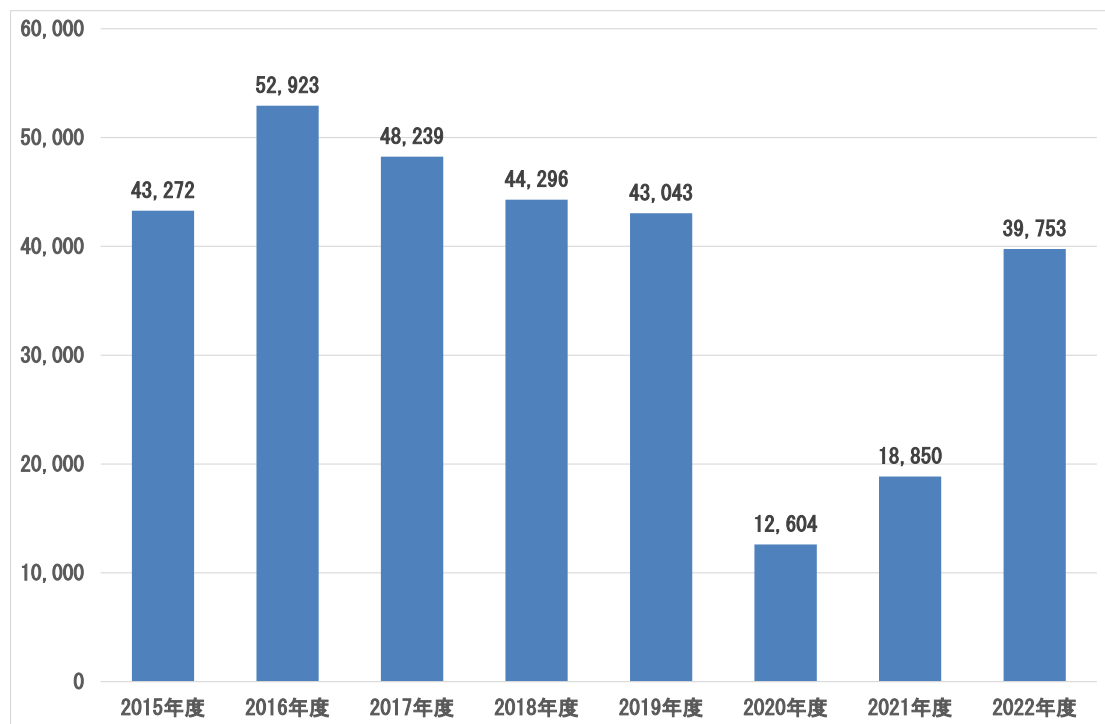
2002 年に JICA 横浜の 2 階に開館した海外移住資料館は、海外渡航禁止令の廃止（1866 年）以来の日本人の海外移住をテーマとした資料館であり、日本人の海外移住の歴史及び移住者とその子孫である日系人の現在の姿について広く周知することを目的としている。常設展示場、日本人の海外移住の歴史と海外日系社会等に関する特定テーマによる期限付きの展示を行う企画展示室、移住関連資料・書籍を整備し一般からの情報照会等に対応する図書資料室、一般収蔵庫・写真特殊収蔵庫を有する。常設展示の内容は、創設時の特別監修者、梅棹忠夫国立民族学博物館初代館長の「われら新世界に参加す」をコンセプトに、国立民族学博物館や日本移民学会などの協力を得て製作された⁶。2022 年 4 月にリニューアルし、ユニバーサルデザイン化（点字ブロック・音声ガイド等）、多言語対応、展示手法の改善や展示内容の充実を図った。

特に日本の若い世代に日本人の海外移住の歴史から、異文化理解、多文化共生を学んでもらうことを目的に、学校等の資料館訪問学習を積極的に受け入れており、そのための教材開発も行っている。また、オンラインを含むイベント、公開講座、講演会等も毎年約 20 回企画し、多数が参加している。

2) 事業実績

2015-22 年度の入館総数は 302,980 人に上る。2015-2019 年度は、各年度で 4-5 万人が入館した。2020-21 年度はコロナ禍及び上述のリニューアル工事のため一時閉館していたこともあり、入館者数は 1 万人台にまで減少したが、コロナ禍収束に伴い、徐々に回復し、2022 年度はコロナ禍直前の 2019 年度に近い、約 4 万人が訪れた。

⁶ 「国際協力機構史 1999-2018」第 2 部 V 移住者支援、日系社会支援より
(https://www.jica.go.jp/Resource/about/history/ku57pq00002jr4ze-att/list01_02_05.pdf) より。



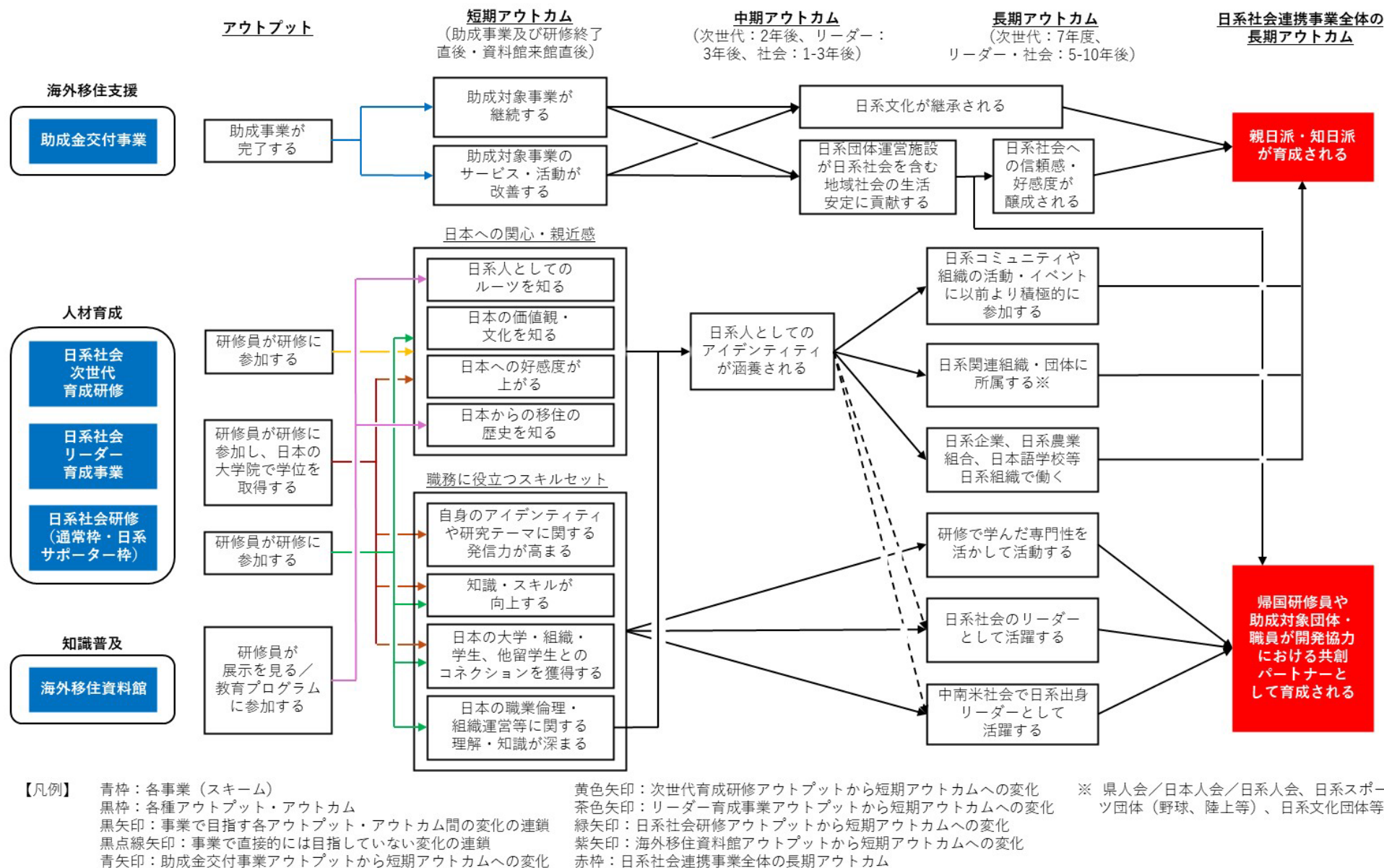
図表 2-14 2015-22 年度 JICA 横浜海外移住資料館入館者総数(人)

出典：JICA 提供資料より評価チーム作成。

2.3. 評価対象 5 スキームを中心とした日系社会連携事業のセオリー・オブ・チェンジ (ToC)

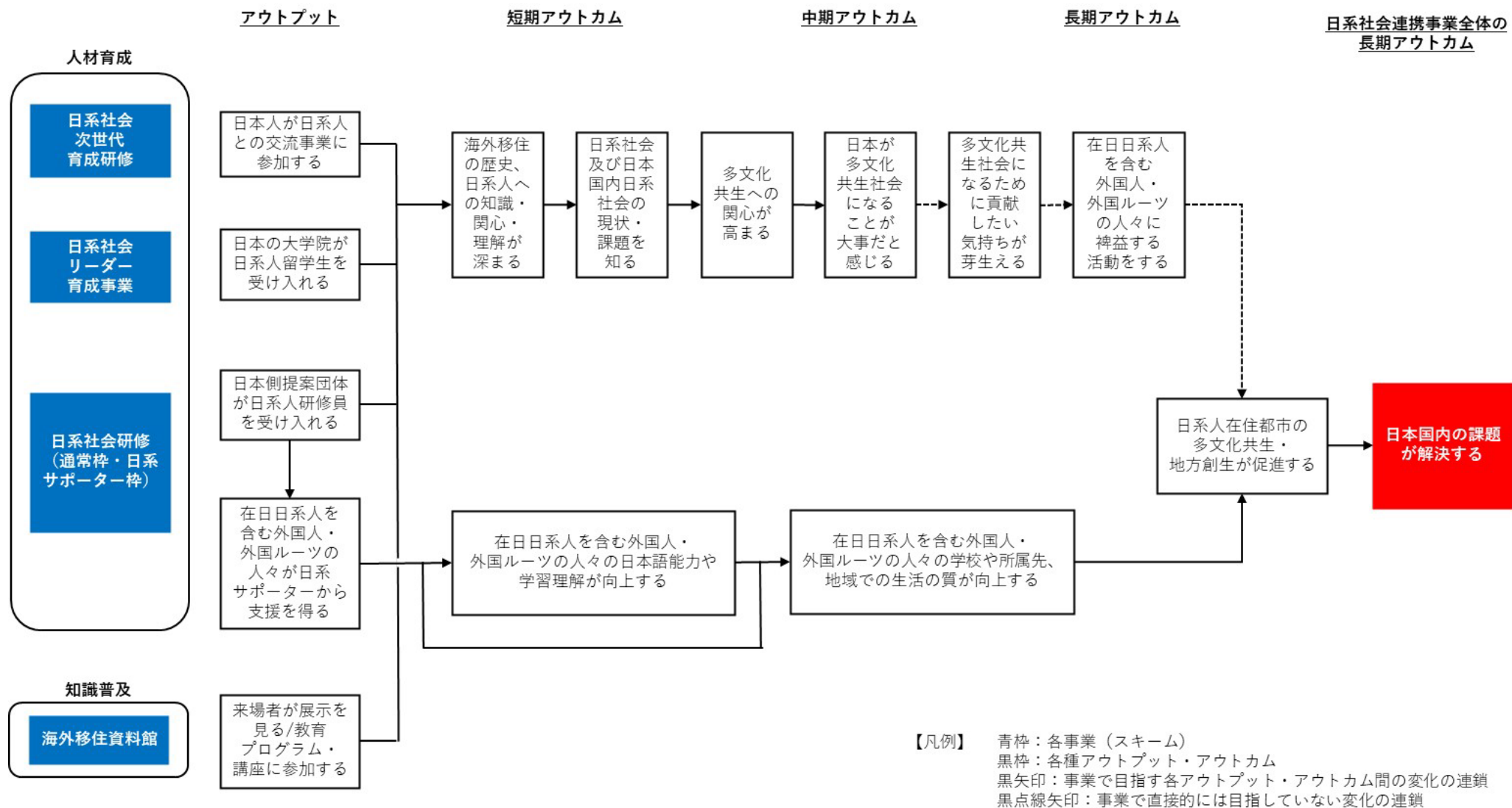
上述の JICA「日系社会連携事業の方針」3 つを日系社会連携事業全体の長期アウトカムと捉え、本業務評価対象の 5 つのスキームの各アウトカムが、どのようなロジックで日系社会連携事業全体の長期アウトカム達成につながっていくことが目指されているのかを可視化するため ToC⁷を作成した。各スキームの短期アウトカム、中期アウトカム、長期アウトカムについては、既存資料には明示的に記載されていない場合もあったため、JICA の各スキーム担当者に事業の活動内容や目指している事柄、対象者要件などをヒアリングし、それら情報に基づき、評価チームが ToC として整理し、各アウトカム指標も提案した。そのうえで、事業において目指していること及びそれを測る指標として評価チーム提案内容が妥当であるかを、各スキーム担当者と複数回協議を行い、評価に用いる ToC と指標として設定した。なお、3 つの日系社会連携事業全体の長期アウトカムのうち、「日本国内の課題解決」へとつながる変化の経路は他 2 つの長期アウトカムへの経路とは別になると考えられたため、次頁以降掲載のとおり、2 種の ToC とした。また、本業務結果を踏まえて改訂した ToC は、「5.4.日系社会連携事業 ToC の改訂」に掲載している。

⁷ ToC の定義は各組織によって詳細は異なるが、一般的に「事業の実施からどのような変化の連鎖が生じ、最終的な目標に至ると考えられるか」という仮説を図示したもの」とされている。



図表 2-15 中南米側の助成金受給日系団体及び人材育成スキームに参加の研修員に関する ToC

出典：評価チーム作成。



図表 2-16 日本の海外移住資料館来館者及び日系サポーター等研修員受入関係者に関する ToC

出典：評価チーム作成。

3. 事業効果の検証

本章では事業効果の検証にかかる評価方法を説明したのち、評価対象の 5 スキームそれぞれについて分析結果と評価判断を掲載する。

3.1. 評価の方法

3.1.1. 評価手法

各スキームの評価を行う分析手法として、大きく 2 つのアプローチをとる。1 つ目のアプローチは、ToC の発現状況の確認である。ToC 上の各アウトカムの発現状況を確認し、そのアウトカム発現に至る変化の連鎖の確認を行う。これにより、想定されていた ToC に沿った変化が起きているかの検証を行うことが可能となる。

2 つ目のアプローチは、Counterfactual as self-estimated by programme participants (CSEPP) 手法を用い、事業がもたらした変化を把握する方法（いわゆるインパクト評価）である。本業務の目的の 1 つである「日系社会連携事業（旧移住者支援事業）により日本と日系社会との連携が推進されたことを整理・確認する」ためには、事業とそのアウトカムとの因果関係を可能な限り検証する必要がある。一般的に、介入効果を定量的に検証するためには、事業の裨益を受けたグループ（介入群）と受けなかったグループ（比較群）を比較することが原則となるが、今回の業務の範囲内で適切な比較群を特定し、そこからデータを収集することは非常に難しい。こうした状況下で因果推論を行うために利用可能な方法として、CSEPP を採用する。CSEPP では各アウトカムについて介入終了後に受益者に対して「もし、介入を受けなかったら、自分は今どのようになっていたと思うか」と問い、自分自身の反実仮想（事業の裨益を受けなかった場合のアウトカム水準）を思い描いてもらうというものである。そのようにして描かれた反実仮想と実際の状況を比較することで、因果効果に迫ることが可能となる。自身の反実仮想を主観的に推定してもらうという形を取ることから、いわゆる厳密（Rigorous）な効果検証よりもエビデンスの質としては落ちる可能性があるが、本業務の範囲内で取り得る数少ないオプションである。

本業務においては、全スキームのアンケート調査において、事実を問う質問のみならず、主要なアウトカムについては主観的に自己の反実仮想を問う質問を設けた。分析においては、事実と反事実を差し引きすることにより、助成金の受領、研修参加、海外移住資料館来館、というそれぞれの介入の主要なアウトカムに対する因果効果の検証を行った。

3.1.2. データ収集

データ収集は、アンケート調査とヒアリング調査を用いて行った⁸。スキームごとの調査手法は以下のとおりである。日系サポーターを除くすべてのスキームにおいて、アンケート・ヒアリング調査の両方を行った。日系社会研修の日系サポーター枠については帰国研修員及び研修受入団体に対するヒアリングのみとした。以下では、各調査について記述する。

⁸ アンケート調査及びヒアリング調査はポルトガル語、スペイン語、英語、日本語の 4 言語を用いて行った。本報告書内で紹介しているアンケートの記述回答内容やヒアリングからの抜粋は必ずしも相手の言葉一語一句を日本語に翻訳したものではない。

図表 3-1 スキームごとの調査手法

スキーム	対象者	データ収集手法	
		アンケート調査	ヒアリング調査
助成金交付事業	2015-2022 年度 助成金受給団体	○	○
日系社会次世代 育成研修	2015-2019 年度 帰国研修員	○	○
日系社会リーダー 育成事業	2015-2021 年度 帰国研修員	○	○
日系社会研修 (通常枠及び日系 サポーター枠)	2017-2023 年度 帰国研修員	○	○
日系サポーター枠	2020-2023 年度 帰国研修員、日系サポーター 受入団体	○ 帰国研修員対象	○ 受入団体・帰国研 修員対象
海外移住資料館	2024 年までに来館した日本 の中高生、大学・短大生、過 去に複数回引率した教員	○ 学生対象	○ 教員対象

出典：評価チーム作成。

1) アンケート

助成金交付事業と人材育成事業はウェブアンケート調査、海外移住資料館はウェブと用紙でのハイブリットでアンケート調査を実施した。以下では、アンケート調査の目的、各スキームの調査の依頼方法、言語、回収率について記述する。

① 目的

アンケート調査の目的は大きく3つある。i) ToC 案に沿った形でのアウトカム（個々のスキーム及び事業全体）がどの程度発現しているかを確認すること、ii) 事業と主要なアウトカムとの因果関係を確認すること、そして、iii) ヒアリング対象者を特定することである。

② 調査項目の検討・質問票の作成

ToC を踏まえ、そこで想定される個々のスキーム及び事業全体としてのアウトカムの発現状況の有無や程度を把握できるような調査項目の検討を行い、質問票の作成を行った。質問項目は選択式の質問が中心であるが、ヒアリング対象となり得る特筆すべき事例や優良事例、または効果発現のボトルネックを深掘りできるような事例を特定するために、一定数の自由回答設問も設け、具体的な成果や事例を把握することができる設計とした。また、スペイン語・ポルトガル語への訳出の際にも、回答者に意図が明確に伝わるような言葉選びを心がけた。

③ 依頼方法

助成金交付事業と人材育成事業については、JICA が保有する連絡先リストを用い、評価部より、本業務の調査対象団体／者にメールにて依頼を行った。

海外移住資料館については、JICA 横浜より、学校の授業の一環で来館した学生（中高、大学・短大）を対象にアンケート協力依頼を行った。過去来館者に対しては、引率教員を通じて協力依頼を行った。来館時に回答いただく場合は紙アンケート、後日の回答者や過去来館者へはウェブア

ンケートへの回答を依頼した。

④ 言語

助成金交付事業と人材育成事業については、リーダー育成事業を除き、スペイン語とポルトガル語で実施した。リーダー育成事業は英語で実施した。

海外移住資料館のアンケートは、日本語で実施した。

⑤ 回収率

助成金交付事業 64%、次世代研修 38%、リーダー育成事業 38%、日系社会研修 49%となった。評価チームが過去に実施した類似調査の回収率の実績から 30%台の回収率を目標としていたが、それを上回る結果となった。

海外移住資料館のアンケートは過去・現在の来館者に幅広く協力依頼を行ったため、母数が明確ではないことから回収率は計算できないが、ウェブ・紙実施あわせて 182 人から回答を得た。

⑥ 配信不能数

助成金交付事業と人材育成事業の調査対象者のうち、保管されている連絡先（メールアドレス）へのアンケート協力依頼が配信不能であった数は、助成金交付事業 10 団体、次世代研修 112 名、リーダー育成事業 1 名、日系社会研修 68 名であった。次世代研修の特に中高生は、研修参加時に自分のメールアドレスを持っておらず、養育者のアドレスを登録しているなどの理由が背景にある。ただし、今後、定期的に効果検証に係るデータを収集していくためには、関係者連絡先の整備が重要であるため、記載する。

図表 3-2 スキームごとのアンケート回収率

スキーム	リスト掲載数	配信不能数	母数 (配信数)	アンケート 種別母数	回答数	回収率
助成金交付事業	127	10	117	117	75	64%
次世代研修 (中学生)	250	72	178	399	153	38%
次世代研修 (高校生)	157	28	129			
次世代研修 (大学生)	104	12	92			
リーダー育成事業	61	1	60	60	23	38%
日系社会研修	979	68	911	911	442	49%
海外移住資料館	-	-	-	-	182	-

出典：評価チーム作成。

2) ヒアリング調査

ヒアリング調査は、オンラインで実施したほか、ブラジル・ボリビア・パラグアイの 3 カ国については現地調査で実施した。

助成金交付事業と人材育成事業のヒアリング調査は、上述のアンケート調査実施後に対象者を選定して行った。海外移住資料館のヒアリング調査は教員を対象としたものであるが、上述の学生を対象としたアンケート調査と並行して実施した。以下では、各スキームのヒアリング調査の目的、候補者の選定方法、依頼方法、言語、ヒアリング数について記述する。

① 目的

ヒアリング調査の目的は、大きく2つある。まず、i) 質問票回答の背後にある要因や具体的情報の深掘りという点である。例えば、想定された変化の有無について、そうした変化が起きた／起きなかった理由やどのように変化が生じたかというプロセス、変化の具体的内容について詳細な情報を収集する。それにより、質問票調査から得られる定量データからは捨象されてしまう観点を定性的に拾うことが可能となり、定量・定性の両面から後の分析を深めることができる。そして、ii) 当初想定していない変化や最終アウトカムに至るまでの経路についての情報を得るという点である。そうした点の有無をヒアリングによって深掘りすることで、これら調査結果を基に、今後の日系社会連携事業の実施と評価に活用し得るものとして ToC をより現実に即して改訂することにつながる。

こうした目的を踏まえ、半構造的なヒアリングを実施した。1つ目の目的に対しては、対象者の質問票回答を事前に確認し、その変化の有無の要因を探っていくという形になるため、ある程度事前に質問項目の想定が可能であった。また、ある程度構造化された質問を行うことで、ヒアリング間での比較を行うことも可能となった。そのうえで、それらの回答も踏まえつつ、2つ目の目的である想定していない変化の把握のために、事前に具体的な質問項目は用意せずに、質問者と回答者とのやり取りの中で広く情報を収集した。

② 候補者選定方法

助成金交付事業・人材育成事業のヒアリング候補者の選定は、上述のアンケート調査結果と JICA 現地事務所の推薦を踏まえて行った。まず、アンケート調査票の結果、想定されるアウトカムが発現していることが確認できた事例のうち、自由回答欄で注目すべき記載をしている事例を特定し、ヒアリング候補とした。また、優良事例に加えて、効果発現がみられない事例や想定していない進路を選択している帰国研修員などもヒアリング対象に含めた。これは、本業務の目的である「今後の事業の改善・方向性の検討材料とする」という点に鑑みると、想定される効果が生じていない事例についても深掘りすることは、今後の改善点に関する示唆を得るうえで有用であると判断したからである。また、特に現地調査対象国においては、アンケート調査では回答が得られなかったものの、各現地事務所が優良事例として把握している事業や、対象国の日系社会の特徴を踏まえた評価とするために良いと思われるヒアリング先も推薦を受けた。

このように選定した候補者について、対象者の属性等のバランスも踏まえながら、JICA 現地事務所・本部との協議のうえで最終的なヒアリング対象者を決定した。

日系サポーター受入団体については、調査対象期間中に複数回の受入をしている団体を中心に、評価チームが選定を行い、JICA と協議のうえ決定した。

海外移住資料館については、JICA 横浜が、過去複数回に渡って学生を引率して来館している学校教員をリストアップのうえ、ヒアリングへの協力依頼を发出した。

③ 依頼方法

助成金交付事業・人材育成事業はアンケート調査にて、ヒアリングへの協力が可能かどうかを聞き、可能な場合は連絡先（メールアドレス）を聴取していた。そのため、アンケート回答に連絡

先の記載があるヒアリング候補者の場合は、評価チームより直接メールを送り、日程調整を行った。アンケート調査に回答がない、またはヒアリング協力不可と回答したヒアリング候補者については、JICA 在外拠点に照会し、在外拠点から候補者にヒアリングの協力可否について確認のうえ、了承が取れた場合にのみ、評価チームから日程調整を行った。また、国によっては、評価チームからの直接連絡ではなく、JICA 現地事務所からヒアリング候補者に協力可否について確認した場合もあった。なお、現地調査対象国については、効率性の観点から JICA 現地事務所がアポイントメントの取り付けを行う場合もあった。

日系サポーター受入団体及び海外移住資料館引率教員については、JICA からの照会に対して協力可とした団体／教員のみ、評価チームから日程調整の連絡をした。

④ 言語

助成金交付事業は日本語、次世代研修と日系社会研修はスペイン語・ポルトガル語、リーダー育成事業は英語での実施を基本としながらも、それぞれの候補団体／者に希望言語を聞き、希望言語どおりに対応した。

日系サポーターの受入団体と、海外移住資料館への引率教員のヒアリングは、日本語で実施した。

⑤ ヒアリング数

オンライン・現地調査でのヒアリング数は、助成金交付事業 37 団体、次世代研修 21 人、リーダー育成事業 10 人、日系社会研修 41 人（うち、日系サポーター枠 4 人）、日系サポーター受入団体 6 団体、海外移住資料館 4 人となった。

図表 3-3 スキームごとのヒアリング者／団体数

スキーム	ヒアリング者／団体数		
	オンライン実施	現地調査	合計
助成金交付事業	7	30	37
次世代研修	5	16	21
リーダー育成事業	3	7	10
日系社会研修（うち、 日系サポーター枠）	10(2)	31(2)	41(4)
日系サポーター受入団体	6	NA	6
海外移住資料館	4	NA	4

出典：評価チーム作成。

3.2. 助成金交付事業の評価

助成金交付事業について、期待される短期、中期、長期アウトカムの発現状況を確認する。

3.2.1. アウトカム・指標

助成金交付事業によって生じることが期待できる短期、中期、長期のアウトカムとその指標を以下の図表 3-4 のとおり整理した。

図表 3-4 助成金交付事業のアウトカムと指標

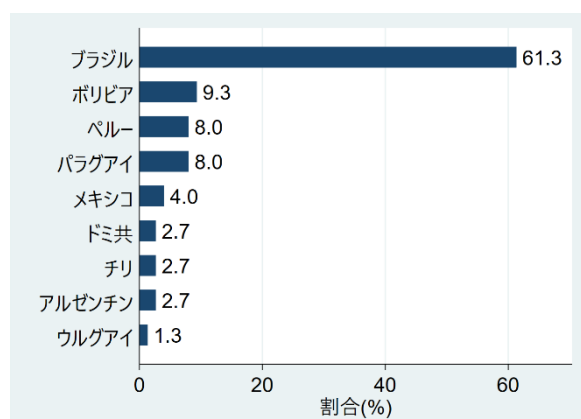
アウトカム 類型	アウトカム	指標
短期	助成対象事業が継続する	各事業の継続状況
	助成対象事業のサービス・活動が改善する	提供できるサービスの質や量の向上 有無・その内容
中期	日系文化が継承される	日本語学習者の推移、具体事例
	地域社会の生活安定に貢献する	地域社会の生活安定への貢献事例
長期	日系社会への信頼感・好感度が醸成される	日系社会が地域社会において信頼されている・好感をもって受け止められていると 感じる度合い、具体事例

出典：評価チーム作成。

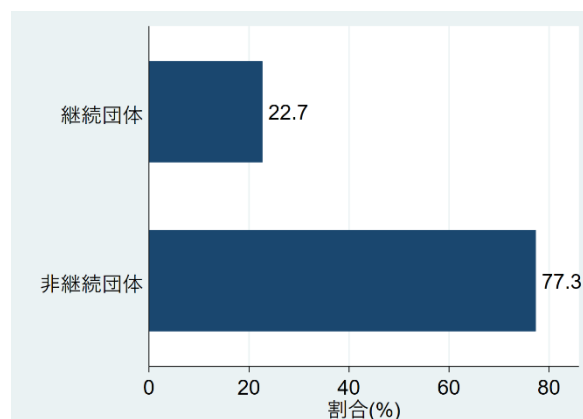
3.2.2. アンケート回答団体属性

これらアウトカム発現状況をアンケート調査及びヒアリング調査の回答結果から分析した。各調査の対象者は「3.1.2. データ収集」にて述べたとおりであるが、アンケート回答団体の属性を以下に示す。

アンケート回答は計 75 団体から 98 施設・事業に関する情報を収集した⁹。国別の内訳は図表 3-5 のとおりブラジルが 61%（46 団体）と大半を占め、ボリビア（9%、7 団体）、ペルー・パラグアイ（それぞれ 8%、6 団体）と続いている。継続的に助成金を受給している団体は 23%（17 団体）、非継続団体は 77%（58 団体）となっている。施設・事業レベルでの分野別内訳では、医療・福祉分野での助成が 18%（18 件）、日本語・文化分野が 58%（57 件）、農業・生活環境分野が 23%（23 件）となっている。

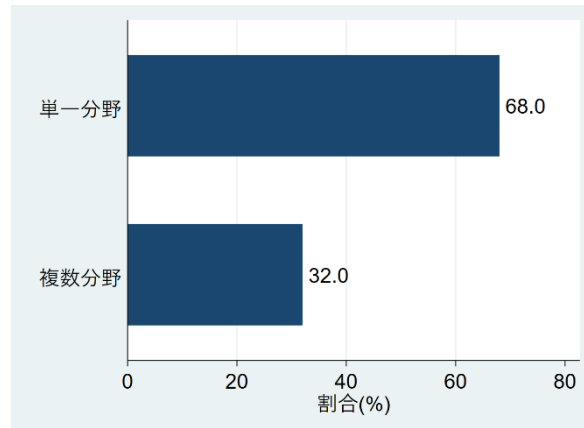


(a) 国別内訳



(b) 継続／非継続団体別内訳

⁹ 1 つの団体が複数の助成対象施設・事業を有しているケースがある。



(c) 分野別内訳

図表 3-5 アンケート回答者の属性

出典：評価チーム作成。

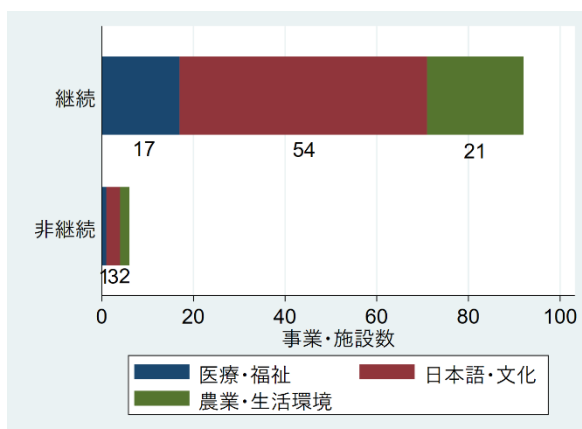
3.2.3. 分析結果

分析の結果、短期、中期、長期アウトカムのいずれも達成されていると判断する。各アウトカムの評価結果は以下のとおりである。

1) 短期アウトカム

① 事業の継続

回答を得られた 98 施設・事業のうち、94%（92 施設・事業）が継続的に事業を行っているという回答している。ヒアリング結果からは以下のとおり助成金が無ければ施設の存続が難しかったという意見もあり、助成金が事業の継続において重要な役割を果たしていることがうかがわれた（Box 3-1 参照）。



図表 3-6 施設・事業の継続状況

出典：評価チーム作成。

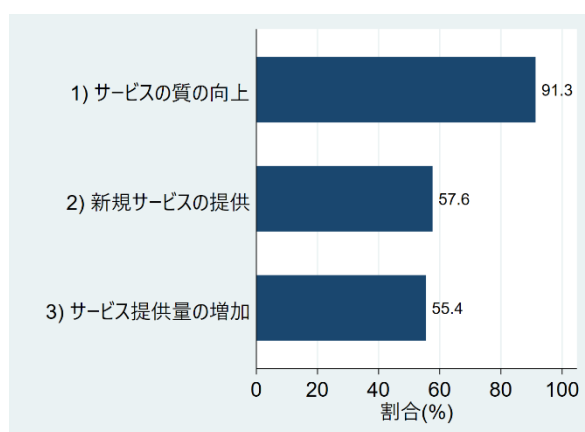
Box 3-1 「事業の継続」に関する ヒアリング結果

- コロナ禍の教師の給与補填の助成金は大変役に立った。それがなかったら教員は生活が成り立たなかったため、日本語学校は存続できなかったと思う。
- 他校も同様であったと思うので、助成金がなければ、ブラジルの日本語教育が減びてしまったかもしれないというくらい大きな支援であった。

なお、継続していない理由としては利用者の減少を挙げたものが2施設・事業、必要な資源の不足（助成金交付の終了を含む）を挙げたものが5施設・事業となっている。

② サービスの改善

91%の施設・事業が助成金の活用によりサービスの質が向上したと回答している。具体的には、職員の質（能力）の向上や設備・備品・教材の改善を挙げる施設・事業が多かった。また、新規サービスの提供やサービス量の増加を回答する施設・事業も半数以上となっている。これらの回答の多くはこれまでできなかった病気やけがの診断・治療（医療・福祉分野）や新たな内容の授業・オンライン授業の実施（日本語・文化分野）が可能となったという点を挙げており、助成金の交付が様々な形で対象施設・事業のサービス改善につながっている（Box 3-2 参照）。



図表 3-7 サービスの改善状況

出典：評価チーム作成。

Box 3-2 「サービスの改善」に関するヒアリング結果

- JICA 助成金でオンライン授業用のPC、プロジェクターの機材や教室の防音対策設備を整えた。これらにより、オンライン授業が可能となり、コロナ後も遠方からの生徒が参加できるようになった。また、これらの機材は対面授業でも日常的に使い、授業の幅が広がった。
- 助成金のおかげで（注：電動フォークリフトの導入と冷凍室の拡張）作業の効率化、また冷凍庫で保管できるようになったことでコストの削減が可能となった。

2) 中期アウトカム

① 地域社会の生活安定

助成金交付事業によって整備された機材や施設に

ついては、日系・非日系問わず、地域社会に貢献している事例が確認できた。医療・福祉分野においては、助成金によって整備された高度機材の導入が地域において大きな役割を果たしているとの意見が多く聞かれた。ある程度の機材が整う地域唯一の医療施設となっている助成対象施設も存在し、非日系住民にとっても助成金交付の対象施設は重要な施設となっていることがうかがわれた。また、高齢者施設等についても、特に身寄りのない人や生活が困窮している人への貢献が高くなっているとのことであった。

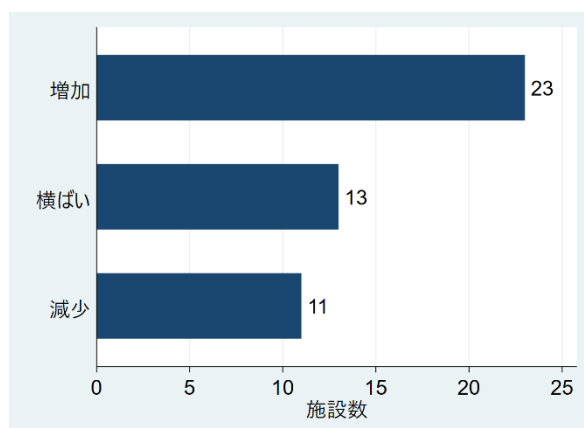
農業・生活環境整備分野においては、例えば助成金によって農作物の貯蔵庫やフォークリフト等を購入し、農業の効率化やコスト削減を実現しているという事例があった。また、助成金で商工会議所の建物を改修した事例では、事務所を持たない日系団体に改修した会議室が広く活用されているとのことであった。また、日系に限らず施設の貸出をすることで、市民一般にも利用されているとのことであった。

日本語・文化分野の助成に関しては、日本語学校を非日系人に対しても門戸を広げており、9割近くが非日系人となっている助成施設も存在する。助成対象の日本語学校が開催する祭りでは、地域の観光イベントの一つとして位置づけられているものも存在し、多くの来訪者を獲得する等、地域の活性化にも貢献している事例もみられた。また、これらの助成対象施設からは様々な分野で活躍する卒業生を輩出する等、人材の輩出・育成という観点からも地域に貢献していることがうかがわれた。

② 日本文化の継承

日本文化の継承に関しても、助成金受給団体が様々な形で日本文化の継承に貢献していることがうかがわれた。

図表3-8に示すとおり、多くの施設で日本語学習者が増加傾向にあるという回答が得られている。近年は、日系・非日系問わず、日本語や日本文化を学ぶことに興味を持つ人も多く、日本語学校は非日系の人たちに対しても日本文化への理解等を促す機会になっているとのことである（Box 3-3 参照）。また、日本語学校での日本祭りなどのイベントでは、多くの来場者を集めるとともに、地域の父母会やボランティアの動員を行い、来場者と関係者の双方に、日本文化を発信する機会となっている。加えて、日本語学校の生徒の中から日系団体の職員やイベントのボランティアとして活動するといった事例も多くみられ、日系社会に対する継続的なコミットメントもうかがわれた。



図表 3-8 日本語学習者の推移

出典：評価チーム作成。

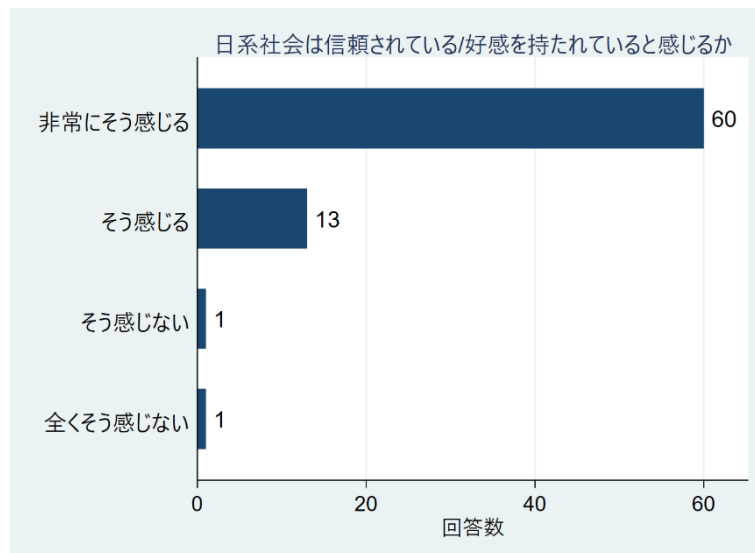
Box 3-3 日本文化に関する ヒアリング結果

- 学校にブラジル人生徒が増え、父母会を通じて、ブラジル人の親にも日本文化が身につくようになってきた。（中略）敬老会が行われた際には、誰も言わずとも、参加者が片づけに協力するなど、ブラジル人も日本人のように、自然に機敏に動いてくれた。

3) 長期アウトカム

① 日系社会への信頼感・好感度の醸成

図表 3-9 に示すとおり、ほぼすべての団体が日系社会への信頼感・好感度を様々な機会を通じて感じており、地域において日系社会への信頼感・好感度が醸成されていることがうかがわれる。



図表 3-9 日系社会への信頼・好感度

出典：評価チーム作成。

具体的にそうした信頼感や好感度を実感する機会としては、アンケート回答から、以下のようなものがあるとのことだった。

- 日系団体が主催するイベント等に、地域住民から多くの参加や協力がある。
- 日本語学校の生徒の多くが非日系である。
- 市の公式行事への参加を求められる場合や、市議会等からの相談を受ける。
- 日本食レストランや日本に関する商品を販売する店が増えている。
- メディアの報道や SNS での好意的な意見を見聞きする。
- 要職に日系人が就いている。

また、助成金交付事業によって支援された病院や施設についても、日本の支援であることが認知されており、日系・非日系問わず地域住民に感謝されているという声も聞かれた。

3.3. 日系社会次世代育成研修の評価

次世代研修への参加によって生じる変化について、短期・中期・長期アウトカムの発現状況を確認する。

3.3.1. アウトカム・指標

次世代研修は、参加者に以下のような短期・中期・長期のアウトカムが発現することを目指している。これらのアウトカムに対して、本評価内で設定した指標は下表のとおりである。

図表 3-10 日系社会次世代育成研修のアウトカムと指標

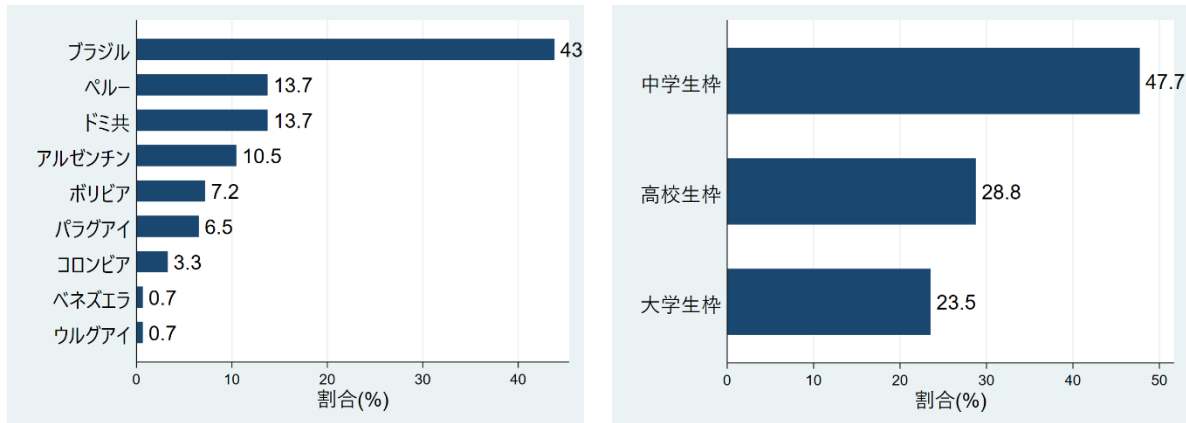
アウトカム 類型	アウトカム	指標
短期	日系人としてのルーツを知る	研修を経ての理解度（変化）
	日本の価値観・文化を知る	研修を経ての理解度（変化）
	日本への好感度が上がる	研修を経ての好感度（変化）
	日本からの移住の歴史を知る	研修を経ての理解度（変化） ① 居住国への移住の歴史理解 ② 中南米への移民の歴史理解
中期	日系人としてのアイデンティティが涵養される	日系人としてのアイデンティティの涵養度
	日系コミュニティや組織の活動・イベントに以前より積極的に参加する	日系コミュニティや組織の活動・イベント参加有無・頻度の変化
	県人会／日本人会／日系人会、日系スポーツ団体（野球、陸上等）、日系文化団体等に所属する	何らかの日系団体への所属有無
長期	日系企業、日系農業組合、日本語学校等日系組織で働く	・（すでに就職している帰国研修員のうち）日系組織で働いている割合 ・ 研修経験を活用している事例
	日系社会のリーダーとして活躍する	日系社会のリーダーとしての活動実績や計画有無・事例
	中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する	中南米社会での日系出身リーダーとしての活動実績や計画有無・事例

出典：評価チーム作成。

3.3.2. アンケート回答者属性

これらアウトカム発現状況をアンケート調査及びヒアリング調査の回答結果から分析した。各調査の対象者は「3.1.2. データ収集」にて述べたとおりであるが、アンケート回答者属性を以下に示す。

アンケート回答者の出身国は、ブラジル（43%）、ペルーとドミニカ共和国（13%）、アルゼンチン（10%）、ボリビア（7%）、パラグアイ（6%）、コロンビア（3%）、ベネズエラとウルグアイ（0.7%）となった。研修に参加した年度は、2015年（12.4%）、2016年（17.0%）、2017年（16.3%）、2018年（23.5%）、2019年（30.7%）であり、回答者の約半数が2019年（30%）と2018年度（23%）に参加していた。参加枠は、中学生枠 47.7%、高校生枠 28.7%、大学生枠 23.5%であり、回答者の約半数が中学生枠で参加していた。男性 41.8%、女性 56.8%、「回答しない」が 1.3%だった。



(a) 出身国内訳 (b) 参加枠別内訳
図表 3-11 日系社会次世代育成研修事業に関するアンケート回答者属性

出典：評価チーム作成。

3.3.3. 分析結果

短期・中期アウトカムは達成している。長期アウトカムのうち、「中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する」には至っていないため、長期アウトカムは一部達成と判断する。

分析の結果、研修参加によって日系人としてのルーツを知り、日系人としてのアイデンティティが涵養され、日系コミュニティで積極的に活躍し貢献する人材が育成されていた。アンケートにおいて「研修で得られると期待していたことがすべて得られた」と答えた人は96%に上り、帰国研修員の満足度も非常に高いことがうかがえた。ヒアリングにおいても、研修を通じて日本を体感し、また他国からの同世代の日系人と知り合うという経験は若い日系人のその後の人生観に大きな影響を与え、多くの場合、自身のアイデンティティを整理する体験となっていたことがわかった。アンケートでそれを端的に表現していた記述回答を紹介する。

- 以前は日本は素晴らしく自分の国は醜いと思っていたが、研修で物事をより詳細に評価できるようになり、日本が私の国に貢献できるのと同じように、私の国も同じことができるようになった。

今回は一部達成にとどまった「中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する」についても、今次評価対象者がまだ若年層であり、今後のキャリアアップに伴い、達成する可能性がある。

各アウトカムの評価判断は以下のとおりである。

1) 短期アウトカム

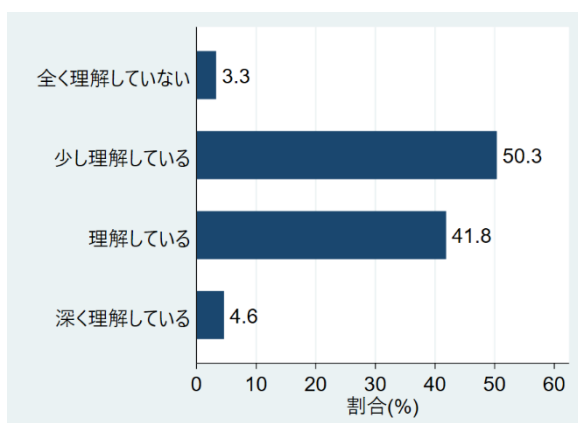
短期アウトカムである、「日系人としてのルーツを知る」、「日本の価値観・文化を知る」、「日本への好感度が上がる」、「日本からの移住の歴史を知る」は達成したと判断できる。各アウトカムの具体的な達成状況は次のとおりである。

① 日系人としてのルーツ、日本の価値観・文化、日本からの移住の歴史を知る

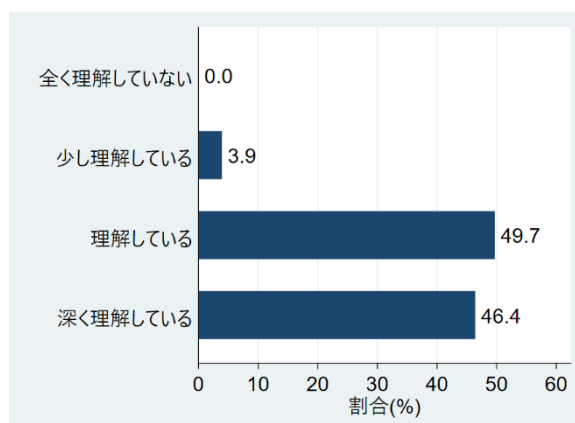
それぞれのアウトカムについて、研修応募前と研修終了後の現在の考えを聞いた結果、研修応募前と比較して、「深く理解している」と回答した割合が増加している。

「日系人としてのルーツ」は、「少し理解している」は応募時 50.3%だったが、現在は 3.9%となっている。一方、「深く理解している」は応募時 4.6%だったが、現在は 46.4%となり大幅に増加している。「日本の価値観・文化」も、「少し理解している」が応募時 39.2%から現在 2.6%と減少の一方、「深く理解している」が応募時 9.8%から現在 51.6%と大幅に増加している。「日本から自国への移住の歴史を知る」、「日本から中南米への移住の歴史を知る」についても同様の結果となり、応募時の「全く理解していない」または「少し理解している」という状態から、研修を経た現在は「理解している」または「深く理解している」状態となったと読み取ることができる。

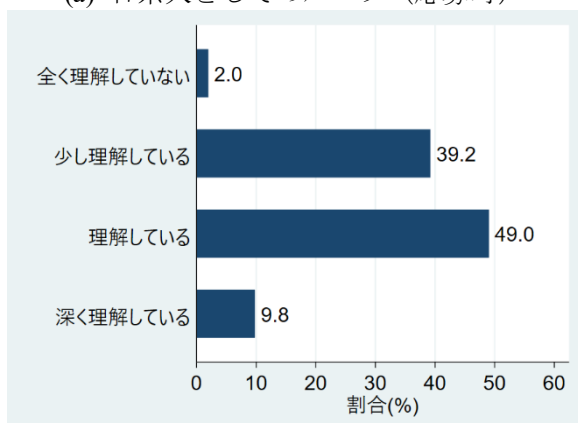
したがって、これらの結果から、「日系人としてのルーツ」、「日本の価値観・文化を知る」、「日本から（自国・中南米への）の移住の歴史を知る」は、研修参加により深まったと判断できる。



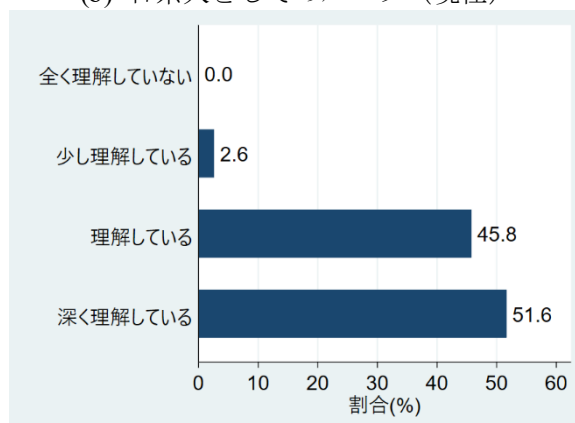
(a) 日系人としてのルーツ（応募時）



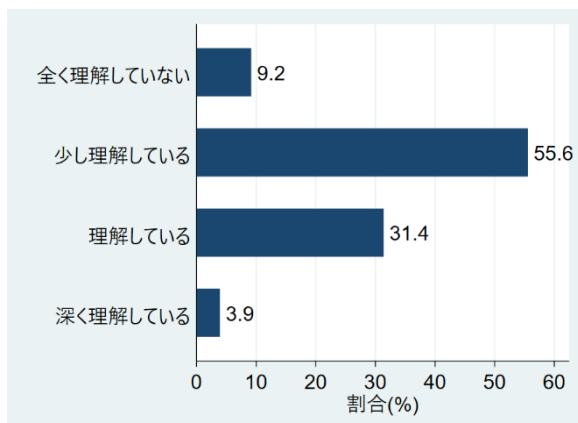
(b) 日系人としてのルーツ（現在）



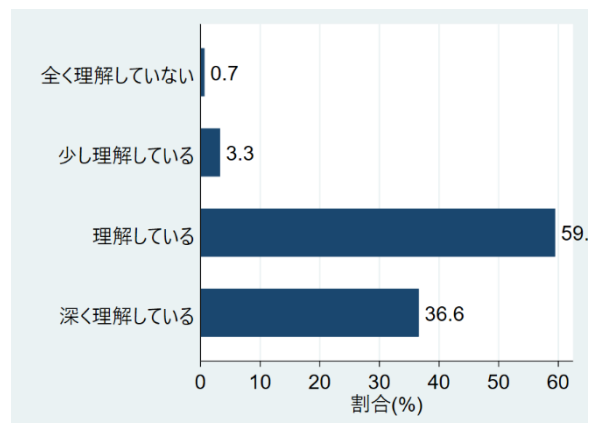
(c) 日本の価値観・文化（応募時）



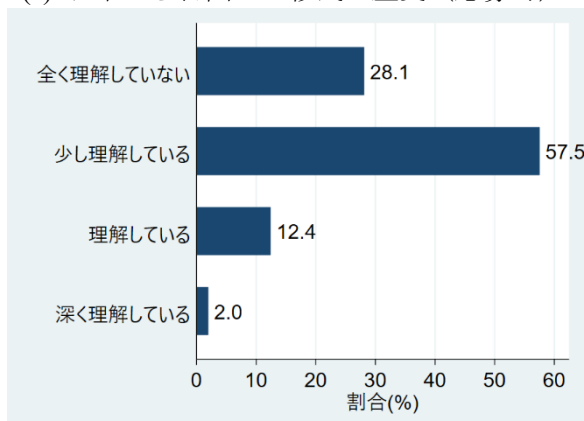
(d) 日本の価値観・文化（現在）



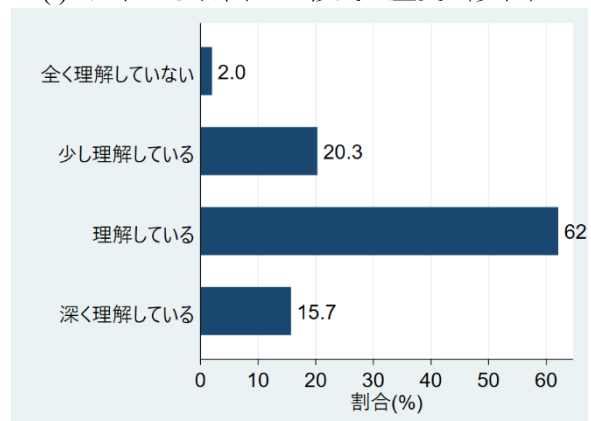
(e) 日本から自国への移民の歴史（応募時）



(f) 日本から自国への移民の歴史（現在）



(g) 日本から中南米への移民の歴史（応募時）



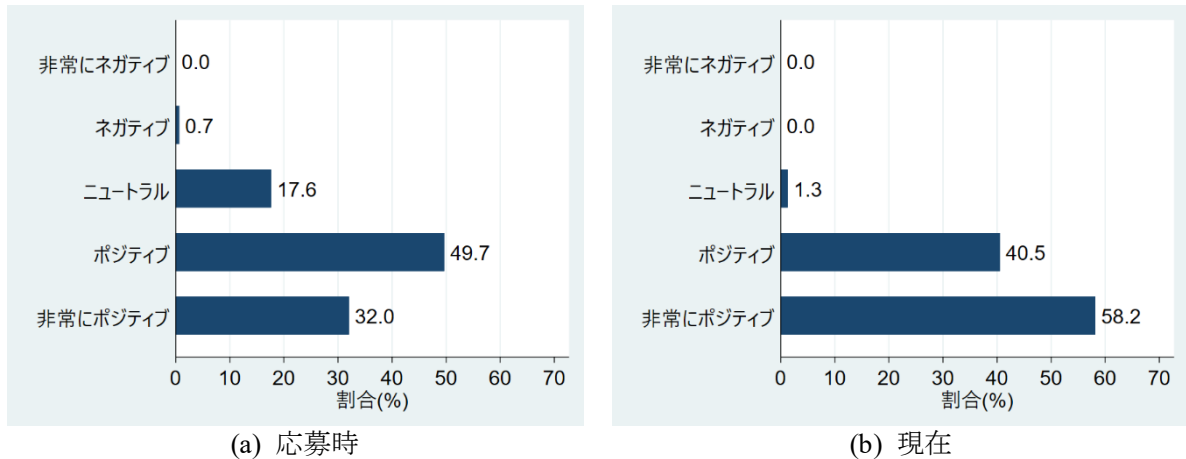
(h) 日本から中南米への移民の歴史（現在）

図表 3-12 「日系人としてのルーツ」、「日本の価値観・文化」、「日本からの移住の歴史を知る」の研修参加前後の比較

出典：評価チーム作成。

② 日本への好感度が上がる

現在の「日本への好感度」は、「ポジティブ」(40.5%)・「非常にポジティブ」(58.2%)を合わせ、ほぼ100%の回答者の好感度が高かった。応募前に「ネガティブ」(0.7%)とした回答者が存在したが現在はゼロとなり、「ニュートラル」とした回答者も17%から1.3%へと減少したためである。したがって、「日本への好感度」は、研修参加を経て向上したと判断できる。



図表 3-13 研修応募時と現在の日本への好感度

出典：評価チーム作成。

現在の「日本への好感度」を中学生・高校生・大学生参加枠別でみたところ、特に中学生枠参加者は「ネガティブ」または「ニュートラル」と答えた回答者はおらず、全員が「ポジティブ」(37%)または「非常にポジティブ」(63%)と捉えていた。高校生枠と大学生枠参加者も「ニュートラル」と答えた回答者がそれぞれ約2%いたが、それらを除き全員が「ポジティブ」または「非常にポジティブ」と答えた。

ヒアリングでは、以下 Box に記載のような回答があった。大多数はアンケート調査での好意的な結果を裏付けるものであった。

Box 3-4 「日本への好感度」に関するヒアリング結果

- (研修から帰国後) 2 週間位は日本の経験についての話が毎日止まらなかった。行く前は、全く日本に関心を持っていなかったが、研修から戻ってからは日本が大好きになり、姿勢が一変した。また、自分で進んで何でもやるようになったし、人見知りの性格が変わった。(帰国研修員の養育者ヒアリングより)
- 日本は、街や人の生活が何でも整っていた。電車は時間通りに来るし、人は時間通り行動していて、渡航前よりずっと印象がよかった。

一方で、数は多くはないものの、日本滞在時に日本社会の現実にあふれ、戸惑うような経験をした帰国研修員も一部いた (Box 3-5 参照)。

Box 3-5 「日本での戸惑うような経験」に関するヒアリング結果

- 日本に行く前は、アニメやドラマのイメージで日本は完璧であり、パラグアイで起きている社会問題等ないかと思っていた。しかし、研修中の中学校への体験入学等を通じ、ハーフもいるし、いじめもあるし、親が離婚している子もいるし、同じ人間なんだ、と感じた。
- 週末の自由時間に道が分からなくなり数人に尋ねたが、皆に無視された。最後に警察官に尋ねたが、近くにある地図を指し、自分で見てと言われ、誰も助けてはくれなかった。通っていた中学校の先生や生徒は、積極的に話しかけてくれ、何でも聞いてきていたので、そのギャップに困惑した。

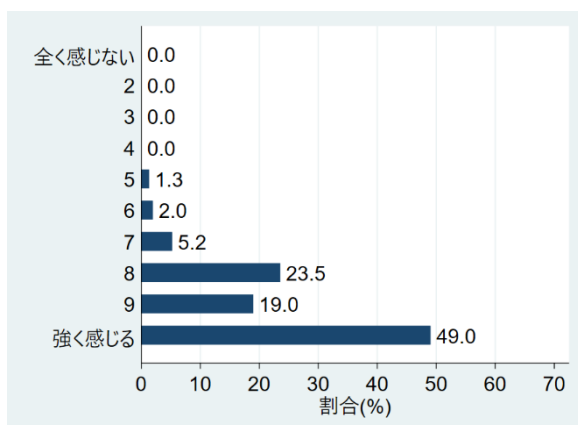
全体として、アンケート調査では応募時にネガティブな印象をもっていた回答者も、研修参加によりポジティブに転じたことで、ほぼ 100%の回答者が日本への高い好感度を回答している。また、ヒアリングでも概ね好意的な声が聞かれた。このため、当アウトカムは達成できたと判断する。

2) 中期アウトカム

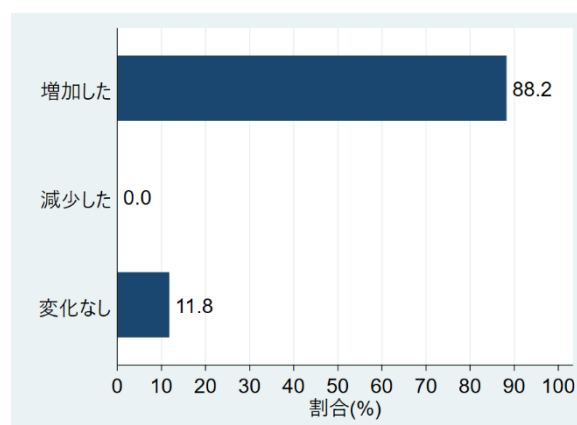
中期アウトカムである、「日系人としてのアイデンティティが涵養される」、「日系コミュニティや組織の活動・イベントに以前より積極的に参加する」、「県人会・日本人会等の日系団体に所属する」は、いずれも達成したと判断できる。各アウトカムの具体的な達成状況は次のとおりである。

① 日系人としてのアイデンティティが涵養される

日系人としてのアイデンティティを強く感じている回答者が多く、それは研修による影響が大きい。回答者の現在の日系人としてのアイデンティティは、「1（全く感じない）」から「10（強く感じる）」の10段階評価中9または10を選択した人が68%だった。研修に参加しなかった場合（回答者本人の主観的な反実仮想）と比べると、88%の回答者が日系人としてのアイデンティティをより強く感じるようになった。変化なしが12%、減少した人はいなかった。この88%の回答者への変化は本研修参加によってもたらされたと解釈することができ、本研修が「日系人としてのアイデンティティの涵養」に寄与していることを示している。



(a) 日系人としてのアイデンティティ
(現在)



(b) 日系人としてのアイデンティティの変化

図表 3-14 日系人としてのアイデンティティの涵養度と
研修に参加しなかった場合（主観的反実仮想）との比較

出典：評価チーム作成。

参加枠別でみると、研修に参加しなかった場合（回答者本人の主観的な反実仮想）と比べると、中学生枠（85%）、高校生枠（93%）、大学生枠（89%）の回答者が、研修参加により日系人としてのアイデンティティが増した。つまり、他の枠での参加者に比べて高校生枠での参加者が、研修参加によりアイデンティティをより強く感じるようになったことがわかった。自身のルーツやアイデンティティについて疑問や戸惑いを感じる時期と重なっているため、研修をきっかけに自身について考え、整理する機会となったと思われる。

研修参加による自身の日系人としてのアイデンティティの変化について、ヒアリングでは以下Boxに記載のような回答があった。研修で実施された講義の受講のほか、他の研修員との交流、海外移住資料館やみなとみらい地区へ訪れたことが、自身のアイデンティティについて考え、整理するきっかけとなったとのことであった。ここにすべて掲載することは紙面の都合上できないが、アイデンティティを見つけ、整理していく機会となったという声が非常に多かった。

Box 3-6 「日系人としてのアイデンティティ」に関するヒアリング結果

- 帰国後、自分がエンパワメントされたと感じた。それまでは、顔が違っている（アルゼンチン人でもなく、日本人でもない）と指摘され、別の国の人じゃないか、と言われることが多かったが、帰国後は自分に対して平穏でいられるようになった。
- 幼いころから、祖父から様々日本について伝え聞いてはいたが、実際に自分が日本に行って身をもって体験することにより、より自分が日本とつながっていることを実感できた。
- アイデンティティに関する講義の先生は、日本で長年暮らしている日系ブラジル人の方だった。ご自身のライフストーリーも含めて講義してくれた。一人の中には多様なアイデンティティがあり、どれかひとつである必要はない、という話が印象的だった。その講義を聞いて、自分が何者なのか、自分はどこから来てどこに属しているのか、というようなことが整理されたと感じている。
- 他の日系の人たちの経験を（良い経験も困難も）知ることができたことがもっとも重要な経験だった。似た背景や感情をもつ人々と出会えたことがよかった。同じ日系という背景を持つということで、兄弟姉妹のように近い気持ちを持つことができた。日本にいても日本人ではなく、コロンビアに居ても完全に南米人ではない。国籍というアイデンティティを欠いているという共通点があった。
- みなとみらい地区を歩き回ることができたのも良い機会だった。祖母から横浜から船で出発しコロンビアに移住したといつも聞いていたから。港からビデオ電話をつないで祖母に景色を見せると、喜んでいた。コロンビアに関する展示は少なかったが海外移住資料館にも行って展示を見たのは興味深かった。
- 日本に行ったことで、日系人としてのアイデンティティに気が付くことができた。
- 事前課題として自分の祖父母から話を聞く宿題があったことで、自分のルーツを見つめる機会になった。また、移住の歴史等を学び、今後もっと日系（日系団体青年部）の活動をしようという思いが増した。
- 日系人としてのアイデンティティを見つめる講義があった。講師はパラグアイの日系人で日本の大学で教鞭をとっている方だった。それまでアイデンティティについて考えたことがなかったが、周囲のブラジル人と見た目は違うが、日本人でもないことに違和感があった。この研修で「アイデンティティ」という言葉を知り、意識することで、これが周囲の人との違いなのだと気が付くことができ、少し気が楽になった。

以上の分析結果から、日系人としてのアイデンティティは涵養され、それは研修参加による影響が大きかったと判断できる。講義受講だけではなく、他の研修員との交流や海外移住資料館での学びが影響したと考えられる。

② 日系コミュニティや組織の活動・イベントに以前より積極的に参加する

多くの回答者が過去 1 年間に何らかの活動・イベントに参加しており、その頻度は研修参加前に比べて増加している。過去 1 年間に、88%（153 人中 136 人）が何らかの日系コミュニティや組織の活動・イベントに参加していた。参加回数は、「1-2 回」（30%）、「3-5 回」（30%）、「6-9 回」（8%）、

「10 回以上」(4%) だった。

研修参加前との比較では、「参加頻度が増えた」(38%、59 人)、「変わらない」(39%、61 人)、「減少した」(10%、16 人) だった。「変わらない」と回答した 61 人の参加回数は、「1-2 回」(26%)、「3-5 回」(34%)、「6-9 回」(14%)、「10 回以上」(24%) と、もともと積極的に活動していた人が多かった。「減少した」(何らかの活動に参加している 136 人中 16 人) 回答者の主な理由は、「仕事・勉強・趣味が忙しい」、というものだった。

当アウトカムに関するヒアリングでは、以下 Box に記載のような回答を得た。

Box 3-7 「帰国後の日系団体での活動参加」に関するヒアリング結果

- 研修から帰ってきた 2019 年に(村人会から)声がかかり、帰国後、日系社会への貢献もしていきたいという気持ちがあったため、青年部に入った。それまでも村人会に参加する機会があり、交流イベントや文化イベントに参加していたが、そこからは運営側として活動した。先月任期が終わり役員が交代したが、再度役につき、2026 年まで参加することになった。
- (研修参加前から家族と共に日系人会には参加していたが) 研修から戻った頃、コロナで衰退していた青年会を今後どう活性化させていったら良いだろうかという話をするようになり、自分も色々意見を言って提案し、まずはバレーボールを再開するとともに、キャンプや子どもへのバレーボールの指導、ソフトボール、また母の日や父の日のイベント、日本祭りのバザーへの参加等徐々に活動を広げていき、青年会の活動が活発になった。

以上の分析結果から、研修参加前に比べてより積極的に参加するようになった 38%に加え、「変わらない」と答えた回答者の多くがもともと積極的に参加していたことがわかった。また、研修参加後に消極的となった回答者も、日系団体の活動に対してネガティブな経験や感情があつてのことではなく、「仕事や勉強が忙しい」との理由だった。したがって、「日系コミュニティや組織の活動・イベントに以前より積極的に参加する」は達成したと判断できる。

③ 県人会／日本人会／日系人会、日系スポーツ団体(野球、陸上等)、日系文化団体等に所属する

現在は 88%の回答者が何らかの日系団体に所属している。所属先は、58%の回答者が県人会・日本人会・日系団体、45%がクラブ・サークル・友人グループに所属している。

以上の結果より、9 割近い回答者が何らかの日系団体に所属していることから、当アウトカムは達成したと判断できる。

3) 長期アウトカム

長期アウトカムのうち、「日系企業・日系農協・日本語学校等の日本組織で働く」、「研修で学んだ専門性を活かして活動する」、「日系社会のリーダーとして活躍する」は達成したと判断できる。

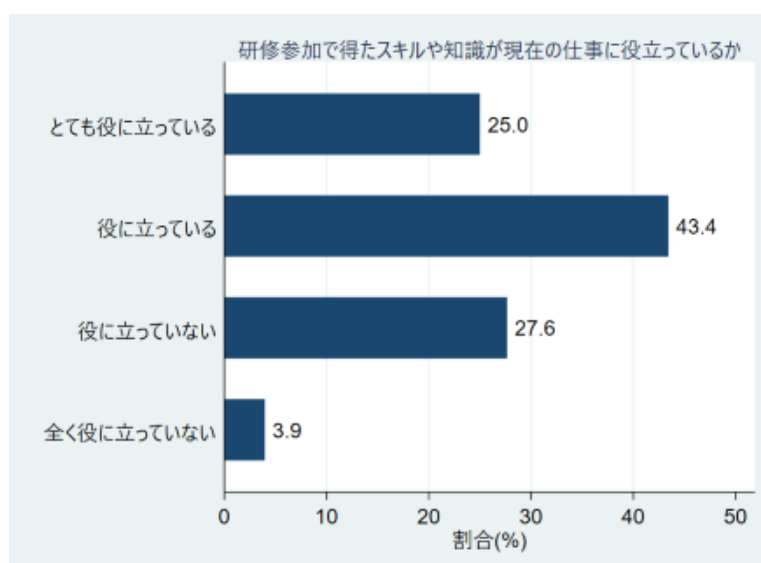
「中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する」については、一部達成となった。これは、日系社会の発展に貢献する活動を行ったことがある回答者が多かった一方で、中南米社会の発展に

寄与する活動事例が限定的だったためである。活動事例が限定的であった理由は、回答者は若年層が多く、就業割合も約半数と限られているためであると考えられる。そのため、今後年齢や職業経験を重ねてキャリアアップをしていくことで、当アウトカムも発現していく可能性はあると考える。各アウトカムの具体的な達成状況は次のとおりである。

① 日系企業・日系農協・日本語学校等の日本組織で働く／研修で学んだ専門性を活かして活動する

現在、「就業している（自営を含む）」割合は、49%（153 人中 76 人）と回答者の約半数だった。これは現在学校などで勉強している人が 79%（153 人中 121 人、仕事と掛け持ちを含む）と多いためである。就業している人のうち、何らかの日系団体¹⁰で仕事として働いている回答者は、18%（76 人中 14 人）にとどまる。

研修で得たスキルや知識は現在の仕事に、「とても役に立っている」（25%）、「役に立っている」（43%）を合わせ、就業中の回答者の約 7 割が経験を活用できていることがうかがわれる。



図表3-15 研修で得たスキルや知識の活用度

出典：評価チーム作成。

現職での活用事例について、アンケート調査では、以下のような記述回答があった。

- JICA 横浜に滞在中、様々な国から来た様々な人に出会い、オープンマインドになった。現在は多様な文化、宗教をもつ人々と一緒に仕事をしており、（研修参加によって）様々な伝統を尊重することが容易になった。
- 自信をもって自分を表現できるようになった。
- 患者に対する態度や治療に、日本の文化である敬意と地域社会の共存の感覚を反映するこ

¹⁰ ここでいう何らかの日系団体とは、以下のいずれかの組織で働いている場合を指す。

日本企業、日本大使館・JICA・JETRO 等現地事務所、日系農業組合、日本語学校、教育・研究機関（日本または日系）、日系病院・クリニック（日本または日系）、日系文化団体・財団（日本または日系）、NGO（日本または日系）

とができるようになった。

- 日本文化について理解したことで、自分の生徒たちに共有できるようになった。
- カイゼン手法を組織に適用している。

現在働いていない回答者（77 人）に将来の計画を聞いたところ、87%（67 人）が、近い将来、日系や日本と関わるキャリアプランがあると答えた。具体的には、アンケート調査により以下のような記述回答を得た。

- 日本人（と一緒に）または日系の病院や診療所で働きたい。
- パイロットとして訓練を受けて飛行経験を積んでいる。将来は日本の航空会社で働きたい。
- 日本の大学院の学位を取得し、日本企業でインターンシップをして専門的な経験を積みたいと考えている。日本語も流暢に話せるようになりたい。
- 書道教師及び日本語教師として活動し、日本文化を社会に広めたい。
- 日本語を上達させるために日本で働きたい。

また、仕事上だけではなく、研修で学んだことが学業において役立っているかを聞いた。現在学校などで勉強している人は、回答者の 79%（153 人中 121 人、仕事と掛け持ちを含む）だったが、そのうち 87%が、研修で学んだスキルや知識が現在の学業に役立っている、または、とても役立っているとしている。

さらに、仕事でも学業でもない日常生活において、研修で学んだことを活かした活動を行っている」と答えた人は、40%（153 人中 62 人）だった。そうした事例として、アンケート調査では以下のような記述回答があった。

- お茶をたてる。
- 整理整頓や、和食づくりをする。
- 先祖がどのように生きていたかを知り、現在の自分の生活をよりよく理解し、受け入れることができた。それをきっかけに、家にある仏壇を積極的に拝むことや伝統的な日本料理を作ることを始めた。
- 日本のメディアや文献の翻訳をする。

以上の分析結果より、就業割合が約半数と少なかったものの、そのうち 18%が何らかの日系団体で就業していたこと、そして職場が日系かどうかに関わらず、研修で得たスキルや知識は、現職に役立っていることがわかった。加えて、学業や日常においても、研修で得たスキルや知識が活かされていた。また、現在働いていない人も、約 9 割が近い将来日系や日本と関わるキャリアを築きたいと考えていた。したがって、「日系企業・日系農協・日本語学校等の日本組織で働く」、「研修で学んだ専門性を活かして活動する」は、達成したと判断できる。

② 日系社会のリーダーとして活躍する／中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する

日系社会の発展に貢献する活動を行ったことが「ある」と回答した人は、64%（153 人中 98 人）だった。「ない」と答えた 55 人のうち 47%（26 人）は、「近い将来にそのような活動をする計画がある」と答えた。日系社会の発展につながる活動事例として、アンケート調査で以下の回答を得た。

- 青年部と共に日本食の調理と実演を行った。
- 2023年にアルゼンチンで開催された日系フェローシップで、ペルーとブラジルの代表団を迎えた。
- 現在は東京の建築会社に勤務しており、修士号と仕事の両方で得た新しい知識を再活用している。
- 地域の日系のこどもたちに野球を教えている。
- （日系に関する）ドキュメンタリーの制作や展示をした。村人会における文化活動の組織化も行った。
- 日系団体やイベントに積極的に参加した。
- 日系団体でボランティア活動を行っている。
- 日本をテーマに様々な文化をミックスした音楽を制作している。
- 大学のクラスメイトや実習の中で、日本文化について紹介した。

一方、中南米の発展に貢献する活動を行ったことがあると回答した人は、9%（153人中15人）にとどまった。回答者の年齢は若年層であり、就業している割合も約半分であることから、そのような場での活躍機会がまだ少ないためであると考えられる。一方、そうした活動を行ったことがないと答えた138人のうち30%（42人）は、近い将来にそのような活動をする計画があると答えており、今後のアウトカム発現が期待される。ヒアリングにおいても、高校生卒の帰国研修員から「他国の日系社会のこと、また自分と同じ「日系人」が世界で活躍しているのを知ることができたのが大変良かった。」という声がきかれた。また、大学生卒で参加した帰国研修員からは、以下Boxに記載のような声が複数聞かれており、大学訪問が自身の将来について考えるきっかけとなり、将来の方向性に影響を与えたようだ。

Box 3-8 「大学訪問での体験」に関するヒアリング結果

- 東京女子医科大学のMedical Researchを見学して、中南米諸国と日本の格差を感じた。そして、自分が専門性のある分野でそれをつなぐ存在になれたらと思った。日本との関わりを持ち続けたいと思っている。
- 大学の専攻はコミュニケーション学・映像制作だったので、研修中の大学見学は、武蔵野美術大学と多摩美術大学に行った。美術・デザイン系の専攻の研修員が他にもいたので、これら2つの大学両方に参加した。日本の学生が制作した作品の鑑賞会も行ったが、先生からの評論もあり、先生の評価の目線がペルーのそれとは違うと気があった。日本の学生と交流する機会があったので、ペルーのことやペルーの映像のことを学生から質問されたりして、こう見られているんだと気付きもあったし、もっと勉強しておけばよかったと感じた。

中南米の発展に貢献する活動事例として、アンケート調査で以下の回答を得た。

- 日系アイデンティティをテーマとした短編映画制作の経験を共有し、他のラテンアメリカ諸国の若手リーダーと交流した。
- 研究者として医療分野の論文を執筆している。

研修に参加しなかった場合（回答者本人の主観的な反実仮想）と比べると、日系社会または中南米の発展に貢献する活動をしたことが「ある」100人のうち53%は、「研修に参加しなければ活動をしなかった」と答えている。このことから、研修参加によってこのような活躍事例の創出につながったと考えられることから、研修が与える好影響が認められる。

以上の分析結果より、多くの回答者が日系社会の発展に貢献する活動を行っていたため、「日系社会のリーダーとして活躍する」というアウトカムは研修参加により達成できたと判断できる。一方、中南米の発展に貢献する活動事例が限られており、「中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する」までには至っていないと判断した。今後、若年層や学生がキャリアアップしていくことで当アウトカムが発現していく可能性はあると考える。

3.4. 日系社会リーダー育成事業の評価

リーダー育成事業への参加によって生じる変化について、短期、中期、長期アウトカムの発現状況を確認する。

3.4.1. アウトカム・指標

リーダー育成事業は、参加者に以下のような短期・中期・長期のアウトカムが発現することを目指している。これらのアウトカムに対して、本評価内で設定した指標は下表のとおりである。

図表 3-16 日系社会リーダー育成事業のアウトカムと指標

アウトカム 類型	アウトカム	指標
短期	日系人としてのルーツを知る	研修を経ての理解度（変化）
	日本の価値観・文化を知る	研修を経ての理解度（変化）
	日本への好感度が上がる	研修を経ての好感度（変化）
	日本からの移住の歴史を知る	研修を経ての理解度（変化） ① 居住国への移住の歴史理解 ② 中南米への移民の歴史理解
	自身のアイデンティティや研究テーマに関する発信力が高まる	県人会／日本人会／日系人会等でのイベント、帰国生同窓会等での発表経験有無・発信頻度の変化
	知識・スキルが向上する	研修による知識・スキルの向上度合
	日本の大学・組織・学生・他留学生とのコネクションを獲得する	研修への参加を通してコネクション／ネットワークを獲得できた割合
中期	日系人としてのアイデンティティが涵養される	日系人としてのアイデンティティの涵養度
	日系コミュニティや組織の活動・イベントに以前より積極的に参加する	日系コミュニティや組織の活動・イベント参加有無・頻度の変化
	県人会／日本人会／日系人会、日系スポーツ団体（野球、陸上等）、日系文化団体等に所属する	何らかの日系団体への所属有無
長期	日系企業、日系農業組合、日本語学校等日系組織で働く	・ 日系組織で働いている割合 ・ 研修に参加したことで得たネットワークが日系組織への就職に役立った割合・事例
	研修で学んだ専門性を活かして活動する	研修で学んだ専門性を活かして活動している割合・事例
	日系社会のリーダーとして活躍する	日系社会のリーダーとしての活動実績や計画の有無・事例
	中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する	中南米社会での日系出身リーダーとしての活動実績や計画の有無・事例

出典：評価チーム作成。

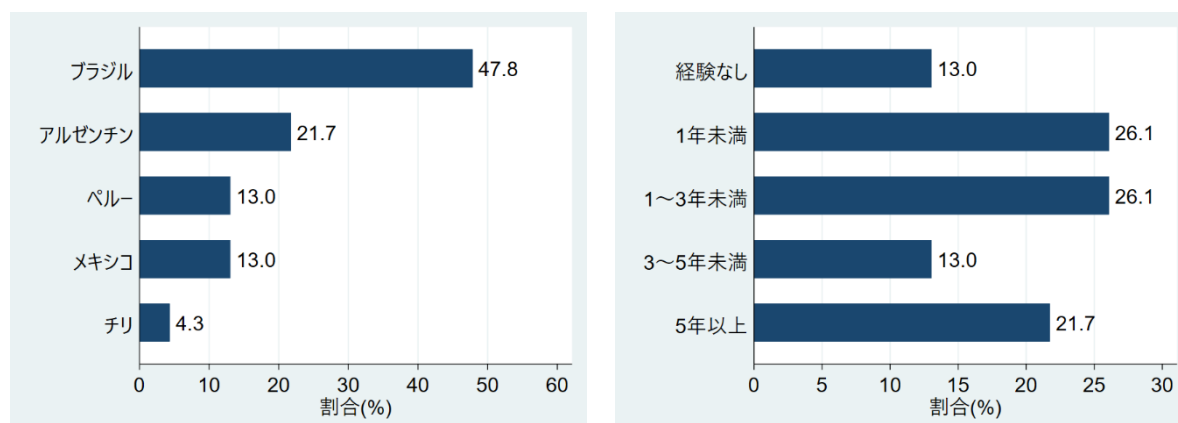
3.4.2. アンケート回答者属性

これらアウトカム発現状況をアンケート調査及びヒアリング調査の回答結果から分析した。各調査の対象者は「3.1.2. データ収集」にて述べたとおりであるが、アンケート回答者属性を以下に示す。

アンケート回答者の出身国は、ブラジル（47%）、アルゼンチン（21%）、ペルー（13%）、メキシコ（13%）、チリ（4%）となった。研修応募時の年齢は、平均 26.8 歳、最小 23 歳、最大 35 歳だった。研修で得た学位は、修士号（78%、18 人）、博士号（17%、4 人）、学位取得なし（4%、1 人）だった。研修応募時の職務経験年数は、経験なし 13%、1 年未満 26%を合わせると約 4 割となり、職務経験がないまたは浅い人の参加割合が高い。一方、5 年以上と答えた人は 21%だった。男性 56%、女性 39%、「回答しない」が 4%だった。

研修での学術分野は、エンジニアリング（21%）、薬学/医療（13%）、建築（13%）等だった。その他（30%）の中には、Design and education、Education、Health and behavioral science、History、International Relations and ICT、Law and politics、Media design 等が含まれていた。回答者が研修に参加した年度は、2015 年（13%）、2016 年（13%）、2017 年（8%）、2018 年（4%）、2019 年（21%）、2020 年（4%）、2021 年（34%）だった。

新型コロナウイルスによる研修への影響については、2021 年度研修参加者の全員（回答者全体の 34%、8 人）がコロナで来日が遅れた。また、2019-2021 年度研修参加者 14 人のうち 12 人が、来日中に大学の授業がオンラインのみとなった期間があったと答えている。



(a) 出身国内訳 (b) 応募時の職務経験別内訳
図表 3-17 日系社会リーダー育成事業に関するアンケート回答者属性

出典：評価チーム作成。

3.4.3. 分析結果

短期・中期アウトカムともに、想定されたアウトカムが発現しており、達成されたと判断する。長期アウトカムのうち、「中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する」には至っていないため、長期アウトカムは一部達成と判断する。

分析の結果、研修参加によって日系人としてのルーツを知り、日系人としてのアイデンティティが涵養され、また、発信力の向上、知識・スキル・専門性の向上が達成されている。そうした専門性を高めた人材が日系コミュニティの一員として活躍し、貢献していることが確認された。アンケートにおいて「研修で得られると期待していたことがすべて得られた」と答えた人は 86% と高い。この高い満足度の背景を端的に表しているアンケートでの回答を紹介する。

- 私が得たもっとも貴重な経験は、日本のような先進国で学ぶ機会を得たことです。教育という私にとって非常に重要な分野で、トップクラスの教授や学生とつながることができたのは、本当に素晴らしい体験でした。このプログラムは、質の高い教育だけでなく、日系コミュニティや社会に貢献したいという明確な意欲を持つ、粘り強く積極的なプロフェッショナルを育成するものだと感じています。日系のルーツやラテンアメリカのコミュニティとつながることの影響は、計り知れないものがあります。

なお、今次評価でまだ達成されていないという判断となった「中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する」であるが、中南米においてリーダーとしての役割を果たしている例は必ずしも多くはなかったものの、日本で研究を継続したり、職を得たりする参加者も少なくなく、中南米に限らない場での活躍が確認できた。このことから、世界で活躍する日系人リーダーを育成する、日本と中南米諸国との連携関係の発展に貢献する人材を育成するという視点で本スキームの最終アウトカムを捉え直す必要性が示唆された。

各アウトカムの評価判断は以下のとおりである。

1) 短期アウトカム

短期アウトカムである、「日系人としてのルーツを知る」、「日本の価値観・文化を知る」、「日本からの移住の歴史を知る」、「日本への好感度が上がる」は、達成したと判断できる。日本への好感度については、高いものの出願時と比べると下がっているため、今後の研修への示唆となりうる。

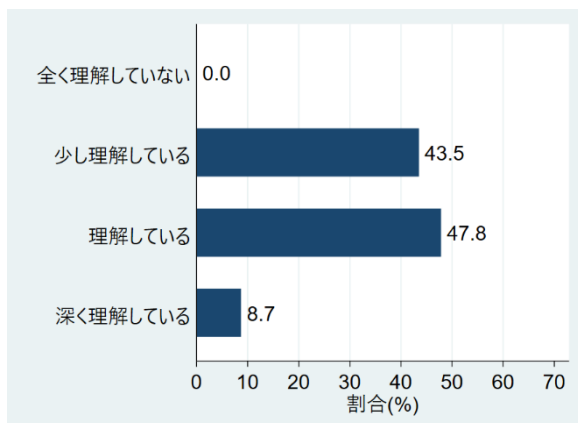
「自身のアイデンティティ研究テーマに関する発信力が高まる」、「知識・スキルが向上する」、「日本の大学・組織・学生・他留学生とのコネクションを獲得する」も、研修参加により達成できたと判断できる。各アウトカムの具体的な達成状況は次のとおりである。

① 日系人としてのルーツ、日本の価値観・文化、日本からの移住の歴史を知る

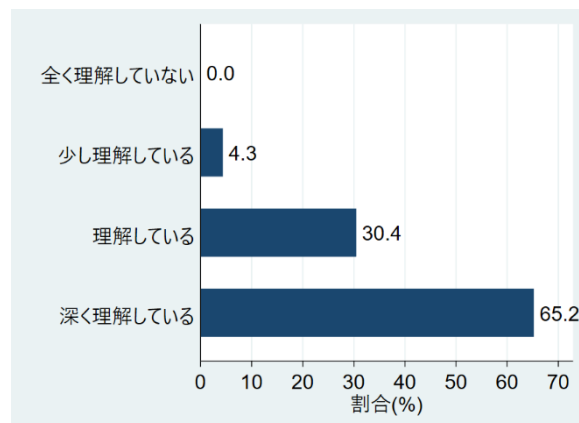
それぞれのアウトカムについて、研修応募前と研修終了後の現在の考えを聞いた結果、研修応募前と比較して、「深く理解している」と回答した割合が増加している。

「日系人としてのルーツ」は、「少し理解している」は応募時 43.5%だったが、現在は 4.3%となっている。一方、「深く理解している」は応募時 8.7%だったが、現在は 66.2%となり大幅に増加している。「日本の価値観・文化」も、「少し理解している」が応募時 47.8%から現在はゼロとなった一方、「深く理解している」が応募時 8.7%から現在 78.3%と大幅に増加している。「日本から自国への移民の歴史」、「日本から中南米への移民の歴史」についても同様の結果となり、応募時の「全く理解していない」または「少し理解している」という状態から、研修を経た現在は「理解している」または「深く理解している」状態となったと読み取ることができる。

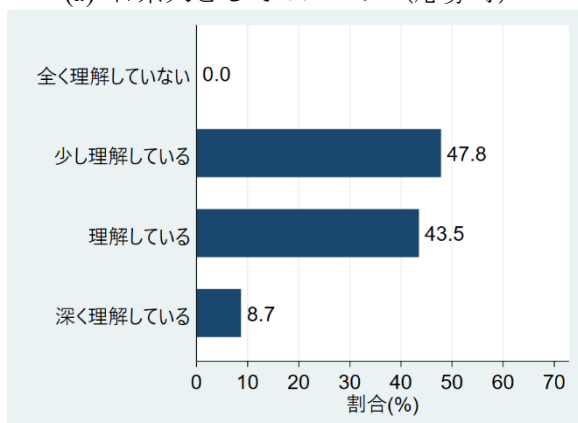
以上の結果から、これらのアウトカムは達成していると判断できる。



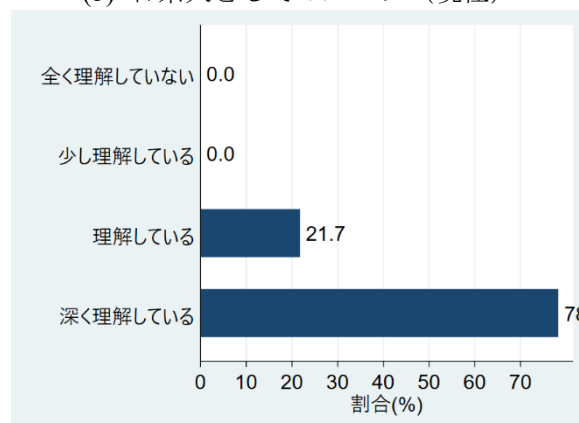
(a) 日系人としてのルーツ（応募時）



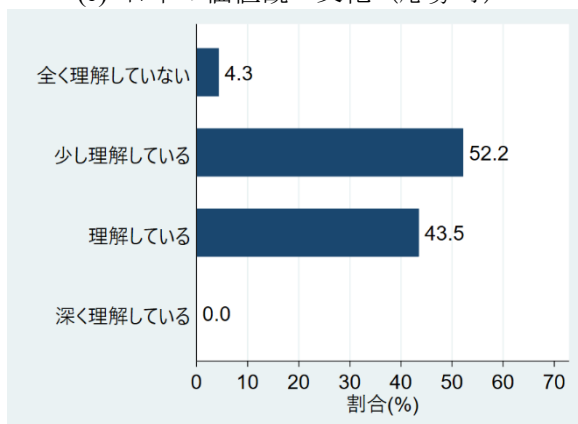
(b) 日系人としてのルーツ（現在）



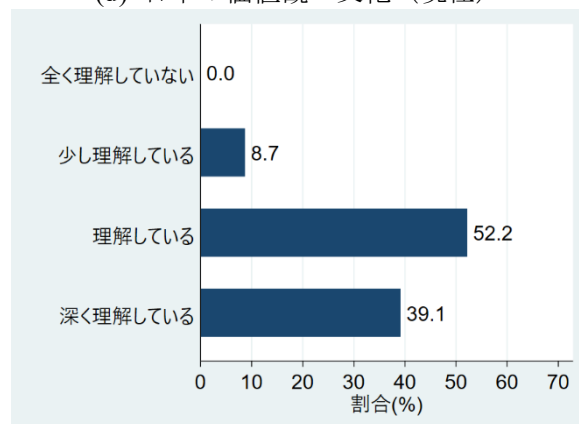
(c) 日本の価値観・文化（応募時）



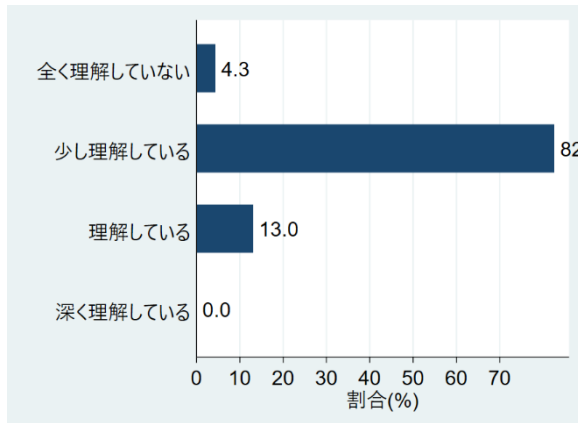
(d) 日本の価値観・文化（現在）



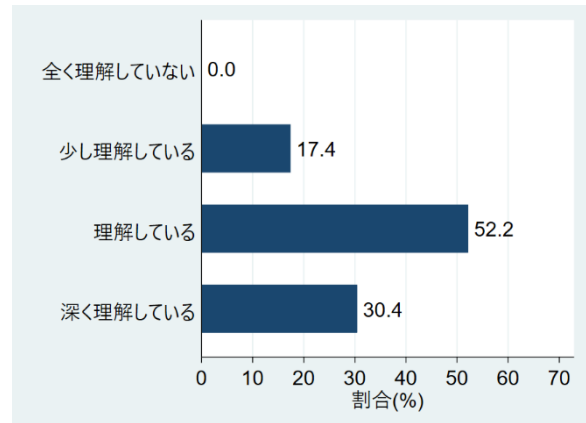
(e) 日本から自国への移民の歴史（応募時）



(f) 日本から自国への移民の歴史（現在）



(g) 日本から中南米への移民の歴史
(応募時)



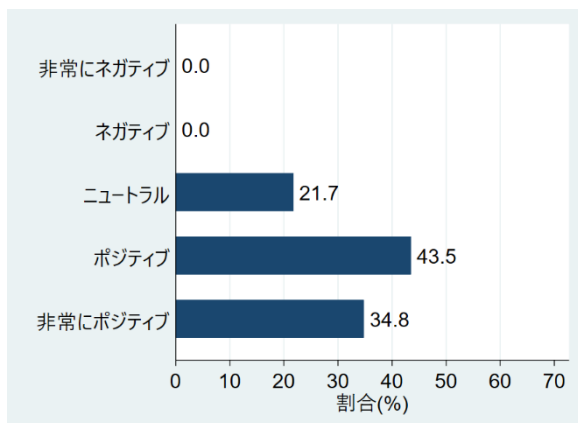
(h) 日本から中南米への移民の歴史（現在）

図表 3-18 「日系人としてのルーツ」、「日本の価値観・文化」、「日本からの移住の歴史を知る」の研修参加前後の比較

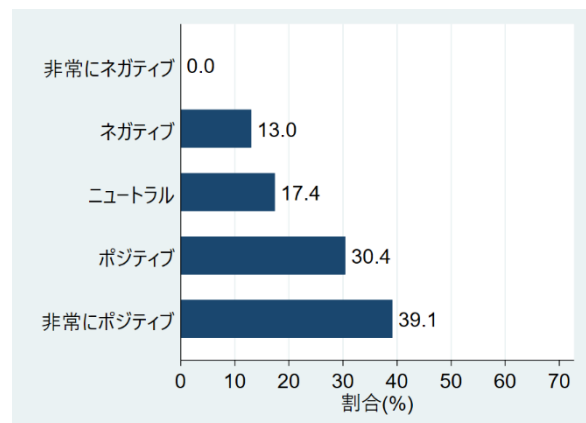
出典：評価チーム作成。

② 日本への好感度が上がる

現在の「日本への好感度」は、「ポジティブ」(30.4%)と「非常にポジティブ」(39.1%)を合わせ69%だった。応募時の好感度(ポジティブと非常にポジティブの合計)79%と比較すると、現在約10ポイント下がっている。これは、出願時はゼロだったネガティブの割合が現在は増加(13%)しているからである。



(a) 応募時



(b) 現在

図表 3-19 研修応募時と現在の日本への好感度

出典：評価チーム作成。

本調査で、現在の日本への好感度について「非常にネガティブ」、「ネガティブ」、「ニュートラル」と答えた場合の理由を、アンケート調査で聴取したところ、以下の箇条書きに示す回答を得た。中立でありたいというスタンスのほか、研修参加時に差別やハラスメントなど不快な経験をした帰国研修員もいた。研修参加により、今後知日派・親日派となり、開発の共創パートナーとなる人材育成を目指す本スキーム内で、研修参加により日本へネガティブな感情を頂いた帰国研修員がいたことは事実であり、研修期間中の経験が原因となっている可能性が示唆された。

- コロナ後に増幅した外国人嫌悪、外国人に対する経済的な解決の不足、社会政治的な

LGBTQIA 嫌悪の構造、エイジズム（例：JICA や文部科学省は高齢者に勉強を継続することを認めていない）。

- セクシャルハラスメント、性差別、外国人に対する偏見（日系人であるにもかかわらず）など、日本にいる間に多くの不快な状況を経験した。また、日本人はあまり包容力がなく、友達を作ったり、温かい社会環境で生活するのに苦労した。
- 日本人の政治や歴史に対する理解度は平均的に低いと感じる。政治については、日本の植民地支配の歴史、近隣諸国との関係、パレスチナでの大量虐殺との関係など、日本国の政策は妥当でないことが多いと思う。
- 中立でありたいと心がけているため（ニュートラルと回答した）。
- 私は、国という複雑なもの（この場合は日本）に関しては、全体的に中立的な考えを持つ傾向がある（ためニュートラルと回答した）。
- ペルーと日本の違いを知った。どちらの国にも良い面と悪い面があり、好きとか嫌いとかは言えない（ためニュートラルと回答した）。

参考として、これらの結果を、評価チームの1社が2020年度に実施した「独立行政法人国際協力機構（JICA） 全世界 2020 年度テーマ別評価「留学生事業の評価手法分析」（以下、類似調査）¹¹で得られた結果と比較し精査してみる。当該類似調査では、JICA が実施した留学生事業（修士課程への留学スキーム）の評価を行っているが、調査の一環として参加者（修了生）と非参加者の日本への感情をアンケート調査にて聴取している。その結果、研修参加後の調査時点で日本に非常に肯定的な感情を持っていると回答した修了者の割合は約7割だった。これは本調査結果（現在の日本への好感度は、ポジティブと非常にポジティブを合わせ 69%）と一致している。他方、類似調査では、感情が悪化したと回答した人が、修了生で15%だった。これを本調査結果でいう、研修終了後の現在、日本への好感度が「ネガティブ」と回答した割合（13%）と比較すると、ほぼ同じである。したがって、データ収集時を含む本調査の評価プロセスにおいて、なんらかのエラーが生じた結果、研修参加によりポジティブな感情またはネガティブな感情を持った回答者が少なく／多く見積もられたという可能性は低い。このことより、本結果を真摯に受け止め、改善していく必要がある。

リーダー育成事業の研修員は次世代研修や日系社会研修の研修員と異なり、日本への滞在期間が長く（修士課程の場合2年、博士課程の場合4年以上）、研修員本人が選ぶ教育機関での研修となる。そのため、授業の内容、指導教員や友人との関係、大学の受入態勢等のほか、インターンシップやアルバイトなど課外での活動等により勉学上または生活上の問題により直面しやすい可能性がある。また、同じ大学や地域にJICA 研修員がいない限り、普段の生活では他の研修員や日系人との関係構築がしにくく、場合によっては孤独を感じることや、相談相手がいないなどの状況に陥る。このように研修員が個々に経験することが日本への好感度に影響を与えやすい状態にあるが、一方でそのほとんどがJICA のコントロール外である。問題に直面すること自体は避けることができないが、もし問題が起きた場合の支援体制を整え、日本での研修期間を支えていくことが肝要であると思われる。

¹¹ 独立行政法人国際協力機構（JICA）「全世界 2020 年度テーマ別評価 留学生事業の評価手法分析」。ファイナルレポート（2021 年 9 月）（[202109_01_ja.pdf](#)）中、留学生事業に参加した研修員の日本への感情を分析した結果を参照した。

これらの分析結果から、日本の好感度は高いレベルで維持されているものの、研修出願時と比べて下がっており、それは日本での不快な経験が影響している可能性が示唆された。したがって、当アウトカムについては、一部達成と判断する。

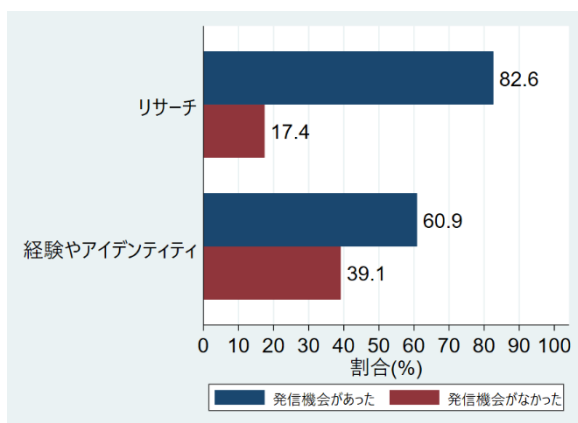
③ 自身のアイデンティティや研究テーマに関する発信力が高まる／知識・スキルが向上する／日本の大学・組織・学生・他留学生とのコネクションを獲得する

「自身の研究に関する発信機会があった」回答者は 23 人中 19 人（82%）、「自身の経験や日系としてのアイデンティティに関する発信機会があった」回答者は 14 人（60%）だった。すべての人が研修参加前に比べて知識、スキル、専門性が向上したと答えた。

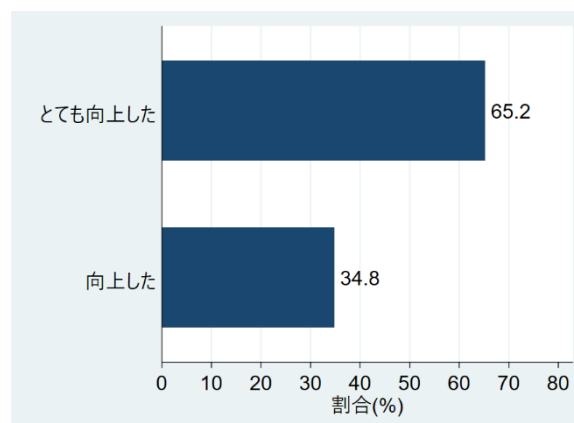
知識・スキルが向上した事例として、ヒアリングから以下 Box に記載のような回答を得た。研修に参加することで自身の知識・スキルレベルを知り、勉強のモチベーションが上がったようだ。

Box 3-9 「知識・スキル向上」に関するヒアリング結果

自分の専門性に関しては、大学では成績が非常に良かったので、パラグアイの大学のレベルが高くないことは知りつつも、ある程度できる方である自負があった。しかし参加してみて、研究自体にも差が大きく、自分がやっていたことはごく基礎的なことであることを自覚した。



(a) 発信力の向上



(b) 知識・スキル・専門性の向上

図表 3-20 職務に役立つスキルセット

出典：評価チーム作成。

Box 3-10 「帰国後の受入先との関係継続」に関するヒアリング結果

現在（林業の）実務をしながらも、データを取る等して論文執筆や発表も続けており、（研修受入先の）鹿児島大学の先生とは今も共同研究を行っている。

また、すべての人が何らかのコネクション／ネットワークを獲得した。特に、日本や他国の友人（87%）、日本のアカデミア（78%）、日本のローカルコミュニティ（43%）、課外活動を通じたネットワーク（41%）を構築した。Box3-10 に記載のヒアリング結果のように、帰国後も受入先との関係を継続させ、研究を進展させている事例もみられた。

一方で、ヒアリングからは、研修中に他の研修員と会うことはほとんどなかった、との声も複数聞かれた。

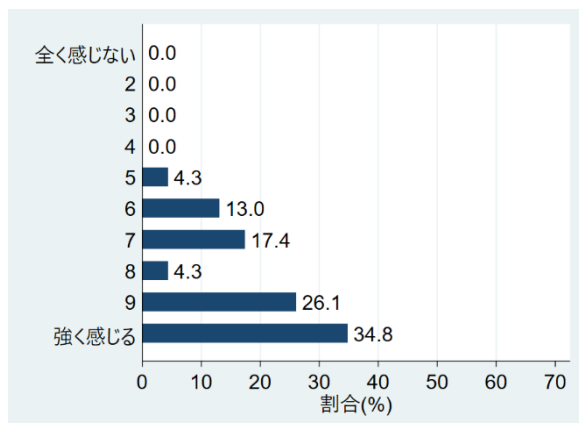
これらの分析結果から、研修参加により発信力の向上、知識・スキル・専門性の向上がみられ、コネクションを獲得しており、これらアウトカムを達成したと判断できる。

2) 中期アウトカム

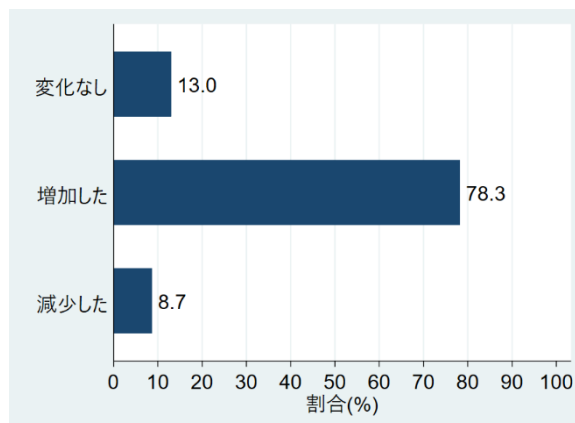
中期アウトカムである、「日系人としてのアイデンティティが涵養される」、「日系コミュニティや組織の活動・イベントに以前より積極的に参加する」、「県人会／日本人会／日系人会、日系スポーツ団体（野球、陸上等）、日系文化団体等に所属する」は、想定されたアウトカムが発現していたと判断できる。各アウトカムの具体的な達成状況は次のとおりである。

① 日系人としてのアイデンティティが涵養される

現在の日系人としてのアイデンティティを回答者に聞いたところ、「1（全く感じない）」から「10（強く感じる）」の10段階評価中9または10を選択した人が60%だった。研修に参加しなかった場合（回答者本人の主観的な反実仮想）と比べると、78%の回答者が日系人としてのアイデンティティをより強く感じるようになった。変化なしの割合が13%、減少した割合は9%だった。この78%の回答者への変化は本研修参加によってもたらされたと解釈することができ、本研修が「日系人としてのアイデンティティの涵養」に寄与していることを示している。



(a) 日系人としてのアイデンティティ
(現在)



(b) 日系人としてのアイデンティティの変化

図表 3-21 日系人としてのアイデンティティの涵養度と研修に参加しなかった場合（主観的反実仮想）のアイデンティティとの比較

出典：評価チーム作成。

研修での日系人としてのアイデンティティの変化・涵養の事例について、ヒアリング、アンケートでは以下 Box に記載のような回答があった。次世代研修ほど多くの定性情報は得られなかったものの、研修や海外移住資料館への訪問が、自身のアイデンティティについて考えるきっかけになったことがうかがわれる。

Box 3-11 「日系人としてのアイデンティティの変化・涵養」に関するヒアリング結果

- 日本社会の中ではかなりのマイノリティという自覚がずっとあった。子どもの時から基本的には外国人として過ごしてきた。だが、この育成事業に参加して、自分の中に残ったのはそんなにマイノリティではないかもしれないという思い。(研修を通して) 日系〇〇人という方が世界中にたくさんいるんだと知った。また、各国で日系人団体が存在していてつながりが一応あるのだということを知った。それまではほとんど存在していないかと思っていた。
- 海外移住資料館を訪問したことは、とてもエモーショナルな経験だった。祖父たちがどのような苦勞をしてアルゼンチンに到着したのかを想像し、彼らの苦勞がわかった。
- 日系人やラテンアメリカ以外の外国人と交流し、異文化を学ぶことで、自国の文化に対する理解を深めた。

これらの回答結果から、研修で学んだことや経験が影響を与え日系人としてのアイデンティティが高いレベルで涵養されていることから、当アウトカムは達成したと判断できる。

② 日系コミュニティや組織の活動・イベントに以前より積極的に参加する

多くの回答者が過去 1 年間に何らかの活動・イベントに参加しており、その頻度は研修参加前に比べて増加している。過去 1 年間に、73% (23 人中 17 人) が何らかの日系コミュニティや組織の活動・イベントに参加していた。参加回数は、「1-2 回」(41%、7 人)、「3-5 回」(41%、7 人)、「6-9 回」(11%、2 人)、「10 回以上」(5%、1 人) だった。研修参加前に比べての参加頻度は、「増えた」(39%、9 人)、「変わらない」(26%、6 人)、「減少した」(8%、2 人) だった。

参加頻度が減少した理由は、「仕事・勉強・趣味が忙しい」、「他のソーシャルアクティビティに興味があった」、「活動への興味を失った」、「日系コミュニティ・組織への興味を失った」、「参加したい活動がなくなってしまった」、「活動参加のための費用が払えない」、が選択されていた。

したがって、全体としては日系コミュニティや組織の活動・イベントに多くの回答者が参加しており、その頻度は研修前に比べて増えている、または、維持されていることから、当アウトカムは達成したと判断できる。

③ 県人会／日本人会／日系人会、日系スポーツ団体（野球、陸上等）、日系文化団体等に所属する

現在、何らかの日系団体に所属している回答者が 78%、所属していない回答者は 22% となった。現在の主な所属団体（複数回答可）は、県人会等の日系団体（39%）、クラブ・サークル・友人グループ（35%）、文化団体（26%）だった。回答者の 8 割近い回答者が何らかの日系団体に所属していることから、当アウトカムは達成したと判断できる。

3) 長期アウトカム

長期アウトカムである「日系企業・日系農協・日本語学校等の日本組織で働く」、「研修で学んだ専門性を活かして活動する」、「日系社会のリーダーとして活躍する」は達成したが、「中南米社会

で日系出身リーダーとして活躍する」は事例が限定的であり、一部達成と判断した。各アウトカム具体的な達成状況は次のとおりである。

① 日系企業・日系農協・日本語学校等の日本組織で働く／研修で学んだ専門性を活かして活動する

現在、「就業している（自営を含む）」回答者割合は、82%（23人中19人）と、大多数の回答者が就業していた。就業している人のうち、34%（19人中8人）がマネジメントの立場にいる。就業している人のうち、何らかの日系組織で働いている回答者は36%（19人中7人）だった。90%近くの回答者が研修で学んだスキルや知識が現在の仕事に役立っているとしており、職場が日系団体かどうかを問わず、研修で得た知識やスキルが役立っていることがわかった。就業している人のうち、研修で得たネットワークを使って現職を得たのは8%（19人中2人）だった。

現職での活用事例について、アンケート調査では、以下のような記述回答があった。

- 現在教育分野で、文化、国、年齢、専門など異なるバックグラウンドの人々と働いている。アイデンティティについて学ぶ研修では、自分自身をより理解し、それにより他人を共感的に理解し受け入れるソフトスキルを身に付けることができたため、それが役立っている。
- 現在国立大学で教えているが、日本での5年間で学んだことは、授業の内容や学生への臨床のヒントの提供や、研究に役立っている。
- 建築分野では、プロジェクトを開発するために常に世界中の建築について探し、勉強している。研修を通して、リサーチ能力を改善する機会を得た。

また、ヒアリングでは、以下Boxに記載のような回答を得た。

Box 3-12 「現職での研修で学んだ知識・スキルの活用」に関するヒアリング結果

- 病院では日本で学んだ技術と経験が大いに役立っている。ピラポの日系病院では月2-3回の診療時には1回7-8名、年300例くらい手術を手掛けている。JICAがピラポの病院の救急棟を助成してくれた際、内視鏡も供与してくれたので、それも大変役立っている。自分が勤め始めた2016年当時は、年50例くらいであったので、その機材と自分の技術（治療内視鏡）のお陰で、ケアできる患者さんが増えた。
- 研修後チリで、日本でいう独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）のような組織で働いており、アジア太平洋地域を担当している。研修でチリとアジアの関係を学んだことが、アジア人のステークホルダーとの仕事に活かしている。2025年の大阪万博の担当もしており、日本大使館とのやりとりもしている。研修がなければこの仕事には就けなかったと考えている。
- 研修終了後、元の職場であるアルゼンチンの大学のティーチングアシスタント職に戻った。建築の歴史を教える際に、研修参加前は西洋の建物ばかりを事例として取り上げていた。研修参加により、日本の防災知識に基づいた建築技術について教えることができる。

学業・日常においても、研修で学んだ専門性を活かして活動している様子がうかがえた。現在大

学などで勉強している人は、30%（23 人中 7 人、仕事と掛け持ちを含む）だったが、その全員が研修で学んだスキルや知識が現在の学業にとても役立っているとしている。また、仕事でも学業でもない日常生活において、研修で学んだことを活かした活動を行っているか回答者は、43%（23 人中 10 人）だった。

研修で学んだスキルや知識を日常生活で活かしている事例として、アンケート調査で以下のような回答を得た。

- このプログラムでは、とてもオープンな友人ネットワークを得ることができた。また世界や文化の違いについて心を開くことができた。
- 日系メディカルコミュニティとのオンラインセミナーで、奨学金に興味を持つ後輩医学生への個別指導を行った。
- このプログラムを通じて、多くの有用なスキルを身につけることができた。積極的に好奇心旺盛であることは、日常生活や問題解決に不可欠な資質であり、それを大切にすることを学んだ。このプログラムを通して得た経験は、私をよりたくましくし、個人的にも仕事上でも成長させてくれたため、感謝している。

以上の結果から、8 割の回答者が就業しており、日系団体に働いているかどうかを問わず、研修で得たことは役立っていることがわかった。また、仕事以外での日常生活においても、研修で学んだ意識・態度や専門性を活かして活動していた。したがって、これらのアウトカムは達成したと判断できる。

② 日系社会のリーダーとして活躍する／中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する

日系社会の発展に貢献する活動を行ったことがあると回答した人は、65%（23 人中 15 人）だった。ないと答えた 8 人のうち 2 人は、近い将来にそのような活動をする計画があると答えた。日系社会の発展につながる活動事例は、アンケート調査にて以下の回答を得た。

- 会長を務めている AACONI（JICA 日系人奨学生のアルゼンチン人協会）は、知識や活動を共有するためのネットワーク会議やイベントを開催している。また、地元のラジオ「Futuro Rock」で、日本留学の経験についてヒアリングを受けた。
- 日本の大学や NGO のスペイン語講座に講師として参加した。
- 日系人向け奨学金に関する Facebook グループを作成した。
- JICA 奨学金について話す機会が何度かあった。そのうちの一つは、サンパウロのジャパン・ハウスでのことだった。このような講演は、日本への留学を希望する人たちの助けになり、励みになると思う。
- OJN (Organizacion de Jovenes Nikkei)のメンバーとして 9 年間、日系人とメキシコ人コミュニティのための様々な活動に参加し、企画を手伝った。
- ダイバーシティ&インクルーシブをテーマにしたメディア開発に 10 年間携わった経験があり、その際、トピックと日系社会の問題を結びつけることができた。
- 日系スポーツイベントを開催した。
- 奨学金に興味のある医師や学生に対して、自分の経験を話したり、アドバイスをサポートしている。
- ブラジルで入手可能な太鼓に関する資料を改善した。

また、ヒアリングでも、以下 Box に記載のような回答があった。

Box 3-13 「日系社会の発展に貢献する活動」に関するヒアリング結果

- 帰国研修員同窓会の役員として、日系離れを防ぐために、日本文化を広める活動をしている。
- ブラジルの労働法は特殊なため、日系組織を主なクライアントとする弁護士として、日本の法律（特に民法、労働法、企業法等）を学ぶことで、日本人の立場にたってわかりやすい説明ができるようになりたいと考え応募した。コロナ禍では感染対策等次々に新しい法律ができたため、相談が殺到し、帰国直後から多忙となり、学んだ知識を早速大いに活用することができた。今後も弁護士として、引き続き日系組織に貢献していきたい。

中南米の発展に貢献する活動については、そのような活動を行ったことが「ある」と回答した人は、39%（23 人中 9 人）だったが、具体的な活動事例はあまりなかった。「ない」と答えた 14 人のうち 6 人は、「近い将来にそのような活動をする計画がある」と答えた。

中南米の発展に貢献する活動事例は、アンケート調査にて以下の回答を得た。

- ジェンダー意識、人種意識、社会的差異などをテーマとしたコンテンツの制作、監督、編集を行い、受賞した映画や全国視聴者向けのウェブシリーズを制作した。
- 自国の教育に貢献し、科学を前進させる教授として、「都市デザインと健康」分野の研究を行っている。

研修がこれらのアウトカムに与えた影響をみると、日系社会または中南米の発展に貢献する活動をしたことが「ある」15 人のうち、約半数の 8 人は、「研修に参加しなければ活動をしなかった」と答えており（回答者本人の主観的な反実仮想）、貢献事例の創出に研修が寄与したと考えられる。

「中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する」という当アウトカムは、活躍の場を中南米に限定している。しかしアンケート回答者に現時点の居住地を聞いたところ、回答があった 20 人のうち、9 人（45%）は出身国と異なる海外に住んでおり、その全員が日本在住だった。想定とは異なり、研修後中南米外での活動・活躍が行われているようである。中南米に限らず世界で活躍し、日本と中南米諸国との関係の発展に貢献していくという視点で長期アウトカムを捉え直すきっかけとなり得る結果である。

これらの結果を総合すると、多くの回答者が日系社会の発展に貢献する活動を行っている一方、中南米の発展に貢献する活動事例は限定的だったため、長期アウトカムは一部達成と判断する。研修参加がこれらの活動を行うきっかけとなっていることを踏まえ、今後、アウトカムが発現していく可能性もある。また、研修参加後、中南米外を拠点としている帰国研修員が約半数いたことから、研修目的の見直しを含めた検討の余地があると考えられる。

3.5. 日系社会研修(通常枠及び日系サポーター枠)の評価

ここでは、日系社会研修の通常枠と、2020 年度から開始された日系サポーター枠への参加によって生じる変化について、短期、中期、長期アウトカムの発現状況を確認する。

3.5.1. 研修参加者へのアウトカム発現状況

日系社会研修、日系サポーターへの参加によって研修員自身に生じる変化について、短期、中期、長期アウトカムの発現状況を確認する。また、「2.3.評価対象 5 スキームを中心とした日系社会連携事業の ToC」にて述べたとおり、日系社会連携事業の 3 つの長期アウトカムのうち、「日本国内の課題解決」へとつながる「日系サポーター」による活動の日本国内課題への貢献については、「3.5.2.日本国内の課題解決へ向けたアウトカム発現状況」にて記載する。ここでは、日系サポーター枠での研修参加者も含め、日系社会研修の研修参加者についてのアウトカム発現状況を述べる。

1) アウトカム・指標

日系社会研修は、参加者に以下のような短期・中期・長期のアウトカムが発現することを目指している。これらのアウトカムに対して、本評価内で設定した指標は下表のとおりである。なお、本スキームへの参加は非日系にも開かれており、日系人としてのルーツやアイデンティティなど、一部のアウトカムは日系人に限って確認した。

図表 3-22 日系社会研修(通常枠・日系サポーター枠)のアウトカムと指標

アウトカム 類型	アウトカム	指標
短期	日系人としてのルーツを知る	研修を経ての理解度（変化）
	日本の価値観・文化を知る	研修を経ての理解度（変化）
	日本への好感度が上がる	研修を経ての好感度（変化）
	日本からの移住の歴史を知る	研修を経ての理解度（変化） ① 居住国への移住の歴史理解 ② 中南米への移民の歴史理解
	知識・スキルが向上する	研修による知識・スキルの向上度合
	日本の大学・組織・学生・他留学生との コネクションを獲得する	研修への参加を通してコネクション/ ネットワークを獲得できた割合
	日本の職業倫理・組織運営等に関する 理解・知識が深まる	研修を経ての理解度（変化）
中期	日系人としてのアイデンティティが 涵養される	日系人としてのアイデンティティの 涵養度
	日系コミュニティや組織の活動・イベン トに以前より積極的に参加する	日系コミュニティや組織の活動・イベント 参加有無・頻度の変化
	県人会／日本人会／日系人会、日系スポ ーツ団体（野球、陸上等）、日系文化団体 等に所属する	何らかの日系団体への所属有無
長期	日系企業、日系農業組合、日本語学校等 日系組織で働く	・ 日系組織で働いている割合 ・ 研修に参加したことで得たネットワー クが日系組織への就職に役立った割合・ 事例
	研修で学んだ専門性を活かして活動する	研修で学んだ専門性を活かして活動して いる割合・事例
	日系社会のリーダーとして活躍する	日系社会のリーダーとしての活動実績や 計画の有無・事例
	中南米社会で日系出身リーダーとして 活躍する	中南米社会での日系出身リーダーとして の活動実績や計画の有無・事例

出典：評価チーム作成。

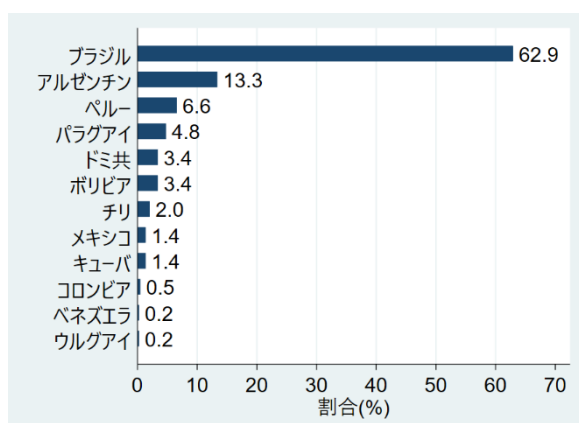
2) アンケート回答者属性

これらアウトカム発現状況をアンケート調査及びヒアリング調査の回答結果から分析した。各調査の対象者は「3.1.2. データ収集」にて述べたとおりであるが、アンケート回答者属性を以下に示す。

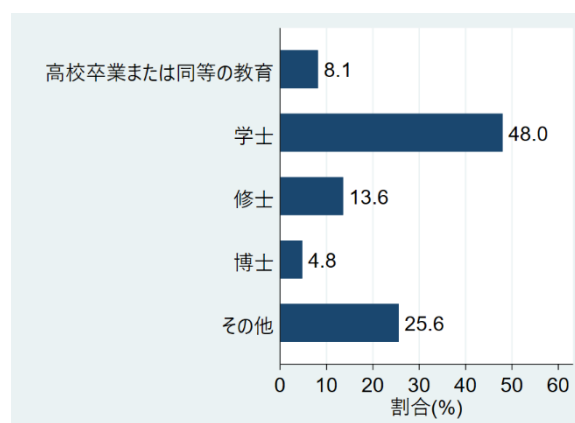
アンケート回答者の出身国は、ブラジル（62%）、アルゼンチン（13%）、ペルー（6%）、パラグアイ（4%）、ドミニカ共和国とボリビア（3%）、以下、チリ、メキシコ、キューバ、コロンビア、ベネズエラとなった。回答者の86%は日系、14%は非日系だった。日系は、1世（3%）、2世（24%）、3世（50%）、4世（28%）、5世とその他（1%以下）だった。

研修応募時の年齢は、平均37.7歳、最小20歳、最大66歳だった。研修応募時の学位は、高校卒業または同等の教育（8%）、学士（48%）、修士（13%）、博士（4%）、その他（25%）だった。研修応募時の職務経験年数は、経験なし5%、1年未満3%、1-5年未満（22%）、5-10年未満（24%）、10年以上（43%）となり、職務経験を積んだ人の参加割合が高い。男性37%、女性62%、その他・回答しないが0.4%だった。

研修分野は、保健・医療（43%）、教育（15%）、民間セクター（12%）だった。その他（43%）の中には、カイゼンと5S、和菓子／着物を通じた日系コミュニティの活性化、観光マーケティング等具体的な研修名が記述されていた。回答者が研修に参加した年度は、2017年（14%）、2018年（10%）、2019年（17%）、2020年（7%）、2021年（7%）、2022年（21%）、2023年度（22%）だった。参加枠は、通常枠61%と日系サポーター枠38%だったが、過去の参加者リストと突合すると、通常枠での参加と思われる回答者が日系サポーター枠での参加と回答するなど、回答に混乱がみられた。このため、分析では参加枠で分けての分析は控える。



(a) 出身国内訳



(b) 研修応募時の取得学位内訳

図表 3-23 日系社会研修に関するアンケート回答者属性

出典：評価チーム作成。

3) 分析結果

日系社会研修事業に関しては、短期・中期ともに、想定されたアウトカムが発現していることがわかる。長期アウトカムのうち、「中南米社会で日系出身のリーダーとして活躍する」は、事例が限られているため一部達成と判断する。

分析の結果、研修参加によって日系人としてのルーツを知り、日系人としてのアイデンティティが涵養され、また、知識・スキル・専門性の向上が達成されていることがわかった。そうした専門性を高めた人材が日系コミュニティの一員として活躍し、貢献していることが確認された。アンケートにおいて「研修で得られると期待していたことがすべて得られた」と答えた人は81%と高い。中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する事例が限られていたものの、日系社会または中南米の発展に貢献する活動をしたことがある回答者の約半数が研修をきっかけにこのような活動をしていることから、今後の効果発現が期待される。

各アウトカムの評価判断は以下のとおりである。

① 短期アウトカム

短期アウトカムである、「日系人としてのルーツを知る」、「日本の価値観・文化を知る」、「日本への好感度が上がる」、「日本からの移住の歴史を知る」、「知識・スキルが向上する」、「日本の大学・組織・学生・他留学生とのコネクションを獲得する」、「日本の職業倫理・組織運営等に関する理解・知識が深まる」は、達成したと判断できる。各アウトカムの具体的な達成状況は次のとおりである。

(ア) 日系人としてのルーツ、日本の価値観・文化、日本からの移住の歴史を知る

「日系人としてのルーツ（本スキームは非日系の参加者も含まれるため日系人のみへの質問）」と「日本の価値観・文化」、「日本から自国・中南米への移住の歴史」すべてについて、研修応募時と比較して、「深く理解している」の割合が増加している。

「日系人としてのルーツ」は、「少し理解している」は応募時 30.7%だったが、現在は 3.2%となっている。一方、「深く理解している」は応募時 14.3%だったが、現在は 42.1%となり増加している。「日本の価値観・文化」も、「少し理解している」が応募時 29.0%から現在は 3.8%となった一方、「深く理解している」が応募時 14.5%から現在 48.2%と増加している。「日本から自国への移住の歴史を知る」と「日本から中南米への移住の歴史を知る」についても同様の結果となり、応募時の「全く理解していない」または「少し理解している」という状態から、研修を経た現在は「理解している」または「深く理解している」状態となったと読み取ることができる。

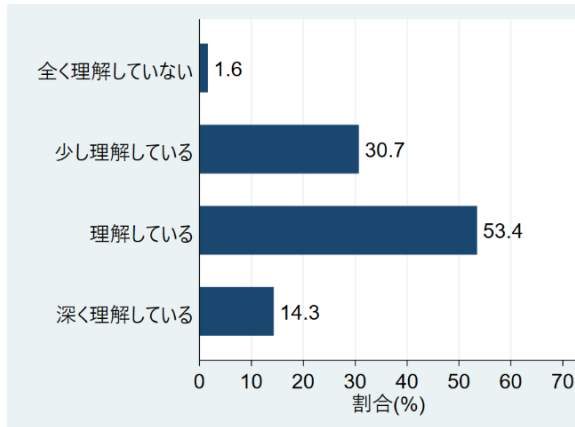
特に、「日系人としてのルーツを知る」ことに関して、ヒアリングでは以下 Box に記載の回答を得た。

Box 3-14 「日系人としてのルーツを知る」に関するヒアリング結果

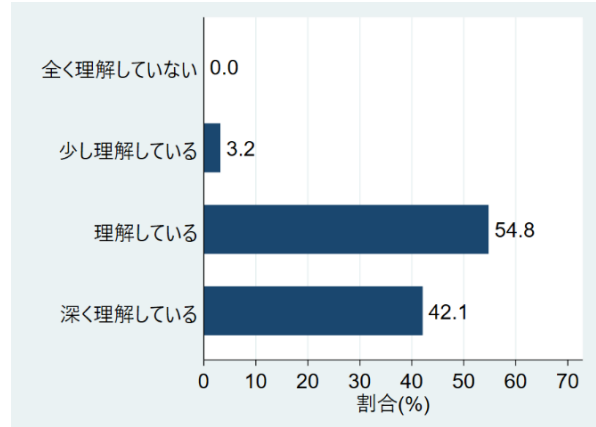
- 研修参加前は、ペルー人でもなく、日本人でもない、という思いが強かった。ペルーからも差別され、日本からも差別されているような意識があった。しかし（研修を通じて）沖縄が起源の自分を認識し、受け入れることができた。ここから、人生の歯車のすべてが回転していくようになった。
- 研修で海外移住資料館を訪問し、家族の記録を見つけることができた。
- 祖父母は神戸からリオデジャネイロ丸に乗ってブラジルに行き、大変な思いをして、その後パラグアイに渡った移住者である。神戸を訪問した際に、移住者の碑があり、そこに自分の祖父母や親せきの名を見つけて感動し、鳥肌がたった。JICAの海外移住資料館でそうした歴史を学べたことも感動だった。
- 家族はもともと和歌山からの移住だったが、横浜の海外移住資料館でどうやって和歌山の人が移住していったかを学ぶことができた。

上記ヒアリングに加えて、アンケート調査では研修目的以外で得ることができたこととして、以下の回答を得た。これらの経験からも、「日系人としてのルーツ」、「日本の価値観・文化」、「日本から自国・中南米への移住の歴史」を知ることに繋がったと推察する。

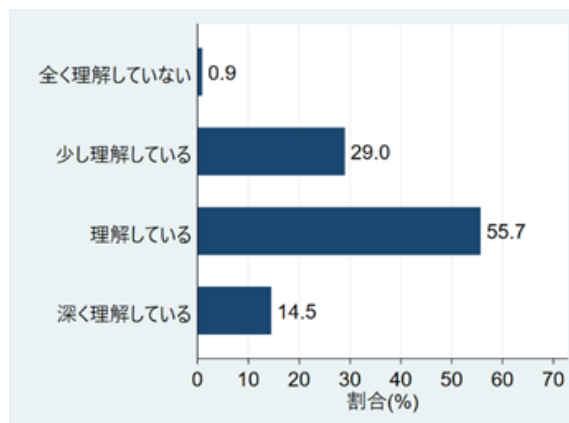
- 日本の日常生活を理解し、体験し、社会や文化の一端を知る機会となった。
- 家族の出身地や日本の家族を訪ね、移住することになった経緯を理解することができた。
- 日系人と日本人の間に文化的違いがあることを理解した。
- 日本語能力を向上させるモチベーションを得た。
- （知識・スキルを）もっと学び、多くの人と共有したいというモチベーションを得た。



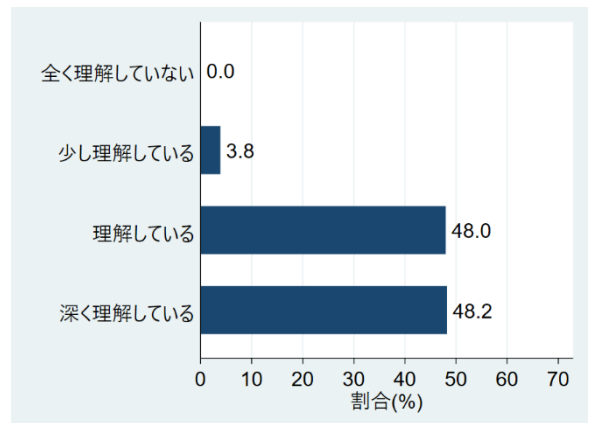
(a) 日系人としてのルーツ（応募時）



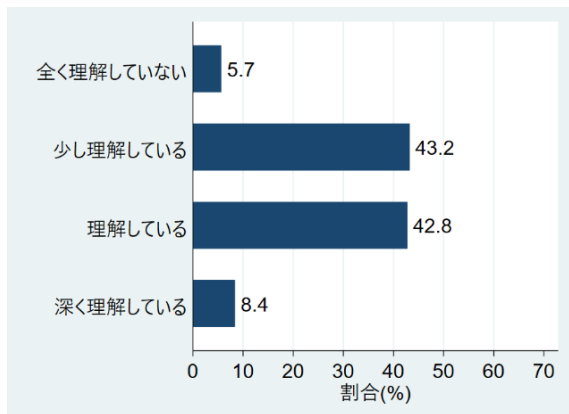
(b) 日系人としてのルーツ（現在）



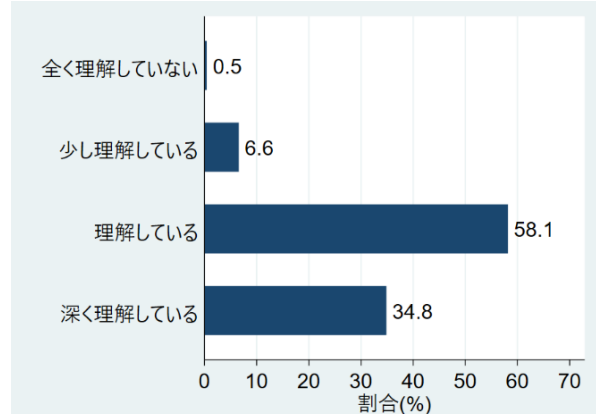
(c) 日本の価値観・文化（応募時）



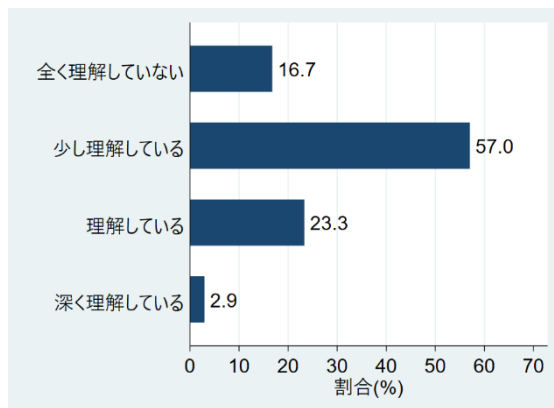
(d) 日本の価値観・文化（現在）



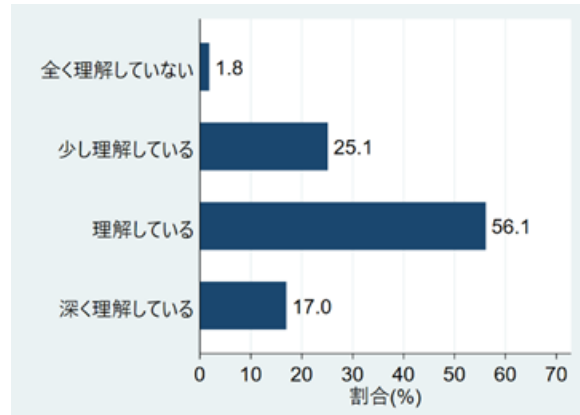
(e) 日本から自国への移民の歴史（応募時）



(f) 日本から自国への移民の歴史（現在）



(g) 日本から中南米への移民の歴史
(応募時)



(h) 日本から中南米への移民の歴史（現在）

図表 3-24 「日系人としてのルーツ」、「日本の価値観・文化」、
「日本からの移住の歴史を知る」の研修参加前後の比較

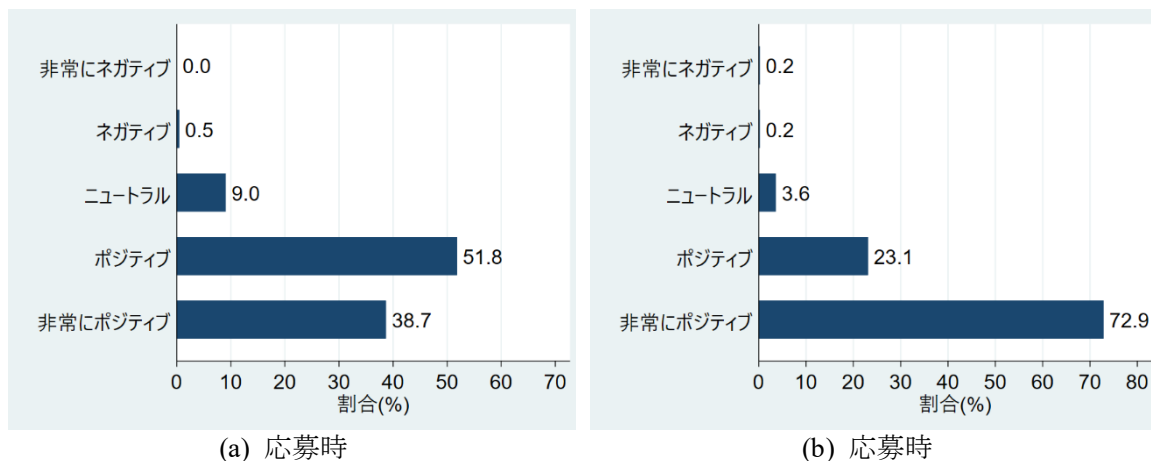
出典：評価チーム作成。

したがって、「日系人としてのルーツを知る（日系人のみ）」と「日本の価値観・文化を知る」、「日本から自国・中南米への移住の歴史を知る」というアウトカムは達成していると判断できる。

(イ) 日本への好感度が上がる

「日本への好感度」は、出願時は「ポジティブ」(51%)が最多だったが、研修参加後は「非常にポジティブ」(72%)が最多となっている。「非常にネガティブ」、「ネガティブ」、「ニュートラル」と回答した理由について、アンケートでは以下のような回答を得た。中立でありたいというスタンスのほか、研修参加時に日本社会の課題に触れ、否定的な考えを持つ回答者もいた。

- どの社会にも良い面と悪い面があるので、中立的な評価がもっとも公平だろう。
- 日本は、少子化、円高、賃金の上昇、政治問題、高い税金、地震や津波のような自然災害など、大きな社会問題を抱えている。
- 現在の日本の経済状況、円の切り下げ、そして何よりも米軍基地の存在に、政治問題における日本政府の沖縄に対する支援の欠如を悲しく思っている。
- 日本の社会的・政治的問題、たとえば汚職、宗教的マイノリティの問題、労働文化に気づき、私の（日本への）認識は肯定的なものから中立的なものに変わった。
- ヨーロッパなどの他の国々が日系人の子孫を国民として認めていることを考えると、日系人と日本人の間に違いはあってはならないと思う。
- 日系人である私たちは、多くの偏見にさらされている。
- 日本人は親切にしたがるが、まだまだ女性差別が多い。子どもをいじめから守ろうとしないし、気にかけてもくれない。



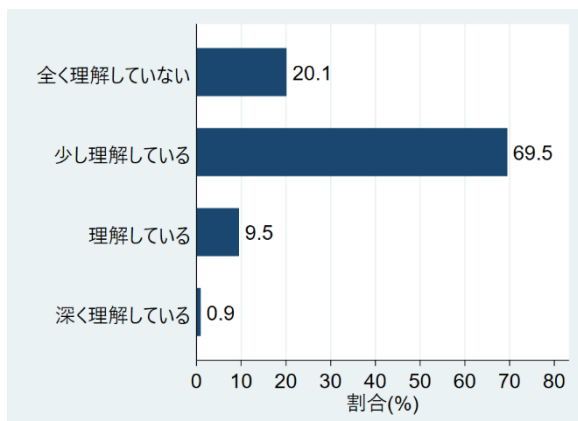
図表 3-25 研修応募時と現在の日本への好感度

出典：評価チーム作成。

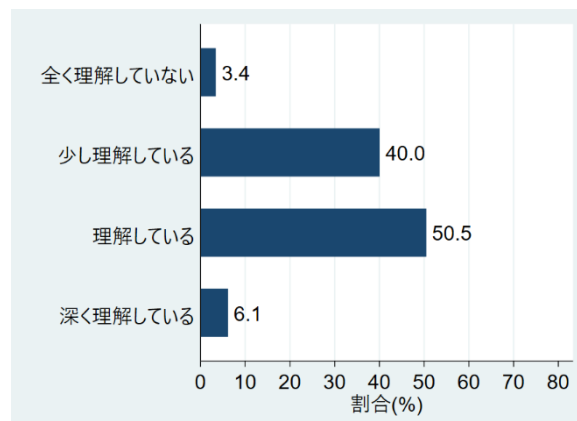
「日本への好感度」は、研修参加を通じてよりポジティブになったことから、当アウトカムは達成したと判断できる。他方、研修参加により日本に対してネガティブな感情を抱いた帰国研修員がいたことに留意し、研修実施に際しては何らかのフォローアップが必要だと考えられる。

(ウ) 知識・スキルが向上する／日本の大学・組織・学生・他留学生とのコネクションを獲得する／日本の職業倫理・組織運営等に関する理解・知識が深まる

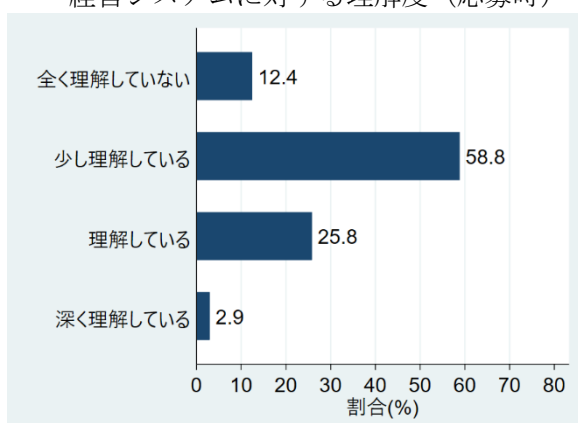
分析の結果、93%の人が研修参加前に比べて、知識、スキル、専門性が向上したと答えた（「とても向上した」(54%)、「向上した」(39%)）。また、97%の人が何らかのコネクション／ネットワークを獲得した。特に、「日本や他国の友人」(79%)、「日本のアカデミア」(40%)、「財団、NGO、病院、民間企業などの日本の組織」(34%)、「課外活動を通じたネットワーク」(37%)を構築したと答えた人が多かった。日本のビジネス文化や商習慣に対する理解、職業倫理・組織運営等に関する理解・知識の深まりもみられた。



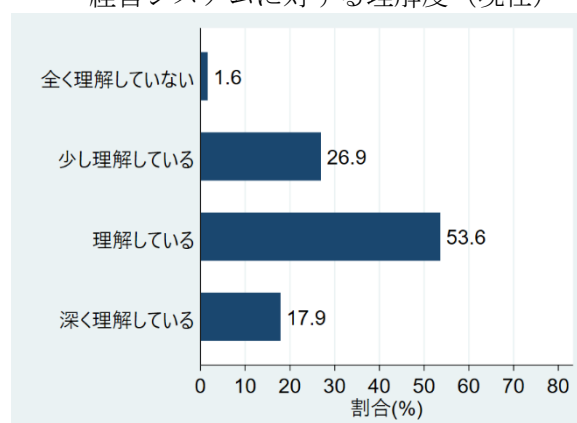
(a) 日本のビジネス文化や商習慣・経営システムに対する理解度（応募時）



(b) 日本のビジネス文化や商習慣・経営システムに対する理解度（現在）



(c) 日本の職業倫理に対する理解度（応募時）



(d) 日本の職業倫理に対する理解度（現在）

図表 3-26 日本のビジネス文化や職業倫理等に対する理解度の研修参加前後の比較
出典：評価チーム作成。

研修で得た知識、スキル、専門性の事例として、ヒアリングでは以下 Box に記載の回答を得た。

Box 3-15 「研修で得た知識、スキル、専門性」に関するヒアリング結果

- フェンス網、剪定の仕方、庭園の基礎要素など、日本に居住していた際には訪問したことのない場所や、技術的なことを学ぶことができた。その学びを基に、現在日本庭園を造園している。東京農業大学で学べたことが、自分の土木技師の知識と相まって、非常に有効なものだった。
- どのように起業していくのかを構造的に学ぶことができた。カナダ人の英語コースの起業に関する体験が良かった。起業には困難が大きい、自己実現の場となることを、実際の経験を通じて学ぶことができた。
- 研修を通して南米の先生方とコンタクトを取ることができるようになり、わからないことがあれば気軽に聞ける。日本語教育が進んでいるペルー、ブラジル、アルゼンチンとの関係は特に勉強になる。
- 通常、患者へのアプローチは 6 か月以上の研修期間でなければ許可されない。しかし自身の技術面、前研修の参加、受入機関の配慮で、手続きも簡略化され、患者へのアプローチが許可され、手技を学ぶために非常に有意義な研修となった。

他方、学べると期待したが得られなかった事例について、アンケート及びヒアリング調査で聴取したところ、以下 Box に記載の回答を得た。研修員のスキルと提供プログラムとのミスマッチや、医療系の分野での参加の場合、臨床現場や実習への参加が資格や参加期間の関係で得られず期待どおりの学びとならなかったようだ。研修参加で知識・スキルの向上を目指すためのボトルネックとなっているため、何らかの対策が必要であると考ええる。

Box 3-16 「研修で学ぶことが叶わなかった事柄」に関するヒアリング結果

- 6 か月の研修期間のうち、最初の 3 か月間は、訓練のテーマに関係のない作業や、すでに知識を持っている事柄だった。プログラムは入門レベルであり、知識を深めることができなかった。
- 口腔リハビリテーションの臨床研修に参加したが、日本で歯科外科として活動するには国家資格が必要であり、研修員には国家資格がなかった。明確なカリキュラムがない大学では組織的な構造を欠いており、何ができるかは学生の創造性と教師の気質に委ねられていた。
- 1 か月はあっという間で、自分が実践させてもらうことはできなかったのは残念であった。また機会があったら、麻酔のもっと長い研修に参加して学びたい。

以上の結果から、ほとんどの回答者が、研修により知識・スキル・専門性を向上し、コネクションを獲得した。日本のビジネス習慣や職業倫理の理解も深まったことから、これらのアウトカムは達成したと判断できる。今後、より多くの研修員が知識・スキルを向上していくためのボトルネックに対処していくことが必要であると考ええる。

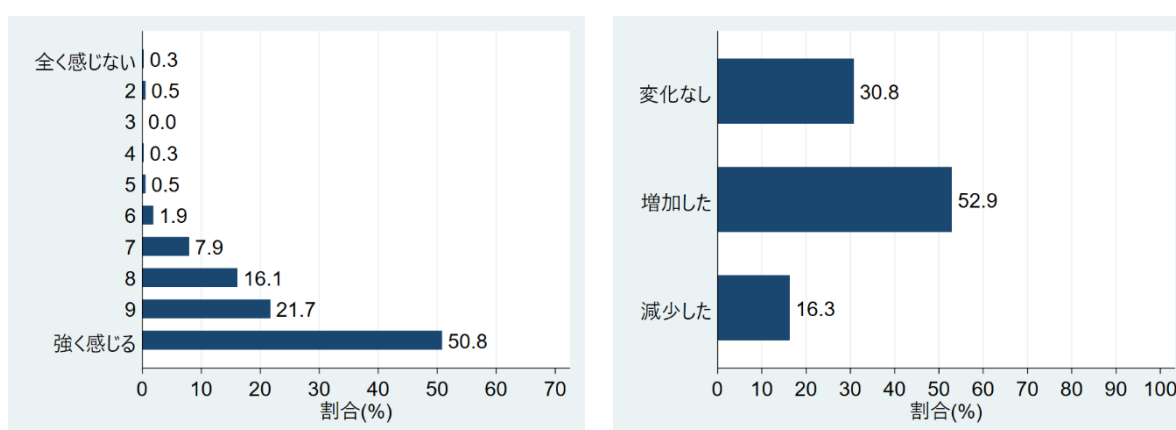
② 中期アウトカム

中期アウトカムである、「日系人としてのアイデンティティが涵養される（日系人のみ）」、「日系

コミュニティや組織の活動・イベントに以前より積極的に参加する」、「県人会／日本人会／日系人会、日系スポーツ団体（野球、陸上等）、日系文化団体等に所属する」は、達成したと判断できる。各アウトカムの具体的な達成状況は次のとおりである。

(ア) 日系人としてのアイデンティティが涵養される

現在の「日系人としてのアイデンティティ」は、「1（全く感じない）」から「10（強く感じる）」の10段階評価中9または10を選択した人が71%だった。研修に参加しなかった場合（回答者本人の主観的な反実仮想）と比べると、53%の回答者が日系人としてのアイデンティティをより強く感じるようになった。変化なしの割合が31%、減少した割合は16%だった。この53%の回答者への変化は本研修参加によってもたらされたと解釈することができ、本研修が「日系人としてのアイデンティティの涵養」に寄与していることを示している



(a) 日系人としてのアイデンティティ（現在） (b) 日系人としてのアイデンティティの変化

図表 3-27 日系人としてのアイデンティティの涵養度と研修に参加しなかった場合（主観的な反実仮想）のアイデンティティとの比較

出典：評価チーム作成。

研修参加による自身の日系人としてのアイデンティティの変化について、ヒアリングでは以下Box に記載のような回答があった。他の日系の研修員との交流等を通して、自身のアイデンティティについて考え、整理する機会となったようである。

Box 3-17 「日系人としてのアイデンティティ」に関するヒアリング結果

- 日系人としてのアイデンティティに共感する瞬間は多くあった。これまで歩んできた道、今、歩み続けている道も正しいと確認できた瞬間であった。仕事における冷静さ、忍耐、職場でのコミュニケーションにおける敬意、特に上司への尊敬、患者への配慮と敬意、穏やかな職場環境、ポジティブな行動を強化し、他人のミスをさらすことなく、集団で学ぶ姿勢を持つこと。このような行動規範を日本で目にした時、ラテンアメリカと日本の文化的背景が違うことを踏まえたうえで、自分を再認識するきっかけとなった。
- 他のコースの日系人の方々との交流により、各国での日系人の様子を知り、アイデンティティがより強いものとなった。
- アイデンティティは常に日系人と感じていたが、研修を通じて、その認識がさらに強まった。
- 幼い頃から日本が大好きであったが、研修参加により更に自信がつき、もっと近く感じるようになった。日本とブラジルの縁を深める役目をしたい。

以上の結果より、日系人としてのアイデンティティは高いレベルで涵養されており、研修参加の影響も約半数にみられたことから、当アウトカムは達成していると判断できる。

(イ) 日系コミュニティや組織の活動・イベントに以前より積極的に参加する

過去1年間に、91%（442人中406人）が何らかの日系コミュニティや組織の活動・イベントに参加していた。参加回数は、「1-2回」（20%）、「3-5回」（36%）、「6-9回」（19%）、「10回以上」（24%）だった。研修参加前に比べて、「参加頻度が増えた」（59%、242人）、「変わらない」（38%、155人）、「減少した」（2%、9人）だった。「変わらない」と回答した155人の参加回数は、「1-2回」（28%）、「3-5回」（34%）、「6-9回」（17%）、「10回以上」（20%）と、もともと積極的に活動していた人が多かった。

過去1年間に、日系コミュニティや組織の活動・イベントに参加していない36人のうち、10人については研修前も参加していなかった。研修前には参加していたが今は参加していない26人の理由でもっとも多かったのは、「仕事や勉強、趣味が忙しくなったから」だった。

日系コミュニティや組織の活動・イベントへの参加について、ヒアリングでは以下のBoxに記載の回答を得た。

Box 3-18 「日系コミュニティや組織の活動・イベントへの参加」に関するヒアリング結果

- 日本を体感したことにより、日系団体の活動に対するコミットメントが強くなった。具体的な行動に移そうという意識が強くなった。
- 日本人会の資金収集活動の一環として、調理グループで毎月和食を作り販売している。（この活動グループは）日本人会の中でも重要なグループとなっている。毎月提供するメニューは変えており、研修（和食ビジネス）での経験が役立っている。
- これまでは人に言われるがまま文化活動を展開していたが、研修参加後は、様々な手段を手に入れ、自分で考えて活動を展開するようになった。研修により 100%エンパワメントされた。沖縄では歴史家や専門家とのつながりを得たことにより、自分でも様々な文献を探すようになった。2024 年 6 月に実施された文化イベントでは、沖縄戦闘生存者によって書かれた子ども向けの書籍から展示会のヒントを得て、著者と連絡を取り、著作を基にした展示会の開催許可を得て、一般市民、特に子どもたちに戦争の悲惨さを訴えることができた。このような行動プロセスを取ることができたのも、研修に参加したことによるものである。

日系コミュニティや組織の活動・イベントには約 9 割の人が参加しており、約 6 割の人が研修前に比べて参加頻度が増えていたことから、当アウトカムは達成できたと判断する。

(ウ) 県人会／日本人会／日系人会、日系スポーツ団体(野球、陸上等)、日系文化団体等に所属する

現在、何らかの日系団体に所属している回答者が 88%、所属していない回答者は 12%となった。所属しているうち 65%の回答者が県人会・日本人会・日系団体、28%がクラブ・サークル・友人グループ、21%が文化団体に所属している。

現在、9 割近い回答者が何らかの日系組織に所属していることから、当アウトカムは達成できたと判断する。

③ 長期アウトカム

長期アウトカムである、「日系企業、日系農業組合、日本語学校等日系組織で働く」、「研修で学んだ専門性を活かして活動する」、「日系社会のリーダーとして活躍する」、は達成できたと判断する。長期アウトカムのうち、「中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する」は、活動事例が一定程度に留まることから、一部達成と判断した。各アウトカムの具体的な達成状況は次のとおりである。

(ア) 日系企業・日系農協・日本語学校等の日本組織で働く／研修で学んだ専門性を活かして活動する

現在、「就業している（自営を含む）」回答者割合は、88%（442 人中 390 人）だった。そのうち、現在何らかの日系団体に働いている回答者は 28%（390 人中 112 人）だった。就業者の 44%（390 人中 174 人）が現職で研修で学んだことを「大いに活用している」、33%（129 人）が「活用している」、22%（390 人中 87 人）が「活用していない」、と回答したことから、職場が日系団体かどうかを問わず、77%が研修で得た知識やスキルを活用していることがわかった。

研修で学んだことを現職で活用していない理由として、職業の変更のほか、「研修で学んだことはボランティアで活かしており現職とは関係がない」が挙げられていた。日系団体での活動は職業としてではなく、運営メンバーとしてもボランティアでの活動となるためである。日系団体の主要運営メンバーであり、「日系文化継承」や「沖縄ソフトパワー」等、日系団体での活動に役立つようなテーマで参加した場合には、その経験を日系団体運営・活動に活用している。

研修で学んだ専門性を活かしている事例として、ヒアリングでは以下の Box に記載の回答を得た。

Box 3-19 「研修で学んだ専門性の活用」に関するヒアリング結果

- 日本語学校の運営管理研修では、運営していくうえでの心構えを教えてもらい、(自身の団体の) スローガンが決まった。今も教えてもらったことが骨組みとして活かしている。
- 沖縄で行われた地上戦や、長いアメリカによる統治、現在の米軍基地問題等を知らない人が多い。沖縄とキューバの共通点は多く、それを理解することにより、沖縄がより身近に感じられると思う。そのため家族、日系社会、キューバ人の友人・同僚にも、自分が肌で感じた沖縄の歴史を伝えている。
- 小規模食品ビジネス開発研修で、原材料の選抜が重要であり、シンプルな料理も奥が深いことを実感した。より多くの人アクセスできるよう、シンプルなものを目指して商品を提供している。
- 研修で学んだことは、100%業務に活かされており、根本的に考えや視点が変わった。新しい技術がどのように機能しているのかを学び、また日本の病院で実施されているカイゼンのコンセプトも、現在の職場で応用している。
- (「日本文化継承」に参加後) 現職は日本の文化を伝えるプログラムの校長である。いまでも日本人会を通じて日本語を教えることもある。
- 研修では、普通の小学校も訪問した。その際、教室の管理方法を見ることができたのも大変勉強になった。例えば給食袋をさげるフックがある、荷物を置くスペースがあるなど、小さなことではあるが、自然と整理整頓を促す構造になっていると感じ、パラグアイ帰国後もそうしたことは学校で実践した。
- 研修で道の駅の見せ方や、運営方法等を学んだので、その学びを活かして、道の駅の準備を進め、2024 年のオープンに繋げることができた。
- 研修に参加して研究経験をつけられたことで、希望の就職先に就くことができた(後で上司からこの経験が採用の決め手になったと言われた)。
- 新しい技術がどのように機能しているのかを九州大学で学び、富士フイルムとの縁もできて、研修帰国後の新たな機会(同社主催のコスタリカでの内視鏡セミナーへの参加)を得ることとなり、学びを深めることが出来た。

また、学業や日常においても、研修で学んだ専門性を活かして活動している様子がうかがえた。現在学校などで勉強している人は 25% (442 人中 113 人、仕事と掛け持ちを含む) おり、そのうち 90%が研修で学んだスキルや知識が現在の学業にとっても役立っているとしている。仕事でも学業でもない日常生活においても、研修で学んだことを活かした活動を行っていると答えた人は、64% (442 人中 284 人) だった。日常での活用事例について、ヒアリングでは以下の Box に記載の回答を得ている。

Box 3-20 「研修で学んだことの日常での活用」に関するヒアリング結果

- 欧米のリーダー像は、命令を出すだけで上から下の関係性であるが、日本で学んだリーダーの姿は水平の関係性であり、リーダーは舞台裏で裏方としてイベントを支えていく役割（と学んだ）。現在は自分もリーダーとして、（理事として参加している日本人会が行う）各種イベントでは皿洗いや片付けなど、裏方としての働きをしている。
- （帰国後、留学生協会の活動で）今年6月に開催したお祭り Festa Junina の準備においては、日本で学んだファシリテーションスキルを使って行ったところ、活動をよく整理でき、参加者からも好評であった。
- 家の整理整頓に 5S を適用している。
- イグアスの持続可能な観光協会という組織でボランティアベースで働いており、同窓生と一緒に道の駅の実施に取り組んでいる。
- 母国の日系青年によさこいを教えている。日本、アメリカ、ドイツ、ブラジル、カナダなどのよさこいグループと交流がある。
- 中小企業や日本の品質システムを知りたい人、導入したい人に講演やアドバイスをしている。
- 以前よりもずっと、家族や子どもたちに日本の文化、伝統音楽、言語を教えている。

以上の分析結果より、何らかの日系団体で働いている回答者は28%だったものの、日系団体で働いているかどうかに関わらず、就業している77%が現職で研修で学んだことを活用している。また、日系団体運営に関する研修に参加した場合、現職での活用ではないが、日系団体運営・活動内で学びを活かしている。したがって、当アウトカムは達成できたと判断できる。

(イ) 日系社会のリーダーとして活躍する／中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する

日系社会の発展に貢献する活動を行ったことが「ある」と回答した人は、82%（442人中364人）だった。日系社会の発展に貢献する活動事例のアンケート回答は以下のとおりである。「ない」と答えた78人のうち半数（50%、39人）は、近い将来にそのような活動をする計画があると答えた。

- 日本文化イベント・スポーツイベント等の開催やそのサポートを行う。
- 日本語や日本文化に関する講演やワークショップを定期的に行う。
- JICA 帰国研修員としての体験談の共有や、奨学金情報の普及を行う。
- 心理学者として、日系人の文化的ニーズに合わせた精神的・心理的サポートを提供する。また、デイサービスのアクティビティ・マネージャーとして、日系コミュニティの人々、特に高齢者の心身の健康を促進するプログラムを企画する。
- 研修で学んだことに関連する論文や本の執筆を行う。

また、ヒアリング¹²では以下のBoxに記載の回答を得た。

¹² ここに記載の事例には帰国研修員本人へのヒアリングでの回答と、JICA 現地事務所担当者へのヒアリングでの回答が含まれている。

Box 3-21 「日系社会の発展に貢献する活動」に関するヒアリング結果

- 研修で日本に行ったことを知った先生に誘われ、月に 2-3 回、母校の料理学校で、食品ビジネスに必要なコスト計算の講義を教えている。また、最近短期・集中コースで栄養管理についても教えた。
- JICA（現地事務所）研修担当者と遠隔地域を回り、JICA 研修を紹介する活動に協力している。（日系文化が薄れている遠隔地では）研修の説明と共に、運動会や、ゲートボールの話等をし、大変関心を持たれ、実際に初の運動会が開催されたこともある。この活動により、これまで JICA と関係がなかった地域からすでに 5 名が日本での研修に参加した。
- 日本では医師や看護師が常に病院にいて患者のことを一番に考えており、その姿に感動した。パラグアイに戻ってから、自分もそうなれるよう一層努力しており、また同僚にもそういう話をして、実践するよう促している。
- 喫茶店で和食のワークショップを行うこともあるが、和食は、寿司とラーメンとの認識が強い。一般的な和食はまだウルグアイ社会だけでなく、日系社会の中でも知られていない。定食の存在や和食がバランスの取れた食事であることを伝えており、和食の真髄を伝えるようにしている。
- ペルー日系人協会と JICA ペルー事務所共催の日本とペルーとを繋ぐ若手に様々な経験を共有する「MUSUBITALKS」において、帰国研修員（元日系サポーター）が在日日系人の現状や課題、防災への取り組みについて経験を共有した。
- 日系サポーター帰国研修員が「ルーツ探しクラブ」を立ち上げ、日系人に対しルーツを調べアイデンティティ強化に資する活動を実践している。

中南米の発展に貢献する活動を行ったことが「ある」と回答した人は、16%（442 人中 75 人）だった。「ない」と答えた 367 人のうち 31%（115 人）は、「近い将来にそのような活動をする計画がある」と答えた。中南米社会の発展に貢献した活動事例は、アンケート調査で以下の回答を得た。

- ペルーの貿易と観光を促進する貿易事務所で勤務している。
- 日系学校の連携強化に関する国際セミナーや日本語教育改善セミナーへ参加している。
- アルゼンチンで毎年開催される日本舞踊発表会に中南米の日本舞踊団体を招待した。
- ラテンアメリカ数カ国の教授とともに、ラテンアメリカ地域の発展を目的としたセミナーや会議に参加している。
- 博物館に勤務していた頃、ペルーへの日本人移住に関する資料を求める様々な機関と協力した。
- スペイン語圏南米諸国による日本語教育会議の組織委員会のメンバーを務めている。
- ラテンアメリカ諸国を研究する団体に参加している。

また、ヒアリングでは以下の Box に記載の回答を得た。

Box 3-22 「中南米の発展に貢献する活動」に関するヒアリング結果

- Operation smile foundation というアメリカの医療ボランティアをしており、年に 45 回中南米諸国の病院に行き現地の麻酔科医に教えたり、実際に施術したりするボランティアに行っている（渡航費と実費のみ支給される）。これまで、グアテマラ、ホンジュラス、ブラジル、エクアドル等に行ったことがあり、直近も約 1 週間グアテマラに渡航予定である。
- アルゼンチンの国家大腸がん予防プログラムの技術顧問として、技術的な分析や、公正な保健政策の分析等に関わっている。また、内視鏡手技の質の確保に関する文書（診療ガイドライン）の作成も行っている。

日系社会または中南米の発展に貢献する活動をしたことがある 374 人のうち 54%（205 人）は、研修に参加しなければそのような活動をしなかったと答えた。

以上の結果より、多くの回答者が日系社会の発展に貢献する活動を行っていた。一方、中南米の発展に貢献する活動を行う回答者は一定程度にとどまっていたことから、長期アウトカムについては一部達成と判断した。研修に参加しなかった場合（回答者本人の主観的な反実仮想）と比べると、日系社会または中南米の発展に貢献する活動をしたことがある回答者の 54%が研修をきっかけにこのような活動をしていることから、研修が与える好影響は確認できており、今後の効果発現が期待される。

3.5.2. 日本国内の課題解決へ向けたアウトカム発現状況

日系サポーターの活動によって、日本国内の日系人集住都市の多文化共生・地方創生にかかる短期、中期、長期アウトカムがどのように発現しているかを確認する。

1) アウトカム・指標

日系社会研修のうち、日系サポーター枠では、日系サポーター（研修員）の活動によって在日日系人を含む外国人や外国ルーツの人々に対して以下の短期・中期アウトカムが、また日系人集住都市において以下の長期のアウトカムが発現することを目指している。これらのアウトカムに対して、本評価内で設定した指標は下表のとおりである。

図表 3-28 日系サポーター枠のアウトカムと指標

アウトカム 類型	アウトカム	指標
短期	在日日系人を含む外国人・外国ルーツの人々の日本語能力や学習理解が向上する	日系サポーターの支援を受けた人の日本語能力や学習理解の向上があったと感じている団体割合
中期	在日日系人を含む外国人・外国ルーツの人々の学校や所属先、地域での生活の質が向上する	日系サポーターの支援を受けた人の生活の質の向上があったと感じている団体割合（活動内容に応じて確認）
長期	日系人在住都市の多文化共生・地方創生に貢献する	日系サポーターの活動によって地域の多文化共生・地方創生が促進したと感じている団体割合（活動内容に応じて確認）・事例

出典：評価チーム作成。

2) ヒアリング回答者属性

上記アウトカムにかかる調査は「3.1.2. データ収集」で記載のとおり、ヒアリングによって実施した。具体的には、これまでの日系サポーター受入団体合計 16 団体から、団体所在地域（中部、近畿等）のバランスを考慮しつつ、複数回受入経験のある団体を優先的に 10 団体選定し、ヒアリング依頼をした。うち、6 団体から協力を得ることができたため、これら 6 団体に対してヒアリングを実施した。6 団体には地方自治体が含まれておらず、すべて地域の多文化共生に係る活動を実施している NPO や国際交流協会、学校法人であることに留意が必要である。元日系サポーター（帰国研修員）については、オンライン及び現地調査によって 4 名にヒアリングを実施した。

3) 分析結果

短期・中期ともに、アウトカムが発現していることがうかがわれるが、長期「日系人在住都市の多文化共生・地方創生に貢献する」については、現状では判断不能である。各アウトカムの評価判断の詳細は下記① - ③のとおりである。いずれも受入団体 6 団体及び帰国研修員 4 名という限られたヒアリングを情報源に判断していることに留意が必要である。

今回の調査で確認できた中で、一過性の個人への貢献ではなく、帰国後も継続的に地域に貢献し得る事例としては「母語教材の内容見直し」「防災ガイドブックリニューアル」「在日ブラジル人の WhatsApp グループ作成」「ペルー・ブラジルの子どもたちのためのひらがな表下敷きの作成」などがあった。日系サポーターが聴き取ったニーズに対応した新たな活動の始動は、ヒアリング時点ではまだ実現していなかった。ただし、日系サポーター制度が長期的に地域の多文化共生へとつながり得る可能性の根拠となる事例や意見はヒアリングにて確認できており、今後、日系サポーターの活動が、在日日系人や外国ルーツの人々の抱える個別の課題解決に貢献するだけでなく、そうした課題を解決する自治体や受入団体における仕組や制度、常設の活動へとつながっていけば、日本国内の多文化共生の促進は長期的に達成される可能性がある。

① 短期アウトカム

短期アウトカムである「在日日系人を含む外国人・外国ルーツの人々の日本語能力や学習理解が向上する」について、学習支援を研修内容に含んでいた団体すべてが、研修員による学習支援の貢献を感じていた。このため、当アウトカムは達成されたと判断する。研修員の存在が、外国ルーツの子どもたちの自信や学習モチベーション向上に貢献している。

ヒアリングを通じて、具体的な語学能力、学習理解の向上以前に、研修員の存在により、外国ルーツの子どもたちが自分自身の現状を前向きに捉えられるようになる、アイデンティティのゆらぎがなくなる、それらにより学習へのモチベーションが上がる、という変化があることが確認できた。具体的な貢献事例は以下の Box に記載のとおりである。

Box 3-23 「学習支援における日系サポーターの貢献」に関するヒアリング結果

- 母国語を話す少し年上の研修員の存在によって、子どもたちの学び（日本語学習、母語学習、学習全般含め）へのモチベーションが上がった。
- 言語学習教材への助言をしてもらい、教材へ反映させた（日本語を外国語として学ぶ立場及び、ポルトガル語やスペイン語の母語話者としてのどちらの言語学習の場合も事例有）。学習者の視点から見た改善点や指導ポイントが役に立った（日本語の場合）。
- 「ペルーの子どもたちのためのひらがな表」下敷き、「ブラジルの子どもたちのためのひらがな表」下敷きを各国出身の研修員と共に作成した。イラストレーターという元の職業の専門性を活かしてもらった。研修員が帰国後もペルーとブラジル出身の子どもたちのひらがな習得指導に用いている。また、研修員が持ち帰ってペルーでの日本語指導にも活用している。
- 研修員と出会うことで、自分は自分でいいんだ、というアイデンティティのゆらぎがなくなり、性格も明るくなり、母語能力向上、学業成績アップにつながった。
- 保護者（日系で来日した親）に変化があった。ある例では、夫は日本人なので日本に永住可能性が高く、子どもにどこまで日本語・スペイン語で関わるか、母親自身が決めかねていた。その母親が研修員に出会い、両言語大事なんだという思いを新たにした。

② 中期アウトカム

中期アウトカムである「在日日系人を含む外国人・外国ルーツの人々の学校や所属先、地域での生活の質が向上する」について、在日外国人にとっての母語による情報提供やコミュニケーションを日系サポーターが行うことにより、生活の質向上に貢献している事例が複数確認された。したがって、当アウトカムは達成されたと判断する。

生活支援においては、母語による生活に必要な情報や、防災情報の提供、ニーズの把握、学習支援においては母語による保護者とのコミュニケーションによって、在日外国人の居場所や生活の場での安心・安全への貢献が確認された。ヒアリングによって確認した具体的な貢献事例は以下Boxに記載のとおりである。

Box 3-24 「母語による情報提供やコミュニケーションにおける日系サポーターの貢献」
に関するヒアリング結果

- スペイン語での情報発信の貢献は日々感じている。
- 防災ガイドブックのリニューアルの際、来日したばかりの研修員の視点は日本人とは全く違っており参考になった。
- 在日ブラジル人の方々のコミュニケーションツールとして、WhatsApp グループを作ってくれた。
- 日系人の方にインタビューをして団体スタッフでは気づかないところまで日系人の方の悩みを聞いてくれた。性の話などデリケートなことも含まれており、性教育や日本人の友達を作りたいというニーズがあることがわかった。
- 学習支援に来ている子どもの養育者が母語で子どもの様子を聞くことで安心していた。

③ 長期アウトカム

長期アウトカムである「日系人在住都市の多文化共生・地方創生に貢献する」については、日系サポーターが活動期間中に在日外国人の課題解決に貢献するという個別の事例から、どのように長期アウトカムである日系人在住都市の多文化共生につなげていくかの戦略が、現状では明確になっていない。

現状の日系サポーターによる活動は、もともと受入団体が在日外国人のため、あるいは多文化共生のために実施している活動に研修期間中に参加し、サポートするというものがほとんどである。その場合、その地域で在日外国人に提供されているサービスとしては、日系サポーター受入前後で変化はなく、そうした活動件数を長期的に積み上げても地域の多文化共生を促進することにはつながらないように思われる。一方で、日系サポーターと共に現存の活動を実施する中で、受入団体として新たな気づきがあり、提供サービスの質の向上をさせるといったことがあり、それを日系サポーター帰国後も継続していけば、長期的に地域の多文化共生の促進につながる可能性があると考えられる。また、もともとある活動ではなく、日系サポーターが母語話者として、在日外国人のニーズを聴き取り、それに基づき新たな活動を開始し、帰国後も受入団体や自治体でその活動が継続する場合も地域の多文化共生につながる事が期待できる。

今回の調査で確認できた中で、一過性の個人への貢献ではなく、帰国後も継続的に地域に貢献し得る事例としては「母語教材の内容見直し」「防災ガイドブックリニューアル」「在日ブラジル人のワッツアップグループ作成」「ペルー・ブラジルの子どもたちのためのひらがな表下敷きの作成」などがあった。他方、日系サポーターが聴き取ったニーズに対応した新たな活動の始動は、ヒアリング時点ではまだ実現していなかった。

また、日系サポーターによる貢献を一過性のものとしないうえ、継続して研修員を受け入れることを前提として活動している受入団体もある中、応募者がおらず受入が実現しない年があることや、想定した期間より短期間の受入となった事例や、予定した研修内容と異なる内容で実施した事例も聞かれた。例えば、地域の在日日系人の状況から、これまで団体で提供できていないポルトガル語によるメンタルカウンセリングのニーズがあると判断し、メンタルケアを専門的に行える人材を日系サポーターとして要請したが適格者がおらず、もともと団体が行っている学習支援

への参加に活動内容を切り替えて受入を行った団体もあった。

このような応募者がなかなか見つからない、日本側が求める要件に合った人材が見つからないといった難しさは、日系サポーターが日本国内の多文化共生に資する活動をしつつも、そこで研修員としてスキルアップをし、帰国後にその経験を活用することが求められているという両面をもつ制度であることに一部起因していると考えられる。現地調査対象国では、日本での経験を帰国後にどのように活用できるのか、研修員側のメリットが明確ではないという意見が聞かれた。現状の活動内容では、もともと日本語教師である、あるいは日本にとっても関心があり、日本と関わる仕事をしたい、といった場合には、帰国後に日系サポーターで得た経験やスキル、コネクションを活用してキャリアアップが可能であるが、それ以外の場合にはキャリアへの活用が難しいケースもある。

これらのことから、現状では、継続的に必要十分な研修員を受け入れ、日系サポーターの活動を通じて地域の多文化共生へ貢献し得る活動や仕組、制度へとつなげるための戦略的視点が不十分であるため、現状のまま本制度を継続しても長期アウトカム達成に到ることは難しいように推察される。しかしながら、日系サポーターが 2020 年度から開始し、コロナ禍も重なり本格始動が 2022 年度という新しい制度であること、このため実施件数がまだ限られていること、受入後の変化をみるには時間経過が短いこと、また現在 JICA 内部で上記のような課題を認識し日系サポーター制度改善に向けて様々な検討がなされていることを踏まえると、現時点で長期アウトカムが今後発現する可能性を判断することは時期尚早である。今後、日系サポーターの活動が、在日日系人や外国ルーツの人々の抱える個別の課題解決に貢献するだけでなく、そうした課題の解決を目指す地方自治体や受入団体における仕組や制度、常設の活動へとつながっていけば、日本国内の多文化共生の促進は長期的に達成される可能性がある。

以下、日系サポーター制度が長期的に地域の多文化共生へとつながり得る可能性の根拠となる事例や意見をヒアリング結果から紹介する¹³。

¹³ なお、今回ヒアリング実施はできなかったが、長期的に地域の多文化共生へとつながり得る事例は、JICA 中国.(2024).「持続可能な未来を創るための国際協力と地方創生：世界も日本も元気にするアクターの協働と共創：第 6 章 日系サポーター研修を通じた多文化共生での連携」内でも記載されている。出雲市立幼稚園において日系ブラジル人園児の保育を日系サポーターが他の幼稚園教諭とともに実施し、園児やその養育者への貢献のみならず、他の幼稚園教諭の外国籍園児やその養育者への対応や意識に変容があったという事例である。

**Box 3-25 「日系サポーター制度が長期的に地域の多文化共生へとつながり得る可能性」
に関するヒアリング結果**

- 日系サポーターは、在日ブラジル人の助けになる制度と思う。日本の手が足りないところをブラジルや中南米の日系人が助けることができる。また、ブラジルから日本の日系社会に「日系文化」を共有できる。（元日系サポーター）
- 日本に出稼ぎに行こうと考えている人に対する研修プログラムを作りたい。日本に行くためには大使館で手続きを行わなければならない、その機会を利用して事前に、日本の教育制度、生活の注意点等、様々な考慮すべき内容を伝えられれば、子どもたちが抱える問題を軽減できるのではないか。他の帰国研修員と共に、日本に行きたい人に対して、日本に行く前に情報提供できるようなネットワークを作り上げていくことを考えている。日本で生活する際に困らないために、最低限必要なことを伝えられるようなシステムを作るよう、具体的に動いている。（元日系サポーター（複数名））
- 中南米から日本を目指す方への情報提供を目的に在日日系人の支援状況、日本の学校生活や日常生活等について情報を発信することを目的としてセミナーを帰国研修員主体で開催した。（JICA ペルー事務所）
- 研修員による帰国前報告資料の在日日系の方々へのアドバイスには、日本での学校生活について、来日時の入出国について、帰国者へのアドバイスなどが含まれていた。（受入団体）
- 日系人でなくても日本での研修に参加できる、非常に素晴らしいプログラム。日本に興味があれば参加できる。日本とペルーの架け橋になれる。（受入団体によっては）日本語が話せなくても、英語が話せれば参加可能なため、やりたいと思えば、多くの人に参加が可能。（元日系サポーター）

3.6. 海外移住資料館の評価

人材育成事業の研修参加者に対して海外移住資料館来場によって生じる変化については前述の各人材育成事業の評価結果内で扱ったが、ここでは、日系社会連携事業全体の長期アウトカム「日本国内の課題解決」を目指す一連の短期・中長期アウトカムの達成状況を確認する。

3.6.1. アウトカム・指標

海外移住資料館は、日本国内からの来場者に以下のような短期・中長期のアウトカムが発現することを目指している。これらアウトカムに対して本評価内で設定した指標は下表のとおりである。なお、来館によって直接的に目指しているアウトカムは中長期の「日本が多文化共生社会になることが大事だと感じる」という意識変容までであり、本評価ではそこまでの達成度を判断する。その先の「在日日系人を含む外国人・外国ルーツの人々に裨益する活動をする」という行動変容は、直接的に目指すアウトカムではないが、どの程度行動変容まで結びついているかを参考情報として取得した。

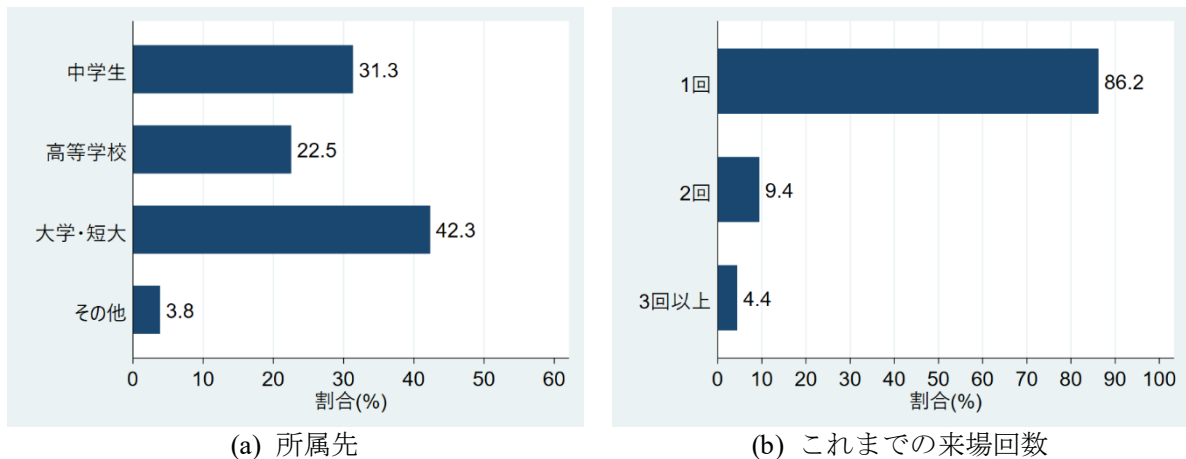
図表 3-29 海外移住資料館のアウトカムと指標

アウトカム タイプ	アウトカム	指標
短期	海外移住の歴史への知識・理解が深まる	来場・訪問プログラムを経ての知識・理解の変化の有無
	日系人への関心が高まる	来場・訪問プログラムを経ての関心の変化の有無
	中南米及び国内日系社会の現状・課題を知る	来場・訪問プログラムを経ての理解の変化の有無
	多文化共生への関心が高まる	来場・訪問プログラムを経ての多文化共生への関心の変化の有無
中長期	日本が多文化共生社会になることが大事だと感じる	来場・訪問プログラムを経ての多文化共生社会に対する認識の変化の有無
	在日日系人を含む外国人・外国ルーツの人々に裨益する活動をする	活動実績有無・事例

出典：評価チーム作成。

3.6.2. アンケート回答者属性

これらアウトカム発現状況をアンケート調査及びヒアリング調査の回答結果から分析した。各調査の対象者は「3.1.2. データ収集」にて述べたとおりであるが、アンケート回答者属性を以下に示す。



図表 3-30 海外移住資料館に関するアンケート回答者属性

出典：評価チーム作成。

性別では男性 30%、女性 67%、「回答なし」1%、所属先別では中学生 31%、高校生 22%、大学・短大生 42%、来場回数は 1 回のみ 86%。2 回 9%、3 回以上 4%、初めて来館した年は、2024 年（70%）、2023 年（15%）、2022 年（5%）、それ以前の年またはわからない（10%程度）であった。

3.6.3. 分析結果

来館によって、短期アウトカム及び中長期アウトカムである「日本が多文化共生社会になることが大事だと感じる」という意識変容まで達成されている。各アウトカムの評価判断は以下のとおりである。

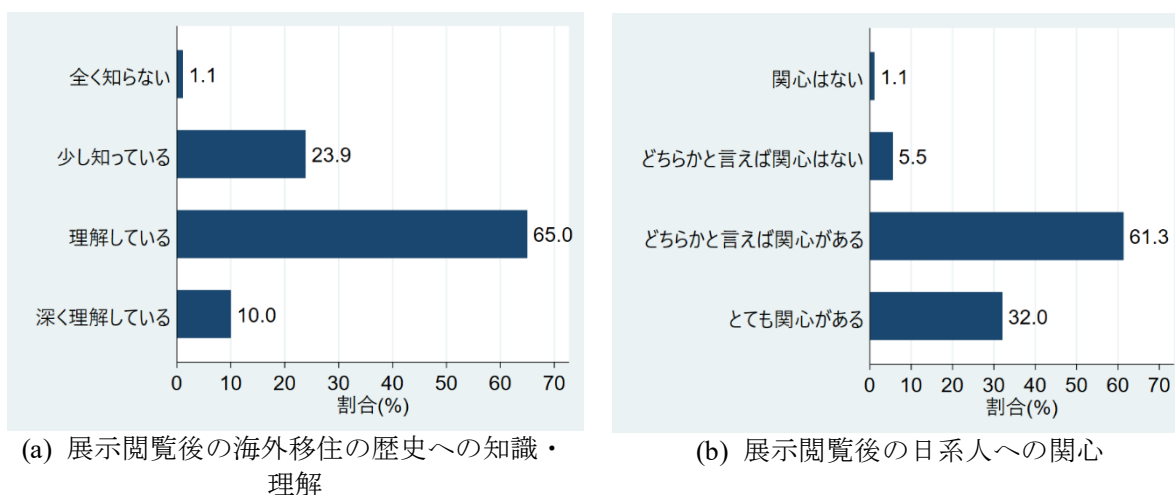
1) 短期アウトカム

短期アウトカムである「海外移住の歴史への知識・理解が深まる」、「日系人への関心が高まる」、

「中南米・国内日系社会の現状・課題を知る」、「多文化共生への関心が高まる」は達成したと判断できる。各アウトカムの具体的な達成状況は次のとおりである。

① 海外移住の歴史への知識・理解が深まる、日系人への関心が高まる

海外移住の歴史の理解については、展示閲覧後、75%が「理解している」または「深く理解している」と答えた。展示閲覧前から知識・理解の程度が下がったと答えた人は1%（2人）のみであった。また、日系人への関心は、展示閲覧後、93%が「どちらかと言えば関心がある」または「とても関心がある」と答えた。展示閲覧前から関心の程度が下がったと答えた人はいなかった。したがって、「海外移住の歴史への知識・理解」の程度、「日系人への関心」の程度は、ともに来場により深まったと判断できる。



図表 3-31 海外移住の歴史への知識・理解が深まる、日系人への関心が高まる
出典：評価チーム作成。

アンケート回答を裏付けるヒアリング回答として、大学教員ヒアリングでは、ゼミ生が来館後に自身の卒論テーマとして中南米日系人を選ぶ場合もあるとのことであった。

② 中南米及び国内日系社会の現状・課題を知る

回答者の64%が中南米日系社会の現状や抱えている課題について、資料館に来場して新たに知ったことがあると答えた。また、51%が日本国内に暮らす日系人や、日本国内の日系人が多く住む地域の現状、抱えている課題について、資料館に来場して新たに知ったことがあると答えた。具体的には、中南米日系社会の現状や課題について、アンケートで以下のような記述回答があった。

- 日系人が現地での生活で日本と南米の文化を合わせた独自の文化を発展させたことを知った。
- 日系人のルーツは知っていたが、その後の差別段階までは詳しくは知らなかった。
- 日系社会のつながりが国によって異なること、またその歴史的経緯があることを知った。
- 親の出稼ぎなどで移動を頻繁に繰り返し、言語の習得が中途半端になるモノリンガルの状態に陥ってしまう子どもたちが存在することを学んだ。

日本国内に暮らす日系人や、日本国内の日系人が多く住む地域の現状や課題については、アンケ

ートで以下のような記述回答があった。

- 文化や言語での壁で孤立してしまうことを知った。
- 日系人ではあるが言葉も通じないことも多く生活や仕事を送る（原文ママ）うえで様々な不利益を被っていることを知った。
- 日本人と日系人のギャップを感じているのだとわかった。
- 日本の学校は、経済的負担がなく、親は子どもを一度は通わせるものの、日本語の理解に苦しみ、日本の学校をドロップアウトしてしまうことを学んだ。また、集住地区では、ポルトガル語コミュニティが発達しており、日本語を使わずとも不自由なく生活できていると捉えることも出来るが、これはかえって日本人と日系人の距離が遠くすることに拍車をかけていることを学んだ。

これら回答から、具体的な新たな知識、情報を得ていることが確認できる。したがって、来場者の大半が中南米及び国内日系社会の現状について、来館したことで新たに知識、情報を得ていると判断できる。

アンケート回答を裏付けるものとして、教員ヒアリングでは以下 Box に記載の回答があった。

Box 3-26 「中南米及び国内日系社会の現状・課題を知る」に関するヒアリング結果

- リニューアルを経て、さらに展示が充実している。今の日本では海外からの移住者との共生が課題として取り上げられることが多いが、かつて日本も多くの移住者を世界に送り出していたという歴史から学びを広げている。
- 世界各地の他の移住資料館と比しても展示内容は充実しており学びの満足度が高いものとなっている。
- ボランティア解説員の説明を聞くことによって、展示の理解が深まっている。
- 展示のみならず併設の資料館や図書館で資料を調べることも訪問の重要な一部である。

③ 多文化共生への関心が高まる

外国にルーツを持つ人々への関心にかかる以下の設問について、「そう思う」または「非常にそう思う」と答えた人の割合は、いずれも 9 割程度と非常に高くなっていた。

- 「外国人や外国にルーツをもつ人々が日本に移住してきた時にどのような困難・不安があったかに関心がある」（91%）
- 「外国人や外国にルーツをもつ人々が日本でどのように暮らしているかに関心がある」（93%）
- 「日本にいる外国人や外国にルーツをもつ人々がどのような差別や偏見の影響を受けて暮らしているかに関心がある」（89%）
- 「日本にいる外国人や外国にルーツをもつ人々が自分たちの習慣や文化の継承をどのようにしているのかに関心がある」（93%）

さらに、来場しなかった場合に関心の程度がどうであったと思うか（回答者の主観的な反事実）も回答してもらったところ、約 5-6 割の人が来場をきっかけに関心の程度が向上していた。した

がって、資料館への来館によって、多文化共生への関心が高まったと判断できる。

アンケート回答を裏付けるものとして、教員ヒアリングでは以下 Box に記載の回答があった。

Box 3-27 「多文化共生への関心が高まる」に関するヒアリング結果

- 海外移住資料館及び JICA 横浜の訪問が海外進学を含め、海外や国際協力に興味を持つきっかけの一つとなり、そうしたことに関心を持つ生徒が増えてきたと感じている。
- 多文化共生への学びのため訪問するだけの付加価値があり、もっと多くの先生に知ってもらいたい。
- （公民科教育法の授業内で毎年学生を引率しているが）単に移民や日系人について解説できる教員ではなく、それを通じて、多文化共生まで学ばせることができる教員を育てるための教材研究の一環である。
- 外国人材を受け入れている企業訪問をする機会もゼミ内で設けているが、現在の外国人材について学ぶ際にも日本もかつて送り出し国であった、という経緯を海外移住資料館で学ぶことで、多面的に多文化共生について学ぶことができる。

2) 中長期アウトカム

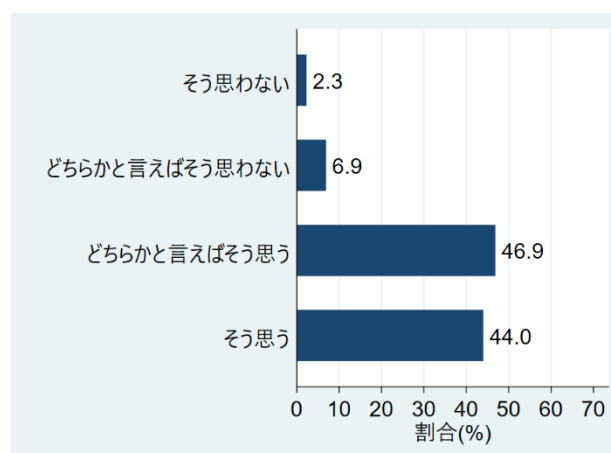
① 日本が多文化共生社会になることが大事だと感じる

多文化共生社会に関連し、来場前と比べての変化を聞いた以下の設問で、「そう思う」または「非常にそう思う」と答えた割合は、いずれも非常に高い割合となっている。

- 「来場前と比べて、日本は異なる文化や言語をもつ人々がより暮らしやすい社会になることが大事だと感じる」（97%）
- 「来場前と比べて、日本にいる外国人や外国にルーツをもつ人々が、能力を存分に発揮して日本社会の一員として活躍して欲しいと感じる」（94%）
- 「来場前と比べて、周囲にいる異なる習慣や社会的ルールを持つ多様な人々により寛容になることが大事だと感じる」（96%）

さらに、資料館来場をきっかけに日本国内に居住する日系人や外国人、外国ルーツの人々との相互理解に関する活動や、そうした人々の暮らしに役立つ活動等をしたいと思うようになったかを聞いた設問では、図表 3-32 に示すように 90%の回答者が「どちらかと言えばそう思う」または「そう思う」と答えた。

したがって、当アウトカムは達成されたと



図表 3-32 「来場をきっかけに外国ルーツの人々に裨益する活動をしたいと思うようになったか」の回答

出典：評価チーム作成。

判断できる。

② 在日日系人を含む外国ルーツの人々に裨益する活動をする

当アウトカムは来館によって直接的に目指しているアウトカムではないため参考情報である。

来場をきっかけに具体的な活動を開始するには時間を要するため、2023 年以前に来館した 40 名の回答者に対してのみ調査した。その結果、来場後に日本国内に居住する日系人や外国人、外国ルーツの人々との相互理解に関する活動や、そうした人々の暮らしに役立つ活動等をしたことがあるかと聞いた設問では、32%（40 人中 13 人）が「はい」、67%（40 人中 27 人）が「いいえ」と答えた。実際に活動をした 13 人のうち、2 人は来場をきっかけに活動をしたと回答した。

したがって、少数ではあるが来場をきっかけに「在日日系人を含む外国ルーツの人々に裨益する活動をする」という行動変容まで至る場合もあることが確認された。

来場をきっかけに開始したものに限らないが、具体的な活動事例には以下のようなものがあった。

- 静岡県にある日系ブラジル人学校を訪問し、日系ブラジル人、日系ペルー人の子どもたちと夏祭りを共同で開催し、お互いの言語、文化について発表する活動を行った。
- 外国につながる子どもたちの学習支援ボランティアに参加している。
- 在日外国人労働者の相談や労働問題を解決する組合でボランティアをすることがあった。
- 地元で国際交流ラウンジがあるので、そこの交流の場に行ってみた。
- 在日外国人を招いた料理教室を開催した。
- 在日インドネシア人の文化祭へ参加した。
- 翻訳ボランティア活動に参加した。
- 所属する大学に通う留学生のサポート活動をしている。

4. 現地調査3カ国の詳細分析

2.3.で示した ToC に従い、短期・中期・長期アウトカムの具体的な成果の事例や課題等を確認するため、調査対象 12 カ国のうち、JICA によって指定されたブラジル、パラグアイ、ボリビアの 3 カ国において現地調査を実施した。ブラジルは各スキームで最大規模の協力実績があること、パラグアイは移住者による大豆生産の歴史や様々な協力の連携実績があること、ボリビアは沖縄県との連携等による日系社会との連携の広がりが見込まれているといった特徴がある。

4.1. ブラジル

4.1.1. ブラジル国概況

1) 一般概況

図表 4-1 ブラジルの一般概況

面積	851.2 万平方キロメートル（日本の 22.5 倍）
人口	約 2 億 1,531 万人（2022 年、世界銀行）
首都	ブラジリア
民族	欧州系（約 44%）、アフリカ系（約 10%）、東洋系（約 0.4%）、混血（約 45%）、先住民（約 0.6%）（ブラジル地理統計院、2022 年）
言語	ポルトガル語
宗教	カトリック約 65%、プロテスタント約 22%、無宗教 8%（ブラジル地理統計院、2010 年）
政体	連邦共和制（大統領制）
議会	二院制（上院 81 名、下院 513 名）
主要産業	製造業、鉱業（鉄鉱石他）、農牧業（砂糖、オレンジ、コーヒー、大豆他）
GDP（名目）	1 兆 9,200 億米ドル（2022 年、世界銀行）
一人当たり GDP	8,917 米ドル（2022 年、世界銀行）
経済成長率	2.9 %（2022 年、世界銀行）
物価上昇率	-0.26 %（2024 年 4 月前月比、ブラジル地理統計院）
失業率	7.9%（2024 年 1-3 月の 3 か月平均、ブラジル地理統計院）
総貿易額	輸出 3,396 億 9,600 万米ドル 輸入 2,407 億 9,300 万米ドル、貿易収支 989 億 300 万米ドル（2024 年 JETRO ブラジルの貿易投資年報）
対外債務（グロス）	342,191 百万米ドル（2023 年、ブラジル中央銀行）

出典：外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/brazil/index.html> 及びブラジルの貿易投資年報 | ブラジル-中南米-国・地域別に見る - ジェトロ（2024 年 10 月 25 日アクセス）を基に評価チーム作成。

ブラジルは、南米最大の経済規模を誇る国であり、2022 年の名目 GDP は 1 兆 9,200 億米ドル、一人当たり GDP は 8,917 米ドルを有する世界第 11 位の経済大国である。主要産業は製造業、鉱業（特に鉄鉱石）、農牧業（砂糖、オレンジ、コーヒー、大豆など）で、特に農業部門は世界的に重要な役割を果たしている。ブラジルの経済成長率は、2021 年に 4.6%、2022 年に 2.9%、2023 年も 2.9%と安定した成長をみせている。しかし、インフレ率の上昇や失業率の高さが課題である。2024 年 1-3 月の失業率は 7.9%であり、インフレ率は 2023 年累積で 4.7%であった。政治的には、2023 年 1 月にルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルヴァ大統領が就任し、連邦共和制の下で二院制の議会が運営されている。ブラジルはまた、環境問題にも直面しており、世界最大の熱帯雨林を保有する国として、生物多様性の保全や温室効果ガスの削減が重要な課題となっている。

外交面では、グローバルな外交展開を行い、米国や日本などとの関係強化にも注力している。特に、南米南部共同市場（以下、メルコスール）を通じた地域統合の進展や、EU との自由貿易市場

の追求が進められている。

2) ブラジル日系社会の概況

① 日本人・日系人の集住地域

ブラジルへの日本人移住の歴史は、1908 年に始まった。この年、最初の公式移民船「笠戸丸」が 781 人の日本人を乗せてブラジルに到着した。この移民は、ブラジル政府が農業労働者の不足を補うために日本人移民を受け入れることを決定したこと端を発している。

移民の多くはサンパウロ州に定住し、コーヒー農園で働き始めたが、労働条件は厳しく、多くの移民が困難な生活を強いられた。それでも、日本人移民は次第に農業だけでなく、商業や工業分野でも成功を収めるようになった。

第二次世界大戦中、ブラジル政府は日本と敵対関係にあったため、日本人移民に対する圧力が強まり、多くの日本人が強制収容所に送られたり、財産を没収されたりした。戦後、日伯関係が回復すると、日本人移民は再びブラジル社会に統合され、経済的にも社会的にも重要な役割を果たすようになった。

1952 年には、日伯間の国交が再開され、戦後初の移住協定が結ばれた。この協定により、ブラジルへの日本人移住が再開され、特に農業分野での移住が進み、1950 年代後半から 1960 年代にかけて、多くの日本人がブラジルに移住し、農業や商業、工業分野で活躍した。1970 年代には、日本からの移民が減少し、代わりに日系ブラジル人の子孫がブラジル社会で活躍するようになった。彼らは教育やビジネス、政治など様々な分野で成功を収め、ブラジルの発展に大きく貢献した。

現在、ブラジルには約 270 万人（総人口の 1%前後）の日系人が住んでおり、その 7 割はサンパウロに集中している。ブラジルの日系社会は世界最大の日系人コミュニティであり、日本の文化や伝統を守りながらも、ブラジルの多文化社会に適応し、独自の文化を形成している。

1980 年代半ば頃、ブラジル経済の不況にあえいだ日系移民 1 世や 2 世が、就労目的で日本への訪問・帰国／移住を始め、現在、日本国内には 30 万人以上のブラジル国籍者が居住している。愛知県、静岡県、群馬県の工業地帯を中心に、ポルトガル語話者の集住地域が形成され、ブラジル日系社会は、これらの移住者と強い結びつきを持っている。

② 主な日系団体等

ブラジル日本文化福祉協会（以下、文協）によると、ブラジル全国には約 440 の日系団体があり¹⁴、このうち 70%はサンパウロ市にある。

日本文化の普及を中心に活動する文協、病院・福祉施設を経営しているサンパウロ日伯援護協会（以下、援協）、サンパウロ所在 47 都道府県人会の連合体であるブラジル日本都道府県人会連合会（以下、県連）は、2024 年 2 月、日系社会を代表して JICA と連携協力覚書を締結した。同覚書は、日系社会と日本との人的交流をさらに活性化し、ブラジルでの日本理解の促進や日本文化の普及とともに、日系社会と日本が未来に向けて対等に応援し合い、双方の経済・社会が活性化

¹⁴ 文協からのヒアリングによれば、以前は 550 の団体が存在したがコロナ禍で減少した。

するような連携関係を戦略的に強化することを目的としている。覚書に基づく新たな交流プログラム「未来への団結（Unidos pelo Futuro）」により、ブラジル日系団体による日本への視察派遣や日本からブラジルへ有識者等の招へい、日系団体による日本企業の製品活用や発信、全ブラジルの日系団体の日本の理解促進などが行われる予定である。また、日系人の多様なネットワーキングの推進、ブラジル日本移民史料館と横浜海外移住資料館、他国の日系資料館との連携推進、日系社会研究の促進、在日ブラジル人コミュニティ支援の促進等を強化することも目指している。

3) 評価対象期間の日系社会連携事業実績

2015-2022 年のブラジルにおける本調査対象の日系社会連携事業の実績は次のとおりである。

図表 4-2 ブラジルにおける本調査対象の日系社会連携事業の実績

対象	実績	備考
助成金交付事業		
継続助成金	1 億 3,494 万円／10 団体 (105 件)	2015-2022 年
コロナ禍助成金	34 億 7,671 万円／83 団体 (157 件)	2020-2021 年
経済対策助成金	2 億 7,440 万円／18 団体 (21 件)	2022 年
次世代研修	217 名	2015-2019 年実績 (中学生 100 名、高校生 71 名、大学生 46 名)
リーダー育成事業	29 名	2015-2021 年実績
日系社会研修 (通常枠)	531 名	2017-2023 年
日系社会研修 (日系サポーター枠)	10 名	2020-2022 年

出典：JICA 提供資料に基づき評価チーム作成。

調査対象期間において、ブラジルにて JICA 助成金が継続的に交付されていたのは、年 6-10 団体（病院、日本語教育機関、文化福祉協会等）で、8 年間の総額は約 1 億 3,500 万円（1 団体年平均約 200-250 万円）であった。これらは主に、医療・福祉分野の遠隔診療の経費や高齢者施設の設備整備、日本語教員研修や給与の補填、文化・スポーツ施設の整備支援等に活用された。

また、新型コロナ対策支援、その後の経済対策支援としては、日系人の保護と日系団体の維持存続の目的で、83 団体に対して計 34 億 7,600 万円の助成金が交付され、直接的なコロナ対策である日系病院における隔離病棟の整備や必要な検査機器の提供等のほか、各団体の持続的運営に資する設備投資や日本語学校のオンライン講座を可能とする IT 機器や教員の給与補填等に活用された。なお、助成金交付事業の予算額は、補正予算の状況次第であるため、あらかじめ計画することは難しいのが現状である。

4.1.2. 現地調査結果

1) ブラジル現地調査日程・主なヒアリング先

ブラジル現地調査は 2024 年 9 月 15 日から 9 月 28 日に実施した。主なヒアリング先は図表 4-3、詳細は別添 3 に示す。

図表 4-3 ブラジルにおける主なヒアリング先

対象	ヒアリング数	備考
助成金交付事業受給団体	20	サンパウロ市：8 団体、 同市以外のサンパウロ州内：5 団体 クリチバ市：3 団体 アマゾニア地域等（オンライン）：4 団体
次世代研修	6	中学生 2、高校生 3、大学生 1
リーダー育成事業	2	—
日系社会研修 （通常枠）	8	日本語教育、高齢者福祉、日系団体運営管理、女性 リーダー育成等参加者
日系社会研修 （日系サポーター枠）	2	—
その他関係機関・関係者	15	サンパウロ日本領事館、日系ビジネスリーダー、活 躍する日系女性（オンライン）、帰国研修員同窓会 等

出典：評価チーム作成。

2) ブラジル現地調査で確認された特筆すべき事項

本項では、現地調査で確認された特筆すべき調査結果について述べる。

① 保健医療・福祉分野に対する日系社会連携事業

保健医療・福祉分野では、主にサンパウロの援協、アマゾニア日伯援護協会、南日伯援護協会に対して助成金が交付され、診療所の運営にかかる設備・備品、巡回診療経費、高齢者福祉等に活用されている。戦後にブラジルに到着した日本人移住者の支援を目的に設立された援協は、現在は医療と福祉部門を有し、病院 3 施設、高齢者施設 4 施設、自閉症児の施設、巡回医療を運営する。傘下の日伯病院はサンパウロで 2 番目に大きな病院であり、日系の医師・職員も多く働いている。また、サンパウロ州内にある同じく傘下のサンミゲル・アルカンジョ病院は、公的医療健康保険制度（以下、SUS）と提携した 100%無償の病院であり、日系高齢者を含む地域住民から厚い信頼がある。援協を通じたこれらの病院への助成は、日系社会のみならず、ブラジル社会への裨益も大きい。また、日本企業や大学と連携して、日本製の医療機器のブラジルでの展開への協力も行われていた。

また、援協やアマゾニア日伯援護協会傘下の病院に対する助成金は、遠隔診療の経費の一部としても活用されている。現地調査を通じ、特に遠隔地に居住する日系高齢者から同診療に対して高い期待が寄せられていることがわかった。ブラジル国内では私立病院の統廃合や買収等による競争が激化し、いずれの日系病院も経営は厳しい状況にあるが、こうした取り組みは、移住者の定住支援の文脈で引き続き有効であることが確認された。

Box 4-1 サンミゲル・アルカンジョ病院（サンパウロ州）に対する助成金交付事業

サンパウロ州のサンミゲル・アルカンジョ病院は、援協により設立された日系の病院である。サンミゲル・アルカンジョ市唯一の SUS 対象の総合病院であり、日系社会はもとより、同市及び周辺地域の地域住民に広く信頼されている。同病院に対しては、新型コロナウイルス感染症対策として 2021-2022 年に、コロナ感染者向けの入院施設として 37 床を増床するための施設建設（増設前は 42 床）と医療資機材（CT スキャン等）購入のための助成金が交付された。助成金は迅速に支払われ、同市における患者への対応が可能となった。現在では、同病棟は長期入院患者用に使用されている。ブラジルでは、50 床未満は小規模、50-90 床は中規模病院と分類されるが、この改修により、同病院は同地域で唯一の中規模病院となった。

100%SUS 対象の病院であることから、運営資金は国と市からの交付金（固定額）によるが、経営は厳しく、赤字分は援協の支援により補填されている。本病院が日系の病院であることはよく知られており、日系であるが故に信頼を得ていることもある点を考慮すると、日系人の功績により培われた信頼を維持・継続するためにも、助成金による支援の継続は意義深い。

出典：日系団体ヒアリング。

Box 4-2 高齢化が進む日系社会に対する支援の事例

日系の高齢者施設「憩の園」には約 60 名の日系人入居者がいる。うち 10 名強は 1 世であり、身寄りのない高齢者や生活困窮者も受け入れられている。同施設に対しては、新型コロナウイルス感染症対策として、各個室へのバス・トイレの設置や洗濯乾燥機の調達、入居者の健康管理とサービス改善のために体重計やリハビリ器具等の購入、調剤室の整備改修等を行うための助成金が交付された。財務状況が厳しく、老朽化が進む施設改善の対応ができていなかったため、本事業は日系高齢者の生活環境改善に大きく貢献した。

また、同施設は継続的に JICA 海外協力隊も受け入れており、現在は栄養専門の隊員が、メニュー指導や、栄養改善と食の楽しみを兼ねた特別メニューを準備するなど、入居者の健康管理に貢献している。このように、経営が困難な状況にもかかわらず、助成金交付事業と海外協力隊による支援、その他寄付金等により運営されているが、同施設の経営改善は課題である。

出典：日系団体ヒアリング。

② 日本文化の継承・普及に対する日系社会連携事業

入植後に相互扶助を目的として形成された各地の日本人会は、第 2 次世界大戦中の外国人団体の活動禁止により、解散した。しかし、終戦後、各地域で日系団体が結成された。1954 年には、サンパウロ市創設 400 年祭に参加するために「祭典協力委員会」が発足し、1955 年、日本人協力が発展的に解散する形で、サンパウロに日本文化協会（現文協）が設立された。文協の理念は、「ブラジル日本社会の中心的機関として、ブラジル社会において日本文化の継承と普及を促進するとともに、日本においてはブラジル文化の紹介と普及に務め、その目的を持った他団体の事業を奨励し支援する」である。文協では、ボランティア会員が 32 の専門委員会を通じて、日本文化の普及、移民資料の保存・研究、日本の伝統行事の実施、要人接待、文化施設の運営管理などを

実施している¹⁵。

文協は近年、会員数が減少し、会費収入が減少するなどの課題を抱えていたが、i) 地方日系社会との連携促進、ii) 若手日系人の日系社会活動への参画、iii) ビジネスと連携した活動により、2019年には収支が黒字に転じた。i) については、全国 35 団体が 2 か月に 1 回意見交換したり、相互に訪問したりする機会を創出し、団体間の連携を促進している。2024 年 9 月には、全国の関連団体の交流促進と今後の活動の方向性の検討のため、ブラジル全土の主に若手に参加を促し、「文協統合フォーラム (Fôrm de Integração Bunkyo)」を開催した。他方、本調査で、複数の地方団体が会費が高額であるなどの理由で文協を脱退し、現在も加盟していないことに言及した。

文協は、在日日系ブラジル人への支援の計画も有していた。「ブラジリアンデージャパン 2024 浜松」(2024 年 10 月 5・6 日) への参加者により、在日日系ブラジル人の若者が日本に住むことのチャレンジなどを語り、共有するトークフォーラムの開催が企画されていた。こうした展開は、日本で活動中の JICA 日系サポーターとの連携の可能性を感じられるものであった。

なお、約 270 万人の日系人のうち、文協と関係がある日系人は 1 割程度と推定される一方で、日本文化(民謡、和楽器、アニメ等)が好きな非日系ブラジル人が日系人の 5 倍程度存在するとみられている。文協役員のひとりによると、「元来日系人を対象とした団体であったが、こうした現状を踏まえると、日本の良いところを紹介し、日本の文化を守る場所と考える必要があると考えている」とのことであった。

このほか、文協は、「ブラジル日本移民史料館 (Museu Histórico da Imigração Japonesa no Brasil)」(1978 年設立) も運営している。同史料館は、サンパウロの観光スポットのひとつとして、サンパウロだけでなく他州や海外からも来館者を集めており、学校の校外学習の一環としての来館者¹⁶も増えている。2024 年 7 月には、過去最高の月間入館者数 13,000 名を記録した。史料館は、日本人移住者と日系人の存在や彼らのブラジル社会への貢献を周知する役割を担っている。

また、史料館では、散逸しつつある日系移民関連の資料の保存のため、文協の地方理事を通じて、各地の日系団体に資料の収集と保管を呼びかけている¹⁷。史料館によると、全国に少なくとも 21 の資料館があると言われているが、すでに閉館したなどの理由で、連絡が取れたのは 10 カ所であった。さらに、史料館では、ボランティアも募集し、歴史的資料の保存に努めていた。JICA から貸与されている大型スキャナーにより、入植当時の邦字新聞の電子化を開始し、ブラジル政府の文化支援法も活用して検索データベースを作成中である。しかし、財務・人材面での限界は否めず、資料の学術的重要性にも鑑み、さらなる支援が必須と思われた。

③ 日本語の継承・普及に対する日系社会連携事業

ブラジルの日本語教育は日系人が中心となり実施されてきたが、近年は公教育機関や語学学校で

¹⁵ ブラジル日本文化福祉協会 - 文協 (概要) - Bunkyo (<https://www.bunkyo.org.br/jp/2013/10/quem-somos-ja/>) (2024 年 11 月 17 日アクセス) などから作成。

¹⁶ 2024 年、ブラジル政府の文化支援法の資金を活用した文化支援プロジェクトとして、月 1 回、経済的困窮者が多い地域の公立学校の生徒 40 名を、送迎バスを用意し、無料で招待している (2024 年は 4 回実施予定)。学校は対象となった市の教育委員会が選定し、現在のところ非日系の生徒が中心である。

¹⁷ パラナ州アサイ市のアサイ資料館開館に尽力した日系社会研修帰国研修員も、移民の資料が失われつつある現状に言及した。

も日本文化・日本語が教えられ、多様化・拡大傾向にある。現在、約 350 の日本語学習機関で約 1,200 名の教員の指導のもと、23,000 名が日本語を学習している。世代の進行により、近年は日系日本語学校でも「外国語としての日本語教育」が主流となりつつある。また 1990 年以降、ポップカルチャーへの関心から日本語学習を始める非日系の学習者が増加している。ある日本語学校教員によれば、親の方針で日本語学校に通う日系子女よりも、自分の意志で学習する非日系の日本語学習者の方がやる気が高い傾向もあるとのことであった。このようにブラジルの日本語教育は、概ね非日系を含む日本語教育に舵を切りつつあるようである。特に戦後に開拓・整備された移住地などでは、日系子女を対象とした継承語教育を継続している日本語学校もあるが、過疎化が進み生徒数が減少している傾向がみられた。

Box 4-3 「ある移住地の日本語学校の葛藤」に関するヒアリング結果

- Pilar do Sur の日本語学校には、ブラジル人の子も多く入学していると聞くと、移住地にある本校は立地的にも非日系人が通いにくいし、また、入学させると文化・規範の違いから、運営しにくくなることを懸念している。他方、Santa Catarina の移住地にも、本校同様の日本語モデル校があったが、過疎化が進み、閉校した。生徒数が減る一方の現在、今後どうすべきか悩ましい。

出典：日系団体ヒアリング。

Box4-3 に言及がある Pilar do Sur 文化体育協会日本語学校では、本調査実施時点で生徒数 78 名のうち 68 名が非日系ブラジル人子女であった。同校教員によれば、非日系子女の入学者の増加の理由は、「たくましく、ねばり強い子どもを育てる」という教育方針に惹かれるブラジル人が増えたことにあるという。特に市長や市議会議員等要職にある人の子どもの入学したことで、口コミで評判が広がった。また非日系ブラジル人の生徒が増えたことで、保護者会を通じてブラジル人の保護者にも日本文化・規範が尊重されるようになってきたとのことである。例えば、先日 250 名が参加した敬老会の際には、誰が言わずとも、非日系の参加者も日本人・日系人と同様に、自然に機敏に片づけに協力してくれたというエピソードがあった。他方、次世代研修帰国研修員からは、「まだ日系社会は閉鎖的なイメージがあるため、非日系を受け入れることで、日系人の子どもたちもブラジル社会の考え方等を知ることができるようになる等より地域に馴染める存在になって欲しい。」と語った。各地の日本語学校が選択すべき最適解は、移住の経緯や地域の状況により一つではないと思われる。各学校がそれぞれに最適な運営方針を見つけるため、今後、ブラジル全国の日本語学校が様々な取り組みを共有するための支援を行う意義はあると思われた。

1985 年、日本語教育及び日本文化の普及を通してブラジルの発展に寄与することを目的に、ブラジル日本語センターが設立された。同センターには、全国の学習機関の日本語教員を対象に、教員養成やブラッシュアップ研修、文化セミナーなどを行うとともに、中南米における日本語教育の拠点としての役割が期待されている¹⁸。JICA が助成金を通して継続的に支援し、ブラジル日本

¹⁸ ブラジル日本語センター. (不明). 「ブラジルの発展のために 日本文化・日本語普及は日本とブラジルの架け橋」。同センターは、全国の日系日本語学校による日本語教育を対象としており、高等教育機関等で実施されている「外国語としての日本語教育」は国際交流基金が担当している。なお、サンパウロ州南西部には、24 の文協関連団体が加盟する聖南西連合会があり、日本語学校教員が定期的に勉強会を開催しているとのことであった。

語センターが実施する、全伯日本語教師研修会と汎米日本語教師合同研修会は、全国の日本語教員が日本語の継承と日本語教育の多様化に対応するために必要であるだけでなく、日本語教員の横のつながりの強化に資するものである。また、コロナ対策助成金として交付された教師謝金の補填については、今般ヒアリングした日本語学校からは、「それがなければ、教員は生活が成り立たず、日本語学校は存続できなかった。他校も同様であったと思うので、助成金があれば、ブラジルの日本語教育が減びてしまったかもしれないというくらい大きな支援であった」との声が聞かれた。また、コロナ対策助成金で15の日本語学校に供与されたオンライン機材により、平常時に戻ってもオンライン授業が可能となり、各日本語学校の生徒数が増加したり、オンラインの活用により幅広くパートタイム教員を採用できたりした事例もあった。

このほか、ヒアリングでは、次世代研修（中学生）の日本語学習者への動機付けの強さや日本語学校教員の日系社会研修参加の有用性、日本語学校への JICA 海外協力隊派遣の意義が言及された¹⁹。JICA 日系社会ボランティア（現海外協力隊）日本語教師が派遣されなくなったあと、もしくは日本語教育が行われなくなってから、日本人会の活動も廃れてしまった遠隔地もあるとのことである。JICA のブラジル日本語教育に対する支援は、各地域の日系社会の拠点である日本人会・日系社会の存続・強化にも貢献していることが確認された。

④ 農業分野における日系社会連携事業

ブラジルの日系移民は、その移住の背景から、農業分野で大きな貢献をしてきた。特に、各地で農業組合を設立して、相互に協力しながら日本の技術や知識を持ち込み、土地の開拓や作物の栽培方法を改善し、野菜、果物、コーヒー、コショウ等の農産品の生産、ひいては地域社会の発展に大きく貢献した。中でも、1927年にサンパウロ州で設立されたコチア農協はジャガイモの栽培を中心に、最盛期には約15,000人の組合員が所属し、約200,000ヘクタールの農地を管理し、年間の総売上高は約1億ドルに達し、当時は南米一の規模を誇る農業組合としてブラジル国内外で高い評価を得ていた²⁰。時代の流れと共にニーズも変化し、同組合は既に解散しているが、ブラジル国内には現在も複数の日系農協が存在し、特に品質の良い野菜・果物の生産に貢献し、日系社会への信頼を強固にしている。例えば市場においても、シイタケ、シメジ、カキ、ビワ等というように品質の良さを示すブランドとして日本語がそのまま使われている製品もある。現在、ブラジルでは、広大な土地において大規模な機械化農業による穀物生産が盛んであり、日系農家のなかには同種の農業で成功を収めている人もいるが、野菜・果物を扱う日系農家は、特色を有する作物や品質の高い製品を中心とする形に移行している。農協に対しては、2015-2019年までは継続助成金の対象にはなっていなかったが、コロナ禍において日系団体の維持存続の視点から、施設整備やフォークリフト等の業務効率化の資機材等が供与され、各々の団体の存続と会員及び地域の経済の維持発展に大きく貢献したとして好評を得ていた。

¹⁹ 次世代研修（中学生）の応募要件の一つである「海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫」を撤廃し、非日系の応募を認めることについては、多くの日本語学校関係者が、「努力をしている子どもは平等に扱うべきであるので門戸を開くべき」とした一方で、現時点では日系に限るべきとする意見も少なくなかった。

²⁰ <https://www.ndl.go.jp/brasil/index.html>（2024年10月31日アクセス）。

Box 4-4 ブラジル国内外で活躍するトメアス農業組合

トメアス農協は、1931年アマゾン地域パラ州トメアスに日本人移住者によって設立された。当初は野菜や米の栽培を中心に行っていたが、後にコショウの栽培が主要產品になった。しかし、1960年代後半にコショウの病害が発生し、栽培が困難になったことをきっかけに、現在はアグロフォレストリーにて、短期作物、中期作物、高木樹を組み合わせで植えることで、常に収穫が得られるような栽培手法を取り入れている。現在組合員は約170名（1世10%、2-3世50%、非日系40%）、職員数185名を有し、主に、カカオ、コショウ、アサイ、アンチョロバ（化粧品に使えるオイル）等を扱っている。農協は、果物ジュース工場（アサイ、アセロラ、パッションフルーツ等の冷凍ピューレ）と、乾燥品を作る工場を有し、主に加工品を販売するとともに、苗木販売や、ジュース工場から出る搾りかすで、たい肥の生産・販売もしている。これらは主にブラジル国内での販売に加え、日本やドイツに輸出されている。特にアサイピューレについては、日本の企業と販売契約を結び、常に売り切れになるほどの売れ行きを誇っている。

同農協は、組合員農家への技術指導はもとより、トメアス内外（マナウス等）の零細農家にも技術を普及させ、環境保護と経済発展の両立を目指している。また、昨今では、例えばJICA支援の関連でボリビアへの普及や東京農工大学との協働によるガーナへの普及といった経験も有する。このような実績から日系社会の成功事例として注目されているが、それでも昨今、主に原料調達の問題から、経営は安定しているわけではない。農協幹部によれば、農協が安定的に高額で農家から原料を買えるようになるためには、量産が不可欠であるが、農協の工場はかなり古いため、次にやるべきこととしては、オートメーション化と電気問題の解決（太陽光エネルギー利用）がある。

同農協のような共創パートナーとしての位置づけが高く見込まれる日系団体の課題解決に協力することは、日系社会連携事業の長期アウトカムにも大きく資するものであろう。

出典：日系団体ヒアリング。

⑤ 集住地域により異なる日系社会の特徴

ブラジルは、欧州系（約44%）、アフリカ系（約10%）、東洋系（約0.4%）、混血（約45%）、先住民（約0.6%）からなる多民族国家であり、総人口に占める日系人は1%前後である。最初の入植から既に100年以上経過していること、また、戦前に約26万人が入植していることから、3世、4世が7割程度を占めており、既に5世、6世も増えつつある。世代別の混血状況は、2世が6%、3世が42%、4世は63%である²¹。そのため、入植時にはあったであろう相互に助け合う連帯意識にもとづく共同体の必要性が薄れ、地域への同化が進行している。現地調査の訪問先にも、移住地らしさを守ろうとしつつも都会に出た若者が戻ってこない課題にどう取り組むかを検討している戦後の入植移住地があったり、ほぼ現役を退いた世代のみで運営する県人会が若者の取り込みを画策したりしているなど、過渡期にある地域・団体があった。

また、日系人の約7割が居住するサンパウロ州のなかでもサンパウロ市と州内の移住地、パラナ

²¹ 在サンパウロ日本国総領事館 HPhttps://www.sp.br.emb-japan.go.jp/jp/history_jp.htm（2024年10月25日アクセス）より。

州クリチバ市のような日系人が多い地方中核都市、あるいは移住の歴史も異なるアマゾン地域では、現地社会への同化の度合い、日系人としてのアイデンティティや日本との心理的距離感、日系団体による活動の活発さなどが異なっていた。今回調査で訪問もしくはヒアリングを行った地域は限られているため一般化はしにくい、こうした特徴により、日系社会連携事業のニーズにも、例えばより日系団体の自立的発展に資する支援、あるいは非日系人を含めた幅広い親日派を増やすための支援等の違いがあることを念頭におく必要があると思われた。

⑥ 地方の日系社会に対する日系社会連携事業

ブラジル国内には今でも日系団体が 400 以上存在し、アマゾンの奥地やペルー・ベネズエラとの国境近くにも日系団体がある。サンパウロ及びパラナ周辺の日系人のなかには自費で日本に渡航することが可能な世帯もあり、海外の日本文化関連のイベントとしては世界最大のサンパウロ日本祭りなど日本の文化に触れる機会も多い。他方、これまで日系人の集中するサンパウロ州やパラナ州等都市部からの研修参加者が多いなど、長年にわたり日本政府の懸案であったものの、遠隔地の日系社会・日本人への支援は限定的であった。

JICA ブラジル事務所が新型コロナ感染症拡大を機に、それまで原則対面で実施していた研修や助成金の募集説明会をオンラインで実施したところ、遠隔地からの応募が増加した。新型コロナ感染症拡大収束後には、日本大使館からも遠隔地の日系社会支援の強化が指示された。JICA 事務所の研修担当所員と帰国研修員がアマゾン奥地の日系団体を訪問し、研修説明会の開催とともに、サンパウロ近郊の日系団体の活動や帰国研修員が帰国後に取り組んだ活動を紹介したところ、早速訪問した日系団体の活動が活性化した（Box4-5 参照）。奥地にある日系団体は高齢化が進み、若い世代は教育を受けた後、大都市にとどまる傾向があるため、日系社会の過疎化が進んでいる。そうした中でも若い世代が地元にとどまり、その発展に貢献するため、遠隔地からの研修参加は意義深い。また、JICA 事務所は、慣れない団体が苦勞する助成金の申請書作成も支援しているとのことである。こうした側面支援の積み重ねにより、広大なブラジル全国に散在する日系団体の活動が活発になり、若い世代が日系人としてのアイデンティティを獲得・確立して、さらにはブラジル全土の日系ネットワークが強化されることが期待される。

Box 4-5 「帰国研修員による遠隔地日系社会への支援」に関するヒアリング結果

- JICA 日系社会研修で、従来の運動会とは異なる新しい運動会の開催方法を学び、大変勉強になった。現在、JICA ブラジル事務所の研修担当所員と一緒にアマゾン地方など遠隔地を回り、JICA 研修を紹介している。例えば、アマゾン地域にあるパリンチンス市には 1931 年に最初の移民が入植したが、当時の移民集団は若い男性のみであったため、その多くが地元の女性と結婚した経緯もあり、日系人の地域社会への融合が進んでいる。このため日系社会の活動も余りなく、これまで一度も運動会をしたこともなかった。2023 年 9 月、同地において、JICA 研修事業の説明に赴き、あわせて日系社会の活動紹介として運動会やゲートボールの話や、青年会について話をした。この話を聞いた同地の日系人により、同年 12 月にはパリンチンス日系社会で初の運動会が開催された。その後も同地の日系人とは繋がりができ、現在も日本人会の活性化について相談を受けている。また、これまで JICA と関係がなかった地域からすでに 5 名が研修で日本に行つたと聞いている。これまで日本の文化を想像したこともなかった人たちに日本に行ってもらえて嬉しい。

出典：日系社会研修帰国研修員ヒアリング。

⑦ 日系社会を通じたビジネス連携促進事業の事例

2024 年 5 月 27 日から 6 月 4 日に「2024 年度ブラジル日系社会ビジネスリーダー本邦招へい」が実施され、ブラジルの日系ビジネスリーダー 10 名が来日し、福島を訪れた。本招へい事業は、補正予算を活用して実現したもので、目的は、参加者が、i) 福島の実情を知り、ii) 福島の輸出業者を支援することであった。参加者は、原発処理水の問題で風評被害を受けている福島県を訪問し、生産加工現場を視察した結果、福島産品が安心・安全・高品質であることを理解し、ブラジル市場への輸出の可能性を検討した。本事業に参加した日系ビジネスリーダーは、飲食業、農業技術専門家、飲食品輸入業の経営者等であり、経営者としての視点で、福島産品の輸入可能性やそのためのビジネスパートナーを探った。また、帰国後も、参加者同士で交流を深め、福島産品の安全性や日本の食文化を広めるための活動を行っている。このような事業は、従来型の日系団体のニーズに応える事業とは異なるが、新たな共創パートナーを生み出す可能性が高い。

Box4-6 日系社会ビジネスリーダー本邦招へい参加者の学びと活動事例

酒専門店とラーメン店を営む H さんは、本訪問を通じ、ブラジルに輸入する新しい酒の発掘と、喜多方ラーメンの本場の味を知ることが期待していた。訪日中、酒蔵や蒸留所を訪問したり、酒蔵と商談もしたりして、何種類かの酒をブラジルに持ち帰り、今後の本格輸入の可能性を探った。また、滞在中には本物の喜多方ラーメンを試し、福島だけでも 3 つの違いがあることを知り、是非ホンモノの美味しいラーメンをブラジルでも伝えたい思いが強まった。帰国後、ラーメン屋で喜多方ラーメンウィークを開催した。また、同じ招へい事業に参加した和食店経営者と、富裕層やインフルエンサーらを対象にした夕食会を開き、福島県産の米やノリを使った手巻き寿司や日本酒などを振舞った。その後も、日系団体と日本総領事館とで開催した日本祭りに福島県関連ブースを設置し、福島の食材の安全性を伝え、福島の PR に尽力してくれている。

出典：日系社会ビジネスリーダー本邦招へい参加者ヒアリング。

⑧ 日系社会におけるジェンダー課題に対する取り組みの事例

ブラジルでは、研修や助成金交付事業に限らず、日系人の女性への支援にも力が入れられていた。例えば、2023 年 3 月、「SDGs ビジネスを通じて世界を変える：日系人女性起業家エンパワメントシンポジウム」が開催された。同シンポジウムは「国際女性デー」を記念して、JICA の持続可能な開発のための日系女性の取り組み（JICA Women's Initiatives Nikkei for Goals of Sustainable Development）の一環として行われた。中南米の女性のステイタス、女性が起業することによるメリットなどをテーマに、日本の女性起業家や UN Women も登壇し、ブラジル国内はもとより、ペルー、アルゼンチン、ボリビア、パラグアイ、メキシコも含め約 100 名が参加した。

日系団体の女性会員は、婦人部として裏方から活動を支えることが期待され、幹部として活躍している女性は少ない。会員の高齢化で会員数が減少している中で、本イベントにより、若い女性が日系人としてのアイデンティティを強化し、日系女性の持つ力をさらに引き出すきっかけになるとともに、ビジネス起業への関心を高める機会となることが期待された。ブラジルの日系女性からは、本イベントは活躍する日系女性のネットワーキングを始める大変良い機会となったと好評であった。同取り組みの第 2 弾として、2024 年 7-12 月の予定で（日系を含む）女性企業家向けメンタリングプログラムが実施されている。

この取り組みは、本調査対象事業ではないが、日系社会の新しい課題に対応する支援であり、例えば助成金の活用や研修との組み合わせ等と相乗効果をもたらし得る取り組みと考えられた。

⑨ 活発な帰国研修員等による同窓会

ブラジルには JICA による各種研修に参加した帰国研修員により結成された同窓会が 8 つある。もっとも大きな同窓会であるサンパウロの ABJICA は、2024 年で結成 40 周年であり、約 1,400 名の会員を有する。主に、帰国した研修員が習得した技術や知識のブラジル社会への共有や、研修情報の広報活動、また、今後 JICA 研修に参加予定、あるいは日本への留学予定者を対象とした日本の文化・規範や日本留学の心構え等の研修の実施など活発な活動が行われている。

8 つの同窓会の会長は年 1 回集まって情報交換を行うほか、中南米・カリブ諸国の JICA 研修員の

同窓会である FELACBEJA と交流するなど、同窓会同士のつながりもある。こうした同窓会の活動が、研修での学びの共有や知識の普及等につながり、また日本及び JICA の紹介に大いに貢献していることがうかがえた。

3) ブラジルにおける日系社会連携事業の評価

① 助成金交付事業

交付された助成金は、概して各々の日系団体の事業の目的に貢献していた。移住者支援の観点からは、日系社会支援の地域間格差の緩和にもつながる遠隔地への巡回診療や、生活困窮者や身寄りのない日系高齢者にも資する高齢者福祉に貢献した。コロナ禍の助成金でこれまで交付されていなかった日系団体にも支援が行われたことで、JICA（日本）への感謝の気持ちが高まり、結果、信頼関係の強化に役立った。

他方、日本語教育の促進や日本文化の普及にかかる助成金の意義は、日本語の継承から、親日派・知日派を増やすことに変化しつつあり、その観点からのアプローチを考えることが有効と考えられた。ただし、非日系ブラジル人に日本語学校の門戸を開くことにいまだ躊躇する地域・団体もあった。日本語学校の運営方針の決定権は当事者にあることを原則としつつ、日系団体・日本語学校のネットワークを強化し、様々な運営方針・方法についての情報を広く共有することが望ましいと思われる。

また、世代交代が進むなか、日系移民の歴史を記録する意義は学術的にも深く、本課題に対する助成金交付事業の継続が望まれる。

② 人材育成事業

次世代研修については、日系人としてのルーツや歴史への関心の向上、日系人というアイデンティティの気づき、日本人のみならず中南米の日系人とのつながりの形成等、大きなインパクトがあった。また、帰国研修員が、日系の後輩や友人達に対して、日本での経験を語ることで、周囲の日本への関心を高めることにもつながっていた。他方、世代の進行と現地社会への同化が進行しているブラジルでは、非日系も対象に含めるべきという声も上がっていたが、日系アイデンティティを高める目的からは限定すべきという声もあり、この点は時代の流れと共に今後検討が必要と思われた。

日系社会研修については、日系社会で活躍している人材だけでなく、日本とは若干疎遠になっていた人材や非日系人が、研修を経て日本文化の理解や関心を高め、また、技術等を習得することは、親日派・知日派を増やすことへの貢献が大きいことが確認された。

なお、近年開始された、日系社会研修（日系サポーター枠）については、特に出稼ぎ経験者（あるいはその子ども）が日本に滞在した経験を活かして参加する、または、日本語教師がその技術を活かして参加する形が馴染みやすいと思われた。

4) 現地調査から導出されるブラジルにおける日系社会連携事業に対する提言

日系人集住地域の特徴を踏まえた日系社会連携事業の戦略作り

集住地域の特徴によって日系社会の特徴が異なることに鑑み、例えば、1 世が残る移住地では移

住者の定住支援の文脈で助成金交付事業による高齢者福祉等の支援が必要である一方で、サンパウロ市のように現地社会との同化が進行しているところでは、非日系ブラジル人を含む親日派・知日派の育成を念頭に置いた日本語教育普及や共創パートナーとなりうる人材の育成に重点を置くなど、日系社会連携事業の目的を整理することで、事業が目指すところがより明確になると思われる。ブラジルは国土が広く、日系人集住地域も散在しており、その全容が掴み切れていないと思われたことから、まずは現状把握のための情報収集・確認調査を行ったうえで、支援戦略を作ることは有効である。

日系団体の運営経営改善に向けた日系社会連携事業以外のスキームの活用

日系団体の多くは財政難を抱え、各々が可能な範囲で活動を継続しているが、特に日系病院の財務状況が深刻であった。援協傘下の病院についても、現在は比較的経営が安定している日伯友好病院の利益を傘下の他病院・団体の補填にまわしているものの、赤字経営が続いている現状とのことであった。例えば、こうした病院を含む日系団体に対し、財務分析や経営の助言を行うために個別専門家を派遣する等、日系社会連携事業以外のスキームを活用した支援をあわせて実施することの可能性を検討することが望ましい。

非日系人を含めた幅広い日系社会の捉え方

日系社会は、親日派を増やす強固な基盤である。日系社会のない国で、ゼロから親日派を増やすよりも、はるかに容易に日本最良の市民を増やすことができる。ブラジルのように日系人の世代交代と現地社会への同化が進行しつつある国では、日本語が堪能で日系団体の一線で活躍する人材から、苗字のルーツは日本であるが特に日本とは縁がない日系人まで、多様な人材が存在する。他方、近年、日本好きの非日系人が、県人会や帰国研修員同窓会の最前線で活躍するなど、日系社会は、日系人を軸にしつつも非日系人も含めた親日派の集まりの場になりつつある。時代とともにこの傾向はさらに進むであろうことから、親日の非日系ブラジル人をいかに増やすかが、日本とブラジルの共創パートナーとしての関係性の強化のための鍵である。現在、日系社会研修には非日系ブラジル人の参加が可能であるが、日常会話レベルの日本語力が求められるコースもある。研修事業を活用して親日派を増やすためには、例えば、渡航前に語学の補完研修を行うなど、より多くの潜在的親日派の参加可能性を広げるための対策を講じることも検討に値する。

4.2. パラグアイ

4.2.1. パラグアイ国概況

1) 一般概況

図表 4-4 パラグアイの一般概況

面積	40 万 6,752 平方キロメートル
人口	678 万人 (2022 年、世界銀行)
首都	アスンシオン
民族	混血 (白人と先住民) 95%、先住民 2%、欧州系 2%、その他 1%
言語	スペイン語、グアラニー語 (ともに公用語)
宗教	主にカトリック (信教の自由は憲法で保障)
政体	立憲共和制
議会	二院制 (上院 45、下院 80、任期 5 年)
主要産業	農業、製造業 (自動車部品など)、電力
GDP (名目)	417 億米ドル (2022 年、世界銀行)
一人当たり GDP	6,153 米ドル (2022 年、世界銀行)
経済成長率	0.1 % (2022 年、世界銀行)
物価上昇率	9.8 % (2022 年、世界銀行)
失業率	6.8% (2022 年、世界銀行)
総貿易額	輸出 172.8 億米ドル 輸入 158.1 億米ドル (2023 年暫定値、パラグアイ中央銀行)
対外債務	143.38 億米ドル (2023 年末暫定値 パラグアイ中央銀行)

出典：外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/paraguay/data.html> (2024 年 10 月 25 日アクセス) を基に評価チーム作成。

パラグアイは、ブラジル、ボリビア、アルゼンチンと国境を接する南米の内陸国である。主な産業は、農牧畜業であり、特に日本人移住者が導入し急成長した大豆の輸出量は世界 6 位 (2022 年、国連食糧農業機関 (FAO)、またトウモロコシ、コメ、ゴマ、マテ茶等の農作物の輸出に加え、牛肉の輸出量も世界第 10 位を誇る (2022 年、米国農務省 (USDA))。また、イタイプダムやヤシレタダムなどの大規模な水力発電所を持ち、国内の電力需要を 100%まかなっていることに加え、余剰電力はブラジルに輸出されており、電力輸出は全輸出額の約 4 分の 1 を占めている。農産物は、国際市場の変動に大きく影響されることもあり、2022 年の経済成長率は 0.1%と低迷したが、メルコスールを戦略的同盟と位置付け、加盟諸国間との関係強化に加え、近年、積極的な外資誘致策、低い税率、安価な労働力や電力等を背景に、自動車部品等製造を中心に、日本企業を含めた外国企業の進出が活発化している。しかし、依然として、経済・社会インフラが脆弱なため、持続的な発展の実現には、物流体制の整備や域内統合の推進等の投資と改革が必要とされている。

2) パラグアイ日系社会の概況

① 日本人・日系人の集住地域

パラグアイの日系社会は、1936 年にラ・コルメナ移住地への入植から始まった。第二次世界大戦の勃発により一時中断されたが、戦後 1955 年にチャベス移住地への入植で再開し、1950 年代後半以降、JICA 直営のラパス移住地、ピラゴ移住地、イグアス移住地が建設され、移住が本格化した。その他移住地からの転住、特に商業等を求めた都市部への転住も進み、現在、約 7,000 人の日系人がパラグアイに在住しており、移住地では農業、またアスンシオンやエンカルナシオン、シウダー・デル・エステ等の都市部では、商業、工業、金融業など幅広い分野で活躍している (アスンシオンに約 3 割が在住)。

日本人・日系人が集住している主な地域と入植開始時期等は以下のとおりである。

図表 4-5 パラグアイの主な日本人・日系人の集住地域

主な移住地、日本人／日系人集住地	県名	入植開始	面積
ラ・コルメナ移住地	パラグアリ	1936 年	35km ²
チャベス移住地	イタプア	1953 年	55km ²
アマンバイ移住地	アマンバイ	1956 年	12,993km ²
ラパス移住地	イタプア	1956 年	256km ²
ピラポ移住地	イタプア	1960 年	842,2ha ²
イグアス移住地	アルト・パラナ	1961 年	877.6km ²
ピラレタ移住地	コルディリエラ	1984 年	5,3km ²
エステ市及び近郊	アルト・パラナ	1958 年	149km ²
アスンシオン市及び近郊	セントラル	1916 年	2,465km ²
エンカルナシオン及び近郊	イタプア	-	274km ²

注：太字は JICA 直営移住地。

出典：https://www.jica.go.jp/Resource/paraguay/office/activities/immigrant/02.html（2024 年 11 月 6 日アクセス）。

人口からみると日本人・日系人は、0.1%程度の少数民族ではあるが、パラグアイの輸出総額の約 40%を占める主要農産物である大豆の全生産高の 7%は日系農家で生産されているなど、パラグアイの農業の発展に大きな貢献をもたらしている。

パラグアイでは戦後の移住者が多く、それらの世帯では、現在でも 1 世、2 世が現役で活躍しており、3 世が徐々に社会に出始めたところである。日本人会とのヒアリングによれば、2 世は 1 世の移住当時の苦労を傍で見て、または共に経験していることから、物事の捉え方も似通っているところがあるが、3 世以降は、時代の流れもあって、考え方にも大きな違いが出てきているため、日系社会や日系団体のあり方も転換期にあるとみられる。

② 主な日系団体等

図表 4-5 の日本人・日系人の主な集住地域のうち、ピラレタ以外の 9 カ所に、日本人会があり、各々の傘下に日本語学校²²がある。これに加え、日本文化の普及等を目的に日系 2 世が設立したセントロ日系という日系団体がある。パラグアイの日系社会では、1 世の努力により高い日本語能力を維持してきたため、現在も、各地の日本語学校では日本の国語教科書を用いた国語教育が行われている。しかしながら、世代が進むにつれて日本語で会話をしない世帯も増加しており、また地域の非日系人からも日本語教育のニーズが高まっており、従来の国語教育に併せて「外国語としての日本語教育」の拡充が急務となっている。

また、現在も農業が日系移住地の主な産業となっており、アマンバイ農協、ラパス農協、ピラポ農協、コルメナアスンセーナ農協、イグアス農協の 5 つの日系農協と、アスンシオンにそれらを統括する日系農協中央会、また営農支援・試験研究を担う農牧総合試験場（CETAPAR）もある。

3) 評価対象期間における日系社会連携事業実績

2015-2022 年のパラグアイにおける本調査対象の日系社会連携事業の実績は次のとおりである。

²² ラ・コルメナでは、ラ・コルメナ・パラグアイ日本文化協会において日本語教育が行われている。

図表 4-6 パラグアイにおける本調査対象の日系社会連携事業の実績（2015-2022）

対象	実績	備考
助成金交付事業		
継続助成金	1,466 万円／1 団体（10 件）	2015-2019 年 交付対象は日本人会連合会。ここから 日本語教育と医療福祉に活用
付加助成金	1,227 万円／1 団体（9 件）	2016, 2017, 2019 年 同上
コロナ対策助成金	8,867 万円／12 団体（56 件）	2020-2021 年
経済対策助成金	1 億 1,885 万円／6 団体（8 件）	2022 年
次世代研修	41 名	2015-2019 年実績（中学生 15 名、高校 生 16 名、大学生 10 名）
リーダー育成事業	3 名	2015-2022 年
日系社会研修(通常枠)	45 名	2017-2022 年

出典：評価チーム作成。

調査対象期間において、パラグアイにて JICA 助成金が継続的に交付されていたのは、日本人会連合会のみ、2015-2019 年の総額は 1,500 万円弱であった。これらは、同連合会会員団体を通じ、高齢者福祉事業、日本語教員研修や給与の補填、日本人会の施設整備の補助等に活用された。

また、新型コロナ対策支援、その後の経済対策支援としては、日系人の保護と日系団体の維持存続の視点から、12 団体に対し、計約 2 億円の助成金が交付され、直接的なコロナ対策として日系病院における隔離病棟の整備や必要な検査機器の提供等のほか、各団体の持続的運営に資する設備投資や日本語学校のオンライン講座を可能とする IT 機器や教員の給与補填等に活用された。

人材育成事業については、次世代研修の募集については、主に日本人会連合会が各日本人会等への情報の発信に加え募集・選考支援も担っている。現在、パラグアイの参加枠は、年に中学生 3 名、高校生 4 名、大学生 1 名であり、毎年連合会が地区推薦結果を取り纏め（各地区で作文とスピーチコンテストと面接で選考される）、JICA 事務所が最終決定を行っている。リーダー育成事業と日系社会研修は、連合会が情報発信は行うが、JICA 事務所への直接応募が主である。

4.2.2. 現地調査結果

1) パラグアイ現地調査日程・主なヒアリング先

パラグアイ現地調査は 2024 年 9 月 29 日から 10 月 5 日に実施した。主なヒアリング先は図表 4-7、詳細は別添 3 に示す。

図表 4-7 パラグアイにおける主なヒアリング先

対象	ヒアリング数	備考
助成金交付事業受給団体	4	エステ日本人会・同日本語学校 イグアス日本人会（含むクリニック） イグアス農協 パラグアイ日本人会連合会
次世代研修	6	中学生 2, 高校生 2, 大学生 2
リーダー育成事業	3	—
日系社会研修(通常枠)	8	—

出典：評価チーム作成。

2) パラグアイ現地調査で確認された特筆すべき事項

本項では、現地調査で確認された特筆すべき調査結果について述べる。

① 日系団体の現状と助成金交付事業

上記のとおり、コロナ禍の一時的な助成を除くと、パラグアイにおける同事業は限定的である。戦後の入植であっても移住から 60 年以上の時が経った現在、ヒアリングを行った各団体は、いずれも自立的運営の必要性を認識しており、各々資金確保に尽力している。日本人会連合会からの情報によれば、いずれの日系団体も財政状況は概して芳しくなく、主に会員の会費と日本食祭り等の開催を通じた収入確保、また連合会を通じて交付される移住債権²³の回収金による基金を通じた助成、及び JICA による助成金から運営されている。

日本人会の規模や状況は、直営移住地とそれ以外で異なっている。例えば直営移住地であるイグアス移住地の日本人会は、採石場を有し、同採石事業の収益が大きな収入として運営が賄われている。一方、都市部に移住した他地域からの入植者によってできたシウダー・デル・エステの日本人会は、現役世代は仕事や育児で多忙であることもあって、会員数も限定的になっており、会費と各種助成金を活用して施設の改修を進めるなどして、次世代の取り込みを模索している。

いずれのケースも、交付された助成金は確実に有効に活用され、整備された日本人会や医療施設の設備、農協の試験設備等は活用、また着実に維持管理されており、日系社会の維持・発展に大いに貢献していることが確認された。

各団体は、各々の財政事情の範囲で活動を行っているため、JICA の助成金がなければ運営できないという状況ではないものの、交付を受けることで、活動の質の確保や、長期計画が早期に実現でき、活動の活性化につながっていた。

② 日本語教育の変化：日本語の継承から親日派・知日派人材の育成へ

パラグアイには、9 つの日本語学校があり、主に調査研究に必要な経費、教師合同研修会の実施経費の一部について、断続的に JICA より日本人会連合会を通じて、助成金が交付されている。特に、昨今賃金の低さを一因として日本語教師が不足していることが課題であるが、日本語の継承・普及を考えると授業料を上げることで生徒が減ることは避けたく、学校経営に頭を悩ませている状況にある。このため、助成金交付事業により、教員研修の補填や、講師謝金の補填があることは、学校の存続、ひいては日本語の普及に大変役に立っているとのことである。またコロナ禍では、オンライン教育向けの機器や教材、教員の給与補填について助成金が交付されたことで、遠隔授業が可能となり、各日本語学校の存続が可能となった。パラグアイの各移住地では、現在でも継承日本語として「国語教育」が行われているところもあるが、近年は学習者の日本語レベルも様々であり、また非日系の日本語学習希望者も増えていることから、複式学級にしてきめ細かく見るためには以前より多くの教員が必要な状況となっている。このような状況下では、JICA 海外協力隊日本語教師の派遣の貢献も高いことが確認された。例えば、シウダー・デル・エステ日本語学校では、非日系を対象とする塾を開講し、日本語の普及と資金確保を目指している。このため教員の 1 名を塾専任としており、日本語継承教育担当の教員が限られていた。こうした状況の中で、派遣されている 1 名の隊員の存在なしには運営が回らない状況であった。

²³ JICA が移住者の定着安定支援のため貸し付けた移住投融资と入植地土地年賦金。2015 年に、JICA とパラグアイ日本人会連合会との間で、JICA 移住債権の無償譲渡契約が締結され、譲渡条件として、この債権回収金を日系社会全体に裨益する事業に活用する目的の基金が創設された。

Box4-7 親日派・知日派の育成を担う帰国研修員の日本語学校教師

アスンシオンの日本語学校で日本語教師をしていた日系3世のNさんは、ブラジルにおける汎米教員研修やスペイン語圏日本語大会等 JICA の助成金を活用して実施された研修、また日系社会研修（日本語継承教育I）に参加し、日本語教師としての知見を深めてきた。帰国後、現在はアスンシオン日本人会傘下にある日本文化を伝えることを目的とする Japan Bunka の校長として、和太鼓、漫画等の日本文化の普及、また非日系人や日本語を話せない日系人向けの日本語教育に従事している。

同学校には、日本の文化が好きな人、今後日本への留学を検討している人等、現在 200 名以上の生徒が在籍しており、その数は年々増加している。校長としては、日本語継承目的の日本語学校の多くは、生徒が減り、経営が難しくなっていることから、Japan Bunka を盛り上げることで日本人会（含む傘下の日本語学校）の経営改善にも繋げたいと考えている。N さんの現在の仕事には、日系社会研修で学んだ日本語や日本文化の指導方法・技術は、全て活かしているという。日本に行ける可能性があることは、日本語を学ぶ生徒のモチベーション向上にもつながるため、是非日系・非日系問わず、日本のサポーターを増やすためにも研修機会を継続・提供して欲しいと、校長は切に願っていた。

出典：日系社会研修帰国研修員ヒアリング。

③ 戦略的な研修参加者の選定の事例

2024 年 8 月、イグアスの国道沿いに道の駅がオープンした。同道の駅は、観光庁、農業省、JICA 日系社会研修の帰国研修員を含むイグアス移住地及び周辺の人々によるイニシアティブで開設されたものである。道の駅の構想は、2016 年頃から始まり、イグアス日本人会、観光省、市役所、農業省等が連携して検討を行い、日本人会の会員が土地を提供し、観光省予算で建屋が建設された。建物は 2018 年に完成し、市観光局がインフォメーションセンターを開設していたところ、2022 年、2023 年に日系社会研修「次世代の農業を担い革新をおこす人づくりコース」に関係者を派遣し、日本で道の駅の運営方法や見せ方等を学んだ帰国研修員が、その学びを活かして、道の駅の準備を進め、2024 年のオープンに繋げることができた。

道の駅の開設は、対パラグアイ国別開発協力方針の重点課題である、持続的経済開発や地域格差の是正につながる取り組みと考えられるが、本事例のように関係者の研修参加を戦略的に促すことは、長期アウトカムである共創パートナーの育成につながるものであったと考えられる。このような事例を増やすことができるよう、数ある日系社会研修のテーマと重点課題を参照し、戦略的に参加を促すことは有益と考えられる。

Box 4-8 活躍するパラグアイの帰国研修員日系医師たち

パラグアイには日系医師が少なからずおり、地域の医療現場で貢献している。例えばリーダー育成事業に参加して日本で内視鏡手術の技術を深め、博士号を取得した外科医師は、帰国後、その技術を活かし、年間約 300 例の内視鏡手術を手掛けるようになった。同医師が勤務する前には年 50 例程度であったが、助成金により同病院に内視鏡の供与もあったことから、その機材と同医師の技術のお陰でケアできる患者が 6 倍にも増え、地域の医療改善に大きく貢献した。また、日系社会研修で麻酔にかかる知見を深めた麻酔科医の医師は、パラグアイの複数の病院をかけもちして勤務する傍ら、アメリカの医療ボランティア団体に所属し、年に 4-5 回中南米諸国の病院を訪れ、現地の麻酔科医に技術を教えたり、実際に施術したりするボランティア活動を行っている。これらは人材育成事業の成果が、個々の能力強化に留まらず、地域に裨益している好事例といえる。

出典：日系社会研修、リーダー育成事業帰国研修員からのヒアリング。

④ 周辺国の日系人との交流機会の有効性

多感な中学生・高校生時代に次世代研修に参加した帰国研修員からは、パラグアイ人でもなく、日本人でもなく、「パラグアイの日系人」であるというアイデンティティの涵養に、研修が大いに寄与していることが確認された。研修に参加している周辺諸国の同世代の日系人とアイデンティティや、自国の日系団体の活動の話をすることで相互に刺激を受け、帰国後に、ほぼ活動が止まっていた日本人会の青年会の活動活性化についてリードを取って話を進め、立て直した事例もあった。また、2024 年 9 月にアスンシオンにおいて汎アメリカ日系人大会（COPANI）が開催された。同大会の準備・運営には多くの帰国研修員が関わっており、約 500 名もの日系人が参加した本イベントの成功は、大きな自信につながっていることが伺えた。COPANI は、帰国研修員同士が再会したり、各々の活動について共有したりする機会となっていた。日系社会の世代交代が進むなか、若手の日系人の国境を越えたつながりが生まれることは、日系社会に貢献したいという思い、ひいては日系社会を含む中南米社会の発展に資する人材育成につながる礎を築くことに大いに貢献していた。

3) パラグアイにおける日系社会連携事業の評価

① 助成金交付事業

本調査で踏査・ヒアリングした団体に対する助成金で購入された施設・機材は、概して有効に活用されていた。助成金交付事業を通じて日系団体の活動が強化されることは、日本と日系社会の信頼関係の維持、日系社会を含む地域の維持・発展、また日本のプレゼンスの向上に大きく寄与している。また、コロナ禍の助成金では、しばらく助成金の供与はなかった団体にも交付され、各団体の活動継続に不可欠な資機材や活動継続経費を賄うことができ、日本と日系社会の信頼関係の強化に役立ったことがうかがえた。

パラグアイにおいて、日系移住者が培った日本人への信頼は非常に高いことから、日系社会の維持・発展は、パラグアイにおける日本のプレゼンス向上にも大いに貢献すると考えられる。この意味で、助成金交付事業の継続は、日系社会連携事業が目指す長期アウトカムである、親日派・知日派の育成に大いに役立つものと考えられる。日本人会連合会及び訪問した日本人会の話から

は、パラグアイの日系団体は、連合会による JICA 移住債権の管理及び同債権を基金等の活用と、会員の努力により自立運営されていることが確認できたが、「日本と日系社会の信頼関係の維持」の側面、また戦略的に日系社会強化を行うことで確実な日系社会を含む地域の維持・発展を目指す点から、助成金交付事業の意義は大きい。

② 人材育成事業

人材育成事業は、日系人としてのルーツや歴史への関心の向上、日系人というアイデンティティの気づき、日本人のみならず中南米の日系人とのつながりの形成等、大きなインパクトがあることが確認された。特に世代交代が進む現在、その意義は高い。

また、研修から帰国後に日系社会の活動への貢献が増したり、自分の将来を考えるきっかけになっていたことに加え、日系人会青年部の活動強化の例など、帰国研修員が日系の後輩や友人達に対して日本での経験を語ることで、周囲の日本への関心を高めることにもつながっている事例も多く、個々人の経験に留まらない効果も確認された。なお、研修参加者について、特に非日系人も対象に教えている日本語教師からは、同じ日本語学習者として、次世代研修にも非日系人の生徒の参加を可能としてもらえると学習意欲も上がるため、是非検討して欲しいとの声があった。他方で、次世代研修の目的には日系人としてのアイデンティティの醸成があることから、非日系人を含めることは適切でないという意見もあり、この点については、本研修に期待する方向性に応じて、今後検討していく必要がある。

また、リーダー育成事業については、大学院留学のための奨学金と捉えられ、個々の専門性を高める目的で応募する人もそれなりにより、さらに専門性を高めるため、日本に残る人、海外に渡航する人も多いとの話もあった。この点からは、将来の日系社会を担い得るリーダーを育成するという目的よりは、日本、パラグアイに限らず、世界のどこかで日系人が活躍することへの貢献の意義があると考えられた。

最後に、日系社会研修については、帰国研修員からの個々の学びの評価は高いといえる一方で、数か月の期間、職を離れたり、家庭を離れたりすることが難しい人が多いこと、また日本語が必須条件と認識されているために応募者が限定的である傾向がみられた。

4) 現地調査から導出されるパラグアイにおける日系社会連携事業に対する提言

世代交代の過渡期にあるが故の日系社会連携事業の位置づけの整理

パラグアイの日系社会は、現段階では、1 世の方々も多く、また 1 世と考え方の近い 2 世が現役であるため、これからが過渡期と考えられる。ブラジルの例等も参照し、地域の特徴や、日本文化・言語の維持度合いに応じた日系社会連携事業の方向性を検討する必要がある。

共創パートナーの育成を意識したリーダー育成事業対象者の選定

リーダー育成事業の対象は中南米全体で年 10 名であり、パラグアイからは例年 2 名程度が選定されており、応募は通常 3-4 名である。対象条件は、概ね 3 世まで、かつ日常生活に支障のない日本語能力を有することとなっていることから、応募が殺到する状況になりにくい要因と推測される。

現地調査でヒアリングした同研修の帰国研修員は、いずれも帰国後に医療分野や、環境分野等

各々の専門分野で活躍しており、パラグアイ社会に寄与していた。現状では、応募者も限られているため、特に優先分野等も設定されていないが、本事業に期待するアウトカムにつながる戦略を考えるとすれば、例えば、対パラグアイ協力における重点分野を優先する、あるいは帰国後に日系社会への貢献や、日本とパラグアイの架け橋となる具体的活動を行うことを条件とするといった方法も一案であろう。

帰国研修員のフォロー・活用

日系社会連携事業のインパクトを継続的にモニタリングし、またその成果をさらに長期アウトカムに結び付けていくためには、渡航前の意識付けに加え、研修から帰国後のフォローが重要となる。

パラグアイには、日系・非日系に関わらない、JICA 帰国研修員の同窓会があり、JICA は運営を支援している。同会では、日本の体験について語ったり、自分達の学びを実践した例を紹介したりといった活動が行われているが、過去 4,000 名近くの帰国研修員がいるにもかかわらず、会に所属し、活動している人が限られていることは同会でも課題とされている。ヒアリングを行った日系社会研修の帰国研修員、なかでも地方からの研修参加者は、同窓会の存在を知らない、または存在は知っているが特に参加していなかった。

帰国研修員の共創パートナーとしての活躍推進のためには、まず彼らの動向や、活動の展開について情報を蓄積し、必要に応じ体系的にフォローすることが有効と考えられるが、その際に同窓会の活用は有効であろうと考えられる。

また、JICA パラグアイ事務所では、最近日本から帰国し活躍している人材の表彰をしている。最近の例では、日系社会研修で福岡方式の廃棄物処理方法を学び、パラグアイでも実践しようと尽力している帰国研修員が表彰された。Facebook で我こそはという人からの応募を募り、事務所で評価・選定しているとのことで、これにより帰国研修員のモニタリングにもつながっている。こうした取り組みは、帰国研修員の活躍の好事例の確認に加え、将来の研修員に向けた広報にもつながることから、継続が望まれる。

4.3. ボリビア

4.3.1. ボリビア国概況²⁴

1) 一般概況

図表 4-8 ボリビアの一般概況

面積	110 万平方キロメートル
人口	1,222 万人 (2022 年、世界銀行)
首都	ラパス (憲法上の首都はスクレ)
民族	先住民 41%、非先住民 59%
言語	スペイン語及びケチュア語、アイマラ語を中心に先住民言語 36 言語
宗教	国民の大多数 (95%以上) はカトリック教徒
政体	立憲共和制
議会	二院制 (上院 36 名、下院 130 名)
主要産業	天然ガス、鉱業 (亜鉛、銀、鉛、錫)、農業 (大豆、砂糖、トウモロコシ)
GDP (名目)	431 億米ドル (2022 年、世界銀行)
一人当たり GDP	3,523 米ドル (2022 年、世界銀行)
GDP 成長率	-3.1% (2022 年、世界銀行)
物価上昇率	3.1% (2022 年 12 月、国家統計局)
失業率	5.1% (2021 年、世界銀行)
総貿易額	輸出 126.17 億米ドル 輸入 118.55 億米ドル (2022 年、国家統計局)
対外債務	131.12 億米ドル (2022 年 10 月、中央銀行)

出典：外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bolivia/data.html#section1> (2024 年 9 月 3 日アクセス)。

ボリビアは、1982 年に民政移管を達成し、民主化・市場経済化に向けた改革を実施してきたが、市場経済化に伴う貧困や貧富の格差問題の悪化により、先住民を中心とする反政府運動が頻発化した。2005 年 12 月、左派の社会主義運動党 (MAS) のモラレス候補が大統領選挙に当選し、2006 年 1 月、ボリビア史上初の先住民系大統領が誕生した。モラレス大統領は、貧富格差の是正、先住民の権利拡大を掲げ、新憲法制定の実現を目指した。2009 年 1 月の国民投票の結果を受け、同年 2 月、先住民の権利拡大、地方分権推進、農地改革・土地所有制限、天然資源の国家による所有を定めた新憲法が公布された。同年 3 月、新憲法発行に伴い、国名が「ボリビア共和国」から「ボリビア多民族国」に変更された。2019 年 10 月の大統領選挙でもモラレス大統領の当選が発表されたが、開票手続きにおける不正の疑いにより抗議運動が激化し、同年 11 月 10 日、同大統領とリネラ副大統領は辞任を発表した。同 12 日、右派のアニエス暫定大統領が就任し、13 日、暫定政権が発足した。2020 年 10 月 18 日、やり直しの大統領選挙が行われた結果、MAS 党のアルセ候補が当選し、11 月 8 日、大統領に就任、左派政権に回帰した。

モラレス政権前のボリビアの外交基本方針は、近隣諸国及び米国など先進諸国との関係強化であったが、モラレス政権下、対米関係や地域統合に消極的対応が行われた一方で、ベネズエラやキューバへの接近やイラン、中国、ロシアなど新たなパートナーとの関係強化が図られた。

ボリビアの経済は、農業 (大豆、ひまわり、砂糖等)、天然資源 (金、亜鉛、鉛、銀、天然ガス等) などの一次産品の輸出が総輸出の約 8 割を占め、国際価格の影響を受けやすい構造である。2000 年代初頭から 2014 年までは国際資源価格の高騰により安定した経済成長、外貨準備高増大などマクロ経済が健全化したが、2014 年後半以降、輸出額の 40%以上を占める天然ガスの国際価格急落

²⁴ 本項はすべて、外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bolivia/data.html#section1> (2024 年 9 月 3 日アクセス) の情報を基に記載した。

により、資源収益が減収し、また公共支出の増加により財政赤字が問題になった。政府は、借款増加による公共投資の維持、国内産業の多角化、外国投資の積極的誘致等の政策を実施しているが、短期的な財源の確保には対外債務と対内債務に頼らざるを得ない状況である。2021 年末時点で 47 億米ドルであった外貨準備高も、2022 年 8 月時点で 38 億米ドルまで減少した。なお、2011 年以降、固定為替相場制を採用している（1 米ドル＝6.86 ボリビアーノス）。

2) ボリビア日系社会の概況

ボリビアへの最初の日本人移民は、1899 年のペルーからボリビアへの転住者であった。当時、ペルーでの労働環境が厳しかったため、一部の日本人がボリビアの奥アマゾン源流地帯のゴム産業に従事するために再移住した²⁵。彼らを父祖とする日系ボリビア人のほとんどは混血日系人であり、日本語も日本の伝統文化も受け継がなかったが、ラパスに定住して商業活動に従事した日本人は、子女に日本語教育を与えた²⁶。戦後、1956 年に日本とボリビアの間で移住協定が締結された。「サンフアン移住地」と「オキナワ移住地」が設立され、本土からは未来を新天地に求めた人々が、沖縄からは米軍基地の拡張のために農地を失った農民がボリビアに移住した。当時、ボリビアでは急進的な社会・経済改革が進行中であり、それまでほとんど開発されていなかった東部低地のサンタクルス地方で農地改革が実施され、集団移住者に無償で土地が分譲された²⁷。2014 年は日本とボリビアの外交関係樹立 100 周年²⁸の記念式典や記念文化事業が、2019 年は日本人ボリビア移住 120 周年の記念式典等が開催された。

現在、ボリビアに住む日系人は約 13,000 人と推定され²⁹、サンタクルス、ラパス、コチャバンバ、リベラルタ、トリニダードなどに居住している。農業や商業、教育などの分野で活躍するだけでなく、政治や外交、社会活動で活躍する日系人も多い。

3) 評価対象期間における日系社会連携事業実績

2015-2022 年度のボリビアにおける本調査対象の日系社会連携事業の実績は次表のとおりである。

²⁵ 一般社団法人日本ボリビア協会「ボリビアへ渡った日本人たち」https://nipponbolivia.org/datos/datos_5（2024 年 9 月 3 日アクセス）。

²⁶ キクムラ・ヤノ、アケミ編.2002.『アメリカ大陸日系人百科事典—写真と絵で見る日系人の歴史』 in ディスカバー・ニッケイ「戦前の日本移民」<https://discovernikkei.org/ja/journal/2014/3/14/bolivia/>（2024 年 9 月 3 日アクセス）。

²⁷ 同上。

²⁸ 1914 年 4 月 13 日、通商条約の締結により外交関係樹立。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bolivia/data.html#section1>（2024 年 9 月 3 日アクセス）。

²⁹ 外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bolivia/data.html#section1>（2024 年 9 月 3 日アクセス）。

図表 4-9 ボリビアにおける本調査対象の日系社会連携事業の実績（2015-2022）

対象	実績	備考
助成金交付事業		
継続助成金	1 億 26 万円／2 団体（61 件）	2015-2022 年度
付加助成金	1,396 万円／1 団体（1 件）	2021 年度
コロナ対策助成金	5 億 4,417 万円／8 団体（25 件）	2020-2021 年度
経済対策助成金	9,614 万円／6 団体（8 件）	2022 年度
次世代研修	15 名	2015-2019 年度
リーダー育成事業	5 名	2015-2021 年度
日系社会研修	43 名	2017-2023 年度

出典：JICA 提供資料より作成。

調査対象期間における継続助成金は、サンフアン日本ボリビア協会（以下、サンフアン日ボ協会）とオキナワ日本ボリビア協会（以下、オキナワ日ボ協会）の医療衛生対策のため、診療所運営事業（医師給与、特約医謝金、看護婦給与、診療所医運営）と高齢者福祉（オキナワ日ボ協会のみ）に交付された。また、「新型コロナウイルス感染症緊急対策助成」経費は、移住地の両日ボ協会に加え、サンタクルス中央日本人会、ボリビア日系協会連合会、コロニア沖縄農牧総合協同組合、サンフアン農牧総合協同組合、ボリビア沖縄県人会、ラパス日本人会が交付を受けた。

4.3.2. 現地調査結果

1) 現地調査日程・主なヒアリング先

ボリビア現地調査は 2024 年 9 月 29 日から 10 月 5 日に実施した。主なヒアリング先は図表 4-10、詳細は別添 3 に示す。

図表 4-10 ボリビアにおける主なヒアリング先

対象	ヒアリング数	備考
助成金交付事業受給団体	7	ボリビア沖縄県人会、ボリビア日系協会連合会、サンフアン日本ボリビア協会、サンフアン農牧総合協同組合、オキナワ日本ボリビア協会、コロニア沖縄農牧総合協同組合、ラパス日本人会（訪問順）
次世代研修	4	—
リーダー育成事業	2	—
日系社会研修	13	—
その他関係機関・関係者	3	JICA ボリビア事務所サンタクルスオフィス、沖縄県人会元会長、JICA ボリビア事務所（同上）

出典：評価チーム作成。

2) ボリビア現地調査で確認された特筆すべき事項

日系社会形成の経緯の違いから、サンタクルス経済圏とラパス経済圏における日系社会の特徴は大きく異なる。そのため、はじめにボリビア現地調査で確認された各経済圏に特徴的な事項、最後に両経済圏に共通する特筆すべき事項を示す。

① サンタクルス経済圏に特筆すべき事項

サンタクルス経済圏の日系社会は、主にサンタクルス市の日系団体、サンフアン移住地、オキナワ移住地で構成されている（Box4-9 参照）。同経済圏の日系社会は、現在、第 2 次世界大戦後に 2 つの計画移住地に入植した移住者（1 世）から、2 世、3 世への世代交代の過渡期にある。

Box 4-9 サンタクルス経済圏の日系団体の概要

サンタクルス市

サンタクルス市（Santa Cruz de la Sierra）は首都ラバス圏と並ぶボリビア最大級の都市であり、面積は325.57km²、人口は186万人（2024年現在）³⁰である。1956年、アマゾン地域に移住後、サンタクルス市に転住した戦前移住者（20-30人程度）と、オキナワ移住地、サンフアン移住地に入植後サンタクルス市に転住した戦後計画移住者間の親睦・相互扶助、日系子弟日本語教育団体として、同市にサンタクルス中央日本人会（Centro Social Japonés de Santa Cruz）が設立された³¹。また、1974年と1988年にそれぞれ発足したサンタクルス州日ボ文化協会と全ボリヴィア日系連合協会を1996年に一本化し、1999年に法人格を取得したボリビア日系協会連合会（Asociación de Nikkei Boliviano-Japonesa）が置かれている。同連合会の目的は、日ボ両国人の友好関係の増進、ボリビアに在住する日本人及び日系人、その家族の団結の促進、文化、徳育、体育の促進、教育の促進及び教育施設の設置、日本語・日本文化普及の促進などである³²。

サンフアン移住地³³

サンタクルス県イチロ郡サンフアン市サンフアン移住地は、サンタクルス市から移住地中心地まで138kmの地点に位置し、総面積は27,132haである。1955年に最初の移民団（西川移民）が入植し、1957年に計画移住が開始された。入植者の主な出身県は、長崎、福岡、北海道、高地、熊本であった。1965年、移住地内の日系人を対象とした行政事務を取り扱う任意団体である「サンフアン村」が結成され、ボリビア政府に自治権を認められた。その後、1977年法人格を取得し、サンフアン日ボ協会（Asociación Boliviano-Japonesa de San Juan）が発足した。同協会は、サンフアン学園（Unidad Educativa San Juan）とサンフアン農牧総合協同組合（Cooperativa Agropecuaria Integral San Juan de Yapacani Ltda. (CAISY Ltda.)) を傘下に持つ。農業従事者がほとんどで、養鶏、稲作、大豆、柑橘類などの多角経営が行われている。このほか、日本料理店や日本製品など商業従事者も少数いる。2001年、移住地を中心としたサンフアン市が国会承認を受け、2005年から自治政府として機能している。市の面積は1,564km²、人口は9,191人である一方で、2016年10月時点の移住地の日系人の人口は259戸731名（うち移住者（1世）は226名）と、人口統計上、日系人はマイノリティである。

オキナワ移住地³⁴

オキナワ移住地は、サンタクルス市郊外にあり、第1移住地（21,800ha）、第2移住地（16,700ha）、第3移住地（8,333ha）の3つに分かれ、総面積は46,800haである。第二次世界大戦後、アマゾン地域のリベラルタの沖縄出身の戦前移住者の働きかけにより、1954年に当時の琉球政

³⁰ <https://worldpopulationreview.com/cities/bolivia/santa-cruz>（2024年11月11日アクセス）

³¹ サンタクルス日本人会. 2024. サンタクルス中央日本人会概要（2024年8月1日現在）

³² ボリビア日系協会連合会. 2024. ボリビア日系協会連合会概要 Asociación de Nikkei Boliviano-Japonesa（2024年8月1日現在）

³³ サンフアン日本ボリビア協会. 2017. 「サンフアン日本人移住地」、サンフアン移住地 - Wikipedia（2024年11月15日アクセス）から作成。

³⁴ オキナワ移住地 - Wikipedia（2024年11月11日アクセス）、オキナワ日本ボリヴィア協会 - WUN | 世界のウチナーネットワーク | Worldwide Uchina Network（同）などから作成。

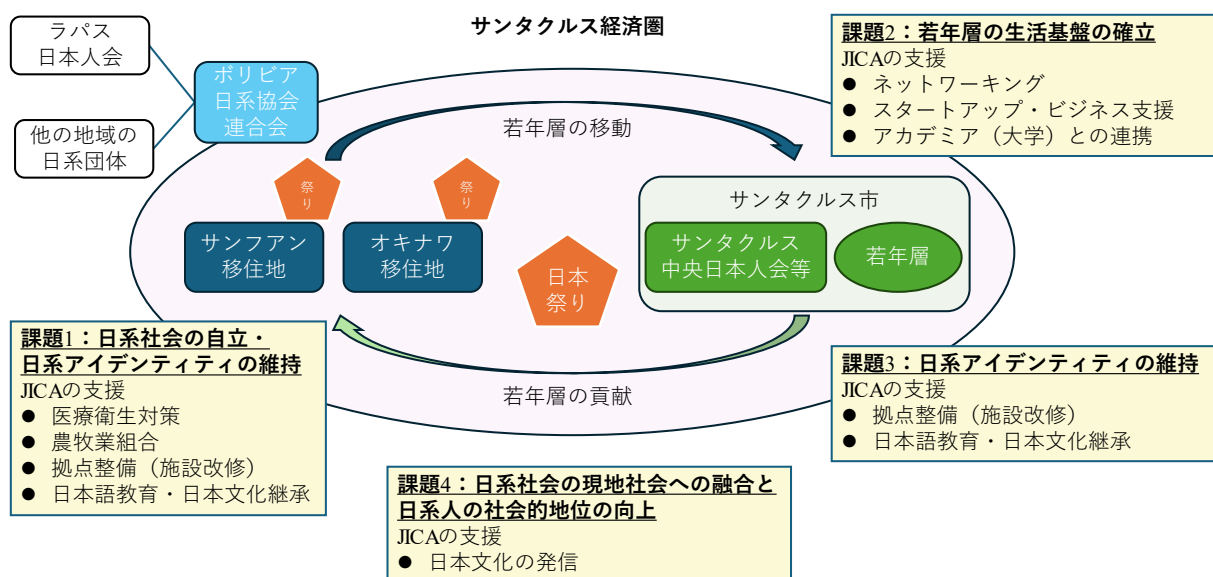
府による計画移民が行われ、主要産業は農業と牧畜業である。1971年、3つの移住地にあった農業協同組合を統合し、「コロニアオキナワ農牧総合協同組合」(Cooperativa Agropecuaria Integral Colonias Okinawa: CAICO)が発足した。CAICOの行政部が1978年に独立して、オキナワ日ボ協会(Asociación Boliviana Japonesa de Okinawa)が組織され、現在まで自治活動、移住地内道路維持管理、学校運営(オキナワ第一日ボ学校、ヌエバ・エスペランサ日本語学校)、育英事業などを行っている。他方、1998年4月に3つの移住地と周辺19村落を合わせたワルネス郡オキナワ村の発足がボリビア政府により承認され、2000年に正式発足した。2001年のボリビア統計局調査によると、行政区分のオキナワ村の人口は11,661人である一方で、2004年の日系コミュニティの調査では、3つの移住地の合計の人口は約6,000人、うち日系人は878人と、人口統計上、日系人はマイノリティである。

(ア) 日系社会をサンタクルス経済圏全体で捉えた事業の実施

サンタクルス経済圏における JICA の日系社会連携事業は、地域開発的な視点でサンタクルス経済圏全体の日系社会の社会経済発展を支援していた。個別の支援によるそれぞれの効果はもちろん、サンタクルス経済圏においては、JICA が個別の支援をつなぐ仕掛けを講じることで、点が線となり、相乗効果を発揮し、将来的に地域全体にインパクトを生む可能性も感じられた。現地調査で確認したサンタクルス経済圏における日系社会の課題とそれらに対する JICA 支援の全体像は図表 4-11 のとおりである。

世代交代が進行し、自治体への行政サービスの移管が進む移住地では、日系アイデンティティを維持しながら、いかに日系団体が自立していくかが課題である(課題1)。また、移住地からサンタクルス市に若年層の移動が進む中で、そうした若年層の生活基盤の確立と日系アイデンティティの維持も課題となっている(課題2・3)。特に、ボリビアではマイノリティである日系人が、恵まれた雇用の機会を得ることは必ずしも容易ではないため、生活基盤の確立のための支援が重要となる。さらに、サンタクルス経済圏全体としては、日系社会の現地への融合を促進し、日系人の社会的地位向上を図ることが課題となっている(課題4)。なお、移住地からサンタクルス市への若年層の移動が進む一方で、JICA の支援を受けた事業に参加した日系青年による移住地の貢献等も見られている。

こうした課題に対して JICA が実施している移住地支援、若年層への支援、現地社会への融合の促進の内容について次に述べる。



図表 4-11 サンタクルス経済圏における日系社会の課題と JICA 支援

出典：評価チーム作成。

(イ) 移住者への支援から日系社会が自立するための支援へ

世代交代が進む中、JICA 支援がこれまでの移住者への医療や高齢者福祉に対する支援から、日系社会が自立するための支援へ移行することが、日系社会により期待されていた。これは、2001 年にサンフアン市（自治体：municipio）が設置されたことも影響していると思われる。サンフアン移住地では、入植からこれまで、サンフアン日ボ協会が日系人に対する医療を提供してきたが、政府が診療所を設置し、質に課題はあるものの、一次医療を提供するようになった。サンフアン日ボ協会は、財務的持続性も考慮し、サンフアン診療所を閉鎖した。診療所の 3 分の 2 を市の診療所として市に移管することで、協会の会費負担を減らし、他方、非日系地域住民はこれまでよりも整備された診療所を使用できるようになる。残りの建物では、日系医師が元診療所のスタッフとともに「日系ボリビア医療センター」を立ち上げ、日ボ協会から医療機器を借用して、地域に医療を提供することになっている。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、2 つの移住地の農牧総合協同組合の生産と販売が大きく落ち込み、安心・安全な農畜産物を供給するための資金調達が困難になったため、JICA から施設整備・機材調達のための助成金が交付された。助成金により調達された機材は、本調査時点でもなお、新しい農業技術の試行や調査研究能力の向上に寄与し、日系農家や農業研究所の収益向上につながっていた。

Box 4-10 「コロナ対策助成金による導入機材の今日における活用」に関するヒアリング結果

- サンプアン農協では、交付された助成金により大雛育成場を建設した。農協はそれまで初生雛を各養鶏家に届けていた。各養鶏家の育て方がバラバラで、卵の品質の標準化が課題であったこと、また、新しく事業を始める個人養鶏家が、個別に初生雛、大雛、成鶏用の施設を整備するよりも農協で大雛を育成する方が品質の標準化が図れるとのアイデアから、助成金を申請した。建設された大雛育成場により、全体の約 25%の大雛を組合員に届けることができるようになった。成果を確認後、農協の資金で 2022 年度、2023 年度と徐々に増やす予定であったが、国の経済状況が不安定になり、今のところ見送っている。このほか、助成金交付事業によりもみ殻に付加価値をつけるためのもみ殻燐炭機を購入した。燐炭自体を養鶏の飼料に混ぜると、鶏の腸内環境が良くなると言われている。また、もみ殻を単に鶏糞に混ぜて肥料にすると、アンモニア臭が消え、飼料も軽くなり、扱いやすいという利点も見いだせた。この成果を踏まえ、農協で大きな燐炭機を購入するプロジェクトを計画している。

出典：日系農牧業協同組合ヒアリング。

(ウ) 若年層の流出対策

移住地では依然として長男が土地を継ぐことが多く、それ以外の子女はサンタクルス市で進学し、生計の糧を得ることが多い。加えて、ボリビアの経済状況の悪化に伴い、若年層の出稼ぎによる国外への流出が深刻になっている。JICA は、移住地の若年層が移住地やボリビア国内で自立した生活を送るために以下のような様々な仕掛けを講じていた。

国内ネットワーキングとして、JICA がコロナ禍直前に立ち上げた ANIMO (Amigos Nikkei en Movimiento) により、コロナ禍でもオンラインミーティングによる若者のネットワーキングが可能になった。現在、ANIMO には約 200 名の若者が参加している。また、出身県とのネットワーキングのため、JICA によりオキナワ移住地から沖縄県への飼料輸出を契機に、沖縄県につながる若者を対象としたスタートアップのためのワークショップやビジネスアイデアコンテストなどで構成される「Okinawa to 沖縄プロジェクト」が実施された。さらに、JICA により、起業に関心のある日系青年を対象とした、Nikkei NINJA と称するスタートアップ支援が実施されている。第 2 回 Nikkei NINJA セミナー・ワークショップ (2024 年 1 月開催) には、中南米諸国から計 40 名 (ボリビアからは 9 名) が参加した。

JICA は、国立ガブリエル・レネ・モレノ大学のディプロマコースの「日本の開発」講義も支援している。JICA 関係者や日本の有識者がボリビアの国立大学で講義をするなど、小さくとも着実な活動の積み重ねで、アカデミアでも日本人や日系人が注目される機会が増える。各界におけるこのような努力により、日系社会に対する信頼感が深まり、日系人の社会的地位の向上にもつながると思われる。

Box 4-11 ある日系青年の将来展望

Aさんは、国立ガブリエル・レネ・モレノ大学学部生の時、素晴らしい教員に出会い、勉強を続けることにした。現在、国立大学の短期ディプロマコースに通っており、将来は、実家の個人相手（B to C）の商売を企業対象（B to B）に拡大し、サンフアン移住地とオキナワ移住地での一村一品プロジェクトなど、日系社会を絡めた事業をするか、あるいは大学教員になることにも興味がある。2024年度の日系社会研修「中小製造業の企業経営者に学ぶ日本の経営管理」に参加し、日本の会社に話を聞いたり、四国のグローバルモデルを学んだりする予定である。ディプロマコースで日本の経営モデルの理論を学んだが、その実際が見られると期待している。修士課程は日本で履修したいと考えている。ボリビアでは日本の経営モデルは素晴らしいと言われるが、具体的に知っている人は少ないため、日本型経営モデルを学び、ボリビアに広めたいとした。

出典：次世代研修帰国研修員ヒアリング。

JICAは、人材育成事業やスタートアップ支援セミナーに参加した日系青年による移住地への貢献も支援している。人材育成事業など点の支援にとどまらず、様々な仕掛けで若い世代のイニシアティブを支援することは、次世代日系人リーダーの育成につながると思われた。同時に、これら若い世代のイニシアティブは、その成否に関わらず、移住地の活性化に貢献すると思われた。

Box 4-12 JICAによる若い世代の日系人リーダーの育成

第2回 Nikkei NINJAに参加したBさんは、同プログラムに参加したことで考え方が「開いた」という。Nikkei NINJAでは、グループで起業のアイデアを議論し、中古の洋服のデザインを変え、日本の藍染めなどを施して販売する計画を考えた。このプログラムは、経営について深く考える学びになった。Bさんは、この学びのうえに、オキナワ第1移住地の日系人3人で道の駅プロジェクトを立案し、企画書をJICAに提出した。道の駅プロジェクトの第1段階では、まず何を販売するかを計画し、第1、第2、第3移住地の産品を調査した。商品開発の候補は農産物と菓子と考えているが、食品には賞味期限があることも考慮し、最適のビジネスモデルを検討中である。道の駅を設置する場所は、移住地外の人の往来が多い幹線道路沿いの日ボ協会に入る入口（日本食堂の隣）を考えている。道の駅を手始めに、将来的には観光開発も行い、第1移住地の経済への貢献だけでなく、第1移住地の日系人が地元を誇りに思える取り組みに繋がりたいと考えていた。

出典：次世代研修帰国研修員ヒアリング。

(工) 現地社会への融合

2019年頃、サンタクルス経済圏の日系社会の発展のためには、それまで独自に活動を実施していたサンタクルス市、サンフアン移住地、オキナワ移住地の日系社会が一体となり、日系人の存在感を増すことが重要との気概が2世代に広まった。3拠点に分散した活動だけでは、サンタクルスの現地社会で日系人の存在感が十分に示せないとの見立てからである。3拠点の協働が具現化したのは、2024年9月7日、ボリビア日系協会連合会が主催し、3拠点が協力してサンタクルス市内で開催した日本祭りであった。日本祭りの開催はJICAも後援し、入場者は8,000名に上っ

た。入場料は徴収せず、その代わりとして（当時サンタクルス県で発生していた）大規模な森林火災の被災者への寄付を集めたことで、日本人と日系人がさらに敬意を集めたとのことである。

② ラパス経済圏に特筆すべき事項

ラパスの日系社会は、第2次世界大戦時に資産を凍結されたり、強制収容されたりする同胞を目の当たりにした戦前の移住者につながる日系人と、駐在者や近年の移住者（1世）が混在することが特徴である。ラパス経済圏の日系社会へのJICAの支援は、研修員の受入れが中心であり、助成金交付事業はラパス日本人会へのコロナ対策助成金に限定されていた。現地調査時点でラパス日本人会にJICA海外協力隊員も不在であった。先述したサンタクルス経済圏における、複数の日系団体の協働を目指した様々な分野・レベルのきめ細やかな支援とは異なり、JICAはラパス日本人会自らが活動を実施するために必要な人材育成事業とコロナ対策助成金による同会の施設改修、日本語学校のオンライン環境整備など、ラパス日系社会の再興のための側面支援に徹しているようにみえた。

Box 4-13 ラパス経済圏の日系団体の概要

ラパス市（Nuestra Señora de La Paz）は、行政・立法府のあるボリビアの事実上の首都である（憲法上の首都はスクレ）。市域は472 km²、市域の人口は76万人である（2012年現在）。中心街の標高は3600 m 強であり、すり鉢状の地形である。大まかにすり鉢の底の地域に高所得者が、縁の部分に低所得者が住んでいる。現在も人口は増え続けており、隣のエルアルト市に市街地が拡大し、ラパス経済圏を形成している。市街地の上と下で約700 mの標高差がある。1910年頃からラパスで店を構えたペルーからリベラルタに入った日本人移住者の一部や、工場労働者として働いて蓄えた資本で商売を始めた日本人がラパスに居を構えた。1930年末には日系の商店が30店舗以上ラパスにあり、日本からの輸入製品を取り扱った。しかし、1942年、連合国側であったボリビアは、日本と国交を断絶した。資産が凍結されたためにボリビアに帰化したり、店の名義をボリビア人名義に変更するなどした日本人もいた。1944年には、ラパス在留邦人を中心に、29名の日本人がアメリカの捕虜収容所に連行され、多くのラパス在留邦人が、農村部に身を隠すようになった。このような状況下、1922年に設立されたラパス日本人会（Sociedad Japonesa La Paz）は、1945年に一時活動を休止したが、サンフランシスコ平和条約締結後の1952年に活動が再開された。現在の日本人会会員は、JICA関係者や大使館職員なども含めて150世帯である。

出典：ラパス - Wikipedia（2024年11月14日アクセス）などの情報を基に記載。

（ア）若年層を巻き込み日系社会を再興

ラパスの日系人と日系社会の現状は、次の高校生の声に集約されているように思われる。

Box 4-14 「若い世代が見るラパスの日系人と日系社会」に関するヒアリング結果

- ラパスでは、世代間で文化が伝えられておらず、若い世代は自身を日系と意識していない、また日系人会の存在を知らない日系の子どももいる。私自身も日本人会の青年会の存在は、昨年始めて知った。ラパスでは日系社会が分断されているところがあるので、日本人会の活動を増やし、もう一度、日系人同士が協力することが必要であると思う。

出典：次世代研修帰国研修員ヒアリング。

ラパス日本人会は、現在、ラパス経済圏の日系社会の再興に取り組んでおり、そのためには、若年層の巻き込みが不可欠と考えられていた。

Box 4-15 「ラパス日本人会が感じる危機感」に関するヒアリング結果

- 日本人会の会員を増やすことは挑戦である。ラパスに日系人は多いが、日本人会につながっている人は多くない。日本文化に愛着を感じていない若者も多い。20年前は大企業が進出し、日本人会への貢献もあったが、現在は多くの企業が撤退し、財務的にも厳しい状況にある。また、会員の高齢化が進み、70歳以上の会員が多い。コロナ禍後、高齢者はほかの人と交わることを躊躇し、活動が停滞している。日本人会の活動を活発にするには、青年を日本人会に入れる必要がある。

出典：日系団体ヒアリング。

日系社会の活気が少しずつ回復しているようである。2024年の日本祭りでは、日本人会により文化ワークショップ、盆栽、空手、茶道、着付けが無料で行われ、ラパス市民 200-250 名が参加した。また、例年「日本週間」として、日本映画の上映や、折り紙、生け花のデモンストレーションが実施されている。カラオケ大会も継続しているとのことである。

(イ) 補習授業校の閉鎖

ラパスでは 2023 年 3 月まで、日本の文部科学省の支援があるラパス補習授業校と、平日の成人向け日本語教室と土曜日の子ども向け日本語教室を有する日本語普及校の 2 校で日本語教育が提供され、ラパス日本人会の建物にも 2 つの職員室があった。しかし、2023 年 3 月、補習授業校が休校になり、JICA 帰国研修員を含む一部の教員が解任された。今後、補習授業校の再開の可能性も含め、関係者でラパスにおける将来的な日本語教育のあり方を議論する余地はあると思われた。

③ 両経済圏共通に特筆すべき事項

(ア) アイデンティティ維持のための日本語教育・日本文化継承

日本語教育と日本文化の継承は、日系アイデンティティの維持と日系社会と現地社会の融合のための鍵と認識されていた。日本語教育の振興と、日本文化の発信と現地への浸透により、現地社会は日系社会により友好的・親和的になると考えられる。複数の日系団体が、日本語教育とそれに対する JICA の支援の重要性に言及した。コロナ禍、日系社会研修に参加した日本語教員と、派遣が延期された海外協力隊員に代わり採用されたナショナルボランティアにより、日本語教師養

成講座も開始され、本調査時点で2024年度第4回講座が開講されていた³⁵。

Box 4-16 「日系社会の維持・発展への日本語教育の貢献」に関するヒアリング結果

- 日本語は日系社会の維持に不可欠である。西語で話しているときはラテン気質になるが、日本語で話すときは、移住地の団結や協力など移住地を支えるために大切なことを考えながら話そうという気持ちになる。日本語学習は非日系の子どもたちにも影響しているようであり、日本語を学んでいる非日系の生徒と学んでいない非日系の生徒の行動規範は明らかに違うように見える。例えば、先週、校内お話し大会を開催したが、恐らく日本語がすべては理解できていない非日系の子どもたちも静かに耳を傾けていた。ほかの行事の際とは明らかに雰囲気が違っていた。新任の校長（非日系）も、『子どもたちは日本語がわからないのに、どうしてこんなに静かなのか』と聞いたほどであった。

出典：日系社会研修帰国研修員ヒアリング。

(イ) 拠点整備からの日系団体の自立的運営

新型コロナウイルス感染防止対策のため、助成金交付事業により日系団体の拠点整備が行われた。会費だけでは難しかった施設改修が行われ、日系社会の「顔」が整備されたことで、コロナ禍後、日系団体への参加が増え、会費収入が増え、また、会議室等の賃貸料収入も期待できるようになった。ラパス日本人会でJICA助成金の申請を担った建築家の役員によると、この改修により、日本人会の建物の耐用年数を延ばすことができたとのことである。

Box 4-17 「会費頼みの日系団体維持の難しさとコロナ対策助成金の貢献」に関するヒアリング結果

- 日本人会の建物は築60年以上であり、多くの問題があったが、特に水回りの改修が、汚染処理の観点からも喫緊の課題であった。しかし、会員数が少なく、会費だけでは改修資金を捻出できなかった。そのため、助成事業の貢献は大きかった。改修には約5か月を要し、日本語学校はその間、オンライン授業となったが、長年の課題を解決することができた。

出典：日系団体ヒアリング。

(ウ) 非日系ボリビア人の日系団体への入会

日系社会の現地社会への融合は、ボリビアにおける日系人の社会的地位の向上に不可欠である。しかし、日本人移住者の相互扶助を目的として始まった日系団体への非日系ボリビア人の入会については、団体により考え方が異なっていた。非日系ボリビア人が日系団体に所属するメリットのひとつは、JICA日系社会研修の応募に必須の日系団体の推薦状を得られることである。そのため、ラパス日本人会の多くの会員が、非日系で日本人会に入会したい人の多くは日系社会研修に参加したいだけと考え、定款の改訂に反対であり、その結果、ラパス日本人会ではいまだ定款を改訂していない。ただ、役員の一人名によると、「いつかは門戸を開かなければいけないと思ってい

³⁵ 第4回講座の受講生は8名、うち1名が非日系とのことであった。

る。少なくとも帰国研修員を受け入れることは考える必要がある」とのことであった。他方、ボリビア日系協会連合会では、非日系のボリビア人にも日系社会研修参加の推薦状を出せるよう定款を改訂した。JICA の仲介で日系団体から推薦を受けることができたサンフアン学園卒業生の非日系青年は、野球を通して日系社会とつながりができたことに感謝し、「日系社会はボリビアにとってのオルタナティブ（もうひとつの可能性）である」と語った。また、帰国後、ボリビアにおける野球の振興のために活躍していた。

**Box 4-18 「非日系帰国研修員による日系社会研修の学びのボリビア社会への活用」
に関するヒアリング結果**

- サンフアン学園で 1 年生から 14 歳まで野球をし、青年となり野球を再開した。ボリビアの野球を強くしたいとの思いで、野球指導者の育成を目的にした日系社会研修に参加した。現在、ボリビアにはオルロ県を中心に全国 6 県に野球チームがあるが、全国レベルの試合は 1 年に 1 回だけであり、これまでは 12 歳以下と、18 歳以上の部しかなかった。今年、14 歳以下の部を立ち上げることができた。来年は 18 歳以下の部を立ち上げることが目標である。

出典：日系社会研修帰国研修員ヒアリング。

(工) ボリビア全土の日系社会の活性化

JICA は、サンタクルス経済圏とラパス経済圏だけでなく、アマゾン地域など他地域の日系団体への支援の重要性にも言及した。また、リーダー育成事業参加者のひとり、ボリビアの他地域の日系社会への貢献にも意欲を見せていた。

Box 4-19 「サンタクルス、ラパス以外の日系社会の活性化」に関するヒアリング結果

- ラパスには、会員数は少ないが、日本人会がある。他方、アマゾニアの日本人はあまり組織されていない。博士課程修了後、アマゾニア地方で、農業研究と農業開発支援をしたいと考えている。アマゾニアに滞在する機会を利用して、日系人のひとりとして、トリニダ、コビハ、ポルベニ、リベラルタの日系社会を組織化したい。

出典：リーダー育成事業参加者ヒアリング。

④ ヒアリング対象者が言及したその他の特筆すべき要望

ヒアリングでは、JICA の助成金交付事業と人材育成事業、海外協力隊事業に対する感謝が伝えられ、継続的な実施が要望された。他方、「我々（日系社会・日系人）は、我々を日本とボリビアの架け橋と考えているが、我々は架け橋として活用されていない」との指摘もあった。

このほか、移住地で質の高い教育と福祉サービスを提供するための長期人材育成、日系団体運営方法についての助言・指導やキャリア教育の実施が要望された。JICA が、日本とボリビアの大学の共同研究や交換留学を仲介してはどうかとの提案もあった。また、移住地の青年会と女性に対する支援が要望された。

Box 4-20 「移住地のジェンダー平等と女性のエンパワメント」に関するヒアリング結果

- 日系移住地では、今でも女性は相手にされないことが多い。総会にも男性ばかりが出席するし、女性の参加が疑問視される風潮がある。JICA が移住地を訪問するときは、女性からも広くヒアリングし、女性を助ける支援や、女性の起業を支援してほしい。

出典：日系社会研修帰国研修員ヒアリング。

さらに、JICA 事業の広報を強化した方が良いとの指摘もあった。両経済圏において、非日系ボリビア人のほとんどが JICA の事業を知らないとのことである。広報の強化のため、ニュースやインスタグラムだけではなく、大学での講義やコミュニティの住民を対象としたワークショップの開催などが提案された。

3) ボリビアにおける日系社会連携事業の評価

① 助成金交付事業

コロナ禍に交付された助成金は概ね有効に活用されており、費用対効果も極めて高かった。改修された施設や購入された機材のほとんどは、現在も有効に活用されており、日系団体の自立的運営に資するだけでなく、地域社会の経済活動に貢献し、日系社会への信頼感・好感度の向上につながっていた。また、日系診療所の医師や看護婦や日本語学校の教員の給与補填は、病院・学校存続に貢献した。今後、より計画的に助成金が交付されるとなお望ましい。

② 人材育成事業

人材育成事業帰国研修員のうち、次世代研修帰国研修員は、日系社会のリーダーとして日系社会のさらなる発展に貢献するだけでなく、開発協力における未来の共創パートナーとして成長すると思われた。日系社会研修帰国研修員のほとんどは、日系社会に貢献する活動や日本文化を一般市民に紹介する活動を実施したり、研修で学んだ専門性を活かして活躍したりしていた。他方、リーダー育成事業帰国研修員は、終了後、縁故採用がいまだに広く行われているボリビアで、研修効果を十分に発揮できる勤務先を得ることは容易ではないようであった。なお、現時点で、ボリビアには日系サポーター枠の研修参加者はいない。ボリビアの日系人にとって、日系サポーター枠に参加するメリットが見えにくい(出稼ぎの方がメリットを感じる)とのコメントがあった。

③ その他の日系社会連携事業

多くの日系団体が海外協力隊の派遣を期待していた。また、コロナ禍に日系団体で活動したナショナルボランティアの活動に対する評価が極めて高かった。このほか、ANIMO や Nikkei NINJA などにより、研修参加者や助成金の交付を受けた団体のネットワークが強化され、互いの協力が促進されていた。点が線、そして面になり、日系社会全体が協力する未来を思い描くことができた。

4) 現地調査から導出されるボリビアにおける日系社会連携事業に対する提言

日系社会の特徴を考慮した国別計画の策定

日系社会連携事業をより有効に実施するには、国別計画を策定することが望ましい。その際、これまでのように、サンタクルス経済圏の日系社会とラパスの日系社会の特徴の違いを踏まえ、そ

れぞれの地域に必要な事業を計画することが期待される。また、ボリビア国内の残された地域）への支援が盛り込まれる必要がある。なお、計画策定には、ボリビア日系協会連合会や全国の日系団体と協力するとともに、日系社会の若い世代と女性の積極的な参加が不可欠である。また、国、地域の事情と JICA 協力の詳しい担当者の配置も必要である。

日系団体が自立的な共創パートナーとなるための助成金交付事業の実施

コロナ対策助成金事業の交付金により、サンタクルスの 2 つの移住地の農牧業協同組合で調達された機材は、本調査時点でもなお日系農家や農業研究所の収益向上に役立っていた。また、同じくコロナ対策助成金にて実施された日系団体の拠点整備により、会費だけでは実現できなかった日系社会の「顔」が整備され、会員の増加や賃貸料等による追加収入が期待できるようになった。これら日系団体が、今後、JICA の自立的な共創パートナーとなり、地域で知日派・親日派を育成することに鑑みると、JICA の他事業と比較し、交付された助成金の費用対効果は極めて高い。日系団体が JICA の自立的な共創パートナーとなるためのシードマネーとして、助成金交付事業のより計画的・積極的な活用が期待される。

日系アイデンティティの維持と現地社会への融合促進のための支援

複数のヒアリング対象者が言及したように、ボリビアでは、日系アイデンティティ維持と日系社会と現地社会の融合のためには、日本語教育と日本文化の継承と普及が鍵と認識されていた。日本語は、日系人にとっては日系アイデンティティ維持のためのツールのひとつであり、かつ、現地社会への日本文化の発信のためのツールでもある。日本文化の発信と現地への浸透により、現地社会は日系社会により友好的・親和的になる。日系社会連携事業として、日本語教育支援のあり方を改めて議論しつつ、発展的に継続する必要があると思われる。

帰国研修員同窓会の復活

ボリビアでは、帰国研修員同窓会の活動が休止されたままである。サンタクルス経済圏では、日系人の存在感をより高めるため、サンタクルス市、サンフアン移住地、オキナワ移住地の各日系団体の協力・連携が模索されている。今後、ボリビア全国の日系社会のネットワーキングと連携が強化されれば、全国で日系社会の存在感が高まり、日系人の社会的地位のさらなる向上が見込まれる。日系社会の発展のため、当事者である日系団体・日系人によるネットワークの構築とそれに対する JICA の支援は当然として、加えて、帰国研修員同窓会が復活されれば、親日派・知日派のネットワーキング強化と JICA 事業の広報に大いに貢献すると思われる。

5. 評価結果及び提言・教訓

5.1. 日系社会連携事業全体の評価結果

5.1.1. アウトカム・指標

日系社会連携事業は各スキームによる活動を通じて、事業全体として長期的に以下 3 つのアウトカムを達成することを目指して実施されている。これらアウトカムに対して本評価内で設定した指標は下表のとおりである。

図表 5-1 日系社会連携事業全体の長期アウトカムと指標

アウトカム 類型	アウトカム	指標
長期（連携 事業全体と して）	親日派・知日派人材が育成される	・ 親日派・知日派となった研修員の割合 ➢ 日本が信頼できる国だと考える帰国研修員の割合（親日） ➢ 日本の社会文化・外交政策への関心の高い帰国研修員の割合（知日） ・ 助成金受給日系団体の取り組みによって日本への理解や親近感が醸成されている事例 ・ （参考指標）外務省令和 5 年度海外における対日世論調査（中南米版）の「日本に親しみを感じている」と回答した割合及び「日系人が日本との関係強化に貢献している」と回答した割合
	帰国研修員や日系団体が開発協力における共創パートナーとして育成される	・ （研修や助成後）JICA 等開発事業に携わった経験を有する助成金受給日系団体／帰国研修員の割合・事例（内容、各スキームの貢献の程度の確認） ・ 帰国研修員の貢献によりその所属組織や周囲が「共創パートナー」となった事例
	日本国内の課題が解決する	日系サポーター日本側受入団体が提案した課題の解決状況とそれへの日系サポーターの活動の貢献度（ヒアリング結果から定性的に確認）

出典：評価チーム作成。

5.1.2. 分析結果

「親日派・知日派人材が育成される」は達成、「帰国研修員や日系団体が開発協力における共創パートナーとして育成される」は一部達成、「日本国内の課題が解決する」は判断不能である。判断不能であるアウトカムの結果を除く 2 つのアウトカム結果から総合し、日系社会連携事業の長期アウトカムは一部達成されていると判断する。

各アウトカムの評価判断は以下のとおりである。

1) 親日派・知日派人材が育成される

次世代研修、リーダー育成事業、日系社会研修の 3 スキームの帰国研修員の日本への信頼度、日本の社会文化及び外交政策への関心度は、概ね研修を通じて高くなっている。また、助成金受給日系団体の取り組みによって日本への理解や親近感が醸成されている事例が複数確認された。さらに、参考指標として確認した外務省令和 5 年度海外における対日世論調査（中南米版）の結果

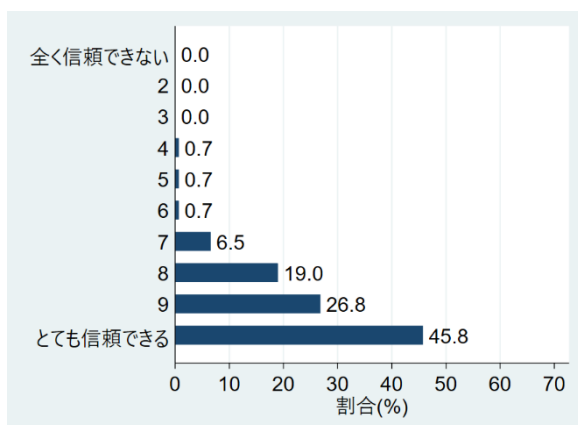
からも、一般の中南米市民にも親日意識は一定程度醸成されていることがうかがえる³⁶。これらのことを総合して、「親日派・知日派が育成される」というアウトカムは達成されていると判断する。ただし、一部のリーダー育成事業参加者の日本への信頼度が研修を経て下がっていることは看過せず対応が必要である。

① 帰国研修員の日本への信頼度

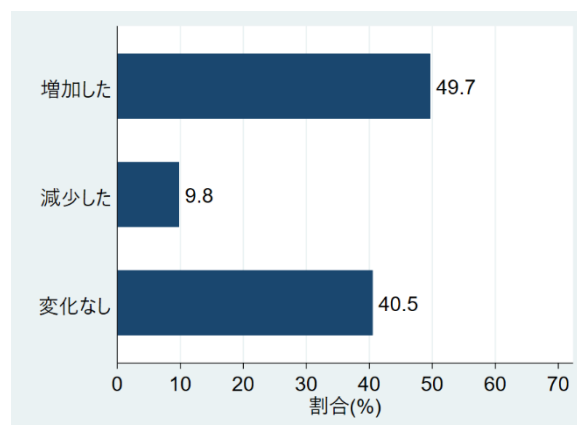
研修後の現在の日本への信頼度は、10段階（10=とても信用できる）中、9以上であった割合が、次世代研修で約7割、リーダー育成事業で約5割、日系社会研修で約8割と高い。この高い信頼度が研修参加によってもたらされたものであるかの因果関係を確認するため、「仮に研修に参加しなかった場合の日本への信頼度」もアンケートで聞いた。研修に参加しなかった場合との比較の結果、次世代研修と日系社会研修の帰国研修員は、研修参加によって信頼度は向上、あるいは変化しなかった層が大多数であった。一方、リーダー育成事業の帰国研修員は、信頼度が向上した人も30%いるが、研修に参加しなかった場合と比べて、研修後の現在の信頼度が減少している回答が22%（5人）あった。

この信頼度が下がった理由についてはアンケートで確認していないが、3章で述べたリーダー育成事業帰国研修員の日本への好感度がネガティブであると回答した3人の信頼度の回答を確認すると、研修参加により信頼度を向上させることはなく、変化なし（1人）または減少（2人）となっている。このことから、好感度を下げた日本での不快な経験がこの信頼度の理由となっている可能性が示唆される。

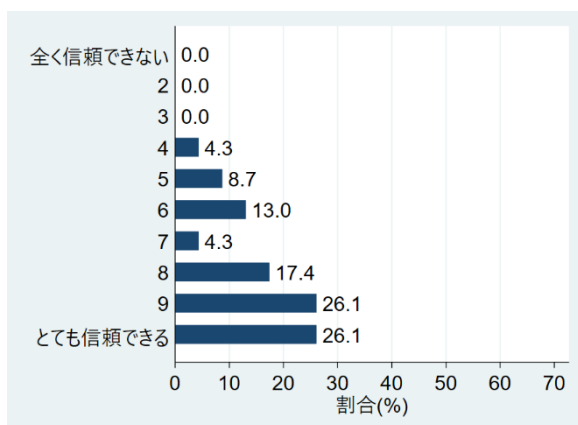
³⁶ 外務省「海外における対日世論調査」<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/pr/yoron.html>



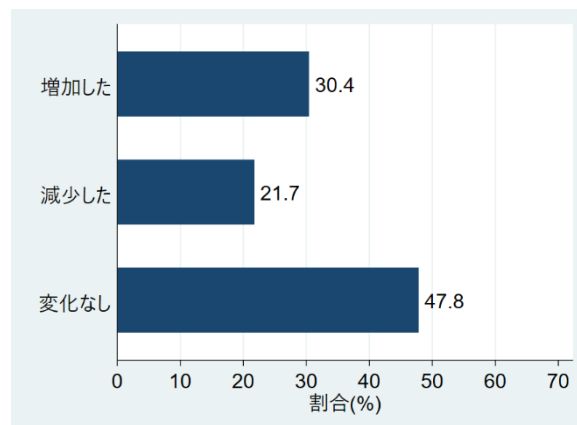
(a) 次世代研修帰国研修員の日本への信頼度（現在）



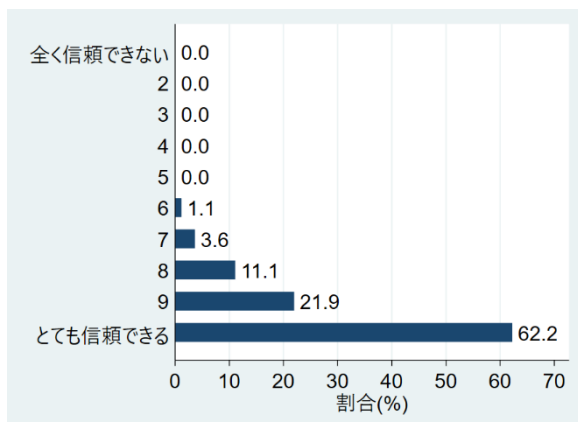
(b) 次世代研修帰国研修員の研修に参加しなかった場合と比較した現在の信頼度の変化



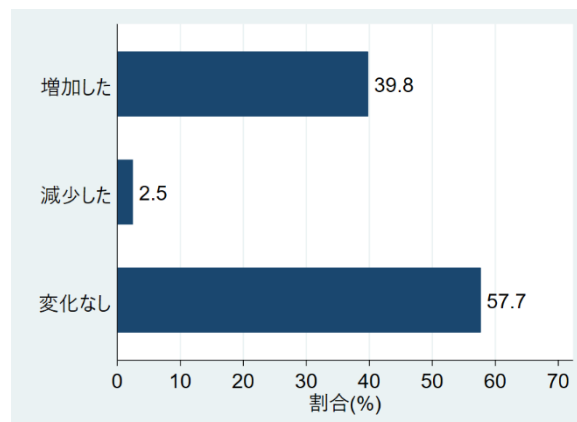
(c) リーダー育成事業研修帰国研修員の日本への信頼度（現在）



(d) リーダー育成事業研修帰国研修員の研修に参加しなかった場合と比較した現在の信頼度の変化



(e) 日系社会研修帰国研修員の日本への信頼度（現在）



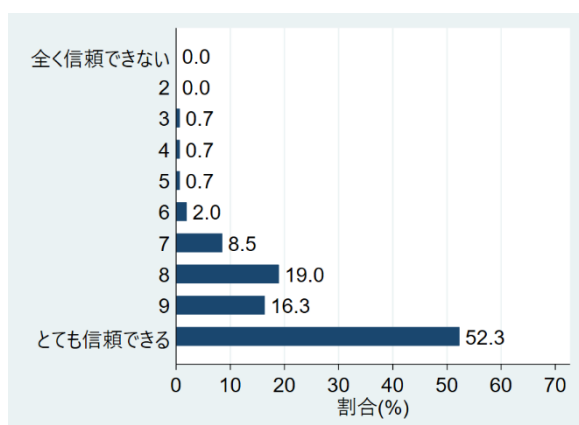
(f) 日系社会研修帰国研修員の研修に参加しなかった場合と比較した現在の信頼度の変化

図表 5-2 帰国研修員の日本への信頼度

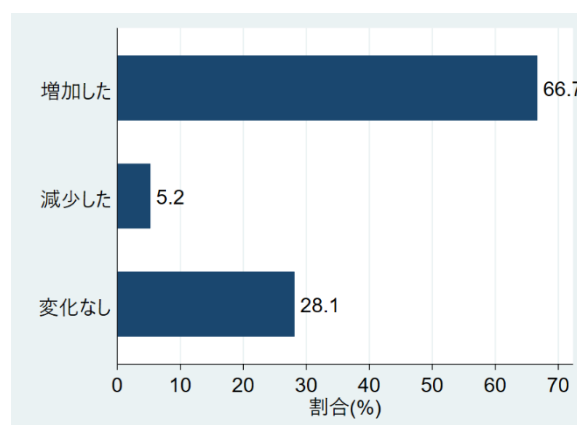
出典：評価チーム作成。

② 帰国研修員の日本の社会文化への関心度

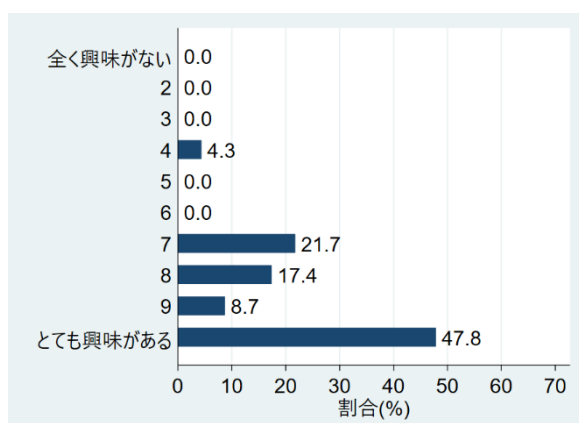
研修後の現在の日本の社会文化への関心度は、10段階（10=とても関心がある）中9以上であった割合が次世代研修で約7割、リーダー育成事業で約6割、日系社会研修で約7割であった。信頼度同様、この高い関心が研修参加によってもたらされたものであるかの因果関係を確認するため、「仮に研修に参加しなかった場合の日本の社会文化への関心度」もアンケートで聞いた。研修に参加しなかった場合との比較の結果、次世代研修とリーダー育成事業では研修参加によって関心度が高まった割合が高く、日系社会研修では高まった場合と変化なしの場合が同程度であった。したがって、帰国研修員の日本の社会文化への関心度はもともと高いが、研修参加が要因となってさらに高まったと解釈できる。



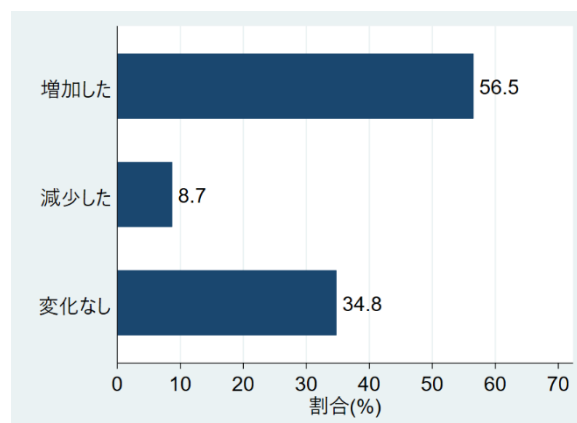
(a) 次世代研修帰国研修員の日本の社会文化への関心度（現在）



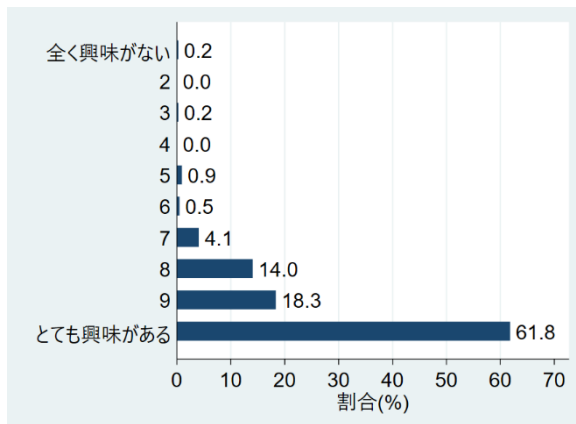
(b) 次世代研修帰国研修員の研修に参加しなかった場合と比較した現在の関心度の変化



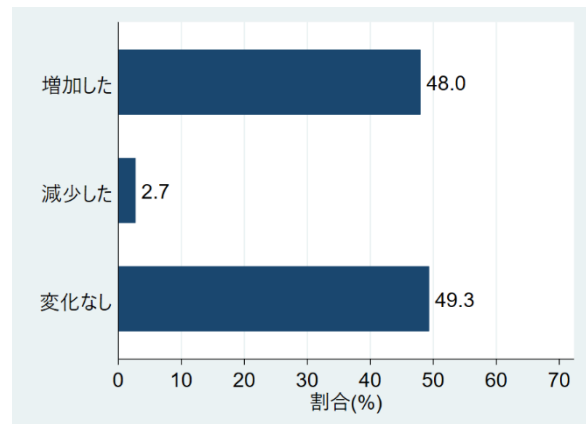
(c) リーダー育成事業研修帰国研修員の日本の社会文化への関心度（現在）



(d) リーダー育成事業帰国研修員の研修に参加しなかった場合と比較した現在の関心度の変化



(e) 日系社会研修帰国研修員の日本の社会文化への関心度（現在）



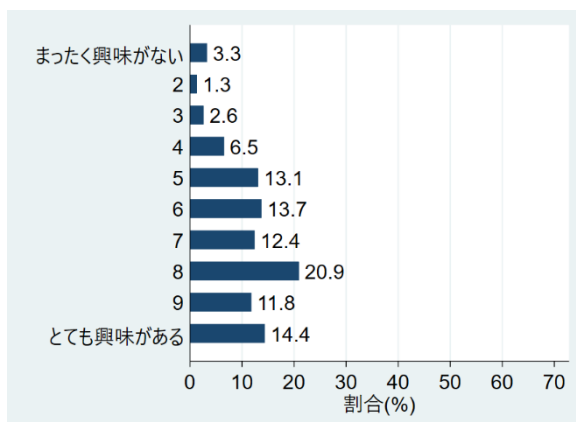
(f) 日系社会研修帰国研修員の研修に参加しなかった場合と比較した現在の関心度の変化

図表 5-3 帰国研修員の日本の社会文化への関心度

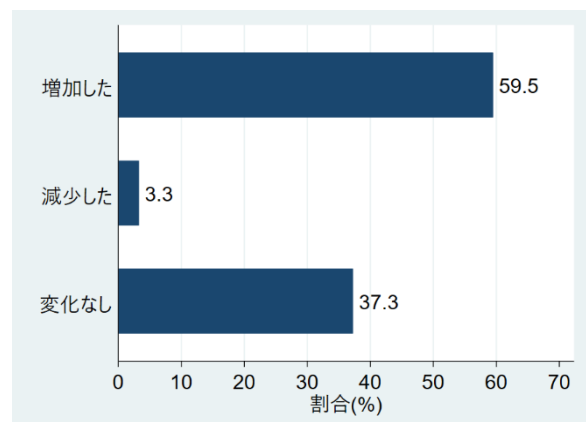
出典：評価チーム作成。

③ 帰国研修員の日本の外交政策への関心度

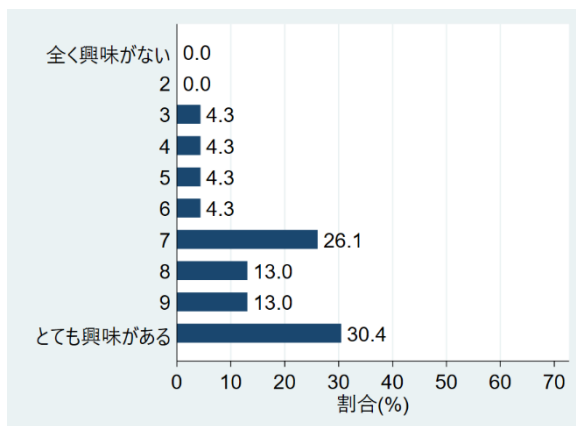
研修後の現在の日本の外交政策への関心度は、10段階（10＝とても関心がある）中8以上であった割合が次世代研修で45%、リーダー育成事業で56%、日系社会研修で59%であり、社会文化ほどではないが高い。この高い関心が研修参加によってもたらされたものであるかの因果関係を確認するため、「仮に研修に参加しなかった場合の日本の外交政策への関心度」もアンケートで聞いた。研修に参加しなかった場合との比較の結果、いずれも研修参加によって関心度が高まった割合が5割以上であるが、リーダー育成事業と日系社会研修では変わらなかった割合もそれぞれ48%、43%となっている。したがって、次世代研修への参加によって日本の外交政策への関心度は概ね高まっており、リーダー育成事業と日系社会研修への参加によっては、関心度が高まった人と変わらなかった人が同程度であった。



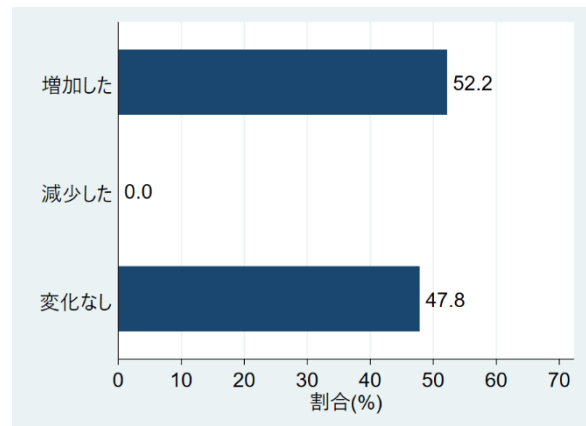
(a) 次世代研修帰国研修員の日本の外交政策への関心度（現在）



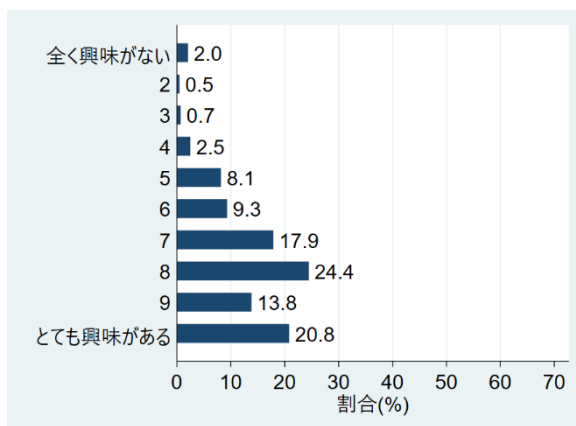
(b) 次世代研修帰国研修員の研修に参加しなかった場合と比較した現在の関心度の変化



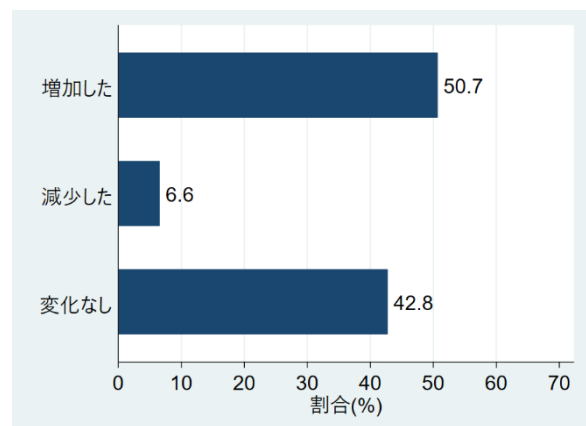
(c) リーダー育成事業研修帰国研修員の日本の外交政策への関心度（現在）



(d) リーダー育成事業研修帰国研修員の研修に参加しなかった場合と比較した現在の関心度の変化



(e) 日系社会研修帰国研修員の日本の外交政策への関心度（現在）



(f) 日系社会研修帰国研修員の研修に参加しなかった場合と比較した現在の関心度の変化

図表 5-4 帰国研修員の日本の外交政策への関心度

出典：評価チーム作成。

④ 中南米一般社会における親日派・知日派の育成

助成金交付事業の結果からは、日本語の学習・日本文化紹介、地域に貢献する病院などを通じて非日系の人にも日本への理解や親近感が醸成され、親日派・知日派の育成につながっていることがわかった。また、日本語学校の卒業生には、市議会議員や専門職に就く者も存在し、社会の指導層における親日派・知日派の育成にも貢献していると考えられる。

外務省令和 5 年度海外における対日世論調査（中南米版）では、日本に親しみを感じていると回答した割合は 56%であり、日系人が日本との関係強化に貢献していると回答した割合は約 7 割となっている。これらから一般の中南米市民にも親日意識は一定程度醸成されていると考えることができる。

2) 帰国研修員や日系団体が開発協力における共創パートナーとして育成される

助成金交付事業及び日系社会研修は共創パートナーの育成に一定程度貢献しているが、リーダー

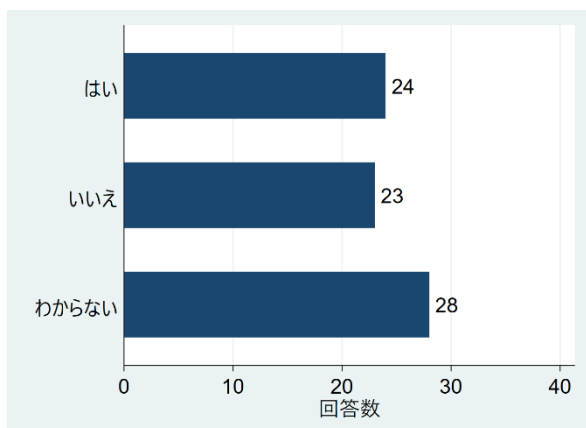
育成事業が共創パートナーの育成に果たしている役割は限定的であった。このため、当アウトカムは一部達成と判断する。日系団体、帰国研修員共に、共創パートナーとして連携する具体的戦略を検討する必要がある。特に専門性の高いリーダー育成事業帰国研修員が共創パートナーとして活躍するための戦略が求められる。

① JICA 等開発事業に携わった経験を有する助成金受給日系団体の割合

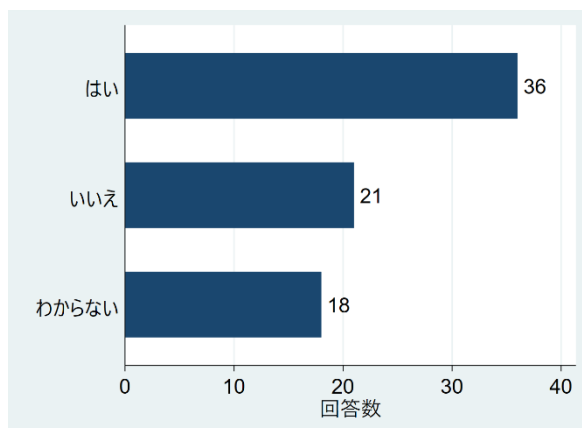
約3割程度の団体が JICA のパートナー団体として活動経験を持っている。また、専門家や通訳・コーディネーターなど個人として JICA 事業に関与した職員等がいる団体は約半数程度、JICA ボランティアの受入経験を持つ団体は6割近くにのぼる。他方、そうした活動経験があるかどうか「わからない」の回答も含む「はい」以外の回答が相当数あることを踏まえると、JICA 事業を始めとする ODA 事業への関与が大きい団体も少なくない。より戦略的な連携の在り方を検討する余地はあると考えられる。

アンケートで回答のあった JICA との連携や JICA 事業関与の事例は以下のとおりである。

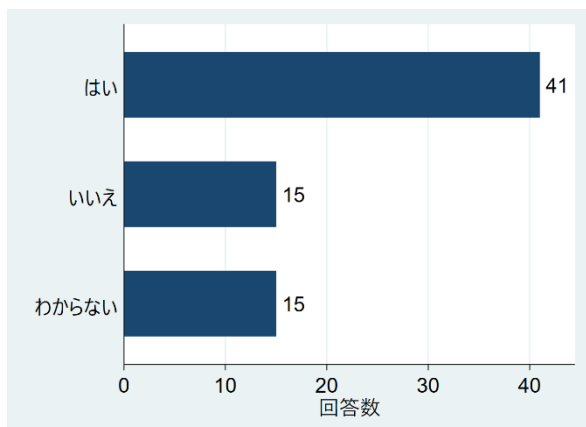
- JICA からの研修員や JICA 海外協力隊等のボランティア受入
- JICA 事業への研修講師や日本語講師の派遣
- JICA 等の研修・奨学金プログラムへの参加者派遣



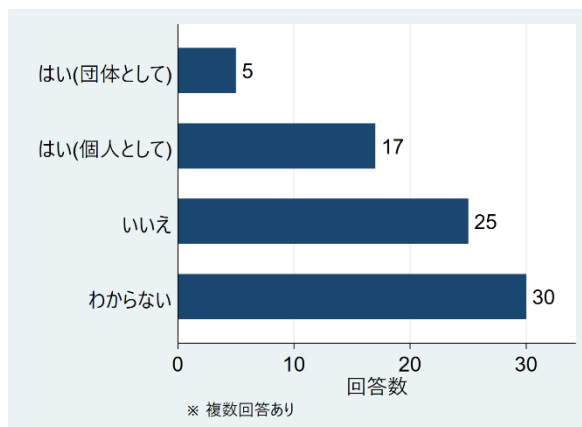
(a) JICA パートナー団体としての活動経験



(b) JICA 事業への専門家等での関与経験



(c) JICA ボランティア受入経験



(d) JICA 事業以外の ODA 関与経験

図表 5-5 JICA 等開発事業に携わった経験を有する助成金受給日系団体の割合

出典：評価チーム作成。

- 日本文化活動のコーディネーター
- JICA や外務省、財団等の調査・研究への協力

② JICA 等開発事業に携わった経験を有する帰国研修員の割合

リーダー育成事業の帰国研修員ではアンケート及びヒアリング調査にて、研修参加後、何らかの JICA 事業に携わった経験があると回答したのは 1 名のみであり、活動事例としては帰国研修員同窓会の代表であった。また JICA 以外の日本関連の開発プロジェクト（日本外務省、JETRO、日本の ODA 案件等を含む）に関わったことがある回答者も 1 名であり、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と日本の大学が実施する複数の研究プロジェクトへの関与という回答であった。このため、リーダー育成事業が共創パートナーの育成に果たしている役割は限定的といえる。

日系社会研修では、25%（442 人中 113 人）が研修参加後、JICA 関連のプロジェクト（研修等を含む）やイベントにおいて、専門家、現地コンサルタントやコーディネーター、通訳、講師、司会等の役割で働いたことがあると回答した。経験者の 68%（77 人）が、研修参加がなければそのような活動はしなかったと思うと回答した。また、JICA 以外の日本関連の開発プロジェクト（日本外務省、JETRO、日本の ODA 案件等を含む）に関わったことがある回答者は、4%（442 人中 19 人）だった。経験者の 47%（19 人中 9 人）が、研修参加がなければそのような経験をしなかったと思うと答えた。これらのことから、日系社会研修は共創パートナーの育成に一定程度貢献していると判断できる。共創パートナーとしての具体的な活動事例は以下のとおりである。

- JICA 草の根技術協力事業にグラフィックデザイナーとして協力。（日系サポーター帰国研修員）
- JICA 日系人系図調査研修プログラム（高度な系図調査技術と歴史文書のデジタル化に関する集中研修プログラムであり、日系コミュニティにおけるオーラル・ヒストリーの収集と保存の方法を教えるワークショップ）にファシリテーターとして参加。
- 第三国研修「社会経済開発のための日系社会・日系校の連携強化国際セミナー」において中南米の日本語指導者向けに日系サポーターとしてムンド・デ・アレグリア学校（日系サポーター受入団体）で学び実践した日本語・漢字指導法のワークショップを実施し、域内の日本語指導力強化に貢献。
- 多言語センターFACIL（日系サポーター受入団体）にてコミュニティ防災活動に参画した日系サポーターが帰国後、JICA 草の根技術協力事業「在日日系人が培った知識と経験を生かしたコミュニティ防災力強化事業」において防災教育ワークショップ実施に貢献。
- 多文化共生センターひょうご（日系サポーター受入団体）の研修コースに参加した帰国研修員が、通訳としてコミュニティ防災の JICA 草の根技術協力事業、教師海外研修、中南米日系社会との連携調査団、第三国研修（防災、日系）において活躍。
- JICA 理事長を招いてのパネルディスカッションの司会。
- Nikkei NINJA への参加。
- ブラジル・日本フェスティバルでの JICA ボランティア。
- 歴史的資料の収集と日本人社会のデータベース化に関する調査研究。
- 日本外務省による現地日系人ネットワーク設立プログラムのマネジメントを担当。
- 日本外務省による「Juntos!! 中南米対日理解促進交流」に参加。
- 内閣府による世界青年の船に参加。

- 公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）による北海道人の子孫のための研修・学習プログラムに参加。
- JST によるさくらサイエンスに参加。
- ジャパン・フェスティバル、エキスポ・ジャパンにて日本人ビジネスマンの通訳を担当。

3) 日本国内の課題が解決する

ToC 上では、当アウトカムは海外移住資料館来館を通じての来館者の変化及び日系サポーター等の研修員受入を通じての在日関係者の変化によって達成されると想定されている。しかしながら、3 章で述べたとおり、海外移住資料館来館によって直接的に目指しているのは来館者の意識変化までであること、また研修員受入に携わった在日関係者のうち、本業務内で調査対象となっていたのが日系サポーター受入団体のみであり、次世代研修のホームステイ先やリーダー育成事業の受入大学は調査対象外であった。また、評価対象スキームのうち、具体的に日本国内の課題解決に資する活動まで実施するのは日系サポーターのみである。このため当アウトカムの指標は「日系サポーター受入団体が提案した課題の解決状況とそれへの日系サポーターの活動の貢献度」と設定した。

実際に調査してみると、各受入団体は日系サポーター受入によって解決したい地域の課題を明確に設定しているわけではないことが判明した。ただし、日系サポーター活動内容からはどの団体も長期的には地域の多文化共生を目指して日系サポーターを受け入れていることは明らかであったため、本アウトカムの評価は、日系サポーターの長期アウトカム「日系人在住都市の多文化共生・地方創生に貢献する」の評価結果から判断することとした。

「3.5.2.日本国内の課題解決へ向けたアウトカム発現状況」で述べたとおり、現時点で日系サポーターの長期アウトカムが今後発現する可能性を判断することは時期尚早であり、評価結果は判断不能である。したがって、「日本国内の課題が解決する」についても達成状況は判断不能である。

5.2. 日系社会連携事業の戦略性強化に向けた提言

本業務内で実施したアンケート調査、ヒアリング調査（現地調査及びオンライン）で得られた情報、それに基づく分析結果から、今後の日系社会連携事業全体の改善及び方向性の検討材料の一つとして、事業の戦略性を強化するための提言を以下に述べる。なお、個別スキームにかかる提言は「5.3. 個別スキームに対する提言」にて記載する。

日系社会のあり方に応じた支援戦略の検討

4 章にて詳述したように、日系社会と一口で言っても、そのあり方は各移住地の歴史や成り立ちによって様々である。移住世代が多い地域や地方農村部では、未だ定住支援の文脈で医療福祉や生活基盤に関連した事業が日系社会の持続的発展のために必要とされている。他方で、世代交代が進んでいる地域や都市部では、非日系も含めた新日派・知日派の育成や日本との共創のための事業が求められている。日系社会と一口でくくることなく、そうしたあり方の違いに応じて事業目的を柔軟に検討し、目的に沿った支援戦略を検討することが必要である。

帰国研修員・助成金受給団体との共創推進に向けた仕組づくり

帰国研修員・助成金受給団体は共創パートナーとして非常に貴重なアセットである。他方、研修後あるいは助成金交付以外には JICA との関わりをほとんど持たないという帰国研修員・日系団

体も少なくなかった。帰国研修員・日系団体の情報を集約するプラットフォームを構築し、それを通じて情報発信や様々な支援を行うといった共創を推進する仕組づくりを行うことが重要である。

帰国研修員同窓会の活動状況は国によって様々であり、既に同窓会を通じた共創推進策を多数実施している国もあるが、帰国研修員の共創パートナーとしての活躍を一層推進するためには、帰国報告会実施の際に必ず同窓会メンバーにも周知する、研修参加者募集や JICA 事業のニュースを同窓会メンバーに積極的に周知する、日系企業／団体等の求人や事業情報を同窓会メンバーに周知する、同窓会メンバー（非日系含む）と日系団体の交流会を実施するといった方法が考えられる。

同様に、日系団体へも帰国報告会への参加招集、研修参加者募集や JICA 事業のニュースの周知、日系企業の求人や事業情報の周知、帰国研修員と日系団体の交流会開催といった方法で、日系団体と専門スキルを高めた帰国研修員が連携しての JICA 事業へつなげることや、日系企業と日系団体の民間連携事業へとつなげる可能性を高めることが考えられる。

ペルーでは、帰国研修員と日系団体のネットワーク強化及び帰国後活動の活性化に向けたペルー主要日系団体とペルー日系サポーター全帰国研修員による意見交換会を開催しており、共創推進に向けて参考となる取り組みである。

共創の基盤づくりとしての日系社会連携事業の位置づけ

将来的な共創の基盤となり得るパートナーの育成として日系社会連携事業を位置づけ、そのために戦略的な事業設計を行うことが重要である。

リーダー育成事業及び日系社会研修の参加者へは募集時から、日系社会への貢献の意思確認のみならず、JICA の共創パートナーとなつてほしいという意図を明確に伝え、研修参加中から帰国後に共創パートナーとしてどのような活躍場面があるのかを具体的に各国事務所や JICA 国内拠点を通じて提示することで、共創事例につながると思われる。

帰国研修員との具体的な共創のアイディアとしては、リーダー育成事業及び日系社会研修の帰国研修員は、高度な専門スキルを有する場合も多いため、そうした専門スキルを持つ同分野帰国研修員の中南米諸国間での技術交流の機会を JICA が創出し、そこから域内連携 JICA 事業へとつなげていくこと、専門スキルが必要とされている研修員出身国内の他地域や中南米他国への帰国研修員の派遣（具体的な支援を帰国研修員が実施する場合や他地域・他国人材への研修を帰国研修員が行う場合が想定される）などが考えられる。

助成金交付事業はこれまでも将来的な共創パートナーとなり得る団体との助成を契機とした関係構築の役目を担ってきた側面がある。その役割を一層明確に認識し、助成金の授受に留まらない共創を見据えた関係構築の意図を、特に組織基盤が安定している日系団体には明確に伝えていく必要がある。

日系団体との具体的な共創のアイディアとしては、財政基盤や運営体制が脆弱な日系団体や若い世代が日系団体を新たに立ち上げる際に、他の日系団体から運営ノウハウやイベント開催ノウハウの伝授が欲しいといったニーズがあるため、経験豊富な組織基盤が安定している日系団体による技術支援を JICA 事業として実施することや、日本に研修に行かなくとも国内や隣国で

他の日系団体から学べる機会を創出することなどが考えられる。ペルーでは既に経験豊富な日系団体が国内他地域に赴き地方日系団体と共催で文化イベントを実施するなどの事例があるため、JICA として経験豊富な日系団体を他国へ派遣するなどの域内連携が可能であると思われる。

日系社会連携事業内外のスキームと組み合わせた戦略的な取り組みの検討

共創を通じた中南米社会の開発・課題解決のためには、日系社会連携事業内外のスキームを活用し、戦略的な取り組みを行うことが重要である。これまでも既にブラジルで日系女性ネットワーキング（起業家支援シンポジウム開催、起業家メンタリングプログラム）を民間連携事業として実施する、Nikkei NINJA など他スキームを活用して日系社会研修帰国研修員をフォローアップするといった事例がある。こうした好事例を念頭に、活用可能なスキームをうまく連携させることにより、事業効果を高めることが可能と推察する。

例えば、歴史的資料の収集・保存のため、助成金・人材育成・海外移住資料館・JICA 海外協力隊の各スキームを組み合わせた積極的な支援を行う、日系団体の経営能力向上のために人材育成・JICA 海外協力隊のスキームを組み合わせる、地方創生を目的とした事業を日系団体と日本の地方自治体の連携で実施するため、情報収集確認調査にてまずは日系団体と自治体のマッチングを図り、草の根技術協力（地域活性化特別枠）にて事業化する、といったことが考えられる。

なお、日系団体をパートナーとして草の根技術協力や技術協力プロジェクト（技プロ）等の技術協力を実施するニーズは本業務の JICA 現地事務所ヒアリングでも聞かれた。これまでもそうした技術協力の実績はあるが、比較的数量が限られている理由として、技プロは政府間の協力であるため相手国の機関から要請を出す必要があり、日系団体が要請を出すことができないこと、草の根技術協力は市民参加協力事業の一形態であり、日本国内の団体が提案団体となる必要があり、日系団体自身が提案団体とはなれないこと（現状は「現地協力機関」という位置づけで実績がある）が挙げられている。草の根技術協力については日系団体も提案団体になれるといった制度変更があれば、より日系団体の共創パートナーとしての活躍の場が広がるであろう。

日本国内の課題解決に資するための戦略の検討

日本国内の課題解決につながる事業としては、日系社会研修（日系サポーター枠）と海外移住資料館があるが、海外移住資料館は情報発信・知識普及が介入内容であり、直接的な目標は意識変革までであることから、具体的に日本国内の課題解決につながる取り組みとしては本業務評価対象 5 スキームの中では「日系サポーター」しか存在していない。本業務評価対象外における日本国内の課題解決につながる取り組みには、日系社会理解推進や若手日系人のロールモデル・多文化共生支援の先進事例の紹介のための国際協力出前講座、就労目的で来日する日系人への支援等があるが、いずれも小規模な取り組みである。

他方、日系サポーターは 3 章で既述のとおり、長期的に「日本国内の課題解決」までつながる戦略が未だ不明確である。次節の個別スキームに対する提言において、日系サポーターのより良い実施へ向けた提言は記載するが、日本国内の課題解決を目的の 1 つとして掲げるのであれば、上記 2 スキーム以外も含め、同目的につながる取り組みをより強化する必要がある。

5.3. 個別のスキームに対する提言

本業務で評価対象となった各スキームに対し、評価結果を踏まえた提言を以下に述べる。

5.3.1. 助成金交付事業

各日系社会のあり方に応じた事業実施

既述のとおり、移住世代が多い地域や地方農村部と世代交代が進んでいる地域や都市部とでは、日系社会のあり方が異なっており、助成金交付事業へのニーズや採るべき戦略も異なる。

移住世代が多い地域や地方農村部では巡回医療・高齢者施設等の定住・生活支援に対して継続的なニーズがある。「日系社会における移住世代の生活が安定する」という助成金交付事業のアウトカムのうちの重要な一つを達成するために、必要な事業と位置づけて実施することが望ましい。

一方、世代交代が進んでいる地域や都市部では、引き続き日本語教育への支援は意義があるが、それは継承言語教育という位置づけを超えて、非日系も含む親日派・知日派育成という位置づけで積極的に実施することが有用である。

共創パートナーとしての交付先選定と組織力強化の実施

助成金交付事業を、助成を契機に本スキーム外での様々な連携を視野に入れた将来的な共創パートナーとなり得る団体との関係構築の入り口と位置づけ、交付先団体の選定を行うことが望ましい。また、将来の共創パートナーとして団体の組織能力強化に向けた支援を戦略的に行っていくことが望ましい。

5.3.2. 人材育成事業

次世代研修、リーダー育成事業、日系社会研修（通常枠及び日系サポーター枠）の3スキーム共通の提言は以下のとおりである。

訴求対象を戦略的に焦点化したうえでのより積極的な研修機会広報

研修参加要件がスキームによって異なること、参加可能人数に限りがあることなどから単純により広い層に広報することには留意が必要であるが、複数のヒアリングにおいて、参加可能な研修の存在があまり知られていないという意見が聞かれた。国によって女性や地方部出身の方など、より積極的に参加して欲しい層への広報が求められている。

正しい応募要件の更なる周知

応募要件の正しい情報が伝わっていない場合があることがわかっている。例えば、日本国籍や二重国籍の場合は参加不可であるといった誤認やJICA研修ではすべてのコースで日本語が必須といった誤認である。将来の日系社会への貢献や共創パートナーとしての活躍が見込まれる人材が応募要件の誤認で研修参加から漏れることを避けるため、正しい応募要件の周知にさらなる努力が望まれる。

以下、各スキームに対する提言を記載する。

1) 日系社会次世代育成研修

現状の中学生、高校生、大学生の各プログラム及び研修内容の継続

本スキームは中学生、高校生、大学生の各プログラム共に、今後も、現在と同様のプログラム内容を継続して実施することを提言する。ヒアリングでは、特に海外移住資料館や多くの移住者が出航したみなとみらい地区の見学、JICA 横浜でのアイデンティティに関する講義などが、参加

者のアイデンティティを整理し、日系人としての認識を高めることに寄与していたことが確認された。また、自身の家族の歴史を調べてくるという事前学習を課していることも、来日後の学びに寄与していることもうかがえた。大学生プログラムでは、研修員の専攻分野に応じた大学訪問というきめ細やかな対応を行っており、それが将来のキャリア形成に影響を与えている可能性が示唆された。したがって、これら研修内容を今後も維持していくことが望ましい。

2) 日系社会リーダー育成事業

より広い視点での最終アウトカムの捉え直し

本評価でまだ達成されていないという判断となった「中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する」であるが、日本で研究を継続したり、職を得たりする参加者も少なくなく、中南米においてリーダーとしての役割を果たしている例は必ずしも多くはなかった。他方、留学直後に中南米にて職に就いていなくとも、現在の経験を経て将来的にそうなるという可能性もあり、また、中南米に物理的に拠点を置きながら活動することが日系社会のリーダーとしての役割を果たすうえで必須ではないと考えられる。世界で活躍する日系人リーダーを育成する、日本と中南米諸国との連携関係の発展に貢献する人材を育成するという視点で本スキームの最終アウトカムを捉え直すことを提言する。

専門性を高めた帰国研修員を共創パートナーとするための相談支援体制構築

上記のような多様な形をとりつつも、日本と中南米諸国との連携関係の発展に貢献すること、及び JICA の共創パートナーとしても貢献が期待されていることを、募集時や研修実施中から明確に伝え、研修後のキャリアプラン検討に対する支援を行うことが望ましい。現状では、来日後にキャリアプランの相談や生活面での困難（ハラスメント等も含む）が生じた際の相談等を JICA に対して気軽に行うことのできる体制は特にないと認識が複数のヒアリングにて聞かれた。本スキームは就職支援を含むものではないことは明らかであるが、専門性の高い人材に親日派・知日派となってもらい、将来の共創パートナーとなることを期待するのであれば、JICA ファンになってもらうための戦略が一層望まれる。

本評価の結果、日本の好感度は高いレベルで維持されているものの、研修出願時と比べて下がっている研修員も一部存在しており、それには日本での不快な経験が影響している可能性が示唆された。日系社会連携事業の中でもっとも日本滞在期間が長く、深く日本を体験できるスキームにおいてこうした結果となっていることは、真摯に向け止め、対応を採る必要があるであろう。研修員が日本生活中に気軽に相談ができるメンター制度等の整備、希望者には一定期間の日本家庭へのホームステイを組み込み、日本の生活での心の拠り所をつくる支援をするなどが一案である。

3) 日系社会研修(通常枠)

医療系分野研修における臨床現場や実習への参加要件の事前確認

医療系分野の場合、臨床現場や実習への参加に資格が必要であったり、一定の研修期間や事前スキルが求められたりすることから、事前に臨床現場や実習への参加がどの程度可能であるのか受入側と明確に確認し、参加者に伝えて研修目的とのすり合わせを行っておくことが望ましい。

日系社会のニーズに応じたコース準備

現状、日本国内の団体からの提案型で実施されているが、「2.2.4.日系社会研修」で述べたとおり、

本スキームの実現率は23年度で48%と低くなっている。日系社会連携事業の通常予算が限られていることに加えて、研修で想定される参加要件を満たす応募者がいないために実施に至らないことが主な原因であるが、これに関しては、日系社会のニーズに応じた研修の実施を求める声が複数聞かれた。参加側のニーズに応じた研修実施の方が研修の成果が活用される可能性が高まり、さらにその結果として研修員が共創パートナーとなり得る可能性が高まると考えられることから、日系社会側のニーズを踏まえる方策を検討することが望ましい。既に非常に多種類の研修コースが提供されているため、国民参加型事業としての形も継続しつつ、日系団体への要望調査結果を踏まえて一部の研修コースを準備するなどの対応があり得るであろう。

応募者がニーズに合致したコース選定を行いやすくする工夫

現状は非常に多数のコースが一覧化された細かな表から応募コースを選ぶ形式となっており、提供されているコース一覧から自身のニーズに合致したものを選ぶことが難しいという声もあった。応募者がいないために実現に至らないコースを少なくするためには、分野や期間別の情報が検索でき、見やすいサイトを運用することも一案として考えられる。

4) 日系社会研修（日系サポーター枠）

3章で述べたとおり、日系サポーターによる派遣期間中の個別の在日外国人が抱える課題に対する貢献や長期的に地域の多文化共生へつながり得る可能性は認められるが、明確に地域の多文化共生へとつなげていくための戦略が現状では不足している。この観点から、以下を提言する。

① 長期的な事業効果発現を目指すうえで必要十分な研修員を継続的に受け入れるための提言

研修参加者へのメリット増強のため、より多様な研修分野での受入団体の確保

現状の日系サポーターの活動分野は在日外国人の学習支援や生活支援が中心であり、日本語教師や日本とのコネクションが活かせる職種に帰国して就く場合を除き、日系サポーター側にとってキャリアアップへの活用が難しい。参加への応募を増やす一案として、より幅広い研修テーマを提供することができるよう、民間企業を含め多様な活動分野の受入団体を確保していくことが考えられる。例えば、高齢者介護³⁷やリサイクル等、中南米諸国でも社会課題として重要な分野において在日外国人を雇用する民間企業や福祉法人での受入が実現すれば、日系サポーターが高齢者介護やリサイクルにおける日本の技術やノウハウ、あるいはマーケティング等のより多様な分野での学びを得られることとなり、帰国後のキャリアアップへの活用が見込まれるため、参加メリットを増強できる。日系サポーターの活動内容としては、在日日系人社員と日本人社員のコミュニケーションサポート、SNSでの発信活動サポート、スペイン語・ポルトガル語の業務マニュアル作成サポート等が考えられる。受入団体側も日系サポーター出身国とのコネクションが得られ、日系サポーター帰国後にそうしたコネクションをビジネスに活用していく可能性が得られるなど、自社・団体従業員とは異なるメリットがあると考えられる。

一定期間の継続派遣を可能とする中南米側送り出し団体と日本側受入団体の連携協定

通常枠の日系社会研修も同じであるが、毎年、日系サポーター受入を計画しても応募者や適格者が居ないことにより継続派遣が見込めないとすると、受入団体側も計画的な研修コース準備が難しく、地域の多文化共生へとつながりにくい。JICA海外協力隊では、一定期間の継続派遣を可能

³⁷ 現状では受入実績はあるが一部団体に限定されている。

とするために日本側送り出し団体と相手国受入団体の間で連携協定を結び、3 期連続で計画的に派遣するといった取り組みが存在している。このような取り組みを参考に、日系サポーターにおいても中南米側送り出し団体と日本側受入団体との間で連携協定を結び、計画的な派遣を可能とすることも一案である。現状では、日本語の学習支援では多くの受入団体での実績があり継続的な実施が見込まれる。この分野で活躍できる人材は日系日本語学校に存在している。このため、日系日本語学校と日本語学習支援を実施している受入団体間での連携協定が実現可能と思われる。また、移住者の出身県とのつながりとして日系県人会と日本側県自治体との間での連携協定も検討の余地がある。

募集説明資料やそのノウハウの JICA 現地事務所間での共有

日系サポーターは新しい制度であるため、参加者募集に際しては各国 JICA 事務所間で当制度への理解度にばらつきがあり、域内関係 JICA 事務所の担当者の理解向上と応募勧奨の強化とともに、応募者に対する当制度についての丁寧な説明が必要となっている。例えば、日本に在日日系人集住地区が存在していること、そうした地域の抱える多文化共生の課題、自分のスキルを磨く研修という側面と在日日系人に貢献するという両側面について、募集段階や派遣前オリエンテーションの段階から明確に理解してもらうための説明を行う必要がある。また、応募者が日系・非日系どちらであるかによって参加動機も異なると考えられることから、それに応じた説明も必要である。募集先も日系団体だけでなく個別に関心の高い非日系の方への説明が必要となるなど、従来の日系コミュニティを通じた周知方法とは異なる。既に一定の応募実績のある国では、効果的な説明資料が作成され、募集や説明に関するノウハウも蓄積されていると考えられることから、これらをまだ実績のない国などの JICA 現地事務所間で共有し、各国での応募勧奨の強化を行うことが望ましい。

研修内容・期間を派遣研修員決定後に精査できる仕組み

通常枠の日系社会研修も同じであるが、現状の制度では受入団体側で先に研修内容や研修期間を設定し、そのうえで研修員を募集する仕組みになっている。しかしながら、研修内容に適切な応募者が見つからない、研修期間が折り合わない等の経験をヒアリングしたほとんどの団体が経験している。また派遣される研修員が決定するまで、受入団体側では研修員の日本語能力や関心事項等がわからない。実際には、研修内容も研修期間も、受け入れる研修員がどのような人材かによって再検討することが望ましい場合が多いが、変更は原則認められていない。こうしたマッチングの難しさを改善するため、テーマごとに派遣候補者リストを作成し、受入団体側から候補者を選定してもらい、最終選考という形をとることも一案である³⁸。そのうえで、研修員の決定後に、研修員の意向も含めて研修内容・期間を精査できる仕組みとすることが望ましい。

派遣期間中の日本語研修の実施

日系サポーターは在日外国人と日本側関係者の間の橋渡しの役割を期待される場合が多く、日本語能力が要件となっていることが多い。一方で、日本語能力が制約となって派遣に至らない候補者も存在している。こうした状況に対応するために、既に一部の団体で実施されているように、派遣期間中に一定期間日本語研修を行うことも有効な選択肢であると考えられる。

³⁸ 現状では一部、日系サポーター受入団体からの要望に応じてこのように対応しているコースもある。

② 地域の多文化共生に貢献するという視点を関係者に明示するための提言

日系サポーターの活動を既存活動の向上や新たな取り組みへとつなげる意識の強い受入団体の選定

日系サポーターによる貢献が、受入団体の既存活動のサポートに留まらず、地域の多文化共生に貢献していくためには、日系サポーターによる活動を、既存活動をより良くする気づきを与えてくれるものと位置づけ、多文化共生へとつながる新たな取り組みや既存の活動の向上につなげていく戦略的な意識が受入団体に必要である。受入団体に対して、日系サポーター制度の長期的な目的を一層明示的に伝え、このような意識が強い団体を戦略的に選定していくことが求められる。また、研修目標だけでなく、受入を通じて地域の多文化共生にかかるどのような課題を解決することを目指すのかを具体的に提案書提出の際に記載してもらうことも一案である。

日系サポーター帰国後も貢献を継続させる工夫

日系サポーターの派遣期間は10か月以内と限られた期間であり、その活動を地域の多文化共生へとつなげていくためには、研修期間中の貢献が一過性のものとして帰国後に終わってしまうことのないよう意識して活動することが求められる。研修期間中に母語話者として、在日外国人のニーズを聴き取り、それに基づき既存の活動をより良くさせる、あるいは新たな活動を実施した場合には、それを自身の帰国後も受入団体が継続できるよう、担当者へ引継ぎを行う、業務マニュアル化する等が限られた期間でも可能な工夫として考えられる。

③ その他のより良い実施に向けた提言

日系サポーター受入団体同士での定期的な意見交換

日系サポーター制度開始から本年度で5年目となり、複数回受入経験のある団体も存在しており、受入団体側でのノウハウが徐々に蓄積されつつある。受入団体同士で経験やノウハウを共有できる機会を定期的に設けることによって、今後の運営に有益な情報交換の場とすることが可能である。

5.3.3. 海外移住資料館

人材育成スキームにおける海外移住資料館訪問と付随プログラムの継続

帰国研修員へのヒアリングから、海外移住資料館への訪問によって、祖父母等から伝え聞いてきた移住当時の様子を詳しく知ることとなり、日系人としてのルーツを知ること、日本からの移住の歴史を知ること、日系人としてのアイデンティティが涵養されることにつながっていることが確認できた。人によっては、来館は非常にエモーショナルな体験となり、これまでどこか腑に落ちていなかった自身のアイデンティティを再構築するきっかけとなっている。それは、次世代研修へ参加の若者のみならず、リーダー育成事業、日系社会研修へ参加の幅広い年齢層においていえることであった。したがって、各人材育成スキームの重要な研修内容の一部として、今後も海外移住資料館訪問とそれに付随するプログラムを継続することを提言する。

日本の若者の多文化共生への意識を高める教育施設として現状の教育プログラムの継続・広報強化

日本国内の若い世代へのアンケート結果から、来館によって海外移住の歴史・日系人への知識・関心・理解の深まり、中南米・国内日系社会の現状・課題に関する理解の深まり、多文化共生への関心の高まりがあること、日本が多文化共生となることが大事だと感じる、という意識変容に

つながっていることが確認できた。またヒアリングからは、展示閲覧だけでなく、解説員の説明を聞くこと、資料室や図書館で調べ学習をすることで学びが深まっていることや、JICA 横浜による国際協力やODAに関する講義によって多文化共生への関心が高まっていることがうかがえた。日本と海外や異文化との出会いを歴史から学び、多文化共生への意識を高める教育施設として、展示及び現状の教育プログラムは教員から高く評価されている。したがって、現状の教育プログラムを継続するとともに、より多くの若者が来館するように、積極的な広報が望まれる。

5.4. 日系社会連携事業 ToC の改訂

本業務では、「2.3. 評価対象 5 スキームを中心とした日系社会連携事業のセオリー・オブ・チェンジ」に掲載した ToC 及びそれを基に設定した指標に基づき、調査と評価判断を行った。

今回の分析結果を踏まえ、より現状に即したアウトカムの捉え直しの観点、あるいは調査を経て明らかになった、目指していることを達成するために必要となる変化の連鎖を追加する観点から、より適切な ToC とするための改訂箇所を以下に記載する。

なお、中南米側関係者版と日本側関係者版という 2 種の ToC に共有する改訂として、短期・中期・長期アウトカムの名称を各アウトカムに用いていたが、短期的・中期的に達成可能であったとしてもそれ自体が最終的に目指すアウトカムであるという場合もあり、短期・中期・長期アウトカムを、それぞれ初期・中間・最終アウトカムに改めることとする。

以下、2 種の ToC それぞれについて改訂箇所と改訂理由を述べる。改訂版 ToC の内容を踏まえ、今後の各スキームや日系社会連携事業全体の戦略の検討材料とすることが望ましい。

5.4.1. 日系団体・研修参加者等中南米側関係者のアウトカムに関する ToC の改訂

1) 助成金交付事業

- 現状でも移住者定住支援が重要な役割を果たしている地域も存在しており、それ自体が助成金の最終アウトカムとなっている場合がある。したがって、「日系社会における移住世代の生活が安定する」を現在においても重要な目標と位置付け、最終アウトカムに追加する。
- 助成金交付事業における日本語・日本文化事業は、「日系社会の維持発展」と「非日系も含めた新日派・知日派の育成」の双方に重要な役割を果たしている。したがって、「日系文化が継承される」としていたアウトカムを「日本語・日本文化が継承、伝播される」と改め、日系人への継承のみならず、非日系も含め広がっていくことを明示する。

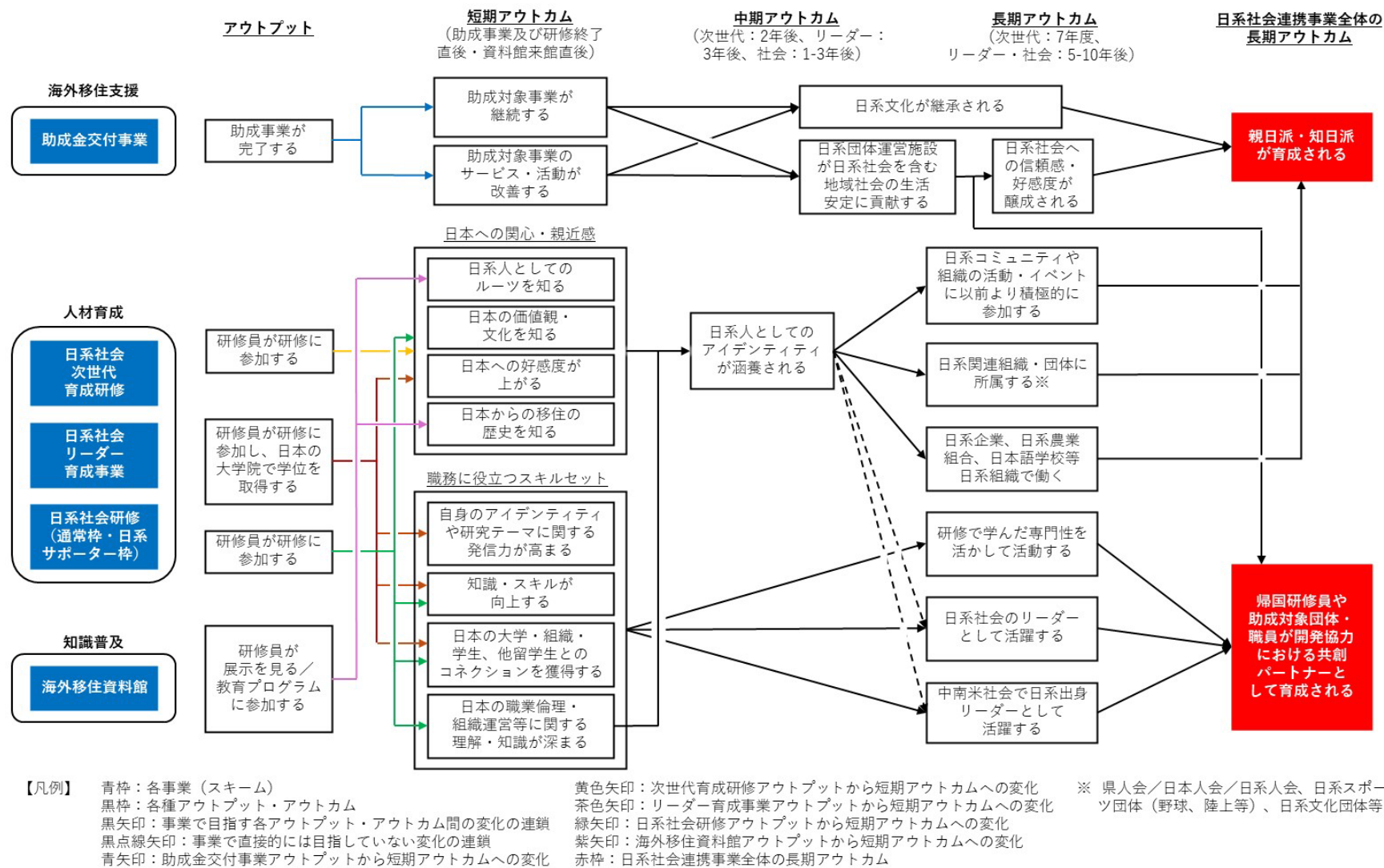
2) 人材育成事業

- リーダー育成事業帰国研修員は、自国に戻って活動していない例も多い。日系人のリーダーとして貢献するという目的に鑑みると、中南米に物理的に拠点を置きながら活動することは必須ではないと考えられる。したがって、多様なリーダーとしての貢献のあり方も踏まえて「日系社会のリーダーとして活躍する」及び「中南米社会で日系出身リーダーとして活躍する」という二つのアウトカムとしていた箇所を「日系社会のリーダーとして中南米日系社会に貢献する」という一つのアウトカムとして修正する。物理的な拠点がどこであるかを問わず、世界で活躍する日系人リーダーを育成する、日本と中南米諸国との連携関係の発展に貢献する人材を育成するという視点を明確にする意図である。
- 帰国研修員が「日系企業、日系農業組合、日本語学校等日本組織で働く」場合もあるとい

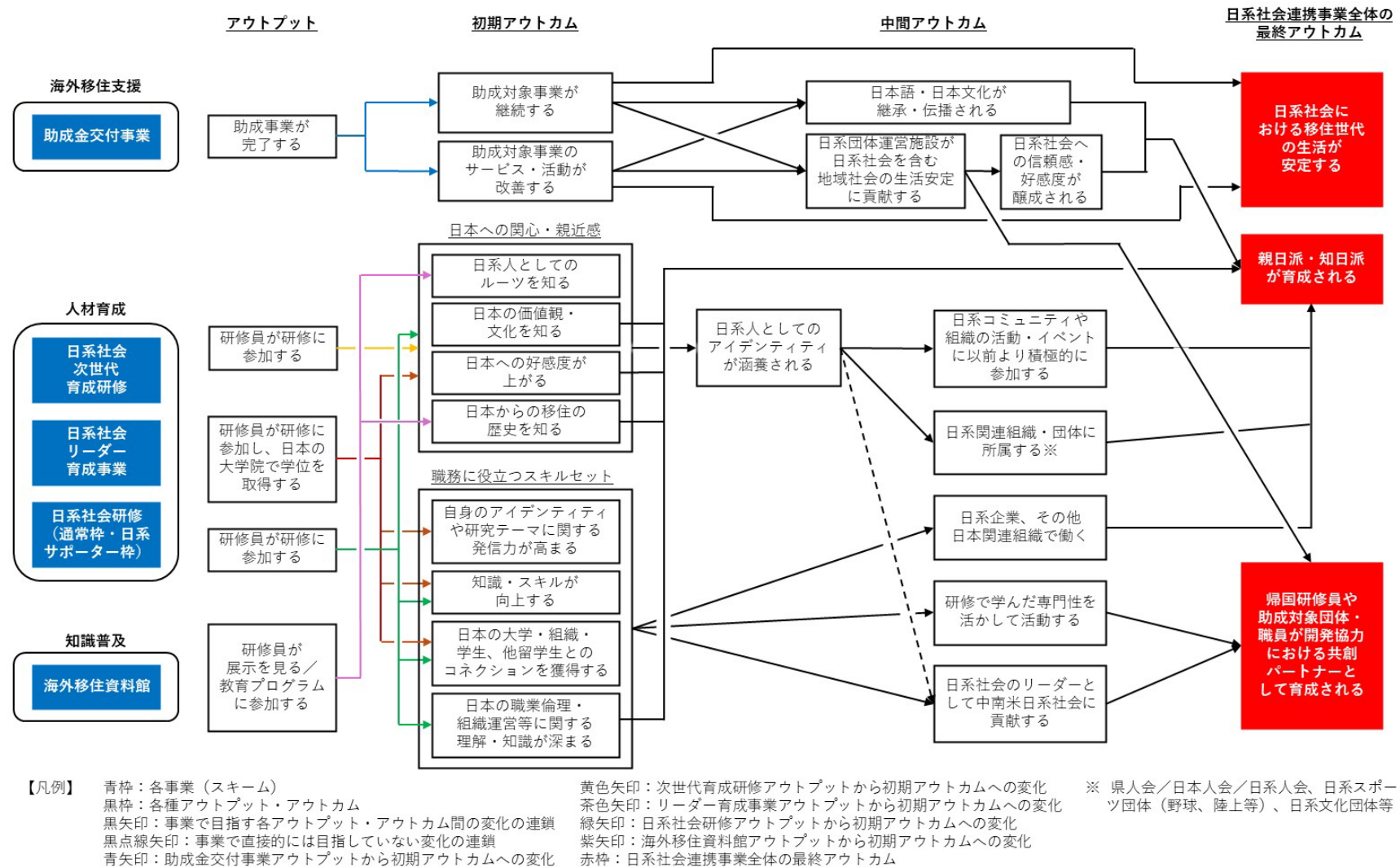
う意図でそれを一つのアウトカムとして記載していたが、元からある「県人会／日本人会／日系人会、日系スポーツ団体（野球、陸上等）、日系文化団体等に所属する」及び「研修で学んだ専門性を活かして活動する」に包含される内容であるため、別アウトカムとして扱うことなく、「日系農業組合、日本語学校等」という記載は削除する。

- 他方で、「日系企業、その他日本関連組織で働く」はリーダー育成事業等で専門スキルや親日度を高めた人材が、共創パートナーとなるルートとして重要と思われるため、追加する。
- 日系社会研修へは非日系の参加もあるので、中間アウトカム「日系人としてのアイデンティティ」を経ずにその後の変化につながっていくケースもある。このため「日本の価値観・文化を知る」、「日本への好感度が上がる」、「日本からの移住の歴史を知る」、「日本の職業倫理・組織運営等に関する理解・知識が深まる」から直接「親日派・知日派」につながる矢印を新たに追加する。

改訂箇所確認のため、調査前に作成した ToC、及び上述の改訂を踏まえた改訂版 ToC を以下に掲載する。



図表 5-6 調査前に作成した中南米側の助成金受給日系団体及び人材育成スキームに参加の研修員に関する ToC
出典：評価チーム作成。



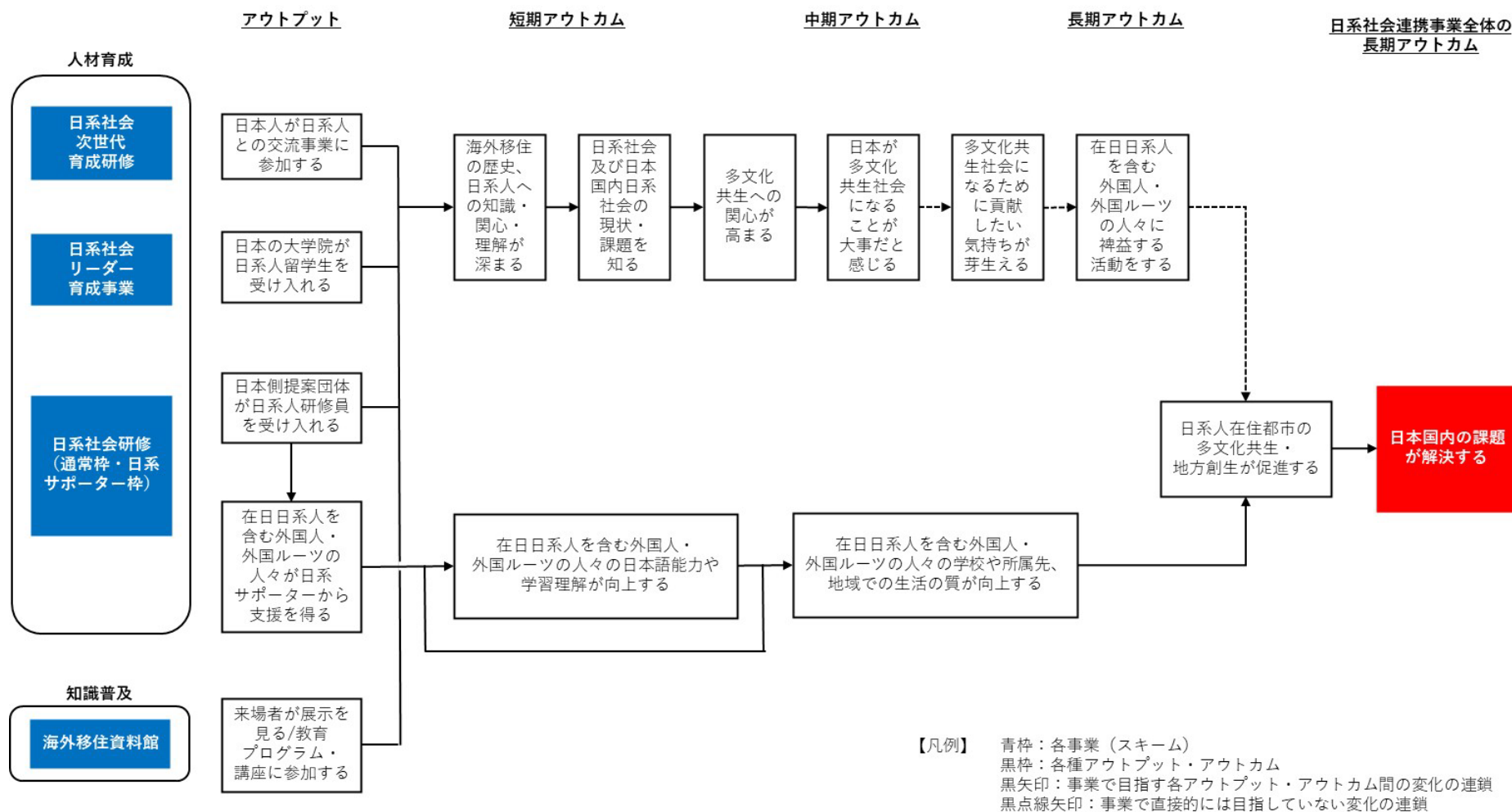
図表 5-7 改訂版中南米側の助成金受給日系団体及び人材育成スキームに参加の研修員に関する ToC

出典：評価チーム作成。

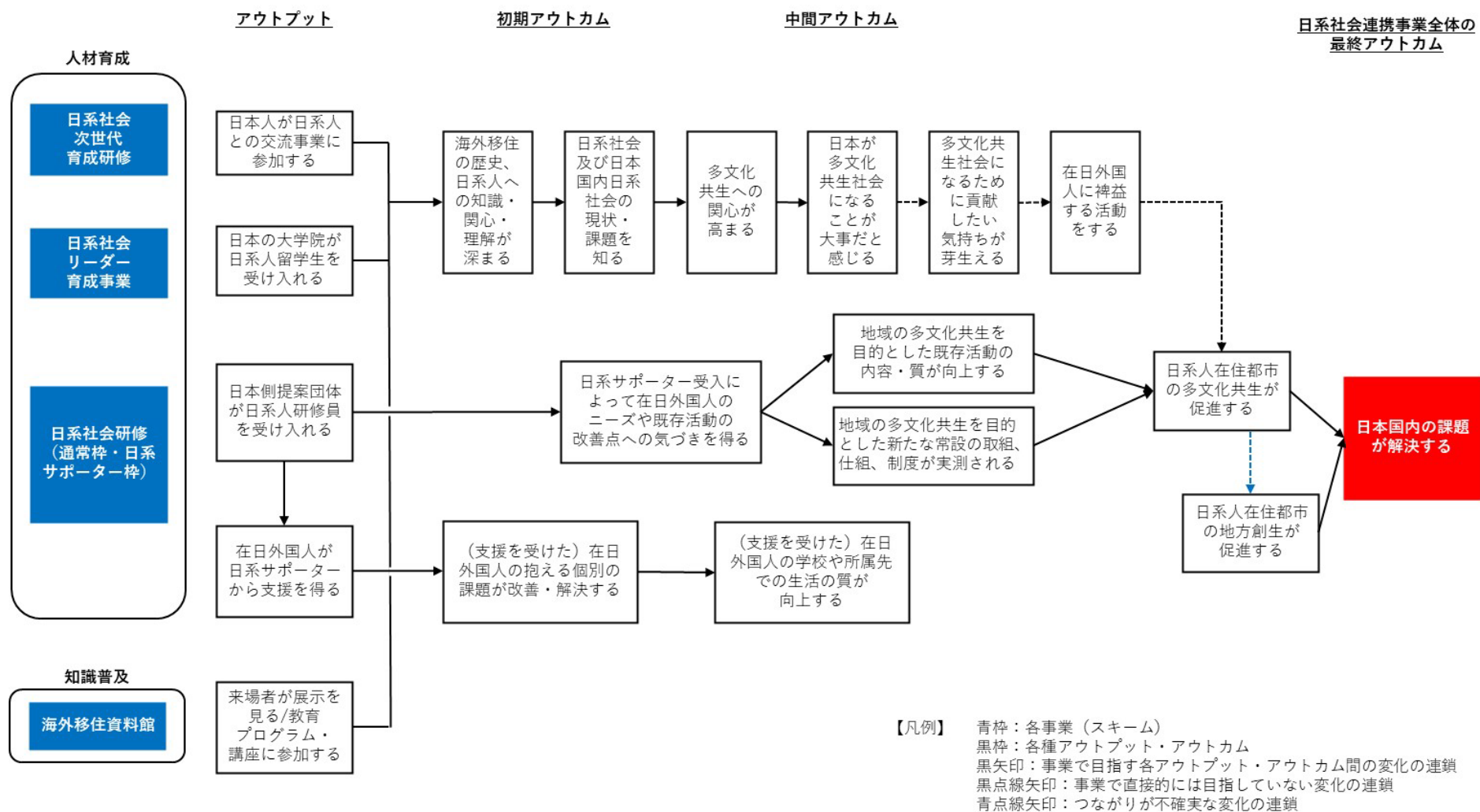
5.4.2. 日本国内の課題解決へ向けたアウトカムに関する ToC の改訂

- 日系サポーターの活動が最終的に「日本国内の課題の解決」へとつながっていくためには、日系サポーターから直接的に何らかの支援を受けた個別の在日外国人が抱える課題が解決することのみならず、日系サポーターを受け入れた団体や自治体はその活動の気づきから、既存活動を改善することや、地域の多文化共生を目的とした新たな常設の取り組み、仕組み、制度を実装することが必要となってくると考えられる。したがって、「日本側提案団体が日系サポーターを受け入れる」というアウトプットの先に「日系サポーター受入によって在日外国人のニーズや既存活動の改善点への気づきを得る」、「地域の多文化共生を目的とした既存活動の内容・質が向上する」、「地域の多文化共生を目的とした新たな常設の取り組み、仕組み、制度が実装される」というアウトカムを新たに追加する。
- 日系サポーターの現状の活動内容に即して「在日外国人が日系サポーターから支援を得る」のアウトプットの先に「在日日系人を含む外国人・外国ルーツの人々の日本語能力や学習理解が向上する」及び「在日日系人を含む外国人・外国ルーツの人々の学校や所属先、地域での生活の質が向上する」の二つのアウトカムを設定していたが、日系サポーターの活動内容は今後、多様化していくであろうことを踏まえ、「(支援を受けた) 在日外国人の抱える個別の課題が改善・解決する」及び「(支援を受けた) 在日外国人の学校や所属先での生活の質が向上する」の二つのアウトカムに修正する。

改訂箇所確認のため、調査前に作成した ToC、及び上述の改訂を踏まえた改訂版 ToC を以下に掲載する。



図表 5-8 調査前に作成した日本の海外移住資料館来館者及び日系サポーター等研修員受入関係者に関する ToC
出典：評価チーム作成。



図表 5-9 改訂版日本の海外移住資料館来館者及び日系サポーター等研修員受入関係者に関する ToC
出典：評価チーム作成。

5.5. 継続的なデータ収集方法に関する提案

最後に、今後日系社会連携事業の成果を継続的に把握していくためのデータ収集に関する点について記載する。ここでは前提として、日系社会連携事業の成果を把握し、それを対外的に示していくことを目的とし、そのために必要となる最小限のデータを収集するということを念頭に置く。

5.5.1. アウトプットに関するデータ

こうした観点からまず収集が必要となるのが、アウトプットすなわち事業の実績に関するデータである。助成金交付事業であれば助成対象事業数、人材育成事業であれば各研修員数が該当する。

また、それらの実績をカテゴリ別に集計することが可能となるよう、属性に関する情報も併せて収集することが望ましい。助成金交付事業であれば、個々の対象事業についての国・助成対象団体・分野・事業内容・助成額等であり、人材育成事業であれば、国・性別・年齢・分野等である。したがって、アウトプット（実績）に関する情報の収集（蓄積）にあたっては、年度や国ごとの集計データではなく、個々の助成事業・研修員単位でのデータを収集・蓄積することが必要となる。そうすることで、例えば男女別等での研修員の実績の集計を行うことが可能となる。

これらの情報については、原則として別途データの収集を行う必要はなく、通常の業務プロセスの一環として実施される助成金や研修への申請・応募データから収集することが可能と考えられる。したがって、実際の作業としては、業務の実施上得られるそうしたデータを、実績把握の際に活用できるよう適切に保管・蓄積しておくという形となり、大きな追加的負担なく行っていくことが可能であると考えられる。

なお、こうしたデータの整備は助成金交付対象の事業及び研修員のデータベースを作成することと同義である。5.2.で日系団体・帰国研修員の情報を集約するプラットフォームを構築することを提言として記載したように、どこにどのような団体・帰国研修員が存在しているのかという情報を集約することは助成金受給団体・研修員との共創推進においても不可欠な要素であり、実績の把握という観点だけでなく、事業のより良い実施のためにも必要な作業であると考えられる。

さらに、これらのデータベースは後述するアウトカムに関する情報を継続的に収集していくうえでの調査対象リストにもなる。その観点から、データの整備にあたっては複数の連絡先（E-mail アドレス、電話番号、SNS のアカウント等）を併せて収集・蓄積しておくことも重要である。

5.5.2. アウトカムに関するデータ

アウトカムについては、ToC に示されているように各スキーム初期から最終まで多数のアウトカムが存在するが、それらに関するデータを網羅的に収集していくことは現実的ではなく、少数のアウトカムに絞り選択的にデータを収集していくことが必要である。可能な限り最終アウトカムに近いアウトカムに関するデータを収集していくことが望ましいため、本事業においても最終アウトカムである i) 親日・知日派の育成、ii) 共創パートナーの育成、iii) 日本国内の課題解決の 3 点を確認することのできるデータを収集することを提案する。

「親日・知日派の育成」に関する指標としては帰国研修員の日本への意識（信頼度・関心度）が考えられる。「共創パートナーの育成」を確認するためには、JICA 事業を始めとする各種 ODA 事

業や日系社会に関連する事業等に関わっている帰国研修員・団体の数・割合が指標として考えられる。なお、この点については、どのような関わりを持つ研修員・団体を「共創パートナー」とみなすかという点において、今後の JICA の日系社会連携事業の方針も踏まえて定義を行っていくことが必要となる³⁹。上記 i) ii) を把握するために本業務で用いた具体的な質問については以下に示す。

図表 5-10 質問例

【親日・知日派の育成に関する質問】

信頼度：To what extent do you think Japan is a trustworthy country? From 1 (Not at all trustworthy) to 10 (Very trustworthy), choose the one that best describes your feelings.

Not at all trustworthy									Very trustworthy
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

関心度：To what extent do you have a regular interest in Japan's foreign policy? From 1 (Not at all interested) to 10 (Very much interested), choose the one that best fits your interest.

Not at all interested									Very much interested
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

【共創パートナーの育成に関する質問⁴⁰】

JICA 事業への関与：After completing the Program, have you worked for/been involved in JICA projects (including JICA training, JICA Study, etc.) as an expert, local consultant/staff/coordinator, interpreter, lecturer or any other roles, or worked for an organization implementing JICA projects?

1.Yes 2.No（その後具体的な内容についても質問）

その他 ODA 関連での関与：After completing the Program, have you worked for/been involved in any Japan-related development projects (such as studies by Ministry of Foreign Affairs of Japan and JETRO (the Japan External Trade Organization), Japan's ODA (Official Development Assistance) projects, etc.) excluding JICA projects?

1.Yes 2.No（その後具体的な内容についても質問）

また、「日本国内の課題解決」については、定量的な情報として収集することは難しいと考えられるため、個別の事例として具体的な成果を定性的に収集していくことが想定される。

データの収集方法としては、いずれのアウトカムについても当面は数年に 1 度程度の定期的な追跡調査をウェブアンケートの形で各帰国研修員や団体に対して実施することが現実的であろう。その際には上述のように連絡先情報が必要となることから、適切な保管とアップデートが重要である。

³⁹ 本評価では、「共創パートナー」を各種 JICA 事業やその他日本との ODA 関連での連携経験を持つ人と便宜的に設定した。

⁴⁰ ここでは人材育成を念頭に置いた質問を掲載しているが、助成金受給団体に対しても個人ではなく団体に対する形で同様の質問を行っている。

なお、当面はこうした追跡調査に頼らざるを得ないを考えるが、既述のとおり、中長期的な観点からは、帰国研修員・日系団体との共創を図るためには、それらの情報を集約するプラットフォーム／ポータルサイトの構築を検討することが望ましいと考える⁴¹。こうしたプラットフォームが構築され、そこに日系団体や帰国研修員の情報（例えば、研修員のその後の職やキャリアに関する情報や日系団体の活動情報等）が入力・アップデートされるようになれば、追加的な情報収集を最小化することができる。また、追加的な調査を行うにしても、そうしたプラットフォームを通じてウェブアンケートを行うなど効率的な調査が可能となる。したがって、データ収集・成果の把握という副次的な目的からも、既述のようなプラットフォームの構築を検討することが望ましい。

⁴¹ 国際協力人材のポータルサイトである JICA Partner のようなイメージである。

別添 1. ウェブアンケート最終版

1. 助成金交付事業

1) スペイン語版

Cuestionario sobre el Programa de otorgamiento de subvención para las organizaciones de inmigrantes de la JICA

Agradecemos por el tiempo brindado para responder este cuestionario.

Este cuestionario se refiere al Programa de otorgamiento de subvención para las organizaciones de inmigrantes. La JICA está llevando a cabo este año una evaluación del Programa de asociación con la sociedad Nikkei. Como parte de esta evaluación, la JICA ha encargado a Metrics Work Consultants, Inc. la ejecución de las encuestas con las organizaciones de inmigrantes que se han beneficiado de las subvenciones entre los años fiscales 2015 y 2022. La encuesta tomará aproximadamente entre 10 y 20 minutos (dependiendo del número de proyectos subvencionados).

Las respuestas serán utilizadas para implementar y mejorar el Programa de Asociación con la Sociedad Nikkei de la JICA. Las respuestas nunca serán utilizadas para otros fines distintos a los mencionados arriba. Dado que la información personal será analizada solo después de haber sido anonimizada, ninguna información personal u organizacional identificable será hecho pública, ni se compartirá el contenido de sus respuestas de forma que permita identificar a las personas, por lo que se solicita hacernos saber su respuesta sincera.

Si usted desea regresar a la página anterior para realizar correcciones, haga clic en el botón "Regresar".

Metrics Work Consultants, Inc., i.e., la empresa a cargo de ejecutar el presente estudio ha obtenido la Marca de Privacidad y ha establecido y está operando el sistema de protección de información personal conforme los "Requisitos del Sistema de Gestión de Protección de la Información Personal (JISQ15001:2017)". Si tiene alguna pregunta sobre esta encuesta, póngase en contacto con XXX (xxx@metricswork.co.jp), del Equipo de Estudio de la JICA.

Sírvase leer la Política de Privacidad referente al manejo de la información personal, y proceda a responder a las preguntas del cuestionario solo si usted está de acuerdo con los términos de la Política de Privacidad.

Si usted está dispuesto/a a participar en este estudio, sírvase marcar "Acepto participar" y haga clic en "Participar".

設問番号	質問項目
1	Sírvase indicar el nombre de su organización.
2	¿Dónde se ubica su organización? 1. Argentina 2. Uruguay 3. Colombia 4. Chile

	5. República Dominicana 6. Paraguay 7. Brasil 8. Perú 9. Bolivia 10. México
3	¿En qué áreas recibió subvención su organización entre los años fiscales 2015 y 2022? Seleccione <u>todas las áreas</u> beneficiadas por la subvención. (複数選択可) 1. Salud y bienestar social (excepto el Proyecto de Bienestar de los Adultos Mayores de la República Dominicana) 2. Salud y bienestar social (Proyecto de Bienestar de los Adultos Mayores de la República Dominicana) 3. Enseñanza de japonés 4. Actividades culturales 5. Agricultura 6. Mejoramiento del entorno de vida
4	Las siguientes preguntas se refieren a los establecimientos de "salud y bienestar" (hospitales, clínicas, centros de asistencia para adultos mayores, centros de asistencia para personas con discapacidad, etc.) subvencionados de su organización. ¿Cuántos establecimientos de "salud y bienestar" han recibido subvenciones entre los años fiscales 2015 y 2022? La clínica itinerante debe considerarse un establecimiento y contabilizarse como un caso. 1. 1 2. Más de 2
説明文	Las siguientes preguntas se refieren a los establecimientos de "salud y bienestar" subvencionados, <u>respectivamente</u> . Si más de tres establecimientos han sido subvencionados, <u>responda las siguientes preguntas sobre los dos establecimientos con subvenciones de mayor cuantía.</u> Preguntas sobre el primer establecimiento
5	¿Cómo se llama el primer establecimiento subvencionado? (自由回答)
6	Seleccione <u>todos los años fiscales</u> que su organización ha recibido subvenciones para ese establecimiento. 1. AF 2015 (Abr. 2015 - Mar. 2016) 2. AF 2016 (Abr. 2016 - Mar. 2017) 3. AF 2017 (Abr. 2017 - Mar. 2018) 4. AF 2018 (Abr. 2018 - Mar. 2019) 5. AF 2019 (Abr. 2019 - Mar. 2020) 6. AF 2020 (Abr. 2020 - Mar. 2021) 7. AF 2021 (Abr. 2021 - Mar. 2022) 8. AF 2022 (Abr. 2022 - Mar. 2023)
7	¿Su organización continúa operando el establecimiento subvencionado? 1. Sí 2. No
8	Indique el número de usuarios de ese establecimiento en el AF 2023 (el último año fiscal de su organización). Puede ser un número aproximado. Para hospitales y clínicas, indique el número total acumulado de pacientes ambulatorios y hospitalizados; hogares de los adultos mayores y de personas con discapacidad, el número total de residentes y usuarios de día; para clínicas itinerantes, el número total de pacientes atendidos. Introduzca 0 cuando no proceda. Hospitales y clínicas : Número total acumulado de pacientes ambulatorios (...) personas Hospitales y clínicas : Número total acumulado de pacientes hospitalizados

	(...) personas Hogares de los adultos mayores y de personas con discapacidad : Número total de residentes (...) personas Hogares de los adultos mayores y de personas con discapacidad : Número total de usuarios de día (...) personas Clínicas itinerantes : Número total de pacientes atendidos (...) personas
9	Seleccione <u>todas las razones</u> porque no ha continuado operando el establecimiento subvencionado. (複数選択可) 1. Porque ha disminuido el número de usuarios / pacientes. 2. Por falta de recursos humanos, financieros, equipos, etc. necesarios para operar el establecimiento. 3. Otros ()
10	¿La subvención ha contribuido al mejoramiento de la calidad de los servicios de salud y de bienestar que presta su organización, a la ampliación de los servicios (nuevos servicios) ofrecidos, o al aumento del número de personas atendidas? Seleccione <u>todas las respuestas</u> que correspondan. (複数選択可) 1. Sí, ha mejorado la calidad de servicios. 2. Sí, ha permitido prestar nuevos servicios. 3. Sí, ha aumentado el número de personas atendidas (usuarios, pacientes, etc.) 4. No
11	Seleccione <u>todas las mejoras</u> en la calidad de los servicios que se han conseguido por la subvención. (複数選択可) 1. Ahora es posible ofrecer diagnóstico y tratamiento más preciso. 2. El interior del establecimiento es más limpio y cómodo. 3. Ha mejorado el control de enfermedades nosocomiales. 4. Ha mejorado la calidad de servicios de los médicos, enfermeros y demás personal. 5. Ha disminuido el tiempo de espera de los pacientes y usuarios. 6. Otros ()
12	Seleccione <u>todos los nuevos servicios</u> que se han conseguido iniciar con la subvención. (複数選択可) 1. Ahora es posible prestar servicios de diagnóstico, tratamiento, rehabilitación de las enfermedades y lesiones que antes no se podía. 2. Se implementaron los servicios de la clínica itinerante que hasta ahora no se ofrecían. 3. Se inició la atención médica en línea. 4. Otros ()
13	Seleccione <u>todas las causas</u> por las cuales la subvención no ha contribuido al mejoramiento de la calidad de los servicios de salud y de bienestar, a la ampliación de nuevos servicios, o al aumento del número de personas atendidas. (複数選択可) 1. Porque la subvención se destinó a dar continuidad del servicio, como por ejemplo complemento de salarios, etc. (Porque desde el inicio no estaba destinado a mejorar la calidad o ampliar los servicios). 2. Porque se disminuyó la magnitud del establecimiento, o el número de usuarios y pacientes. 3. Porque ha cambiado el contenido de la operación, los servicios prestados, etc. del establecimiento. 4. Por falta de recursos humanos, financieros, equipos, etc. necesarios para operar el establecimiento. 5. Otros ()
14	¿Su organización ha comprado instalaciones, equipos, accesorios, etc. con la subvención entre AF 2015 y 2022 para ese establecimiento? 1. Sí

	2. No
15	¿Están operando o se siguen utilizando las instalaciones, equipos y accesorios financiados con la subvención? 1. Funcionan y se utilizan según lo previsto o en mayor medida de lo previsto. 2. Están en funcionamiento y se utilizan, pero en menor medida de lo previsto. 3. No se utilizan actualmente las instalaciones, equipos y los accesorios subvencionados.
16	<u>Seleccione todas las razones</u> por las que las instalaciones, equipos y accesorios no se utilizan según lo previsto. (複数選択可) 1. Porque se disminuyó el tamaño del establecimiento, o el número de usuarios y pacientes. 2. Porque ha cambiado el contenido de la operación, los servicios prestados, etc. del establecimiento después de haber comprado. 3. Porque las instalaciones, equipos y accesorios subvencionados están dañados o deteriorados. 4. Por falta de recursos humanos, financieros, etc., necesarios para operar las instalaciones, equipos y accesorios. 5. Otros ()
17	Describa cómo contribuye ese establecimiento a la comunidad local, incluida la sociedad Nikkei. (記述式)
説明文	Preguntas sobre el segundo establecimiento. Plantear las mismas preguntas de Q5 a Q17 sobre el segundo establecimiento.
31	Las siguientes preguntas se refieren a las escuelas de japonés/ a las actividades o establecimientos culturales para los que su organización haya recibido subvención para la "enseñanza del japonés" y/o "actividades culturales" entre AF 2015 y 2022. ¿Cuántas escuelas de japonés y actividades o establecimientos culturales han recibido subvenciones en estas áreas? 1. 1 2. Más de 2.
説明文	Las siguientes preguntas se refieren a las escuelas de japonés/ a las actividades o establecimientos culturales que han recibido subvención para promover la "enseñanza de japonés" y "actividades culturales" , respectivamente. Si más de tres escuelas de japonés/actividades o establecimientos culturales han sido subvencionados, <u>responda las siguientes preguntas sobre las dos escuelas de japonés/ actividades o establecimientos culturales de mayor cuantía de subvención.</u> Preguntas sobre la primera escuela de japonés/ actividad o establecimiento cultural
32	¿Cómo se llama la (primera) escuela de japonés/ actividad o establecimiento cultural subvencionado? (自由回答)
33	<u>Seleccione todos los años fiscales</u> que su organización ha recibido subvenciones para esa escuela de japonés/ actividad o establecimiento cultural. 1. AF 2015 (Abr. 2015 - Mar. 2016) 2. AF 2016 (Abr. 2016 - Mar. 2017) 3. AF 2017 (Abr. 2017 - Mar. 2018) 4. AF 2018 (Abr. 2018 - Mar. 2019) 5. AF 2019 (Abr. 2019 - Mar. 2020) 6. AF 2020 (Abr. 2020 - Mar. 2021) 7. AF 2021 (Abr. 2021 - Mar. 2022) 8. AF 2022 (Abr. 2022 - Mar. 2023)
34	¿Su organización continúa ejecutando u operando dicha escuela de japonés/actividad o establecimiento cultural subvencionado? 1. Sí 2. No
35	<u>Seleccione todas las razones</u> porque no ha continuado operando dicha escuela de japonés/actividad o establecimiento cultural. (複数選択可) 1. Porque ha disminuido el número de alumnos / participantes. 2. Por falta de recursos humanos, financieros, equipos, etc. necesarios para operar el establecimiento. 3. Otros ()
36	¿La subvención ha contribuido al mejoramiento de la calidad de la enseñanza de japonés y actividades culturales, a la ampliación de los servicios (nuevas actividades), o al aumento del

	número de personas atendidas por los cursos de japonés y actividades culturales de su organización? Seleccione <u>todas las respuestas</u> que correspondan. 1. Sí, ha mejorado la calidad del curso de japonés o de las actividades culturales. 2. Sí, ha permitido iniciar nuevas actividades. 3. Sí, ha aumentado el número de personas atendidas (alumnos, participantes, etc.) 4. No
37	Seleccione <u>todas las mejoras</u> en la calidad que se han conseguido por la subvención. (複数選択可) 1. Ha mejorado la calidad de los docentes, instructores, conferenciantes, etc. 2. Mayor limpieza, comodidad y seguridad de las aulas o del establecimiento. 3. Ha mejorado la calidad de los equipos, materiales didácticos, etc. utilizados para las actividades. 4. Otros ()
38	Seleccione <u>todas las nuevas actividades</u> que se han iniciado con la subvención. (複数選択可) 1. Se iniciaron las clases/ conferencias/ exposiciones en línea. 2. Se iniciaron las clases y conferencias con nuevo contenido. 3. Otros ()
39	Seleccione <u>todas las causas</u> por las cuales la subvención no ha contribuido al mejoramiento de la calidad, a la ampliación de los servicios (nuevas actividades), o al aumento del número de personas atendidas por las escuelas de japonés o actividades culturales subvencionadas? (複数選択可) 1. Porque la subvención se destinó a dar continuidad del servicio, como por ejemplo complemento de salarios, etc. (Porque desde el inicio no estaba destinado a mejorar la calidad o iniciar nuevas actividades). 2. Porque se disminuyó la escala del proyecto, o el número de alumnos o de los participantes. 3. Porque ha cambiado las políticas operativas, contenido de las actividades, etc. 4. Por falta de recursos humanos, financieros, equipos, etc. necesarios para ejecutar las actividades. 5. Otros ()
40	¿Su organización ha comprado o desarrollado nuevas instalaciones, equipos, accesorios, materiales didácticos, etc. con la subvención entre AF 2015 y 2022 para esa escuela de japonés/ actividad o establecimiento cultural? 1. Sí 2. No
41	¿Están operando o se siguen utilizando las instalaciones, equipos, accesorios y materiales didácticos financiados con la subvención? 1. Funcionan y se utilizan según lo previsto o en mayor medida de lo previsto. 2. Están en funcionamiento y se utilizan, pero en menor medida de lo previsto. 3. No se utilizan actualmente las instalaciones, equipos, accesorios ni los materiales didácticos subvencionados.
42	Seleccione <u>todas las razones</u> por las que las instalaciones, equipos, accesorios y materiales no se utilizan según lo previsto. 1. Porque se disminuyó la escala de las actividades, o el número de alumnos y beneficiarios. 2. Porque ha cambiado el contenido de las actividades después de comprar o desarrollar los materiales didácticos. 3. Porque las instalaciones, equipos, accesorios y materiales didácticos subvencionados están dañados o deteriorados. 4. Por falta de recursos humanos, financieros, etc., necesarios para operar las instalaciones, equipos, accesorios y materiales didácticos. 5. Otros ()
43	¿Se dispone continuamente de los instructores/personales necesarios para mantener el funcionamiento de la escuela de japonés o la actividad o establecimiento cultural subvencionada, tanto en términos de calidad como de cantidad? 1. Sí mantienen los instructores/personales en términos tanto de la calidad como del número. 2. El número de los instructores/personales está asegurado, pero hay dificultades para garantizar la calidad.

	3. Cuenta con instructores/personales de alta calidad, pero hay dificultades para garantizar su número. 4. Hay dificultades para garantizar tanto la calidad como el número de instructores/personales.
44	¿Cuál ha sido el número de alumnos de japonés (incluidos los alumnos del curso en línea) de la escuela de japonés de su organización que ha recibido subvención en los últimos tres años? Si no está operando una escuela de japonés, seleccione "No aplicable". 1. Ha aumentado. 2. No ha variado. 3. Ha disminuido. 4. No aplicable.
45	Indique el número de alumnos de japonés (incluidos los alumnos en línea) de la escuela de japonés de su organización que ha recibido subvención en 2023 (el último año fiscal de su organización). Puede ser un número aproximado. (...) personas
46	¿Conoce algún ejemplo de ex alumnos de la escuela de japonés subvencionada que han contribuido al desarrollo local de la sociedad Nikkei y de los países de América Latina y del Caribe? El periodo no se limita a 2015-2023, sino que son graduados hasta la fecha. Estas actividades no necesariamente deben ser desarrolladas como miembro de una organización específica ni ocupar un cargo determinado. Estas actividades incluyen, pero sin limitarse, ser oficial del gobierno local, doctor/a o docente activo en la comunidad local, político/a o líder de opinión que influye en los demás. 1. Sí 2. No 3. Se desconoce
47	En la medida de lo posible, facilite detalles concretos de sus actividades.
48	¿Cuál ha sido el número de participantes (incluidos los participantes en línea) en los últimos tres años en las actividades y eventos culturales japoneses subvencionados? 1. Ha aumentado 2. No ha variado 3. Ha disminuido
49	Describa cómo la escuela de japonés/ actividad o establecimiento cultural está contribuyendo a la sociedad local, incluida la sociedad Nikkei.
説明文	Preguntas sobre la segunda escuela de japonés/ actividad o establecimiento cultural Plantear las mismas preguntas de Q31 a Q49 sobre el segundo proyecto o establecimiento.
68	Las siguientes preguntas se refieren a los proyectos y establecimientos de "Agricultura " y de "Mejoramiento del entorno de vida" para los que su organización ha recibido subvención entre AF 2015 y 2022. ¿Cuántos proyectos o establecimientos han recibido subvenciones en estas áreas? 1. 1 2. Más de 2.
説明文	Las siguientes preguntas se refieren a los proyectos o establecimientos de " Agricultura " o de "Mejoramiento del entorno de vida" subvencionados, <u>respectivamente</u>. Si más de tres proyectos o establecimientos han sido subvencionados, <u>responda las siguientes preguntas sobre los dos establecimientos con subvenciones de mayor cuantía.</u> Preguntas sobre el primer proyecto o establecimiento
69	¿Cómo se llama (el primer) proyecto o establecimiento subvencionado? (自由回答)
70	Seleccione <u>todos los años</u> fiscales que su organización ha recibido subvenciones para ese proyecto o establecimiento. 1. AF 2015 (Abr. 2015 - Mar. 2016) 2. AF 2016 (Abr. 2016 - Mar. 2017) 3. AF 2017 (Abr. 2017 - Mar. 2018) 4. AF 2018 (Abr. 2018 - Mar. 2019) 5. AF 2019 (Abr. 2019 - Mar. 2020) 6. AF 2020 (Abr. 2020 - Mar. 2021)

	7. AF 2021 (Abr. 2021 - Mar. 2022) 8. AF 2022 (Abr. 2022 - Mar. 2023)
71	¿Su organización continúa ejecutando u operando el proyecto o el establecimiento subvencionado? 1. Sí 2. No
72	Seleccione <u>todas las razones</u> porque no ha continuado operando el proyecto o el establecimiento. (複数選択可) 1. Porque ha disminuido el número de usuarios. 2. Por falta de recursos humanos, financieros, equipos, etc. necesarios para continuar las actividades. 3. Otros ()
73	¿La subvención ha contribuido a mejorar la calidad de las actividades de su organización, o a ampliar las actividades (iniciar nuevas actividades), o a aumentar el número de usuarios? Seleccione <u>todas las respuestas</u> que correspondan. (複数回答) 1. Sí, ha mejorado la calidad de las actividades. 2. Sí, ha permitido iniciar nuevas actividades. 3. Sí, ha aumentado el número de usuarios. 4. No
74	Describa concretamente las mejoras conseguidas. (自由回答)
75	Describa concretamente las nuevas actividades iniciadas. (自由回答)
76	Seleccione <u>todas las causas</u> porque la subvención no ha contribuido a mejorar la calidad de sus actividades, o a aumentar el número de usuarios. (複数選択可) 1. Porque la subvención se destinó a dar continuidad del servicio, como por ejemplo complemento de salarios, etc. (Porque desde el inicio no estaba destinado a mejorar la calidad o iniciar nuevas actividades). 2. Porque se disminuyó la magnitud de la operación o el número de usuarios. 3. Porque ha cambiado las políticas operativas, contenido de las actividades, etc. 4. Por falta de recursos humanos, financieros, equipos, etc. necesarios para ejecutar las actividades. 5. Otros ()
77	¿Continúan operando o utilizando las instalaciones, equipos y accesorios financiados con la subvención? 1. Funcionan y se utilizan según lo previsto o en mayor medida de lo previsto. 2. Están en funcionamiento y se utilizan, pero en menor medida de lo previsto. 3. No se utilizan actualmente las instalaciones, equipos y los accesorios subvencionados.
78	Seleccione todas las razones por las que las instalaciones, equipos y accesorios no se utilizan según lo previsto. 1. Porque se disminuyó la escala del proyecto. 2. Porque ha cambiado el contenido de las actividades después de comprar. 3. Porque las instalaciones, equipos y accesorios subvencionados están dañados o deteriorados. 4. Por falta de recursos humanos, financieros, etc., necesarios para operar las instalaciones, equipos y accesorios. 5. Otros ()
79	Describa cómo contribuye el proyecto o el establecimiento subvencionado a la sociedad local, incluida la sociedad Nikkei.
説明文	Preguntas sobre el segundo proyecto o establecimiento Plantear las mismas preguntas de Q69 a Q79 sobre el segundo proyecto o establecimiento.
91	¿Piensa usted que la sociedad Nikkei goza de confianza o es acogida amigablemente en la zona donde opera su organización? 1. Sí, mucho 2. Sí 3. No 4. No en absoluto
92	¿Cuándo siente esa confianza o impresión amigable?

93	¿Su organización ha trabajado como socio en un proyecto de la JICA (excluyendo el proyecto subvencionado)? 1. Sí 2. No 3. Se desconoce
94	Indique el "nombre del proyecto de la JICA" para el que su organización ha trabajado como socio. Si no conoce, puede dejar sin responder.
95	¿Su organización ha sido el organismo receptor a los voluntariados de JOCV? 1. Sí 2. No 3. Se desconoce
96	Indique las "áreas de trabajo de los voluntariados de JOCV". Si no conoce, puede dejar sin responder.
97	¿Algún miembro, integrante o personal de su organización ha trabajado en algún proyecto de la JICA (incluyendo los programas de capacitación, estudio, etc. de la JICA) como experto/a, consultor/a, coordinador/a local, intérprete, conferenciante, etc.? 1. Sí 2. No 3. Se desconoce
98	Indique el nombre del proyecto o del programa de capacitación de la JICA en el que participó el miembro, socio o del personal de su organización. Si no conoce, puede dejar sin responder.
99	¿Ha participado su organización o alguno de sus miembros, socios o personal en algún proyecto de desarrollo relacionado con Japón (por ejemplo, proyectos de investigación del Ministerio de Relaciones Exteriores o de JETRO (Japan External Trade Organization) o proyectos de la AOD (Ayuda Oficial al Desarrollo), <u>que no sean proyectos de la JICA?</u> (複数回答可) 1. Sí, la organización ha servido como socio o contratista. 2. Sí, los miembros, socios, personal, etc. de la organización ha participado a título individual. 3. No 4. Se desconoce.
100	Indique el nombre del proyecto de desarrollo relacionado con Japón en el que participó su organización. Si no conoce, puede dejar sin responder.
101	Indique el nombre del proyecto de desarrollo relacionado con Japón en el que han participado los miembros, socios o personal de su asociación. Si no conoce, puede dejar sin responder.
102	Si quisiéramos realizar futuras entrevistas relacionadas con la información que nos ha proporcionado, ¿estaría dispuesto/a a cooperar con nosotros? 1. Sí 2. No
103	Muchas gracias. Si deseamos realizar una entrevista, nos pondremos en contacto con usted para concertar una fecha. Sírvase facilitarnos sus datos de contacto. Nombre: Correo electrónico: País de residencia actual:

Aquí termina el cuestionario. Agradecemos por su colaboración.

2) ポルトガル語版

Pesquisa por Questionário sobre o Programa JICA de Concessão de Subsídios às Entidades de Imigrantes

Agradecemos por el tiempo brindado para responder este cuestionario.

Este questionário é relativo ao Programa JICA de concessão de subsídios às entidades de imigrantes. A JICA

está realizando neste ano fiscal a avaliação do seu Projeto de Cooperação com comunidade Nikkei. Como parte dessa avaliação, foi confiada à empresa Metrics Work Consultants, Inc. a realização de uma pesquisa junto às entidades Nikkeis que receberam subsídios entre os anos fiscais (AF) de 2015 a 2022. Este questionário prevê um tempo aproximado de 10-20 minutos para ser respondido (a depender do número de projetos subsidiados).

O seu feedback será aproveitado na implementação e realização de melhorias do Projeto de Cooperação com Comunidade Nikkei. As informações fornecidas não serão usadas para quaisquer outras finalidades diferentes das mencionadas acima.

Uma vez que as informações pessoais ou de entidades serão analisadas após passar por um processo de anonimização, nenhuma informação que possa levar à identificação pessoal ou da sua entidade será tornada pública, nem o conteúdo das respostas será compartilhado com as partes relacionadas dos projetos de forma a permitir alguma identificação individual, por isso, sinta-se à vontade em nos dar a sua opinião sincera.

Durante o questionário, quando quiser retornar à página anterior para fazer alguma correção, clique no botão "Voltar" para retornar à página anterior.

Metrics Work Consultants, Inc., que é a empresa implementadora desta pesquisa, obteve a Marca de Privacidade e estabeleceu e opera um sistema de proteção de informações pessoais em conformidade com os Requisitos do Sistema de Gerenciamento de Proteção de Informações Pessoais (JISQ15001:2017). Se você tiver alguma dúvida a respeito desta pesquisa, entre em contato com a Sra. XXX (xxx@metricswork.co.jp), da Equipe de Estudo da JICA.

Por favor, leia a Política de Privacidade relativa ao manuseio de informações pessoais e responda ao questionário somente se você concordar com os seus termos.

Si usted está dispuesto/a a participar en este estudio, sírvase marcar "Acepto participar" y haga clic en "Participar".

設問番号	質問項目
1	Por favor, diga-nos o nome da sua entidade.
2	Por favor, diga o nome do país onde a sua entidade se localiza. 1. Argentina 2. Uruguai 3. Colômbia 4. Chile 5. República Dominicana 6. Paraguai 7. Brasil 8. Peru 9. Bolívia 10. México
3	Em qual área a sua entidade recebeu subsídio entre os anos fiscais (AF) 2015 a 2022? Seleccione todas as áreas que foram subsidiadas. (複数選択可) 1. Cuidados médicos e assistência social (exceto projetos de assistência social para idosos na República Dominicana) 2. Cuidados médicos e assistência social (Projeto de assistência social para idosos na República Dominicana)

	3. Educação da língua japonesa 4. Atividades culturais 5. Agricultura 6. Melhorias nas condições de vida
4	As perguntas daqui em diante se referem a estabelecimentos (hospitais, clínicas, estabelecimentos de assistência social para idosos/ deficientes ou afins) para os quais a sua entidade recebeu subsídios na área de " Cuidados médicos e assistência social ". Qual foi o número de estabelecimentos que recebeu subsídio nesta área entre os AF 2015 a 2022? O subsídio para clínicas itinerantes é contado como concessão a 1 estabelecimento. 1. 1 2. 2 ou mais
説明文	As perguntas daqui em diante são destinadas <u>individualmente</u> para cada estabelecimento que recebeu subsídio na área de " Cuidados médicos e assistência social ". Se tiver três ou mais estabelecimentos receberam subsídios, <u>considere os dois estabelecimentos que receberam os maiores montantes de subsídio.</u>
	Perguntas sobre o primeiro estabelecimento
5	Diga-nos o nome do (primeiro) estabelecimento contemplado com o subsídio.
6	Selecione <u>todos os anos fiscais</u> em que a sua entidade recebeu subsídios para este estabelecimento. 1. AF 2015 (de abril de 2015 a março de 2016) 2. AF 2016 (de abril de 2016 a março de 2017) 3. AF 2017 (de abril de 2017 a março de 2018) 4. AF 2018 (de abril de 2018 a março de 2019) 5. AF 2019 (de abril de 2019 a março de 2020) 6. AF 2020 (de abril de 2020 a março de 2021) 7. AF 2021 (de abril de 2021 a março de 2022) 8. AF 2022 (de abril de 2022 a março de 2023)
7	O estabelecimento que recebeu o subsídio continua em operação no momento? 1. Sim 2. Não
8	Diga-nos o número de usuários que o estabelecimento recebeu no AF 2023 (ou no exercício fiscal mais recente da sua entidade). São aceites números aproximados. No caso de um hospital ou clínica, escreva o total de pacientes ambulatoriais e de internados respectivamente. No caso de um estabelecimento para idosos e deficientes, escreva o total de residentes e de usuários de centro de dia respectivamente. No caso de uma clínica itinerante, escreva o número total de pacientes examinados. Indicar 0 quando não for aplicável. Hospital/ clínica : Número total de pacientes ambulatoriais (...) personas Hospital/ clínica : Número total de pacientes internados (...) personas Estabelecimento para idosos e deficientes : Número total de residentes (...) personas Estabelecimento para idosos e deficientes : Número total de usuários de centro de dia (...) personas

	Clínica itinerante: Número total de pacientes examinados (...) personas
9	Selecione abaixo <u>todos os motivos</u> pelos quais O estabelecimento que recebeu o subsídio não teve prosseguimento até os dias atuais. (複数選択可) 1. Devido à diminuição no número de usuários/ pacientes 2. Devido à falta de recursos humanos/ financeiros, equipamentos e outros necessários à operação do estabelecimento 3. Outros ()
10	A concessão do subsídio à o estabelecimento resultou na melhoria da qualidade dos cuidados médicos e assistência social fornecidos, no aumento dos tipos de serviços (novos serviços) ou no aumento do número de beneficiários desses serviços? Escolha <u>todas as alternativas</u> correspondentes. (複数選択可) 1. Sim, a qualidade dos serviços melhorou 2. Sim, permitiu o fornecimento de novos serviços 3. Sim, houve aumento no número de beneficiários (número de usuários, pacientes, etc.) dos nossos serviços 4. Não houve melhoras
11	Selecione na lista abaixo <u>todas as melhorias</u> na qualidade dos serviços que houve como resultado do recebimento do subsídio. (複数選択可) 1. Permitiu fazer diagnósticos e tratamentos mais precisos do que antes 2. O interior do hospital/ estabelecimento ficou mais limpo/confortável 3. As medidas de prevenção de infecções no hospital/ estabelecimento melhoraram 4. A qualidade do trabalho dos médicos, enfermeiros e outros funcionários melhorou 5. O tempo de espera dos pacientes e usuários diminuiu 6. Outras melhorias ()
12	Selecione na lista abaixo <u>todos os novos serviços</u> prestados em resultado da subvenção. (複数選択可) 1. Agora é possível diagnosticar, tratar e reabilitar doenças e lesões que antes eram impossíveis 2. Realização de exames itinerantes que não haviam sido implementadas antes 3. Agora é possível fazer tratamento médico online 4. Outros serviços ()
13	Escolha <u>todos os possíveis motivos</u> listados abaixo pelos quais o subsídio concedido não resultou na melhoria da qualidade dos cuidados médicos e assistência social fornecidos, ou no aumento dos tipos de serviços (novos serviços) ou do número de beneficiários? (複数選択可) 1. O subsídio destinava-se apenas ao complemento salarial e outras finalidades para dar continuidade à implementação do estabelecimento (não se destinava originalmente à melhoria da qualidade ou fornecimento de novos serviços e afins) 2. Devido à diminuição que está havendo no tamanho do estabelecimento ou no número de usuários/ pacientes 3. Devido às mudanças no conteúdo da gestão do estabelecimento ou dos serviços prestados 4. Devido à falta de recursos humanos/ financeiros, equipamentos, etc. necessários à gestão do estabelecimento 5. Outros fatores ()
14	Entre os anos fiscais 2015 e 2022, a sua entidade utilizou o subsídio para adquirir instalações, equipamentos, suprimentos e afins para o estabelecimento? 1. Sim 2. Não
15	As instalações, equipamentos ou insumos objetos de concessão do subsídio estão sendo operados e aproveitados conforme planejado? 1. Estão sendo operados e aproveitados conforme planejado ou além do que foi planejado 2. Está sendo operado e aproveitado, embora esteja abaixo do planejado 3. As instalações, equipamentos ou insumos objetos de concessão do subsídio não estão sendo usados no momento
16	Selecione <u>todos os possíveis motivos</u> listados abaixo quais as instalações, equipamentos e acessórios não são utilizados como previsto. (複数選択可)

	1. Devido à diminuição que está havendo no tamanho do estabelecimento ou no número de usuários/ pacientes 2. Devido às mudanças no conteúdo da gestão do estabelecimento ou dos serviços prestados após a sua aquisição 3. As instalações, os equipamentos ou os insumos sofreram danos ou deterioração 4. Devido à falta de recursos humanos/ financeiros, etc. necessários ao uso dessas instalações, equipamentos ou insumos 5. Outros motivos ()
17	Por favor, conte-nos como o estabelecimento alvo de concessão do subsídio tem contribuído para a comunidade local, incluindo a comunidade Nikkei. (記述式)
説明文	Perguntas sobre o segundo estabelecimento Para o segundo estabelecimento responder as perguntas de 5 a 17.
31	As perguntas a seguir se referem a escolas de língua japonesa, projetos e estabelecimentos culturais da sua entidade que receberam subsídios nas áreas de "Educação da língua japonesa" e/ ou "Atividades culturais" entre os anos fiscais de 2015 e 2022. Quantas escolas de língua japonesa, projetos e estabelecimentos culturais receberam subsídios nessas áreas? 1. 1 2. 2 ou mais
説明文	As perguntas a seguir se referem <u>individualmente</u> a cada escola de língua japonesa/ projeto ou estabelecimento cultural que recebeu subsídio na área de "Educação da língua japonesa" e/ ou "Atividades culturais". Se houver três ou mais escolas de língua japonesa/ projetos ou estabelecimentos culturais que receberam subsídio, <u>responda pelos dois que receberam o maior montante de subsídio.</u> Perguntas sobre a primeira escola de língua japonesa/ projeto ou estabelecimento cultural
32	Diga-nos o nome da (primeira) escola de língua japonesa/ projeto ou estabelecimento cultural contemplado com o subsídio. (自由回答)
33	Selecione <u>todos os anos fiscais</u> em que a sua entidade recebeu subsídios para esta escola de língua japonesa/ projeto ou estabelecimento cultural. 1. AF 2015 (de abril de 2015 a março de 2016) 2. AF 2016 (de abril de 2016 a março de 2017) 3. AF 2017 (de abril de 2017 a março de 2018) 4. AF 2018 (de abril de 2018 a março de 2019) 5. AF 2019 (de abril de 2019 a março de 2020) 6. AF 2020 (de abril de 2020 a março de 2021) 7. AF 2021 (de abril de 2021 a março de 2022) 8. AF 2022 (de abril de 2022 a março de 2023)
34	A escola de língua japonesa/ projeto ou estabelecimento cultural alvo da concessão do subsídio continua sendo implementado/ gerido no momento? 1. Sim 2. Não
35	Selecione abaixo <u>todos os possíveis motivos</u> pelos quais a escola de língua japonesa, o projeto ou o estabelecimento cultural não ganhou prosseguimento até os dias atuais. (複数選択可) 1. Devido à diminuição no número de alunos, participantes, etc. 2. Devido à falta de recursos humanos, financeiros, equipamentos, etc. necessários para a gestão da escola de língua japonesa, o projeto ou o estabelecimento. 3. Outros ()
36	A concessão do subsídio à sua entidade resultou na melhoria da qualidade da escola de língua japonesa, do projeto ou do estabelecimento cultural, no aumento dos tipos de atividades (novas atividades) ou no aumento do número de beneficiários dessa educação ou desses projetos implementados pela sua entidade? <u>Escolha todas as alternativas</u> correspondentes. (複数選択可) 1. Sim, a qualidade do ensino da língua japonesa e/ ou dos projetos culturais melhorou 2. Sim, tornou possível novas atividades 3. Sim, o número de beneficiários (alunos, participantes, etc.) aumentou 4. Não resultou em melhorias
37	Selecione na lista abaixo todas as melhorias na qualidade das atividades que houve como

	resultado do recebimento do subsídio. (複数選択可) 1. A qualidade dos professores, instrutores, palestrantes, etc. melhorou 2. As salas de aula, instalações e equipamentos se tornaram mais limpos, confortáveis e seguros 3. A qualidade dos artigos escolares e materiais de ensino disponibilizados nas atividades melhorou 4. Outras melhorias ()
38	Selecione na lista abaixo <u>todas as novas atividades</u> que se tornaram possíveis graças ao recebimento do subsídio. (複数選択可) 1. Aulas, cursos ou exposições online 2. Aulas e cursos com novos conteúdos 3. Outras atividades ()
39	Escolha <u>todos os possíveis motivos</u> abaixo pelos quais o subsídio concedido não resultou na melhoria da qualidade da escola de língua japonesa, do projeto ou do estabelecimento cultural. (複数選択可) 1. O subsídio se destinava apenas ao complemento salarial e outras finalidades para dar continuidade à implementação do projeto (não se destinava originalmente à melhoria da qualidade ou realização de novas atividades e afins) 2. Devido à diminuição que está havendo no tamanho da gestão das atividades ou no número de alunos, participantes, etc. 3. Devido a mudanças nas diretrizes de gestão ou no conteúdo das atividades 4. Devido à falta de recursos humanos/ financeiros, equipamentos, etc. necessários à implementação das atividades 5. Outros fatores ()
40	Entre AF 2015 e 2022, a sua organização utilizou fundos de subvenções para adquirir ou desenvolver instalações, equipamento, insumos ou materiais didáticos para a escola de língua japonesa, projeto ou estabelecimento cultural em causa? 1. Sim 2. Não
41	As instalações, equipamentos, insumos ou materiais didáticos objetos da concessão do subsídio estão sendo geridos e aproveitados conforme planejado? 1. Estão sendo operados e aproveitados conforme planejado ou além do que foi planejado 2. Está sendo operado e aproveitado, embora esteja abaixo do planejado 3. As instalações, equipamentos, insumos ou materiais didáticos objetos da concessão do subsídio não estão sendo usados no momento
42	Selecione <u>todos os possíveis motivos</u> listados abaixo quais as instalações, equipamentos, insumos ou materiais didáticos objetos não são utilizados como previsto. 1. Devido à diminuição que está havendo no tamanho do projeto ou no número de alunos ou público-alvo 2. Devido a mudanças no conteúdo das atividades ocorridas após a sua aquisição/ desenvolvimento 3. As instalações, equipamentos, insumos ou materiais didáticos sofreram danos/ se deterioraram 4. Devido à falta de recursos humanos/ financeiros, etc. necessários ao aproveitamento dessas instalações, equipamentos, insumos ou materiais didáticos 5. Outros motivos ()
43	Você tem sido capaz de garantir tanto a qualidade quanto a quantidade de instrutores/pessoal necessários para dar continuidade à escola de língua japonesa ou ao projeto/estabelecimento cultural que foi objeto da subvenção? 1. Sim, temos conseguido garantir tanto a qualidade como a quantidade de instrutores/pessoal necessárias 2. Temos conseguido garantir a quantidade necessária, mas enfrentamos problemas em termos de qualidade 3. Temos conseguido garantir a qualidade necessária, mas enfrentamos problemas em termos de quantidade

	4. Enfrentamos problemas tanto em termos de qualidade como em termos de quantidade
44	Diga-nos sobre a tendência dos últimos três anos no número de alunos de língua japonesa (incluindo alunos on-line) na escola de língua japonesa que foi objeto da subvenção. Se não gere uma escola de língua japonesa, escolha a "Pergunta não correspondente". 1. Há aumento 2. Permanece estável 3. Há diminuição 4. Pergunta não correspondente
45	Qual foi o número de alunos (incluindo alunos on-line) na escola de língua japonesa que foi objeto da subvenção no ano fiscal 2023 (ou no exercício fiscal mais recente da sua entidade)? Pode ser um número aproximado. (...)personas
46	Você conhece algum caso em que um aluno que concluiu a escola de língua japonesa contemplada com o subsídio tenha contribuído para o desenvolvimento da comunidade Nikkei ou da sociedade latino-americana? O período não se limita a 2015-2023, mas é constituído por licenciados até à data. A atividade de contribuição aqui mencionada não se restringe à condição do ex-aluno em pertencer a uma entidade específica ou ocupar um cargo específico. Por exemplo, o ex-aluno pode ser um funcionário do governo local, médico ou professor que atua na comunidade, político ou líder de opinião capaz de influenciar as pessoas, mas também não se limita a essas funções. 1. Sim 2. Não 3. Não sei
47	Se possível, forneça informações específicas sobre as suas actividades.
48	Diga-nos sobre a tendência dos últimos três anos no número de participantes dos projetos e eventos culturais japoneses que foi objeto da subvenção. 1. Há aumento 2. Permanece estável 3. Há diminuição
49	Por favor, conte-nos como a escola de língua japonesa, o projeto ou o estabelecimento cultural que foi objeto da subvenção tem contribuído para a comunidade local, incluindo a comunidade Nikkei.
説明文	Perguntas sobre a segunda escola de língua japonesa/ projeto ou estabelecimento cultural Para o segundo projeto/ estabelecimento responder às perguntas de 32 a 49.
68	As perguntas a seguir se referem a projetos e/ou estabelecimentos da sua entidade que receberam subsídios nas áreas de "Agricultura" e/ ou "Melhorias nas condições de vida" entre os anos fiscais de 2015 a 2022. Quantos projetos ou estabelecimentos receberam subsídios nessas áreas? 1. 1 2. 2 ou mais
説明文	As perguntas daqui em diante serão <u>individuais</u> para cada projeto ou estabelecimento que recebeu subsídio na área de "Agricultura" ou "Melhorias nas condições de vida". Se três ou mais projetos/ estabelecimentos receberam subsídios, <u>considere os dois projetos/ estabelecimentos que receberam os maiores montantes de subsídio.</u> Perguntas sobre o primeiro projeto/ estabelecimento
69	Diga-nos o nome do (primeiro) projeto ou estabelecimento contemplado com o subsídio. (自由回答)
70	Selecione <u>todos os anos fiscais</u> em que a sua entidade recebeu subsídios para este projeto/ estabelecimento. 1. AF 2015 (de abril de 2015 a março de 2016) 2. AF 2016 (de abril de 2016 a março de 2017) 3. AF 2017 (de abril de 2017 a março de 2018) 4. AF 2018 (de abril de 2018 a março de 2019) 5. AF 2019 (de abril de 2019 a março de 2020) 6. AF 2020 (de abril de 2020 a março de 2021) 7. AF 2021 (de abril de 2021 a março de 2022)

	8. AF 2022 (de abril de 2022 a março de 2023)
71	O projeto ou o estabelecimento que recebeu o subsídio continua sendo implementado/ gerido no momento? 1. Sim 2. Não
72	Selecione <u>todos os possíveis motivos</u> abaixo pelos quais o projeto/ estabelecimento não ganhou prosseguimento até os dias atuais. (複数回答) 1. Devido à diminuição no número de usuários 2. Devido à falta de recursos humanos/ financeiros, equipamentos e afins necessários à continuidade das atividades 3. Outros motivos ()
73	A concessão do subsídio resultou na melhoria da qualidade das atividades, no aumento dos tipos de atividades (novas atividades) ou no aumento do número de beneficiários das atividades implementadas pela sua entidade? Escolha todas as alternativas correspondentes. (複数回答) 1. Sim, a qualidade das atividades melhorou 2. Sim, possibilitou novas atividades 3. Sim, o número de usuários aumentou 4. Não houve melhorias
74	Diga-nos que melhorias específicas se tornaram possíveis?
75	Que novas atividades em específico se tornaram possíveis?
76	Escolha <u>todos os possíveis motivos</u> abaixo pelos quais o subsídio concedido não resultou na melhoria da qualidade das atividades ou no aumento dos seus beneficiários. (複数選択可) 1. O subsídio se destinava apenas ao complemento salarial e outras finalidades para dar continuidade às atividades (não era destinada originalmente à melhoria da qualidade ou à realização de novas atividades e afins) 2. Devido à diminuição que está havendo no tamanho da nossa gestão ou no número de beneficiários 3. Devido às mudanças nas diretrizes de gestão ou no conteúdo das atividades 4. Devido à falta de recursos humanos/ financeiros, equipamentos, etc. necessários à implementação das atividades 5. Outros fatores ()
77	As instalações, equipamentos ou insumos objetos da concessão do subsídio estão sendo operados e aproveitados conforme planejado? 1. Estão sendo operados e aproveitados conforme planejado ou além do que foi planejado 2. Está sendo operado e aproveitado, embora esteja abaixo do planejado 3. As instalações, equipamentos ou insumos objetos da concessão do subsídio não estão sendo usados no momento
78	Selecione <u>todos os possíveis motivos</u> listados abaixo quais as instalações, equipamentos ou insumos objetos não são utilizados como previsto. 1. Devido à diminuição que está havendo no tamanho do projeto 2. Devido às mudanças no conteúdo das atividades ocorridas após a sua aquisição 3. As instalações, os equipamentos ou os insumos sofreram danos ou deterioração 4. Devido à falta de recursos humanos/ financeiros, etc. necessários ao uso dessas instalações, equipamentos ou insumos 5. Outros motivos ()
79	Por favor, conte-nos como o projeto ou o estabelecimento alvo da concessão tem contribuído para a sociedade local, incluindo a comunidade Nikkei.
説明文	Perguntas sobre o segundo projeto/ estabelecimento Para o segundo projeto/ estabelecimento responder às perguntas de 69 a 79.
91	Você sente que na comunidade onde a sua entidade atua, a sociedade Nikkei goza de confiança ou é vista com bons olhos? 1. Sim, muito 2. Sim 3. Não

	4. De forma alguma
92	Em que situações você percebe essa confiança ou a imagem positiva? (記述回答)
93	A sua entidade já atuou como entidade parceira de um projeto da JICA (além do projeto subsidiado em questão) ? 1. Sim 2. Não 3. Não sei
94	Diga-nos o nome do projeto JICA no qual a sua entidade foi parceira. Se você não tem a informação, a resposta pode ficar em branco.
95	A sua entidade já atuou como entidade parceira de um projeto da JICA (além do projeto subsidiado em questão) ou como entidade receptora do Programa de Voluntários Japoneses no Estrangeiro (JOCV)? 1. Sim 2. Não 3. Não sei
96	Diga-nos os domínios de atividade do JOCV que a sua entidade recebeu. Se você não tem a informação, a resposta pode ficar em branco.
97	Algum associado, membro, funcionário, entre outros da sua entidade teve participação em algum projeto da JICA (incluindo treinamento ou pesquisa da JICA) na função de especialista, consultor, staff (pessoal)/ coordenador local, intérprete, palestrante, entre outras? 1. Sim 2. Não 3. Não sei
98	Diga-nos o(s) nome(s) do(s) projeto(s) ou treinamento(s) da JICA no(s) qual(is) algum associado, membro, funcionário, etc. da sua entidade teve participação. Se você não tem a informação, a resposta pode ficar em branco.
99	A sua entidade ou algum associado, membro, funcionário, etc. da sua entidade já participou de algum projeto de desenvolvimento relacionado ao Japão sem ser da JICA (p.ex. projeto de pesquisa do Ministério das Relações Exteriores do Japão ou da JETRO (Organização de Comércio Exterior do Japão) ou projeto de AOD (Assistência Oficial para o Desenvolvimento)? (複数回答可) 1. Sim, a nossa entidade já participou como parceira ou subcontratada 2. Sim, o associado, membro ou funcionário da nossa entidade já participou 3. Não 4. Não sei
100	Diga-nos o nome do projeto de desenvolvimento relacionado ao Japão no qual a sua entidade participou. Se você não tem a informação, a resposta pode ficar em branco.
101	Diga-nos o nome do projeto de desenvolvimento relacionado ao Japão no qual algum associado, membro, funcionário, etc. da sua entidade teve participação. Se você não tem a informação, a resposta pode ficar em branco.
102	Você estaria disposto a colaborar conosco se no futuro resolvermos realizar uma entrevista relacionada às informações que nos forneceu? 1. Sim 2. Não
103	Agradecemos a sua disposição. Se resolvermos realizar a entrevista, entraremos em contato para agendarmos uma data. Por favor, queira nos fornecer as suas informações de contato. Nome: E-mail: País de residência actual

Concluído o preenchimento do questionário. Agradecemos a sua cooperação.

2. 日系社会次世代育成研修

1) スペイン語版

Cuestionario sobre el Programa de Capacitación para Desarrollar la Próxima Generación de la Sociedad Nikkei de la JICA

Agradecemos por el tiempo brindado para responder este cuestionario.

Este cuestionario se refiere al Programa de Capacitación para Desarrollar la Próxima Generación de la Sociedad Nikkei. Solicitamos a todos los participantes que hayan asistido al programa entre los ejercicios fiscales 2015 y 2019 completar el cuestionario. La JICA, como ejecutor del programa de capacitación, está llevando a cabo este año una evaluación del programa de asociación con la sociedad Nikkei. Como parte de esta evaluación, la JICA ha encargado la ejecución del estudio a Metrics Work Consultants, Inc. La encuesta tomará aproximadamente 10 minutos.

Las respuestas serán utilizadas para implementar y mejorar el Programa de Asociación con la Sociedad Nikkei de la JICA. Las respuestas nunca serán utilizadas para otros fines distintos a los mencionados arriba. Dado que la información personal será analizada solo después de haber sido anonimizada, ninguna información personal identificable será hecha pública, ni se compartirá el contenido de sus respuestas de forma que permita identificar a las personas, por lo que se solicita hacernos saber su respuesta sincera.

Si usted desea regresar a la página anterior para realizar correcciones, haga clic en el botón "Regresar".

Metrics Work Consultants, Inc., i.e., la empresa a cargo de ejecutar el presente estudio ha obtenido la Marca de Privacidad y ha establecido y está operando el sistema de protección de información personal conforme los "Requisitos del Sistema de Gestión de Protección de la Información Personal (JISQ15001:2017)". Si tiene alguna pregunta sobre esta encuesta, póngase en contacto con XXX (xxx@metricswork.co.jp), del Equipo de Estudio de la JICA.

Sírvase leer la Política de Privacidad referente al manejo de la información personal, y proceda a responder a las preguntas del cuestionario solo si usted está de acuerdo con los términos de la Política de Privacidad. Si usted está dispuesto/a a participar en este estudio, sírvase marcar "Acepto participar" y haga clic en "Parti

設問番号	質問項目
1	Seleccione el año en que usted participó en el programa de capacitación de la JICA para desarrollar la próxima generación de la sociedad Nikkei en Japón. 1. AF 2015 (Abr. 2015-Mar. 2016) 2. AF 2016 (Abr. 2016-Mar. 2017) 3. AF 2017 (Abr. 2017-Mar. 2018) 4. AF 2018 (Abr. 2018-Mar. 2019) 5. AF 2019 (Abr. 2019-Mar. 2020)
2	Seleccione el programa en el que usted participó. 1. Programa para estudiantes de secundaria 2. Programa para estudiantes de secundaria superior 3. Programa para estudiantes universitarios
3	¿De qué país es usted? 1. Argentina 2. Bolivia

	3. Brasil 4. Colombia 5. República Dominicana 6. México 7. Paraguay 8. Perú 9. Uruguay 10. Venezuela															
4	Seleccione su género. 1. Masculino 2. Femenino 3. Otros 4. No responder															
5	¿Es usted actualmente <u>miembro</u> de alguna organización Nikkei (organizaciones o grupos comunitarios cuyos principales miembros son japoneses / Nikkei o cuyos miembros involucrados son principalmente Nikkei)? Seleccione <u>todas las respuestas</u> que correspondan. (Multiple answers) 1. Kenjinkai/ Asociaciones japonesas/ Asociaciones Nikkei 2. Escuelas de japonés/ escuelas japonesas/ escuelas complementarias 3. Organizaciones deportivas 4. Clubes/círculos/grupos de amigos 5. Organizaciones culturales 6. Asociaciones laborales/ industriales 7. Otros (especificar) 8. No pertenece a ninguno.															
6	¿Era usted <u>miembro</u> de alguna organización Nikkei (organizaciones o grupos comunitarios cuyos principales miembros son japoneses / Nikkei o cuyos miembros involucrados son principalmente Nikkei) <u>antes de participar en el Programa</u> ? Seleccione <u>todas las respuestas</u> que correspondan. (Multiple answers) 1. Kenjinkai/ Asociaciones japonesas/ Asociaciones Nikkei 2. Escuelas de japonés/ escuelas japonesas/ escuelas complementarias 3. Organizaciones deportivas 4. Clubes/círculos/grupos de amigos 5. Organizaciones culturales 6. Asociaciones laborales/ industriales 7. Otros (especificar) 8. No pertenece a ninguno.															
7	Seleccione el nivel de su comprensión sobre sus raíces como Nikkei y su potencial como Nikkei tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad. <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>En el momento de postularse</td><td>No conocía en absoluto</td><td>Conocía un poco</td><td>Conocía</td><td>Conocía profundamente</td></tr> <tr> <td>En la actualidad</td><td>No conoce en absoluto</td><td>Conoce un poco</td><td>Conoce</td><td>Conoce profundamente</td></tr> </table>		1	2	3	4	En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente	En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente
	1	2	3	4												
En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente												
En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente												
8	Seleccione su nivel de comprensión sobre los valores y la cultura japonesa, tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad. <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>En el momento de postularse</td><td>No conocía en absoluto</td><td>Conocía un poco</td><td>Conocía</td><td>Conocía profundamente</td></tr> <tr> <td>En la actualidad</td><td>No conoce en absoluto</td><td>Conoce un poco</td><td>Conoce</td><td>Conoce profundamente</td></tr> </table>		1	2	3	4	En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente	En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente
	1	2	3	4												
En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente												
En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente												
9	Seleccione su percepción acerca del Japón tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad.															

			1	2	3	4	5	
	En el momento de postularse	Muy negativa	Negativa	Neutral	Positiva	Muy positiva		
	En la actualidad	Muy negativa	Negativa	Neutral	Positiva	Muy positiva		

10	¿Cuáles son las razones de su percepción acerca del Japón en la actualidad muy negativa, negativa o neutra? ()
----	--

11	Seleccione su nivel de comprensión acerca de la historia de la inmigración desde Japón a su país de residencia*, tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad. *País de residencia al momento de postularse, no del país de residencia actual. <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>En el momento de postularse</td> <td>No conocía en absoluto</td> <td>Conocía un poco</td> <td>Conocía</td> <td>Conoce profundamente</td> </tr> <tr> <td>En la actualidad</td> <td>No conoce en absoluto</td> <td>Conoce un poco</td> <td>Conoce</td> <td>Conoce profundamente</td> </tr> </table>		1	2	3	4	En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conoce profundamente	En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente
	1	2	3	4												
En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conoce profundamente												
En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente												

12	Seleccione su nivel de comprensión acerca de la historia de inmigración desde Japón a los países de América Latina y del Caribe tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad. <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>En el momento de postularse</td> <td>No conoce en absoluto</td> <td>Conocía un poco</td> <td>Conocía</td> <td>Conocía profundamente</td> </tr> <tr> <td>En la actualidad</td> <td>No conoce en absoluto</td> <td>Conoce un poco</td> <td>Conoce</td> <td>Conoce profundamente</td> </tr> </table>		1	2	3	4	En el momento de postularse	No conoce en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente	En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente
	1	2	3	4												
En el momento de postularse	No conoce en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente												
En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente												

13	【現在の事実】 ¿En qué medida se siente identificado/a como Nikkei? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (ningún sentimiento en absoluto) hasta 10 (sentimiento muy fuerte). 【現在の反事実】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿en qué medida cree usted que sentiría su identidad como Nikkei? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (ningún sentimiento en absoluto) hasta 10 (sentimiento muy fuerte).																				
14	<table border="1"> <tr> <td>Ningún sentimiento en absoluto</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>Sentimiento muy fuerte</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> </table>	Ningún sentimiento en absoluto									Sentimiento muy fuerte	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Ningún sentimiento en absoluto									Sentimiento muy fuerte												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												

15	En el último año, ¿ha participado en alguna actividad o evento organizado o patrocinado por o para una organización o grupo comunitario formado principalmente por los miembros descendientes japoneses (Nikkei)? Seleccione <u>todas las actividades o eventos</u> en los que ha participado. (Multiple answers) - Actividades y eventos de Kenjinkai/ Asociaciones japonesas/ Asociaciones de Nikkei - Actividades y eventos de las escuelas de japonés/ escuelas japonesas/ escuelas complementarias - Actividades y eventos de organizaciones deportivas, etc. - Actividades y eventos de clubes/círculos/grupos de amigos, etc. - Actividades y eventos de organizaciones culturales - Actividades y eventos de asociaciones laborales / industriales de usted mismo/a, su familia, amigos, etc. - Otros (especificar) - No ha participado en ninguno de los anteriores.
----	---

16	Si incluyó <u>todas las actividades y eventos</u> en los que indicó haber participado en la pregunta 12, ¿cuántas veces participó en estas actividades y eventos durante el año? 1. 1-2 veces 2. 3-5 veces 3. 5-9 veces 4. Más de 10 veces
17	¿Cómo la frecuencia de su participación en los anteriores cambió en comparación con antes de su participación en el programa? 1. Aumentó 2. Permanece igual 3. Se redujo
18	Seleccione <u>todas las razones</u> porque ha disminuido su participación en comparación con antes de su participación en el Programa. (Multiple answers) 1. Estuvo ocupado/a con el trabajo, estudios o aficiones. 2. Se interesó por otras actividades sociales. 3. Perdió interés por sus actividades. 4. Perdió interés por pertenecer a estas comunidades/grupos. 5. Ya no ofrecen las actividades a las que le gustaría participar. 6. No puede costear la participación. 7. El lugar está demasiado lejos para participar. 8. Otros ()
19	Antes de participar en el Programa, ¿había participado en alguna de las actividades o eventos sobre los que se pregunta en Q14? 1. Sí 2. No
20	Seleccione <u>todas las razones</u> porque ya no participa en dichas actividades o eventos después de terminado el Programa.
21	¿Es usted empleado/a de alguna entidad o trabaja por cuenta propia? 1. Sí 2. No
22	Seleccione la categoría de su lugar de trabajo/organización actual. Si tiene más de dos trabajos, seleccione <u>todos</u> los que corresponda. 1. Empresa local (excluida la empresa personal) 2. Empresa extranjera (que no sea japonesa) 3. Empresa japonesa (incluida la sucursal o empresa local de una empresa japonesa) 4. Oficina local de una organización gubernamental o agencia administrativa japonesa, como la Embajada de Japón, JICA y JETRO (Japan External Trade Organization). 5. Autónomo/freelance 6. Empresa propia contratando empleados. 7. Institución gubernamental (Ministerio, gobierno local, corporación pública, etc.) 8. Asociación Agrícola Nikkei 9. Escuela de japonés 10. Institutos de educación/investigación japoneses o de Nikkei (Universidad, etc./ No como estudiante) 11. Instituto de educación / investigación no japonés ni de Nikkei (Universidad, etc./ No como estudiante) 12. Hospital o clínica japonesa o de Nikkei 13. Hospital o clínica no japonesa ni de Nikkei 14. Organización y fundación cultural japonesa o de Nikkei 15. Organización y fundación cultural no japonesa ni de Nikkei 16. ONG japonesa o de Nikkei 17. ONG no japonesa ni de Nikkei 18. Organización internacional 19. Otros (especificar)
23	¿Está usted actualmente ocupando el puesto de supervisor o gerente en su lugar de trabajo u

	organización? 1. Sí 2. No
24	¿Su experiencia de haber participado en el Programa ha sido útil en su trabajo actual? 1. Muy útil 2. Útil 3. No muy útil 4. Nada útil en absoluto
25	¿Qué tan útil ha sido para su trabajo actual? Proporcione un ejemplo.
26	¿Estudia en alguna escuela además de trabajar? 1. Sí 2. No
27	¿Cuál de las siguientes opciones describe mejor su estatus? 1. No empleado/a 2. Estudiante 3. Cónyuge o pareja que se queda en casa 4. Otros (especificar.....)
28	¿En qué medida sus capacidades y conocimientos que usted ha adquirido durante el Programa le son útiles en su vida actual como estudiante? 1. Muy útil 2. Útil 3. No muy útil 4. Nada útil en absoluto
29	En su <u>vida cotidiana actual (no laboral ni académica)</u> , ¿realiza alguna actividad utilizando lo que ha estudiado o aprendido en el Programa? 1. Sí 2. No
30	Que tipo de actividad es? Describa, por favor:
31	¿Desea usted trabajar para una organización japonesa o de Nikkei (tales como una empresa japonesa o de Nikkei, escuela de japonés, hospital o clínica japonesa o de Nikkei, organización afiliada con Japón, etc.) o estudiar en Japón en un futuro cercano? 1. Sí 2. No
32	¿Cuál es su plan o deseo concreto?
33	¿Ha participado en alguna actividad* que contribuya al desarrollo de la sociedad Nikkei? *Estas actividades pueden ser de cualquier tamaño, incluyendo profesionales o privadas. La contribución puede adoptar cualquier forma. No es necesario pertenecer a una organización concreta ni ocupar un cargo específico. 1. Sí 2. No
34	Describa concretamente sus actividades que contribuyen al desarrollo de la sociedad Nikkei, así como las contribuciones que usted ha hecho a través de las actividades descritas. Actividades (...) Contribuciones que usted ha hecho a través de las actividades descritas (...)
35	¿Tiene algún plan de participar en las actividades que contribuyan al desarrollo de la sociedad Nikkei en un futuro cercano? 1. Sí 2. No
36	Describa concretamente su plan.
37	¿Ha participado en algún tipo de actividad* que contribuya al desarrollo de los países de América Latina y del Caribe? * Estas actividades <u>incluyen, pero no se limitan</u> , servir como miembro del Parlamento,

	diplomático/a, investigador/a destacado/a en un campo, oficial del gobierno local, médico o docente activo en la comunidad, representante nacional en un acontecimiento internacional o líder de opinión que influye en los demás. 1. Sí 2. No																				
38	Describa concretamente sus actividades que contribuyen al desarrollo de los países de América Latina y del Caribe, así como las contribuciones que usted ha hecho a través de las actividades descritas. Actividades (...) Contribuciones que usted ha hecho a través de las actividades descritas (...)																				
39	¿Tiene algún plan de participar en las actividades que contribuyan al desarrollo de los países de América Latina y del Caribe en un futuro cercano? 1. Sí 2. No																				
40	Describa concretamente su plan.																				
41	【反事実の質問】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿piensa usted que habría participado en las actividades que contribuyan a la sociedad de Nikkei o a los países de América Latina y del Caribe? 1. Sí, creo que habría participado en dichas actividades aun cuando no hubiera participado en el Programa. 2. No, creo que no habría participado en tales actividades si no hubiera participado en el Programa.																				
42	【現在の事実】 ¿En qué medida piensa usted que Japón es un país digno de confianza? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada digno de confianza) hasta 10 (muy digno de confianza).																				
43	【現在の反事実】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿en qué medida cree usted que habría sentido si Japón es un país digno de confianza? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada digno de confianza) hasta 10 (muy digno de confianza). <table border="1"> <tr> <td>Nada digno de confianza</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Muy digno de confianza</td></tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> </table>	Nada digno de confianza									Muy digno de confianza	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Nada digno de confianza									Muy digno de confianza												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
44	【現在の事実】 ¿En qué medida se interesa usted por la sociedad y cultura japonesa? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada interesado/a) hasta 10 (muy interesado/a).																				
45	【現在の反事実】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿en qué medida cree que se habría interesado por la sociedad y cultura japonesa? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada interesado/a) hasta 10 (muy interesado/a). <table border="1"> <tr> <td>Nada interesado/a</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Muy interesado/a</td></tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> </table>	Nada interesado/a									Muy interesado/a	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Nada interesado/a									Muy interesado/a												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
46	【現在の事実】 ¿En qué medida se interesa usted por la política extranjera del Japón? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada interesado/a) hasta 10 (muy interesado/a).																				
47	【現在の反事実】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿en qué medida cree que se habría interesado por la política exterior del Japón? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada interesado/a) hasta 10 (muy interesado/a). <table border="1"> <tr> <td>Nada interesado/a</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Muy interesado/a</td></tr> </table>	Nada interesado/a									Muy interesado/a										
Nada interesado/a									Muy interesado/a												

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
48	JICA ha establecido los siguientes objetivos para el Programa. Aparte de los que se enumeran a continuación, ¿ha conseguido algo más gracias al Programa? 1. Sí 2. No <table border="1"> <tr> <td> · Tener amigos Nikkei de los países de América Latina y el Caribe. · Conocer a los japoneses de la misma generación o de la comunidad local. · Aprender sobre las raíces Nikkei de su familia. · Aprender sobre los valores y la cultura japonesa. · Aprender sobre la historia de la inmigración desde Japón. · Tener un mayor interés en la comunidad Nikkei. </td> </tr> </table>										· Tener amigos Nikkei de los países de América Latina y el Caribe. · Conocer a los japoneses de la misma generación o de la comunidad local. · Aprender sobre las raíces Nikkei de su familia. · Aprender sobre los valores y la cultura japonesa. · Aprender sobre la historia de la inmigración desde Japón. · Tener un mayor interés en la comunidad Nikkei.
· Tener amigos Nikkei de los países de América Latina y el Caribe. · Conocer a los japoneses de la misma generación o de la comunidad local. · Aprender sobre las raíces Nikkei de su familia. · Aprender sobre los valores y la cultura japonesa. · Aprender sobre la historia de la inmigración desde Japón. · Tener un mayor interés en la comunidad Nikkei.											
49	¿Qué más ha adquirido del Programa? Describa concretamente.										
50	¿Ha conseguido todo lo que esperaba del programa? 1. Sí 2. No										
51	¿Qué esperaba obtener del programa pero no consiguió? Describa concretamente.										
52	Si quisiéramos realizar futuras entrevistas relacionadas con la información que nos ha proporcionado, ¿estaría dispuesto/a a cooperar con nosotros? 1. Sí 2. No										
53	Muchas gracias. Si deseamos realizar una entrevista, nos pondremos en contacto con usted para concertar una fecha. Sírvase facilitarnos sus datos de contacto. Nombre: Correo electrónico: País de residencia actual:										

Aquí termina el cuestionario. Agradecemos por su colaboración.

2) ポルトガル語版

Pesquisa por Questionário sobre o Programa JICA de Formação de Geração Futura da Comunidade Nikkei

Agradecemos de antemão por reservar o seu tempo para preencher este questionário.

Este questionário é sobre o Programa JICA de Formação de Geração Futura da Comunidade Nikkei. Estamos pedindo a todos os que participaram deste Programa entre os anos fiscais (AF) de 2015 a 2019 preencherem este questionário. A JICA, que tem implementado programas de educação, está realizando este ano a avaliação do seu Projeto de Cooperação com Comunidade Nikkei, e como parte desta avaliação, a JICA contratou a Metrics Work Consultants, Inc. para realizar esta pesquisa. A pesquisa irá levar aproximadamente 10 minutos.

As respostas serão aproveitadas na implementação e melhoria do Projeto de Cooperação com Comunidade Nikkei da JICA. As respostas não serão usadas para quaisquer outras finalidades diferentes das mencionadas acima. Uma vez que as informações pessoais serão analisadas após passar por um processo de anonimização, nenhuma informação pessoal identificável será tornada pública, nem o conteúdo das suas respostas será partilhado de uma forma que permita a sua identificação individual, por isso, sinta-se à vontade em nos dar a sua opinião sincera.

Durante o questionário, quando quiser retornar à página anterior para fazer alguma correção, clique no botão

"Voltar" para retornar à página anterior.

Metrics Work Consultants, Inc., que é a empresa implementadora esta pesquisa, obteve a Marca de Privacidade e estabeleceu e opera um sistema de proteção de informações pessoais em conformidade com os Requisitos do Sistema de Gerenciamento de Proteção de Informações Pessoais (JISQ15001:2017). Se você tiver alguma dúvida a respeito desta pesquisa, entre em contato com a Sra. XXX (xxx@metricswork.co.jp), da Equipe de Estudo da JICA.

Por favor, leia a Política de Privacidade relativa ao manuseio de informações pessoais e responda ao questionário somente se você concordar com os seus termos. Se você deseja participar desta pesquisa, assinale em “Concordo em participar” e clique no botão “Participar”.

設問番号	質問項目
1	Por favor, selecione o ano fiscal (AF) em que você participou do Programa JICA de Formação de Geração Futura da Comunidade Nikkei . 1. AF 2015 (de abril de 2015 a março de 2016) 2. AF 2016 (de abril de 2016 a março de 2017) 3. AF 2017 (de abril de 2017 a março de 2018) 4. AF 2018 (de abril de 2018 a março de 2019) 5. AF 2019 (de abril de 2019 a março de 2020)
2	Selecione o Programa do qual você participou. 6. Programa para alunos do 2º ciclo do Ensino Fundamental 7. Programa para alunos do Ensino Médio 8. Programa para estudantes universitários
3	Qual é o seu país? 1. Argentina 2. Bolívia 3. Brasil 4. Colômbia 5. República Dominicana 6. México 7. Paraguai 8. Peru 9. Uruguai 10. Venezuela
4	Selecione o seu gênero. 1. Masculino 2. Feminino 3. Outros 4. Prefiro não responder
5	Você é atualmente <u>membro de</u> alguma organização Nikkei (organizações ou grupos comunitários cujos membros principais são japoneses/Nikkeis ou cujos membros envolvidos originariamente eram predominantemente Nikkeis)? Por favor <u>selecione todas as opções</u> aplicáveis. (Multiple answers) 1. Kenjinkai/ associações japonesas/ associações Nikkei 2. Escolas de língua japonesa/ escolas japonesas/ escolas complementares 3. Organizações esportivas 4. Clubes/ círculos de interesse comum/ grupos de amigos 5. Organizações culturais 6. Associações de trabalho/ indústria 7. Outros (favor especificar) 8. Não pertenço a nenhum grupo
6	Você já foi <u>membro de</u> alguma organização Nikkei (organizações ou grupos comunitários cujos

	membros principais são japoneses/ Nikkeis ou cujos membros envolvidos originariamente eram predominantemente Nikkeis) <u>antes de participar do Programa</u>? Por favor <u>selecione todas as opções</u> aplicáveis. (Multiple answers) 1. Kenjinkai/ associações japonesas/ associações Nikkei 2. Escolas de língua japonesa/ escolas japonesas/ escolas complementares 3. Organizações esportivas 4. Clubes/ círculos de interesse comum/ grupos de amigos 5. Organizações culturais 6. Associações de trabalho/ indústria 7. Outros (favor especificar) 8. Não pertencem a nenhum grupo																		
7	Por favor, selecione o seu nível de entendimento sobre as raízes Nikkei e do seu potencial como um Nikkei no momento da inscrição no Programa e atualmente. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>No momento da inscrição</td><td>Não tenho nenhum entendimento</td><td>Entendo um pouco</td><td>Entendo</td><td>Entendo profundamente</td></tr> <tr> <td>Atualmente</td><td>Não tenho nenhum entendimento</td><td>Entendo um pouco</td><td>Entendo</td><td>Entendo profundamente</td></tr> </table>		1	2	3	4	No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente	Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente			
	1	2	3	4															
No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
8	Por favor, selecione o seu nível de entendimento sobre valores e cultura japoneses no momento da inscrição no Programa e atualmente. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>No momento da inscrição</td><td>Não tenho nenhum entendimento</td><td>Entendo um pouco</td><td>Entendo</td><td>Entendo profundamente</td></tr> <tr> <td>Atualmente</td><td>Não tenho nenhum entendimento</td><td>Entendo um pouco</td><td>Entendo</td><td>Entendo profundamente</td></tr> </table>		1	2	3	4	No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente	Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente			
	1	2	3	4															
No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
9	Por favor, selecione o seu sentimento em relação ao Japão no momento da inscrição no Programa e atualmente. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr> <td>No momento da inscrição</td><td>Muito negativo</td><td>Negativo</td><td>Neutro</td><td>Positivo</td><td>Muito positivo</td></tr> <tr> <td>Atualmente</td><td>Muito negativo</td><td>Negativo</td><td>Neutro</td><td>Positivo</td><td>Muito positivo</td></tr> </table>		1	2	3	4	5	No momento da inscrição	Muito negativo	Negativo	Neutro	Positivo	Muito positivo	Atualmente	Muito negativo	Negativo	Neutro	Positivo	Muito positivo
	1	2	3	4	5														
No momento da inscrição	Muito negativo	Negativo	Neutro	Positivo	Muito positivo														
Atualmente	Muito negativo	Negativo	Neutro	Positivo	Muito positivo														
10	Quais são os motivos de sua atual percepção muito negativa, negativa ou neutra do Japão? (.....)																		
11	Por favor, selecione o seu nível de entendimento sobre a história da imigração japonesa ao seu país de residência* no momento da inscrição no Programa e atualmente. * Considere o país de residência no momento da inscrição e não o país de residência atual (caso tenha se mudado). <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>No momento da inscrição</td><td>Não tenho nenhum entendimento</td><td>Entendo um pouco</td><td>Entendo</td><td>Entendo profundamente</td></tr> <tr> <td>Atualmente</td><td>Não tenho nenhum entendimento</td><td>Entendo um pouco</td><td>Entendo</td><td>Entendo profundamente</td></tr> </table>		1	2	3	4	No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente	Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente			
	1	2	3	4															
No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
12	Por favor, selecione o seu nível de entendimento sobre a história da imigração japonesa para os países latino-americanos e caribenhos no momento da inscrição no Programa e atualmente. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>No</td><td>Não tenho</td><td>Entendo um</td><td>Entendo</td><td>Entendo</td></tr> </table>		1	2	3	4	No	Não tenho	Entendo um	Entendo	Entendo								
	1	2	3	4															
No	Não tenho	Entendo um	Entendo	Entendo															

		momento da inscrição	nenhum entendimento	pouco		profundamente	
		Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente	

13	【現在の事実】 Até que ponto você se identifica como Nikkei? De uma escala de 1 (Não sinto nada) a 10 (Sinto intensamente), escolha o valor que melhor representa o seu sentimento.
14	【現在の反事実】 Aproxima pergunta é sobre uma situação que não aconteceu, mas imagine-a e responda. Se você não tivesse participado do Programa, até que ponto você se identificaria como Nikkei? De uma escala de 1 (Não sentiria nada) a 10 (Sentiria intensamente), escolha aquela que melhor representaria o seu sentimento.

Não sentiria nada									Sentiria intensamente
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

15	Nos últimos 12 meses, você participou de alguma atividade ou evento organizado/ patrocina do por ou para uma organização ou grupo comunitário composto principalmente por membros de descendência japonesa (Nikkeis)? Favor <u>selecionar todas as atividades ou eventos</u> em que você participou. (Multiple answers) 1. Atividades e eventos de Kenjinkai/ associações japonesas/ associações Nikkei 2. Atividades e eventos de escolas de língua japonesa/ escolas japonesas/ escolas complementares, etc. 3. Atividades e eventos de organizações esportivas, etc. 4. Atividades e eventos de clubes/ círculos de interesse comum/ grupos de amigos, etc. 5. Atividades e eventos de organizações culturais 6. Atividades e eventos de associações trabalho/ indústria onde pertence ou ligadas a algum familiar ou amigos, etc. 7. Outros (favor especificar) 8. Não participou de nenhum evento mencionado acima
----	---

16	<u>Incluindo todas as atividades e eventos</u> que você respondeu ter participado na Pergunta 12, qual foi o seu número de participações nessas atividades e eventos ao longo do ano? 1. 1 a 2 vezes 2. 3 a 5 vezes 3. 5 a 9 vezes 4. 10 vezes ou mais
----	--

17	Houve mudanças na frequência da sua participação acima em comparação com a frequência anterior à sua participação no Programa? 1. Aumentou 2. Continua o mesmo 3. Diminuiu
----	---

18	Selecione <u>todos os motivos</u> pelos quais a sua frequência de participação diminuiu em comparação com a frequência anterior à sua participação no Programa. (Multiple answers) 1. Tenho estado ocupado com trabalho, estudo ou hobbies 2. Interessei-me por outras atividades sociais 3. Perdi o interesse pelas atividades 4. Perdi o interesse em participar dessas comunidades/ grupo 5. A atividade que gostava de participar não é mais realizada 6. Não posso arcar com os custos da participação 7. O local da atividade é muito longe para participar 8. Outros ()
----	---

19	Antes de participar do Programa, você já havia participado de algumas dessas atividades ou eventos? 1. Sim
----	---

	2. Não
20	Selecione <u>todos os motivos</u> pelos quais você não participa mais de atividades ou eventos após ter concluído o Programa. 1. Tenho estado ocupado com trabalho, estudo ou hobbies 2. Interessei-me por outras atividades sociais 3. Perdi o interesse pelas atividades 4. Perdi o interesse em participar dessas comunidades/ grupo 5. A atividade que gostava de participar não é mais realizada 6. Não posso arcar com os custos da participação 7. O local da atividade é muito longe para participar 8. Outros (favor especificar)
21	Atualmente você está empregado(a) ou autônomo(a) (incluindo proprietários individuais e empresário)? 1. Sim 2. Não
22	Selecione o seu atual local de trabalho/ organização a que pertence. Se você trabalha para mais de uma opção abaixo, <u>selecione todas as opções</u> correspondentes. 1. Empresa local (exceto empresa própria) 2. Empresa estrangeira (exceto empresa japonesa) 3. Empresa japonesa (inclui filial local ou subsidiária de uma empresa japonesa) 4. Escritório local de organização governamental ou agência administrativa japonesa tais como a Embaixada do Japão, JICA e JETRO (Organização de Comércio Exterior do Japão) 5. Autônomo/ freelancer (incluindo proprietários individuais e empresário) 6. Possuir negócio próprio e emprega pessoas 7. Instituição governamental (ministério, governo local, empresa pública, etc.) 8. Associação Agrícola Nikkei 9. Escola de língua japonesa 10. Instituto japonês/ Nikkei de educação ou pesquisa (universidade, etc., mas não na condição de estudante) 11. Instituto educacional ou de pesquisa que não seja japonês/ Nikkei (universidade, etc., mas não na condição de estudante) 12. Hospital ou clínica japoneses/ Nikkei 13. Hospital ou clínica que não seja japonês/ Nikkei 14. Organização e fundação cultural japonesa/ Nikkei 15. Organização e fundação cultural que não seja japonesa/ Nikkei 16. ONG Japonesa/ Nikkei 17. ONG que não seja japonesa/ Nikkei 18. Organização Internacional 19. Outros (favor especificar)
23	Você se encontra no momento em uma posição de supervisão/ gestão no seu trabalho/ organização? 1. Sim 2. Não
24	A experiência de participação no Programa está sendo útil no seu atual trabalho? 1. Muito útil 2. Útil 3. Não tem sido tão útil 4. Não tem sido útil de forma alguma
25	Como a experiência foi/ tem sido útil no seu trabalho atual? Dê-nos um exemplo.
26	Você estuda em alguma escola além de trabalhar? 1. Sim 2. Não
27	Qual das seguintes opções melhor representa a sua situação? 1. Desempregado 2. Estudante

	3. Cônjuge ou companheiro que cuida da casa 4. Outras (favor especificar)
28	Até que ponto as habilidades e conhecimentos adquiridos no Programa têm sido úteis na sua vida atual como estudante? 1. Muito útil 2. Útil 3. Não tem sido tão útil 4. Não tem sido útil de forma alguma
29	No seu dia a dia (sem relação com o trabalho ou estudo), você realiza alguma atividade que aproveita o que foi adquirido/ aprendido no Programa? 1. Sim 2. Não
30	Que tipo de atividade é? Descreva, por favor.
31	Você está disposto a trabalhar para uma organização japonesa/ Nikkei (tais como uma empresa japonesa/ Nikkei, escola de língua japonesa, hospital/ clínica japonesa/ Nikkei, ou outras organizações ligadas ao Japão, etc.) ou pretende estudar futuramente no Japão? 1. Sim 2. Não
32	Quais são os seus planos ou aspirações específicos?
33	Você já esteve envolvido em atividades* que contribuem para o desenvolvimento da sociedade Nikkei? *Atividades de qualquer tamanho, tanto a nível profissional ou particular. As contribuições também podem ser de várias formas. Não é necessário que você pertença a uma organização específica ou que ocupe um cargo específico. 1. Sim 2. Não
34	Por favor descreva de forma específica a(s) sua(s) atividade(s) que contribui(em) para o desenvolvimento da sociedade Nikkei e a(s) contribuição(ões) resultante(s). Atividade(s) (....) Contribuição(ões) que você fez através da(s) atividade(s) descrita(s) acima (....)
35	Você tem planos de se engajar em alguma atividade capaz de contribuir para o desenvolvimento da sociedade Nikkei? 1. Sim 2. Não
36	Descreva o seu plano de forma específica.
37	Você já esteve envolvido em atividades* que contribuem para o desenvolvimento dos países latino-americanos e caribenhos? *As atividades incluem, mas não se limitam a, servir como membro do parlamento, diplomata, pesquisador chefe em uma determinada área, funcionário do governo local, médico ou professor atuante na comunidade, representante nacional em um evento internacional ou um formador de opinião capaz de influenciar outras pessoas, entre outras. 1. Sim 2. Não
38	Por favor descreva de forma específica a(s) sua(s) atividade(s) que contribui(em) para o desenvolvimento dos países latino-americanos e caribenhos e a(s) contribuição(ões) resultante(s). Atividade(s) () Contribuição(ões) que você fez através da(s) atividade(s) descrita(s) acima ()
39	Você tem planos de se engajar em alguma(s) atividade(s) capaz(es) de contribuir(em) para o desenvolvimento dos países latino-americanos e caribenhos? 1. Sim 2. Não
40	Descreva o seu plano de forma específica.

41	【反事実の質問】 A próxima pergunta é sobre uma situação que não aconteceu, mas imagine-a e responda. Se você não tivesse participado do Programa, você teria se envolvido em atividades que contribuem para o desenvolvimento dos países latino-americanos e caribenhos? 1. Sim, acredito que estaria envolvido nessas atividades mesmo se não tivesse participado do Programa. 2. Não, não creio que estaria envolvido em tais atividades se não tivesse participado do Programa.																				
42	【現在の事実】 Até que ponto você acha que o Japão é um país confiável? De uma escala de 1 (Não acho nada confiável) a 10 (Acho muito confiável), escolha o valor que melhor representa o seu pensamento.																				
43	【現在の反事実】 A próxima pergunta é sobre uma situação que não aconteceu, mas imagine a situação e responda. Se você não tivesse participado do Programa, até que ponto você estaria achando o Japão um país confiável? De uma escala de 1 (Não acho nada confiável) a 10 (Acho muito confiável), escolha o valor que melhor representa o seu pensamento. <table border="1"> <tr> <td>Não acho nada confiável</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>Acho muito confiável</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> </table>	Não acho nada confiável									Acho muito confiável	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Não acho nada confiável									Acho muito confiável												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
44	【現在の事実】 Até que ponto você tem interesse regular pela sociedade e cultura japonesas? De 1 (Sem nenhum interesse) a 10 (Enorme interesse), escolha aquele que melhor representa o seu interesse.																				
45	【現在の反事実】 A próxima pergunta é sobre uma situação que não aconteceu, mas imagine-a e responda. Se você não tivesse participado do Programa, até que ponto você teria interesse pela sociedade e cultura japonesas? De uma escala de 1 (Não teria interesse nenhum) a 10 (Teria imenso interesse), escolha o valor que melhor representaria o seu sentimento. <table border="1"> <tr> <td>Não teria interesse nenhum</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>Teria imenso interesse</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> </table>	Não teria interesse nenhum									Teria imenso interesse	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Não teria interesse nenhum									Teria imenso interesse												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
46	【現在の事実】 Até que ponto você tem interesse regular pela política externa do Japão? De 1 (Sem nenhum interesse) a 10 (Enorme interesse), escolha aquele que melhor representa o seu interesse.																				
47	【現在の反事実】 A próxima pergunta é sobre uma situação que não aconteceu, mas imagine-a e responda. Se você não tivesse participado do Programa, até que ponto você teria interesse regular pela política externa do Japão? De uma escala de 1 (Não teria interesse nenhum) a 10 (Teria imenso interesse), escolha o valor que melhor representaria o seu interesse. <table border="1"> <tr> <td>Não teria interesse nenhum</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>Teria imenso interesse</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> </table>	Não teria interesse nenhum									Teria imenso interesse	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Não teria interesse nenhum									Teria imenso interesse												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
48	A JICA tem estabelecido os objetivos abaixo para o Programa. Além dos listados abaixo, você obteve mais alguma coisa graças ao Programa? 1. Sim 2. Não <table border="1"> <tr> <td> - Conhecer amigos Nikkeis de países da América Latina e Caribe - Conhecer a família anfitriã e outros japoneses da sua geração - Aprender sobre as raízes Nikkei da sua família - Aprender sobre os valores e a cultura japonesa - Aprender sobre a história da imigração japonesa - Ter um interesse ainda maior pela comunidade Nikkei </td> </tr> </table>	- Conhecer amigos Nikkeis de países da América Latina e Caribe - Conhecer a família anfitriã e outros japoneses da sua geração - Aprender sobre as raízes Nikkei da sua família - Aprender sobre os valores e a cultura japonesa - Aprender sobre a história da imigração japonesa - Ter um interesse ainda maior pela comunidade Nikkei																			
- Conhecer amigos Nikkeis de países da América Latina e Caribe - Conhecer a família anfitriã e outros japoneses da sua geração - Aprender sobre as raízes Nikkei da sua família - Aprender sobre os valores e a cultura japonesa - Aprender sobre a história da imigração japonesa - Ter um interesse ainda maior pela comunidade Nikkei																					
49	O que mais você obteve através do Programa? Por favor descreva de forma mais específica.																				
50	Você conseguiu obter tudo que você esperava do Programa?																				

	1. Sim 2. Não
51	O que você esperava obter do Programa, mas acabou não conseguindo? Por favor descreva de forma específica.
52	Você estaria disposto a colaborar conosco se resolvermos realizar futuras entrevistas relacionadas às informações que nos forneceu? 1. Sim 2. Não
53	Agradecemos a sua cooperação. Se resolvermos realizar uma entrevista, entraremos em contato para agendarmos uma data. Por favor, queira nos fornecer suas informações de contato. Nome: E-mail: País de residência atual:

Concluído o preenchimento do questionário. Agradecemos pela sua cooperação.

3. 日系社会リーダー育成事業

Questionnaire Survey on JICA Scholarship Program for Developing Leaders in Nikkei Communities (Graduate School)

Thank you for taking the time to complete this questionnaire.

This questionnaire is about JICA Scholarship Program for Developing Leaders in Nikkei Communities (Graduate School). We are asking all participants who have participated in this Program between FY2015 and FY2021 to complete the questionnaire. JICA, which implements the scholarship program, is conducting an evaluation of the Program for Collaboration with Nikkei Communities this year. As part of this evaluation, JICA has commissioned MetricsWork Consultants, Inc. to conduct a survey. The survey will take approximately 20 minutes.

Responses will be used to implement and improve JICA's Program for Collaboration with Nikkei Communities. Responses will never be used for any purpose other than those stated above. Since personal information is analyzed after anonymization, no personally identifiable information will be made public, nor will the contents of your responses be shared in a way that allows individuals to be identified, so please give us your honest opinions.

If you wish to return to the previous page to make corrections, please click the "Back" button to return to the previous page.

Metrics Work Consultants, Inc., i.e. the company conducting this survey has obtained the Privacy Mark and has established and is operating a personal information protection system in line with the "Personal Information Protection Management System Requirements (JISQ15001:2017)". If you have any questions on this survey, please contact Ms. XXX (xxx@metricswork.co.jp) of the JICA Study Team.

Please read the Privacy Policy regarding the handling of personal information, and proceed to answer the questionnaire only if you agree to the terms of the Privacy Policy. If you are willing to participate in this survey, please check "Agree to participate", and click "Participate" below.

設問番号	質問項目
1	Please select the year in which you started studying in Japan in the Program for Developing Leaders in Nikkei Communities . 1. FY 2015 (Apr. 2015-Mar. 2016) 2. FY 2016 (Apr. 2016-Mar. 2017) 3. FY 2017 (Apr. 2017-Mar. 2018) 4. FY 2018 (Apr. 2018-Mar. 2019) 5. FY 2019 (Apr. 2019-Mar. 2020) 6. FY 2020 (Apr. 2020-Mar. 2021) 7. FY 2021 (Apr. 2021-Mar. 2022)
2	Please select your sex. 1. Male 2. Female 3. Others 4. No answer
3	Which country are you from? 1. Argentina 2. Bolivia 3. Brazil 4. Chile 5. Colombia 6. Dominican Republic 7. Mexico 8. Paraguay 9. Peru 10. Uruguay 11. Venezuela
4	How old were you when you applied to the Program? XX-years old
5	How many years of working experience did you have when you applied to the Program? 1. No work experience 2. Less than 1 year 3. More than 1 year, less than 3 years 4. More than 3 years, less than 5 years 5. More than 5 years
6	Which degree did you earn through the Program? 1. Master's degree 2. Doctoral degree 3. Did not earn a degree
7	Please select the field you studied in the Program. 1. Economics and Management 2. Engineering 3. ICT 4. Agriculture 5. Science 6. Politics and Public Policy 7. Medicine/Health 8. Sociology 9. Others (Please specify _____)
8	Was your arrival in Japan to participate in the Program delayed due to Covid-19? 1. Yes 2. No
9	Were there periods during your stay in Japan when classes at the University were conducted only online due to Covid-19? 1. Yes

	2. No																		
10	Are you currently a <u>member of</u> any Nikkei organizations (organizations or community groups whose primary members are Japanese/ Nikkei or whose members involved are primarily Nikkei)? Please <u>select all</u> that apply. 1. Kenjinkai/ Japanese associations/ Nikkei associations 2. Japanese language schools/ Japanese schools/ supplementary schools 3. Sports organizations 4. Clubs/circles/friend groups 5. Cultural organizations 6. Workplace/industry associations 7. Others (Please specify) 8. Not belong anywhere																		
11	Were you a <u>member of</u> any Nikkei organizations (organizations or community groups whose primary members are Japanese/ Nikkei or whose members involved are primarily Nikkei) <u>before you participated in the Program</u>? Please <u>select all</u> that apply. 1. Kenjinkai/ Japanese associations/ Nikkei associations 2. Japanese language schools/ Japanese schools/ supplementary schools 3. Sports organizations 4. Clubs/circles/friend groups 5. Cultural organizations 6. Workplace/industry associations 7. Others (Please specify) 8. Not belong anywhere																		
12	Please select your level of understanding about your Nikkei roots and your potential as a Nikkei both at the time of application to the Program and currently. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>At the time of application</td><td>Not understand at all</td><td>Understand a little</td><td>Understand</td><td>Understand deeply</td></tr> <tr> <td>Current</td><td>Not understand at all</td><td>Understand a little</td><td>Understand</td><td>Understand deeply</td></tr> </table>		1	2	3	4	At the time of application	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply	Current	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply			
	1	2	3	4															
At the time of application	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply															
Current	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply															
13	Please select your level of understanding about Japanese values and culture both at the time of application to the Program and currently. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>At the time of application</td><td>Not understand at all</td><td>Understand a little</td><td>Understand</td><td>Understand deeply</td></tr> <tr> <td>Current</td><td>Not understand at all</td><td>Understand a little</td><td>Understand</td><td>Understand deeply</td></tr> </table>		1	2	3	4	At the time of application	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply	Current	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply			
	1	2	3	4															
At the time of application	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply															
Current	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply															
14	Please select your feelings about Japan both at the time of application to the Program and currently. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr> <td>At the time of application</td><td>Very negative</td><td>Negative</td><td>Neutral</td><td>Positive</td><td>Very positive</td></tr> <tr> <td>Current</td><td>Very negative</td><td>Negative</td><td>Neutral</td><td>Positive</td><td>Very positive</td></tr> </table>		1	2	3	4	5	At the time of application	Very negative	Negative	Neutral	Positive	Very positive	Current	Very negative	Negative	Neutral	Positive	Very positive
	1	2	3	4	5														
At the time of application	Very negative	Negative	Neutral	Positive	Very positive														
Current	Very negative	Negative	Neutral	Positive	Very positive														
15	What are the reasons for your current feelings about Japan as very negative, negative or neutral?																		
16	Please select your level of understanding about the history of immigration from Japan to your country of residence* both at the time of application to the Program and currently. *Country of residence at time of application, not current country of residence. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> </table>		1	2	3	4													
	1	2	3	4															

		At the time of application	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply	
		Current	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply	
17	Please select your level of understanding about the history of immigration from Japan to Latin American and Caribbean countries both at the time of application to the Program and currently.						
			1	2	3	4	
		At the time of application	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply	
		Current	Not understand at all	Understand a little	Understand	Understand deeply	
18	Please select all opportunities/occasions you've had the chance to present/share/speak on/etc. your research topics, etc. since your return from the Program. 1. Never given a presentation on the research theme 2. Debriefing session upon return to your country 3. Universities, academic associations, etc. 4. Alumni association of the Program 5. Kenjinkai/ Japanese associations/ Nikkei associations, etc. 6. SNS (social networking service) 7. Other occasions (Please specify)						
19	Please <u>select all</u> opportunities/occasions you've had the chance to present/share/speak on/etc. your past experiences, thoughts, and identity as a Nikkei since your return from the Program. 1. Never given a presentation on the past experiences, thoughts, and identity as a Nikkei 2. Debriefing session upon return to your country 3. Universities or schools 4. Alumni association of the Program 5. Kenjinkai/ Japanese associations/ Nikkei associations, etc. 6. SNS (social networking service) 7. Other occasions (Please specify)						
20	After the Program, have you become more active in communicating about your expertise and identity?						
			1	2	3	4	5
		About your expertise	Yes, became very much more active	Yes, became more active	Remained the same	No, became less active	No, became much less active
		About your Identity	Yes, became very much more active	Yes, became more active	Remained the same	No, became less active	No, became much less active
21	What are the reasons for you becoming much less active or less active in communicating about your expertise and identity after the Program? About your expertise () About your identity ()						
22	How would you rate your current level of knowledge, skills, and technical expertise in your field						

	of study compared to the level when you applied to the Program? 1. Very much improved 2. Improved 3. Little improved 4. Not improved at all																				
23	Did you gain the following connections/networks during the Program? Please select all you gained. 1. Connection/network with Japanese academia (researchers, universities, research institutions, etc.) 2. Connection/network with Japanese organizations such as foundations, NGOs, hospitals, and private companies 3. Connection/network with Japanese governmental organizations (Ministry, local government, public corporation, etc.) /officials 4. Japanese/international friends including other students of your program 5. Connection/network with the local community in Japan 6. Connection/network with people through extracurricular activities such as club activities, cultural activities, and volunteer activities 7. Connection/network with others (Please specify) 8. None of the above																				
24	【現在の事実】 To what extent do you feel a sense of identity as a Nikkei? From 1 (Not feeling at all) to 10 (Feeling very strongly), choose the one that best describes your feelings.																				
25	【現在の反事実】 The next question is one that didn't really happen, but imagine the situation and answer it. Had you not joined the Program, to what extent do you think you would feel your identity as a Nikkei? From 1 (Not feeling at all) to 10 (Feeling very strongly), choose the one that best describes your feelings. <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>Not feeling at all</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Feeling very strongly</td></tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> </table>	Not feeling at all									Feeling very strongly	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Not feeling at all									Feeling very strongly												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
26	In the past year, have you participated in any activities or events organized/sponsored by or for an organization or community group that consists mainly of members of Nikkei? Please <u>select all</u> activities or events in which you participated. 1. Activities and events of Kenjinkai/ Japanese associations/ Nikkei associations 2. Activities and events of Japanese language schools/ Japanese schools/ supplementary schools, etc. 3. Activities and events of sports organizations, etc. 4. Activities and events of clubs/circles/friend groups, etc. 5. Activities and events of cultural organizations 6. Activities and events of workplace/industry associations of yourself, your family, friends, etc. 7. Others (please specify) 8. Did not participate in any of the above																				
27	If you <u>included all the activities and events</u> you indicated you participated in Q19, how many times did you participate in these activities and events during the year? 1. 1-2 times 2. 3-5 times 3. 5-9 times 4. More than 10 times																				
28	How does the frequency of your participation in the above change compare to before your participation in the Program? 1. Increased 2. Remained the same 3. Decreased																				
29	Please select <u>all reasons</u> the frequency of your participation has decreased compared to before you participated in the Program.																				

	1. Busy with work, study, or hobbies 2. Became interested in other social activities 3. Lost interest in their activities 4. Lost interest in being in these communities/groups 5. The activity I liked to participate in is no longer offered 6. Can not afford the cost to pay for participation 7. The location was too far to participate 8. Others(Please specify)
30	Before you joined the Program, had you participated in such activities or events? 1. Yes 2. No
31	Please select <u>all reasons</u> why you no longer participate in such activities or events after completing the Program. 1. Busy with work, study, or hobbies 2. Became interested in other social activities 3. Lost interest in their activities 4. Lost interest in being in these communities/groups 5. The activity I liked to participate in is no longer offered 6. Can not afford the cost to pay for participation 7. The location was too far to participate 8. Others(Please specify)
32	Are you currently employed or self-employed? 1. Yes 2. No
33	Please select your current workplace/organization. If you work for more than one, please <u>select all</u> that apply. 1. Local company (Excluding a personally owned company) 2. Foreign (other than Japanese) company 3. Japanese company (including local branch or company of a Japanese corporation) 4. Country office of Japanese governmental organization or administrative agency such as Embassy of Japan, JICA and JETRO (the Japan External Trade Organization) 5. Self-employed/freelance 6. Own business and employ others 7. Governmental Institution (Ministry, local government, public corporation etc.) 8. Nikkei Agricultural Association 9. Japanese language school 10. Japanese/Nikkei educational/research institute (University, etc./ Not as a student) 11. Educational/research institute other than Japanese/Nikkei (University, etc./ Not as a student) 12. Japanese/Nikkei hospital/clinic 13. Hospital/clinic other than Japanese/Nikkei 14. Japanese/Nikkei cultural organization and foundation 15. Cultural organization and foundation other than Japanese/Nikkei 16. Japanese/Nikkei NGO 17. NGO other than Japanese/Nikkei 18. International organization 19. Others (please specify)
34	Are you currently in a supervisory/management position in your workplace/organization? 1. Yes 2. No
35	Did you get your current job through a connection/network related to the Program? 1. Yes 2. No
36	Please share an episode about how the network you gained through the Program helped you find your current job.
37	To what extent your skills and knowledge you obtained during the Program are useful in your

	current job? 1. Very useful 2. Useful 3. Not useful 4. Not useful at all
38	Please provide specific examples of how you are applying what you learned in the Program to your work.
39	Please select <u>all the reasons</u> among the following for the skills and knowledge obtained during the Program not useful in your current job. 1. Difficult to find a job in the field of my expertise 2. Did not learn relevant knowledge and skills 3. Employers did not value the degree highly 4. Earning potential in the field was too low 5. Personnel changes (assignment transfer) within the organization 6. Changed careers 7. Not interested in using the expertise I learned in my Program in my current job 8. Others (please specify)
40	Do you study at school in addition to working? 1. Yes 2. No
41	Which of the following best describes your status? 1. Not employed 2. Student 3. Stay-at-home spouse or partner 4. Others (please specify)
42	To what extent your skills and knowledge you obtained during the Program are useful in your current life as a student? 1. Very useful 2. Useful 3. Not useful 4. Not useful at all
43	In your current (<u>non-work or non-academic</u>) <u>daily life</u>, do you have any activities utilizing what you studied/learned in the Program? 1. Yes 2. No
44	What kind of activity is it? Please provide specifics.
45	Have you been involved in activities* that contribute to the development of the Nikkei society? * Activities can be of any size including both professional and private. Contribution can take any form. You do not have to belong to a specific organization or hold a specific position. 1. Yes 2. No
46	Please describe specifically your activities that contribute to the development of Nikkei society, and contributions you have made through the described activities. Activities (....) Contributions you have made through the activities you described above (....)
47	Do you have any plan to be involved in activities that contribute to the development of the Nikkei society in near future? 1. Yes 2. No
48	Please describe specifically your plan.
49	Have you ever been involved in activities* that contribute to the development of Latin American and Caribbean countries?

	* Activities here include serving as a member of parliament, but not limited to, a diplomat, a leading researcher in a field, a local government official, a doctor or teacher active in the community, a national representative at an international event, or an opinion leader influencing others. 1. Yes 2. No																				
50	Please describe specifically your activities that contribute to the development of Latin American and Caribbean countries, and contributions you have made through the described activities. Activities () Contributions you have made through the activities you described above ()																				
51	Do you have any plan to be involved in activities that contribute to the development of Latin American and Caribbean countries in near future? 1. Yes 2. No																				
52	Please describe specifically your plan.																				
53	【反事実の質問】 The next question is one that didn't really happen, but imagine the situation and answer it. Had you not joined the Program, do you think you would have been involved in activities that contribute to Nikkei society/Latin American and Caribbean countries? 1. Yes, I believe I would have been involved in such activities even if I had not joined the Program. 2. No, I don't think I would have been involved in such activities if I had not joined the Program.																				
54	【現在の事実】 To what extent do you think Japan is a trustworthy country? From 1 (Not at all trustworthy) to 10 (Very trustworthy), choose the one that best describes your feelings.																				
55	【現在の反事実】 The next question is one that didn't really happen, but imagine the situation and answer it. Had you not joined the Program, to what extent do you think you would feel Japan as a trustworthy country? From 1 (Not at all trustworthy) to 10 (Very trustworthy), choose the one that best describes your feelings. <table border="1"> <tr> <td>Not at all trustworthy</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Very trustworthy</td></tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> </table>	Not at all trustworthy									Very trustworthy	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Not at all trustworthy									Very trustworthy												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
56	【現在の事実】 To what extent do you have a regular interest in Japanese socio-culture? From 1 (Not at all interested) to 10 (Very much interested), choose the one that best fits your interest.																				
57	【現在の反事実】 The next question is one that didn't really happen, but imagine the situation and answer it. Had you not joined the Program, to what extent do you think you would have a regular interest in Japanese socio-culture? From 1 (Not at all interested) to 10 (Very much interested), choose the one that best fits your interest. <table border="1"> <tr> <td>Not at all interested</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Very much interested</td></tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> </table>	Not at all interested									Very much interested	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Not at all interested									Very much interested												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
58	【現在の事実】 To what extent do you have a regular interest in Japan's foreign policy? From 1 (Not at all interested) to 10 (Very much interested), choose the one that best fits your interest.																				
59	【現在の反事実】 The next question is one that didn't really happen, but imagine the situation and answer it. Had you not joined the Program, to what extent do you think you would have a regular interest in Japan's foreign policy? From 1 (Not at all interested) to 10 (Very much interested), choose the one that best fits your interest. <table border="1"> <tr> <td>Not at all interested</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Very much interested</td></tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> </table>	Not at all interested									Very much interested	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Not at all interested									Very much interested												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
60	After completing the Program, have you worked for/been involved in JICA projects (including																				

	JICA training, JICA Study, etc.) as an expert, local consultant/staff/coordinator, interpreter, lecturer or any other roles, or worked for an organization implementing JICA projects? 1.Yes 2.No
61	Please provide the names of the JICA project (study, etc.) or training program in which you worked for/been involved in. 回答欄 3 つまで設け、自由回答
62	After completing the Program, have you worked for/been involved in any Japan-related development projects (such as studies by Ministry of Foreign Affairs of Japan and JETRO (the Japan External Trade Organization), Japan's ODA(Official Development Assistance) projects, etc.) <u>excluding JICA projects</u> ? 1.Yes 2.No
63	Please provide the names of the organization and program in which you worked for/been involved in. 回答欄 3 つまで設け、自由回答
64	【反事実】 The next question is one that didn't really happen, but imagine the situation and answer it. Had you not joined the Program, do you think you would have worked for/been involved in JICA projects? 1. Yes. Even if I had not joined the Program, I would have worked for JICA projects. 2. No. If I had not joined the Program, I would not have worked for/been involved in JICA projects.
65	【反事実】 The next question is one that didn't really happen, but imagine the situation and answer it. Had you not joined the Program, do you think you would have worked for/been involved in Japan-related development projects? 1. Yes. Even if I had not joined the Program, I would have worked for/been involved in Japan-related development projects. 2. No. If I had not joined the Program, I would not have worked for/been involved in Japan-related development projects.
66	JICA envisions the following objectives for this Program. Other than those listed below, was there anything else you gained through the Program? 1. Yes 2. No ・ Earning a degree/ Improving knowledge, skills, and technical expertise in your field of study ・ Getting to know Nikkei friends from Latin American and Caribbean countries ・ Getting to know Japanese people of the same generation or in the local community ・ Gaining connection useful for future job ・ Learning about your family's Nikkei roots ・ Learning about Japanese values and culture ・ Learning about the history of immigration from Japan ・ Having an increased interest in the Nikkei community
67	What else did you gain through the Program? Please describe specifically.
68	Were you able to gain everything you expected to get out of the Program? 1. Yes 2. No
69	What did you hope for but not gain through the program? Please describe specifically.
70	If we would like to conduct future interviews related to the information you have provided, would you be willing to cooperate with us? 1. Yes 2. No
71	Thank you. If we wish to conduct an interview, we will contact you to arrange a date. Please

	provide us your contact information. Name: E-mail: Country of current residence:
--	---

This is the end of the questionnaire. Thank you for your cooperation.

4. 日系社会研修

1) スペイン語版

Cuestionario sobre el Programa de Capacitación para la Sociedad Nikkei de la JICA

Agradecemos por el tiempo brindado para responder este cuestionario.

Este cuestionario se refiere al Programa de Capacitación para la Sociedad Nikkei. Solicitamos a todos los participantes que hayan asistido al programa entre los ejercicios fiscales 2017 y 2023 completar el cuestionario. La JICA, como ejecutor del programa de capacitación, está llevando a cabo este año una evaluación del programa de asociación con la sociedad Nikkei. Como parte de esta evaluación, la JICA ha encargado la ejecución del estudio a Metrics Work Consultants, Inc. La encuesta tomará aproximadamente 20 minutos.

Las respuestas serán utilizadas para implementar y mejorar el Programa de Asociación con la Sociedad Nikkei de la JICA. Las respuestas nunca serán utilizadas para otros fines distintos a los mencionados arriba. Dado que la información personal será analizada solo después de haber sido anonimizada, ninguna información personal identificable será hecho pública, ni se compartirá el contenido de sus respuestas de forma que permita identificar a las personas, por lo que se solicita hacernos saber su respuesta sincera.

Si usted desea regresar a la página anterior para realizar correcciones, haga clic en el botón "Regresar".

Metrics Work Consultants, Inc., i.e., la empresa a cargo de ejecutar el presente estudio ha obtenido la Marca de Privacidad y ha establecido y está operando el sistema de protección de información personal conforme los "Requisitos del Sistema de Gestión de Protección de la Información Personal (JISQ15001:2017)". Si tiene alguna pregunta sobre esta encuesta, póngase en contacto con XXX (xxx@metricswork.co.jp), del Equipo de Estudio de la JICA.

Sírvase leer la Política de Privacidad referente al manejo de la información personal, y proceda a responder a las preguntas del cuestionario solo si usted está de acuerdo con los términos de la Política de Privacidad.

Si usted está dispuesto/a a participar en este estudio, sírvase marcar "Acepto participar" y haga clic en "Participar".

設問番号	質問項目
1	Seleccione el año en que usted participó en el Programa en Japón. 1. AF 2017 (Abr. 2017-Mar. 2018) 2. AF 2018 (Abr. 2018-Mar. 2019) 3. AF 2019 (Abr. 2019-Mar. 2020) 4. AF 2020 (Abr. 2020-Mar. 2021) 5. AF 2021 (Abr. 2021-Mar. 2022) 6. AF 2022 (Abr. 2022-Mar. 2023)

	7. AF 2023 (Abr. 2023-Mar. 2024)
2	Seleccione su género. 1. Masculino 2. Femenino 3. Otros 4. No responder
3	¿De qué país es usted? 1. Argentina 2. Bolivia 3. Brasil 4. Chile 5. Colombia 6. Cuba 7. República Dominicana 8. México 9. Paraguay 10. Perú 11. Uruguay 12. Venezuela
4	¿Cuántos años tenía usted cuando se postuló al Programa? XX- años
5	¿Cuántos años de experiencia laboral tenía usted cuando se postuló al programa? 1. Sin experiencia laboral 2. Menos de 1 año 3. Más de 1 año y menos de 5 años 4. Más de 5 años y menos de 10 años 5. Más de 10 años
6	¿Qué grado estaba usted cursando cuando se postuló al programa? 1. Secundaria superior o equivalente 2. Licenciatura 3. Máster 4. Doctorado 5. Otros ()
7	¿Su Programa era Beca General (Bolsas Específicas) o Simpatizante Nikkei (Apoio aos Nikkeis)? 1. Beca General (Bolsas Específicas) 2. Simpatizante Nikkei (Apoio aos Nikkeis)
8	Seleccione el tema principal de su Programa. 1. Desarrollo del sector privado 2. Salud y asistencia médica 3. Educación 4. Desarrollo urbano y regional 5. Desarrollo agrícola y rural 6. Bienestar social /seguridad social 7. Conservación del medio ambiente natural 8. Tecnología de información y comunicación 9. Mejoramiento nutritivo 10. Otros ()
9	¿Es usted descendiente japonés/a (Nikkei)? 1. Sí 2. No
10	¿De qué generación es usted? 1. 1ª generación 2. 2ª generación 3. 3ª generación 4. 4ª generación

	5. 5ª generación 6. 6ª generación 7. 7ª generación 8. Desconoce 9. Otros ()																		
11	¿Es usted actualmente <u>miembro</u> de alguna organización Nikkei (organizaciones o grupos comunitarios cuyos principales miembros son japoneses / Nikkei o cuyos miembros involucrados son principalmente Nikkei)? <u>Seleccione todas las respuestas</u> que correspondan. (Multiple answers) 1. Kenjinkai/ Asociaciones japonesas/ Asociaciones Nikkei 2. Escuelas de japonés/ escuelas japonesas/ escuelas complementarias 3. Organizaciones deportivas 4. Clubes/ círculos/ grupos de amigos 5. Organizaciones culturales 6. Asociaciones laborales/ industriales 7. Otros (especificar) 8. No pertenece a ninguno.																		
12	¿Era usted <u>miembro</u> de alguna organización Nikkei (organizaciones o grupos comunitarios cuyos principales miembros son japoneses / Nikkei o cuyos miembros involucrados son principalmente Nikkei) <u>antes de participar en el Programa</u> ? <u>Seleccione todas las respuestas</u> que correspondan. (Multiple answers) 1. Kenjinkai/ Asociaciones japonesas/ Asociaciones Nikkei 2. Escuelas de japonés/ escuelas japonesas/ escuelas complementarias 3. Organizaciones deportivas 4. Clubes/ círculos/ grupos de amigos 5. Organizaciones culturales 6. Asociaciones laborales/ industriales 7. Otros (especificar) 8. No pertenecía a ninguno.																		
13	Seleccione el nivel de su comprensión sobre sus raíces como Nikkei y su potencial como Nikkei tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>En el momento de postularse</td><td>No conocía en absoluto</td><td>Conocía un poco</td><td>Conocía</td><td>Conocía profundamente</td></tr> <tr> <td>En la actualidad</td><td>No conoce en absoluto</td><td>Conoce un poco</td><td>Conoce</td><td>Conoce profundamente</td></tr> </table>		1	2	3	4	En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente	En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente			
	1	2	3	4															
En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente															
En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente															
14	Seleccione su nivel de comprensión sobre los valores y la cultura japonesa, tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>En el momento de postularse</td><td>No conocía en absoluto</td><td>Conocía un poco</td><td>Conocía</td><td>Conocía profundamente</td></tr> <tr> <td>En la actualidad</td><td>No conoce en absoluto</td><td>Conoce un poco</td><td>Conoce</td><td>Conoce profundamente</td></tr> </table>		1	2	3	4	En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente	En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente			
	1	2	3	4															
En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente															
En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente															
15	Seleccione su percepción acerca del Japón tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr> <td>En el momento de postularse</td><td>Muy negativa</td><td>Negativa</td><td>Neutral</td><td>Positiva</td><td>Muy positiva</td></tr> <tr> <td>En la actualidad</td><td>Muy negativa</td><td>Negativa</td><td>Neutral</td><td>Positiva</td><td>Muy positiva</td></tr> </table>		1	2	3	4	5	En el momento de postularse	Muy negativa	Negativa	Neutral	Positiva	Muy positiva	En la actualidad	Muy negativa	Negativa	Neutral	Positiva	Muy positiva
	1	2	3	4	5														
En el momento de postularse	Muy negativa	Negativa	Neutral	Positiva	Muy positiva														
En la actualidad	Muy negativa	Negativa	Neutral	Positiva	Muy positiva														
16	¿Cuáles son las razones de su percepción acerca del Japón en la actualidad muy negativa, negativa o neutra?																		

17	Selecione su nivel de comprensión acerca de la historia de la inmigración desde Japón a su país de residencia*, tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad. *País de residencia al momento de postularse, no del país de residencia actual. <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>En el momento de postularse</td> <td>No conocía en absoluto</td> <td>Conocía un poco</td> <td>Conocía</td> <td>Conocía profundamente</td> </tr> <tr> <td>En la actualidad</td> <td>No conoce en absoluto</td> <td>Conoce un poco</td> <td>Conoce</td> <td>Conoce profundamente</td> </tr> </table>		1	2	3	4	En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente	En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente
	1	2	3	4												
En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente												
En la actualidad	No conoce en absoluto	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente												
18	Selecione su nivel de comprensión acerca de la historia de inmigración desde Japón a los países de América Latina y del Caribe tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad. <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>En el momento de postularse</td> <td>No conocía en absoluto</td> <td>Conocía un poco</td> <td>Conocía</td> <td>Conocía profundamente</td> </tr> <tr> <td>En la actualidad</td> <td>No conoce en absoluto.</td> <td>Conoce un poco</td> <td>Conoce</td> <td>Conoce profundamente</td> </tr> </table>		1	2	3	4	En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente	En la actualidad	No conoce en absoluto.	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente
	1	2	3	4												
En el momento de postularse	No conocía en absoluto	Conocía un poco	Conocía	Conocía profundamente												
En la actualidad	No conoce en absoluto.	Conoce un poco	Conoce	Conoce profundamente												
19	¿Cómo calificaría su actual nivel de conocimientos, capacidades y experiencias técnicas en su campo de estudio en comparación con el nivel que tenía cuando se postuló al Programa? - Mejoró considerablemente. - Mejoró. - Mejoró un poco. - No ha mejorado en absoluto.															
20	¿Ha logrado tener las siguientes conexiones/redes de contacto durante el Programa? Seleccione todas las que ha obtenido. (Multiple answers) - Conexión/red de contactos con el sector académico japonés (investigadores, universidades, instituciones de investigación, etc.) - Conexión/red de contactos con organizaciones japonesas tales como fundaciones, ONGs, hospitales, y empresas privadas. - Conexión/red de contactos con organismos gubernamentales japoneses (ministerio, gobierno local, corporación pública, etc.) / oficiales - Amigos japoneses/internacionales, incluidos otros participantes del programa - Conexión/red de contactos con la comunidad local en Japón - Conexión/red de contactos con personas a través de actividades extra curriculares como actividades de clubes, actividades culturales y actividades de voluntariado - Conexión/red de contactos con otros () - Ninguna de las anteriores.															
21	Selecione su nivel de conocimientos acerca de la cultura empresarial japonesa y prácticas comerciales/ sistemas de gestión, tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad. <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>En el momento de postularse</td> <td>En absoluto</td> <td>No mucho</td> <td>Mucho</td> <td>Muchísimo</td> </tr> <tr> <td>En la actualidad</td> <td>En absoluto</td> <td>No mucho</td> <td>Mucho</td> <td>Muchísimo</td> </tr> </table>		1	2	3	4	En el momento de postularse	En absoluto	No mucho	Mucho	Muchísimo	En la actualidad	En absoluto	No mucho	Mucho	Muchísimo
	1	2	3	4												
En el momento de postularse	En absoluto	No mucho	Mucho	Muchísimo												
En la actualidad	En absoluto	No mucho	Mucho	Muchísimo												
22	Selecione su nivel de comprensión acerca de la ética laboral en las organizaciones japonesas tanto en el momento de postularse al Programa como en la actualidad. <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>En el momento de postularse</td> <td>En absoluto</td> <td>No mucho</td> <td>Mucho</td> <td>Muchísimo</td> </tr> <tr> <td>En la actualidad</td> <td>En absoluto</td> <td>No mucho</td> <td>Mucho</td> <td>Muchísimo</td> </tr> </table>		1	2	3	4	En el momento de postularse	En absoluto	No mucho	Mucho	Muchísimo	En la actualidad	En absoluto	No mucho	Mucho	Muchísimo
	1	2	3	4												
En el momento de postularse	En absoluto	No mucho	Mucho	Muchísimo												
En la actualidad	En absoluto	No mucho	Mucho	Muchísimo												

23 24	【現在の事実】 ¿En qué medida se siente identificado/a como Nikkei? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (ningún sentimiento en absoluto) hasta 10 (sentimiento muy fuerte). <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="5">Ningún sentimiento en absoluto</td> <td colspan="5">Sentimiento muy fuerte</td> </tr> <tr> <td colspan="10"> </td> </tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td> </tr> </table> 【現在の反事実】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿en qué medida cree usted que sentiría su identidad como Nikkei? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (ningún sentimiento en absoluto) hasta 10 (sentimiento muy fuerte). <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="5">Niún sentimiento en absoluto</td> <td colspan="5">Sentimiento muy fuerte</td> </tr> <tr> <td colspan="10"> </td> </tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td> </tr> </table>	Ningún sentimiento en absoluto					Sentimiento muy fuerte															1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	Niún sentimiento en absoluto					Sentimiento muy fuerte															1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Ningún sentimiento en absoluto					Sentimiento muy fuerte																																																								
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																				
Niún sentimiento en absoluto					Sentimiento muy fuerte																																																								
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																				
25	En el último año, ¿ha participado en alguna actividad o evento organizado o patrocinado por o para una organización o grupo comunitario formado principalmente por los miembros descendientes japoneses (Nikkei)? <u>Seleccione todas las actividades o eventos</u> en los que ha participado. (Multiple answers) 1. Actividades y eventos de Kenjinkai/ Asociaciones japonesas/ Asociaciones de Nikkei 2. Actividades y eventos de las escuelas de japonés/ escuelas japonesas/ escuelas complementarias 3. Actividades y eventos de organizaciones deportivas, etc. 4. Actividades y eventos de clubes/círculos/grupos de amigos, etc. 5. Actividades y eventos de organizaciones culturales 6. Actividades y eventos de asociaciones laborales/industriales de usted mismo/a, su familia, amigos, etc. 7. Otros (especificar) 8. No ha participado en ninguno de los anteriores.																																																												
26	Si incluyó <u>todas las actividades y eventos</u> en los que indicó haber participado en la pregunta 22, ¿cuántas veces participó en estas actividades y eventos durante el año? 1. 1-2 veces 2. 3-5 veces 3. 5-9 veces 4. Más de 10 veces																																																												
27	¿Cómo la frecuencia de su participación en los anteriores cambió en comparación con antes de su participación en el programa? 1. Aumentó 2. Permanece igual 3. Se redujo																																																												
28	Seleccione <u>todas las razones</u> porque ha disminuido su participación en comparación con antes de su participación en el Programa. (Multiple answers) 1. Estuvo ocupado/a con el trabajo, estudios o aficiones. 2. Se interesó por actividades sociales. 3. Perdió interés por sus actividades. 4. Perdió interés por pertenecer a estas comunidades/grupos. 5. Ya no ofrecen las actividades a las que le gustaría participar. 6. No puede costear la participación. 7. El lugar está demasiado lejos para participar. 8. Otros ()																																																												
29	Antes de participar en el Programa, ¿había participado en alguna otra actividad o evento de este tipo? 1. Sí 2. No																																																												
30	<u>Seleccione todas las razones</u> porque ya no participa en dichas actividades o eventos después de																																																												

	terminado el Programa. 1. Estuvo ocupado/a con el trabajo, estudios o aficiones. 2. Se interesó por otras actividades sociales. 3. Perdió interés por sus actividades. 4. Perdió interés por pertenecer a estas comunidades/grupos. 5. Ya no ofrecen las actividades a las que le gustaría participar. 6. No puede costear la participación. 7. El lugar está demasiado lejos para participar. 8. Otros (especificar)
31	¿Es usted empleado/a de alguna entidad o trabaja por cuenta propia (incluidos los empresarios individuales y los emprendedores)? 1. Sí 2. No
32	Seleccione la categoría de su lugar de trabajo/organización actual. Si tiene más de dos trabajos, seleccione <u>todos</u> los que corresponda. 1. Empresa local (excluida la empresa personal) 2. Empresa extranjera (que no sea japonesa) 3. Empresa japonesa (incluida la sucursal o empresa local de una empresa japonesa) 4. Oficina local de una organización gubernamental o agencia administrativa japonesa, como la Embajada de Japón, JICA y JETRO (Japan External Trade Organization). 5. Autónomo/freelance (incluidos los empresarios individuales y los emprendedores) 6. Empresa propia contratando empleados. 7. Institución gubernamental (Ministerio, gobierno local, corporación pública, etc.) 8. Asociación Agrícola Nikkei 9. Escuela de japonés 10. Institutos de educación/investigación japoneses o de Nikkei (Universidad, etc./ No como estudiante) 11. Instituto de educación / investigación no japonés ni de Nikkei (Universidad, etc./No como estudiante) 12. Hospital o clínica japonesa o de Nikkei 13. Hospital o clínica no japonesa ni de Nikkei 14. Organización y fundación cultural japonesa o de Nikkei 15. Organización y fundación cultural no japonesa ni de Nikkei 16. ONG japonesa o de Nikkei 17. ONG no japonesa ni de Nikkei 18. Organización internacional 19. Otros (especificar)
33	¿Está usted actualmente ocupando el puesto de supervisor o gerente en su lugar de trabajo u organización? 1. Sí 2. No
34	¿Consiguió su empleo actual a través de una conexión o red de contactos relacionada con el Programa? 1. Sí 2. No
35	Comparta algún episodio acerca de cómo la red de contactos que usted adquirió a través del Programa le ayudó a encontrar su trabajo actual.
36	¿Su trabajo actual se relaciona con lo que usted ha estudiado en el Programa? 1. Sí, muchísimo. 2. Sí, de algún modo. 3. No
37	Proporcione algunos ejemplos concretos de cómo usted aplica lo aprendido en el Programa en su trabajo.
38	<u>Seleccione todas las razones</u> por las que usted no está aplicando las experiencias adquiridas en su Programa en su trabajo actual.

	1. Dificultad de encontrar un trabajo en el campo de su experiencia. 2. No ha adquirido conocimientos y capacidades relevantes. 3. Los empleadores no valoran lo que usted aprendió en su programa. 4. El potencial de ingresos en el campo es demasiado bajo. 5. Cambios personales (traslado de puesto) dentro de la organización. 6. Cambio de profesión 7. No está interesado/a en utilizar los conocimientos adquiridos en el Programa en el trabajo actual. 8. Otros ()
39	¿Estudia en alguna escuela además de trabajar? 1. Sí 2. No
40	¿Cuál de las siguientes opciones describe mejor su estatus? 1. No empleado/a 2. Estudiante 3. Cónyuge o pareja que se queda en casa 4. Otros (especificar.....)
41	¿En qué medida sus capacidades y conocimientos que usted ha adquirido durante el Programa le son útiles en su vida actual como estudiante? 1. Muy útil 2. Útil 3. No muy útil 4. Nada útil en absoluto
42	En su <u>vida cotidiana actual (no laboral ni académica)</u> , ¿realiza alguna actividad utilizando lo que ha estudiado o aprendido en el Programa? 1. Sí 2. No
43	¿De qué tipo de actividad se trata? Sírvase especificar.
44	¿Ha participado en alguna actividad* que contribuya al desarrollo de la sociedad Nikkei? *Estas actividades pueden ser de cualquier tamaño, incluyendo profesionales o privadas. La contribución puede adoptar cualquier forma. No es necesario pertenecer a una organización concreta ni ocupar un cargo específico. 1. Sí 2. No
45	Describa concretamente sus actividades que contribuyen al desarrollo de la sociedad Nikkei, así como las contribuciones que usted ha hecho a través de las actividades descritas. Actividades (...) Contribuciones que usted ha hecho a través de las actividades descritas (...)
46	¿Tiene algún plan de participar en las actividades que contribuya al desarrollo de la sociedad Nikkei en un futuro cercano? 1. Sí 2. No
47	Describa concretamente su plan.
48	¿Ha participado en algún tipo de actividad* que contribuya al desarrollo de los países de América Latina y del Caribe? * Estas actividades incluyen, pero no se limitan, servir como miembro del Parlamento, diplomático/a, investigador/a destacado/a en un campo, oficial del gobierno local, médico o docente activo en la comunidad, representante nacional en un acontecimiento internacional o líder de opinión que influye en los demás. 1. Sí 2. No
49	Describa concretamente sus actividades que contribuyen al desarrollo de los países de América

	Latina y del Caribe, así como las contribuciones que usted ha hecho a través de las actividades descritas. Actividades (...) Contribuciones que usted ha hecho a través de las actividades descritas (...)																																																							
50	¿Tiene algún plan de participar en las actividades que contribuyan al desarrollo de los países de América Latina y del Caribe en un futuro cercano? 1. Sí 2. No																																																							
51	Describa concretamente su plan.																																																							
52	【反事実の質問】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿piensa usted que habría participado en las actividades que contribuyan a la sociedad de Nikkei o a los países de América Latina y del Caribe? 1. Sí, creo que habría participado en dichas actividades aun cuando no hubiera participado en el Programa. 2. No, creo que no habría participado en tales actividades si no hubiera participado en el Programa.																																																							
53	【現在の事実】 ¿En qué medida piensa usted que Japón es un país digno de confianza? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada digno de confianza) hasta 10 (muy digno de confianza). 【現在の反事実】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿en qué medida cree usted que habría sentido si Japón es un país digno de confianza? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada digno de confianza) hasta 10 (muy digno de confianza).																																																							
54	<table border="1"> <tr> <td colspan="5">Na digno de confianza</td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5">Muy digno de confianza</td> </tr> <tr> <td colspan="10" style="text-align: center;">←</td> <td colspan="10" style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td> <td colspan="10"></td> </tr> </table>	Na digno de confianza										Muy digno de confianza					←										→										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10										
Na digno de confianza										Muy digno de confianza																																														
←										→																																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																															
55	【現在の事実】 ¿En qué medida se interesa usted por la sociedad y cultura japonesa? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada interesado/a) hasta 10 (muy interesado/a). 【現在の反事実】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿en qué medida cree que se habría interesado por la sociedad y cultura japonesa? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada interesado/a) hasta 10 (muy interesado/a).																																																							
56	<table border="1"> <tr> <td colspan="5">Na interesado/a</td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5">Muy interesado/a</td> </tr> <tr> <td colspan="10" style="text-align: center;">←</td> <td colspan="10" style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td> <td colspan="10"></td> </tr> </table>	Na interesado/a										Muy interesado/a					←										→										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10										
Na interesado/a										Muy interesado/a																																														
←										→																																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																															
57	¿En qué medida se interesa usted por la política extranjera del Japón? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada interesado/a) hasta 10 (muy interesado/a). 【現在の反事実】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿en qué medida cree que se habría interesado por la política exterior del Japón? Seleccione la respuesta que mejor describa sus sentimientos, desde 1 (nada interesado/a) hasta 10 (muy interesado/a).																																																							
58	<table border="1"> <tr> <td colspan="5">Na interesado/a</td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5">Muy interesado/a</td> </tr> <tr> <td colspan="10" style="text-align: center;">←</td> <td colspan="10" style="text-align: center;">→</td> </tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td> <td colspan="10"></td> </tr> </table>	Na interesado/a										Muy interesado/a					←										→										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10										
Na interesado/a										Muy interesado/a																																														
←										→																																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																															
59	Después de completar el Programa, ¿ha trabajado o participado en los proyectos de la JICA (incluyendo la capacitación, estudio, etc. de la JICA) como experto/a, consultor/a local, personal,																																																							

	coordinador/a, intérprete, expositor/a o cualquier otro rol, o ha trabajado en alguna organización que ejecuta los proyectos de la JICA? 1. Sí 2. No
60	Indique los nombres de los proyectos (estudios, etc.) o programas de capacitación de la JICA en los que haya trabajado o participado. 回答欄 3 つまで設け、自由回答
61	Después de completar el Programa, ¿ha trabajado o participado en algún proyecto de desarrollo relacionado con Japón (tales como los estudios del Ministerio de Relaciones Exteriores de Japón, JETRO (Japan External Trade Organization), proyectos de la AOD (Asistencia Oficial para el Desarrollo) de Japón, etc.), <u>sin incluir los proyectos de la JICA</u> ? 1. Sí 2. No
62	Indique los nombres de la organización y del programa en el que usted ha trabajado o participado. 回答欄 3 つまで設け、自由回答
63	【反事実】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿cree usted que habría trabajado o participado en los proyectos de la JICA? 1. Sí. Habría trabajado para los proyectos de la JICA aun cuando no hubiera participado en el programa. 2. No. No habría trabajado o participado en los proyectos de la JICA, si no hubiera participado en el Programa.
64	【反事実】 La siguiente pregunta se trata de una realidad que no ha ocurrido en realidad. Sírvase imaginar la situación y responder. Si no hubiera participado en el Programa, ¿cree usted que habría trabajado o participado en los proyectos de desarrollo relacionados con Japón? 1. Sí. Habría trabajado para los proyectos de desarrollo relacionados con Japón aun cuando no hubiera participado en el programa. 2. No. No habría trabajado o participado en los proyectos de desarrollo relacionados con Japón, si no hubiera participado en el Programa.
65	JICA ha establecido los siguientes objetivos para el Programa. Aparte de los que se enumeran a continuación, ¿ha conseguido algo más gracias al Programa? 1. Sí 2. No ・ Reforzar los conocimientos, capacidades y experiencias técnicas. ・ Tener amigos Nikkei de los países de América Latina y el Caribe. ・ Conocer a los japoneses de la misma generación o de la comunidad local. ・ Establecer conexiones útiles para futuros trabajos. ・ Aprender sobre las raíces Nikkei de su familia. ・ Aprender sobre los valores y la cultura japonesa. ・ Aprender sobre la historia de la inmigración desde Japón. ・ Tener un mayor interés en la comunidad Nikkei.
66	¿Qué más ha adquirido del Programa? Describa concretamente.
67	¿Ha conseguido todo lo que esperaba del Programa? 1. Sí 2. No
68	¿Qué esperaba obtener del programa pero no consiguió? Describa concretamente.
69	Si quisiéramos realizar futuras entrevistas relacionadas con la información que nos ha proporcionado, ¿estaría dispuesto/a a cooperar con nosotros? 1. Sí 2. No
70	Muchas gracias. Si deseamos realizar una entrevista, nos pondremos en contacto con usted para concertar una fecha. Sírvase facilitarnos sus datos de contacto. Nombre: Correo electrónico: País de residencia actual:

Aquí termina el cuestionario. Agradecemos por su colaboración.

2) ポルトガル語版

Pesquisa por questionário sobre o Programa JICA de Treinamento para Comunidade Nikkei

Agradecemos de antemão por reservar o seu tempo para preencher este questionário.

Este questionário é sobre o Programa JICA de Treinamento para Comunidade Nikkei. Estamos pedindo a todos os que participaram deste Programa entre os anos fiscais (AF) de 2017 a 2023 preencherem este questionário. A JICA, que tem implementado programas de educação, está realizando este ano a avaliação do seu Projeto de Cooperação com Comunidade Nikkei, e como parte desta avaliação, a JICA contratou a Metrics Work Consultants, Inc. para realizar esta pesquisa. A pesquisa irá levar aproximadamente 20 minutos.

As respostas serão aproveitadas na implementação e melhoria do Projeto de Cooperação com Comunidade Nikkei da JICA. As respostas não serão usadas para quaisquer outras finalidades diferentes das mencionadas acima. Uma vez que as informações pessoais serão analisadas após passar por um processo de anonimização, nenhuma informação pessoal identificável será tornada pública, nem o conteúdo das suas respostas será compartilhado de uma forma que permita a sua identificação individual, por isso, sinta-se à vontade em nos dar a sua opinião sincera.

Durante o questionário, quando quiser retornar à página anterior para fazer alguma correção, clique no botão "Voltar" para retornar à página anterior.

Metrics Work Consultants, Inc., que é a empresa implementadora esta pesquisa, obteve a Marca de Privacidade e estabeleceu e opera um sistema de proteção de informações pessoais em conformidade com os Requisitos do Sistema de Gerenciamento de Proteção de Informações Pessoais (JISQ15001:2017). Se você tiver alguma dúvida a respeito desta pesquisa, entre em contato com a Sra. XXX (xxx@metricswork.co.jp), da Equipe de Estudo da JICA.

Por favor, leia a Política de Privacidade relativa ao manuseio de informações pessoais e responda ao questionário somente se você concordar com os seus termos.

Se você deseja participar desta pesquisa, assinale em “Concordo em participar” e clique no botão “Participar”.

設問番号	質問項目
1	Por favor, selecione o ano fiscal (AF) em que você participou do Programa no Japão. 1. AF 2017 (de abril de 2017 a março de 2018) 2. AF 2018 (de abril de 2018 a março de 2019) 3. AF 2019 (de abril de 2019 a março de 2020) 4. AF 2020 (de abril de 2020 a março de 2021) 5. AF 2021 (de abril de 2021 a março de 2022) 6. AF 2022 (de abril de 2022 a março de 2023) 7. AF 2023 (de abril de 2023 a março de 2024)
2	Qual é seu gênero? 1. Masculino 2. Feminino 3. Outros 4. Prefiro não responder

3	De qual país você é? 1. Argentina 2. Bolívia 3. Brasil 4. Chile 5. Colômbia 6. Cuba 7. República Dominicana 8. México 9. Paraguai 10. Peru 11. Uruguai 12. Venezuela
4	Quantos anos você tinha quando se inscreveu no Programa? XX anos
5	Quantos anos de experiência profissional você tinha quando se inscreveu no Programa? 1. Sem experiência profissional 2. Menos de um ano 3. Entre mais de 1 ano e menos de 5 anos 4. Entre mais de 5 anos e menos de 10 anos 5. Mais de 10 anos
6	Qual era sua formação acadêmica quando se inscreveu no Programa? 1. Ensino médio ou equivalente 2. Bacharelado 3. Mestrado 4. Doutorado 5. Outros ()
7	Seu programa foi de Bolsas Específicas ou de Apoio aos Nikkeis? 1. Bolsas Específicas 2. Apoio aos Nikkeis
8	Qual era o tema principal do seu programa? 1. Desenvolvimento do setor privado 2. Saúde e cuidados médicos 3. Educação 4. Desenvolvimento urbano e regional 5. Desenvolvimento agrícola e rural 6. Bem-estar social/ Seguridade social 7. Conservação do meio ambiente 8. Tecnologia da informação e comunicação 9. Melhoria nutricional 10. Outros ()
9	Você é de ascendência japonesa (Nikkei)? 1. Sim 2. Não
10	(Q9 で 1 の場合) De qual geração é? 1. De 1ª geração 2. De 2ª geração 3. De 3ª geração 4. De 4ª geração 5. De 5ª geração 6. De 6ª geração 7. De 7ª geração 8. Não sei dizer 9. Outros ()

11	Você é atualmente <u>membro de</u> alguma organização Nikkei (organizações ou grupos comunitários cujos membros principais são japoneses/ Nikkeis ou cujos membros envolvidos originariamente eram predominantemente Nikkeis)? Por favor selecione <u>todas as opções</u> aplicáveis. (Multiple answers) 1. Kenjinkai/ associações japonesas/ associações Nikkei 2. Escolas de língua japonesa/ escolas japonesas/ escolas complementares 3. Organizações esportivas 4. Clubes/ círculos de interesse comum/ grupos de amigos 5. Organizações culturais 6. Associações de trabalho/ indústria 7. Outros (favor especificar) 8. Não pertença a nenhum grupo																		
12	Você já foi <u>membro de</u> alguma organização Nikkei (organizações ou grupos comunitários cujos membros principais são japoneses/ Nikkeis ou cujos membros envolvidos originariamente eram predominantemente Nikkeis) <u>antes de participar do Programa</u>? Por favor <u>selecione todas as opções</u> aplicáveis. (Multiple answers) 1. Kenjinkai/ associações japonesas/ associações Nikkei 2. Escolas de língua japonesa/ escolas japonesas/ escolas complementares 3. Organizações esportivas 4. Clubes/ círculos de interesse comum/ grupos de amigos 5. Organizações culturais 6. Associações de trabalho/ indústria 7. Outros (favor especificar) 8. Não pertença a nenhum grupo																		
13	Por favor, selecione o seu nível de entendimento sobre as raízes Nikkei e do seu potencial como um Nikkei no momento da inscrição no Programa e atualmente. <table border="1"> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> </tr> <tr> <td>No momento da inscrição</td> <td>Não tenho nenhum entendimento</td> <td>Entendo um pouco</td> <td>Entendo</td> <td>Entendo profundamente</td> </tr> <tr> <td>Atualmente</td> <td>Não tenho nenhum entendimento</td> <td>Entendo um pouco</td> <td>Entendo</td> <td>Entendo profundamente</td> </tr> </table>		1	2	3	4	No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente	Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente			
	1	2	3	4															
No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
14	Por favor, selecione o seu nível de entendimento sobre valores e cultura japoneses no momento da inscrição no Programa e atualmente. <table border="1"> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> </tr> <tr> <td>No momento da inscrição</td> <td>Não tenho nenhum entendimento</td> <td>Entendo um pouco</td> <td>Entendo</td> <td>Entendo profundamente</td> </tr> <tr> <td>Atualmente</td> <td>Não tenho nenhum entendimento</td> <td>Entendo um pouco</td> <td>Entendo</td> <td>Entendo profundamente</td> </tr> </table>		1	2	3	4	No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente	Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente			
	1	2	3	4															
No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
15	Por favor, selecione o seu sentimento em relação ao Japão no momento da inscrição no Programa e atualmente. <table border="1"> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> <tr> <td>No momento da inscrição</td> <td>Muito negativo</td> <td>Negativo</td> <td>Neutro</td> <td>Positivo</td> <td>Muito positivo</td> </tr> <tr> <td>Atualmente</td> <td>Muito negativo</td> <td>Negativo</td> <td>Neutro</td> <td>Positivo</td> <td>Muito positivo</td> </tr> </table>		1	2	3	4	5	No momento da inscrição	Muito negativo	Negativo	Neutro	Positivo	Muito positivo	Atualmente	Muito negativo	Negativo	Neutro	Positivo	Muito positivo
	1	2	3	4	5														
No momento da inscrição	Muito negativo	Negativo	Neutro	Positivo	Muito positivo														
Atualmente	Muito negativo	Negativo	Neutro	Positivo	Muito positivo														
16	Quais são os motivos de sua atual percepção muito negativa, negativa ou neutra do Japão? 自由回答																		
17	Por favor, selecione o seu nível de entendimento sobre a história da imigração japonesa ao seu país de residência* no momento da inscrição no Programa e atualmente.																		

	*Considere o país de residência no momento da inscrição e não o país de residência atual (caso tenha se mudado). <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>No momento da inscrição</td><td>Não tenho nenhum entendimento</td><td>Entendo um pouco</td><td>Entendo</td><td>Entendo profundamente</td></tr> <tr> <td>Atualmente</td><td>Não tenho nenhum entendimento</td><td>Entendo um pouco</td><td>Entendo</td><td>Entendo profundamente</td></tr> </table>		1	2	3	4	No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente	Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente			
	1	2	3	4															
No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
18	Por favor, selecione o seu nível de entendimento sobre a história da imigração japonesa para os países latino-americanos e caribenhos no momento da inscrição no Programa e atualmente. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>No momento da inscrição</td><td>Não tenho nenhum entendimento</td><td>Entendo um pouco</td><td>Entendo</td><td>Entendo profundamente</td></tr> <tr> <td>Atualmente</td><td>Não tenho nenhum entendimento</td><td>Entendo um pouco</td><td>Entendo</td><td>Entendo profundamente</td></tr> </table>		1	2	3	4	No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente	Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente			
	1	2	3	4															
No momento da inscrição	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
Atualmente	Não tenho nenhum entendimento	Entendo um pouco	Entendo	Entendo profundamente															
19	Como você avaliaria seu nível atual de conhecimento, habilidades e experiências técnicas em sua área de estudo em comparação com o nível no momento da inscrição no Programa? 1. Melhorou bastante 2. Melhorou 3. Melhorou pouco 4. Não melhorou nada																		
20	Você adquiriu alguma(s) das seguintes conexões/redes durante o Programa? Escolha todas as opções que se aplicam. 1. Conexões/redes com o meio acadêmico japonês (pesquisadores, universitários, instituições de pesquisa, etc.) 2. Conexões/redes com organizações japonesas tais como fundações, ONGs, hospitais e empresas privadas 3. Conexões/redes com órgãos governamentais japoneses (Ministérios, governos locais, instituições públicas, etc.)/ seus funcionários 4. Amigos japoneses/internacionais, incluindo outros participantes do seu programa 5. Conexões/redes com a comunidade local no Japão 6. Conexões/redes com pessoas através de atividades extracurriculares, tais como atividades em clubes, atividades culturais e atividades de voluntariado 7. Conexões/redes com outros () 8. Nenhuma das acima mencionadas																		
21	Por favor, selecione o seu nível de entendimento sobre a cultura corporativa japonesa e práticas de negócios/sistemas de gestão no momento da inscrição no Programa e atualmente. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr> <td>No momento da inscrição</td><td>Nada</td><td>Não muito</td><td>Muito</td><td>Muito bem</td></tr> <tr> <td>Atualmente</td><td>Nada</td><td>Não muito</td><td>Muito</td><td>Muito bem</td></tr> </table>		1	2	3	4	No momento da inscrição	Nada	Não muito	Muito	Muito bem	Atualmente	Nada	Não muito	Muito	Muito bem			
	1	2	3	4															
No momento da inscrição	Nada	Não muito	Muito	Muito bem															
Atualmente	Nada	Não muito	Muito	Muito bem															
22	Por favor, selecione o seu nível de entendimento sobre a ética no trabalho nas organizações japonesas no momento da inscrição no Programa e atualmente. <table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>No momento da inscrição</td><td>Nada</td><td>Não muito</td><td>Muito</td><td>Muito bem</td><td></td></tr> <tr> <td>Atualmente</td><td>Nada</td><td>Não muito</td><td>Muito</td><td>Muito bem</td><td></td></tr> </table>		1					No momento da inscrição	Nada	Não muito	Muito	Muito bem		Atualmente	Nada	Não muito	Muito	Muito bem	
	1																		
No momento da inscrição	Nada	Não muito	Muito	Muito bem															
Atualmente	Nada	Não muito	Muito	Muito bem															
23	【現在の事実】 Até que ponto você se identifica como Nikkei? De uma escala de 1 (Não sinto nada) a 10 (Sinto muito intensamente), escolha o valor que melhor representa o seu sentimento.																		
24	<table border="1"> <tr> <td>Não sinto nada</td><td>Sinto muito intensamente 10</td></tr> </table>	Não sinto nada	Sinto muito intensamente 10																
Não sinto nada	Sinto muito intensamente 10																		

	 <table border="1" style="margin: 0 auto; width: 100%;"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> </table> 【現在の反事実】 近頃ある質問は、ある状況がなかった、でも想像して答えなさい。もしあなたがプログラムに参加しなかったら、どのくらいあなた自身をNikkeiとして認めるか。1から10のスケールで（1は「何とも感じない」、10は「とても強く感じる」）、あなたが最もよくあなたの気持ちを表すものを選びなさい。 何とも感じない とても強く感じる  <table border="1" style="margin: 0 auto; width: 100%;"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10												
25	最後の12ヶ月、あなたは何かの活動やイベントに参加/スポンサーしたか、または組織やコミュニティグループのために、主にメンバーが日系人（Nikkei）であるか？ すべてに参加した活動やイベントを選択してください。（Multiple answers） 1. 活動やイベント、Kenjinkai/日系人協会/日系人協会 2. 活動やイベント、日本語学校/日系人学校/日系人学校、補完的、等。 3. 活動やイベント、スポーツ組織、等。 4. 活動やイベント、クラブ/共通の関心グループ/友人グループ、等。 5. 活動やイベント、文化組織 6. 活動やイベント、労働/産業で関係しているか、または家族や友人、等。 7. その他（具体的に） 8. 参加したイベント、上記のものではない																				
26	<u>あなたが参加したすべての活動やイベント</u>について、あなたが25番目の質問に答えたように、あなたはどのくらい頻りに参加したか？ 1. 1から2回 2. 3から5回 3. 5から9回 4. 10回以上																				
27	あなたは参加した頻りに変化があったか、または参加した頻りに変化があったか？ 1. 増加した 2. 同じまま 3. 減少した																				
28	あなたが参加した頻りに減少した理由をすべて選択してください。（Multiple answers） 1. 仕事、勉強、または趣味で忙しい 2. 社会的活動に興味がある 3. 活動にあまり興味がない 4. 活動に参加するコミュニティグループ 5. 活動に参加する機会がなくなった 6. 参加するコストが高すぎる 7. 活動の場所が遠すぎる 8. その他（ ）																				
29	あなたがプログラムに参加する前に、あなたはすでにこれらの活動やイベントに参加していたか？ 1. はい 2. いいえ																				
30	あなたが参加した頻りに減少した理由をすべて選択してください。 1. 仕事、勉強、または趣味で忙しい 2. 社会的活動に興味がある																				

	3. Perdi o interesse pelas atividades 4. Perdi o interesse em participar dessas comunidades/ grupo 5. A atividade que gostava de participar não é mais realizada 6. Não posso arcar com os custos da participação 7. O local da atividade é muito longe para participar 8. Outros (favor especificar)
31	Atualmente você está empregado(a) ou autônomo(a) (incluindo proprietários individuais e empresário)? 1. Sim 2. Não
32	Selecione o seu atual local de trabalho/ organização a que pertence. Se você trabalha para mais de uma opção abaixo, <u>selecione todas as opções</u> correspondentes. 1. Empresa local (exceto empresa própria) 2. Empresa estrangeira (exceto empresa japonesa) 3. Empresa japonesa (inclui filial local ou subsidiária de uma empresa japonesa) 4. Escritório local de organização governamental ou agência administrativa japonesa tais como a Embaixada do Japão, JICA e JETRO (Organização de Comércio Exterior do Japão) 5. Autônomo/ freelancer (incluindo proprietários individuais e empresário) 6. Possuir negócio próprio e emprega pessoas 7. Instituição governamental (ministério, governo local, empresa pública, etc.) 8. Associação Agrícola Nikkei 9. Escola de língua japonesa 10. Instituto japonês/ Nikkei de educação ou pesquisa (universidade, etc., mas não na condição de estudante) 11. Instituto educacional ou de pesquisa que não seja japonês/ Nikkei (universidade, etc., mas não na condição de estudante) 12. Hospital ou clínica japoneses/ Nikkei 13. Hospital ou clínica que não seja japonês/ Nikkei 14. Organização e fundação cultural japonesa/ Nikkei 15. Organização e fundação cultural que não seja japonesa/ Nikkei 16. ONG Japonesa/ Nikkei 17. ONG que não seja japonesa/ Nikkei 18. Organização Internacional 19. Outros (favor especificar)
33	Você se encontra no momento em uma posição de supervisão/ gestão no seu trabalho/ organização? 1. Sim 2. Não
34	Você conseguiu seu emprego atual por meio de uma conexão/rede relacionada como o Programa? 1. Sim 2. Não
35	Explique como a rede que você conquistou por meio do Programa o(a) ajudou a encontrar seu emprego atual.
36	O seu trabalho atual está relacionado com o que você estudou no Programa? 1. Sim, muito 2. Sim, até certo ponto 3. Não
37	Dê exemplos específicos de como você está usando o que aprendeu através do Programa no seu trabalho.
38	<u>Escolha todas as razões</u> pelas quais você não está usando os conhecimentos adquiridos através do Programa no seu trabalho atual. 1. É difícil encontrar um emprego na minha área de especialização 2. Não adquiri conhecimentos ou habilidades relevantes 3. O empregador não valoriza o que aprendi no meu programa 4. O potencial de ganho na área era muito baixo

	5. Mudanças de pessoal (transferência de atribuições) dentro da organização 6. Transição de carreira 7. Não me interessa em usar os conhecimentos que adquiri através do meu programa no trabalho atual 8. Outros ()
39	Você estuda em alguma escola além de trabalhar? 1. Sim 2. Não
40	Qual das seguintes opções melhor representa a sua situação? 1. Desempregado 2. Estudante 3. Cônjuge ou companheiro que cuida da casa 4. Outras (favor especificar)
41	Até que ponto as habilidades e conhecimentos adquiridos no Programa têm sido úteis na sua vida atual como estudante? 1. Muito útil 2. Útil 3. Não tem sido tão útil 4. Não tem sido útil de forma alguma
42	No seu <u>dia a dia (sem relação com o trabalho ou estudo)</u> , você realiza alguma atividade que aproveita o que foi adquirido/ aprendido no Programa? 1. Sim 2. Não
43	Que tipo de atividade é? Descreva, por favor:
44	Você já esteve envolvido em atividades* que contribuem para o desenvolvimento da sociedade Nikkei? *Atividades de qualquer tamanho, tanto a nível profissional ou particular. As contribuições também podem ser de várias formas. Não é necessário que você pertença a uma organização específica ou que ocupe um cargo específico. 1. Sim 2. Não
45	Por favor descreva de forma específica a(s) sua(s) atividade(s) que contribui(em) para o desenvolvimento da sociedade Nikkei e a(s) contribuição(ões) resultante(s). Atividade(s) (...) Contribuição(ões) que você fez através da(s) atividade(s) descrita(s) acima (...)
46	Você tem planos de se engajar em alguma atividade capaz de contribuir para o desenvolvimento da sociedade Nikkei? 1. Sim 2. Não
47	Descreva o seu plano de forma específica.
48	Você já esteve envolvido em atividades* que contribuem para o desenvolvimento dos países latino-americanos e caribenhos? *As atividades incluem, <u>mas não se limitam</u> a, servir como membro do parlamento, diplomata, pesquisador chefe em uma determinada área, funcionário do governo local, médico ou professor atuante na comunidade, representante nacional em um evento internacional ou um formador de opinião capaz de influenciar outras pessoas, entre outras. 1. Sim 2. Não
49	Por favor descreva de forma específica a(s) sua(s) atividade(s) que contribui(em) para o desenvolvimento dos países latino-americanos e caribenhos e a(s) contribuição(ões) resultante(s). Atividades ()

	1. Sim 2. Não
60	Escreva os nomes dos projetos da JICA (estudo, etc.) ou programas de treinamento nos quais você trabalhou/participou. 回答欄 3 つまで設け、自由回答
61	Depois de concluir o Programa, você trabalhou/participou de algum projeto de desenvolvimento relacionado com o Japão (como estudos do Ministério dos Negócios Estrangeiros do Japão e da JETRO (Organização de Comércio Exterior do Japão), projetos de AOD (Assistência Oficial para o Desenvolvimento) do Japão, etc.), <u>além dos projetos da JICA</u> ? 1. Sim 2. Não
62	Escreva os nomes das organizações e dos programas nos quais você trabalhou/participou. 回答欄 3 つまで設け、自由回答
63	【反事実】 A próxima pergunta trata de uma suposição, mas imagine a situação e responda. Se você não tivesse aderido ao Programa, você acha que teria trabalhado/participado dos projetos da JICA? 1. Sim. Mesmo que eu não tivesse aderido ao Programa, teria trabalhado/participado dos projetos da JICA. 2. Não. Se eu não tivesse aderido ao Programa, não teria trabalhado/participado dos projetos da JICA.
64	【反事実】 A próxima pergunta trata de uma suposição, mas imagine a situação e responda. Se você não tivesse aderido ao Programa, você acha que teria trabalhado/participado dos projetos de desenvolvimento relacionados com o Japão? 1. Sim. Mesmo que eu não tivesse aderido ao Programa, teria trabalhado/participado dos projetos de desenvolvimento relacionados com o Japão. 2. Não. Se eu não tivesse aderido ao Programa, não teria trabalhado/participado dos projetos de desenvolvimento relacionados com o Japão.
65	A JICA estabelece os seguintes objetivos para este Programa. Além dos listados abaixo, você conseguiu mais alguma coisa com o Programa? 1. Sim 2. Não ・ Melhorar os conhecimentos e habilidades, bem como aumentar as experiências técnicas ・ Fazer amizade com Nikkeis dos países da América Latina e do Caribe ・ Conhecer japoneses da mesma geração ou da comunidade local ・ Adquirir conexões úteis para trabalhos futuros ・ Aprender sobre as raízes Nikkei da própria família ・ Aprender sobre os valores e a cultura japoneses ・ Aprender sobre a história da imigração japonesa ・ Aumentar o interesse pela comunidade Nikkei
66	O que mais você obteve através do Programa? Por favor descreva de forma mais específica.
67	Você conseguiu obter tudo que você esperava do Programa? 1. Sim 2. Não
68	O que você esperava obter do Programa, mas acabou não conseguindo? Por favor descreva de forma específica.
69	Você estaria disposto a colaborar conosco se resolvermos realizar futuras entrevistas relacionadas às informações que nos forneceu? 1. Sim 2. Não
70	Agradecemos a sua cooperação. Se resolvermos realizar uma entrevista, entraremos em contato para agendarmos uma data. Por favor, queira nos fornecer suas informações de contato. Nome: E-mail: País de residência atual:

Concluído o preenchimento do questionário. Agradecemos a sua cooperação.

5. 海外移住資料館

JICA 横浜 海外移住資料館に関するアンケート

アンケートにご協力を頂きありがとうございます。

本アンケートは、JICA 横浜 海外移住資料館に関するものです。海外移住資料館を運営している JICA は、これまでに海外移住資料館にご来館頂いた皆様を対象にアンケートを実施しております。アンケートの所要時間は 10 分程度です。皆様の声は、海外移住資料館を含む、JICA の日系社会連携事業の実施、改善のために使います。回答頂いた内容は、上記の目的以外には決して使用いたしません。アンケートにおいて、個人情報はお伺いいたしません。ご回答者が特定できる状態で学校やご家族や、その他関係者に回答内容が共有されることもありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

前のページに戻って修正したい場合には、「戻る」ボタンをクリックしてお戻りください。

アンケート内容について質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

設問番号	質問項目					
1	あなたの所属先を選んでください。 1. 中学校 2. 高等学校 3. 専門学校 4. 大学・短大 5. その他（ ）					
2	あなたの性別を教えてください。 1. 男性 2. 女性 3. その他 4. 回答しない					
3	初めて海外移住資料館を訪れたのはいつですか。 1. 2017 年かそれより以前 2. 2018 年 3. 2019 年 4. 2020 年 5. 2021 年 6. 2022 年 7. 2023 年 8. 2024 年 9. わからない					
4	海外移住資料館にこれまで何回来場したことがありますか。 1. 1 回 2. 2 回 3. 3 回以上					
5	海外移住の歴史についてのあなたの知識・理解についてお伺いします。 海外移住資料館を①初めて訪れる前と、②展示を見た後の、海外移住の歴史についてのあなたの知識・理解度について、「まったく知らない」「少し知っている」「理解している」「深く理解している」の中からもっとも当てはまるものを選んでください。 <table><tr><td>①初めて訪れる前</td><td>全く知らない</td><td>少し知っている</td><td>理解している</td><td>深く理解している</td></tr></table>	①初めて訪れる前	全く知らない	少し知っている	理解している	深く理解している
①初めて訪れる前	全く知らない	少し知っている	理解している	深く理解している		

		②展示を見た後	全く知らない	少し知っている	理解している	深く理解している											
6	あなたの日系人への関心についてお伺いします。 海外移住資料館を①初めて訪れる前、と②展示を見た後の、あなたの日系人への関心はどうですか。 「関心はない」「どちらかと言えば関心はない」「どちらかと言えば関心がある」「とても関心がある」の中からもっとも当てはまるものを選んでください。 <table border="1"> <tr> <td>①初めて訪れる前</td> <td>関心はない</td> <td>どちらかと言えば関心はない</td> <td>どちらかと言えば関心がある</td> <td>とても関心がある</td> </tr> <tr> <td>②展示を見た後</td> <td>関心はない</td> <td>どちらかと言えば関心はない</td> <td>どちらかと言えば関心がある</td> <td>とても関心がある</td> </tr> </table>							①初めて訪れる前	関心はない	どちらかと言えば関心はない	どちらかと言えば関心がある	とても関心がある	②展示を見た後	関心はない	どちらかと言えば関心はない	どちらかと言えば関心がある	とても関心がある
①初めて訪れる前	関心はない	どちらかと言えば関心はない	どちらかと言えば関心がある	とても関心がある													
②展示を見た後	関心はない	どちらかと言えば関心はない	どちらかと言えば関心がある	とても関心がある													
7	中南米日系社会の現状や抱えている課題について、資料館に来場して新たに知ったことや学んだことがありますか。 1. はい 2. いいえ																
8	中南米日系社会の現状や抱えている課題について、資料館に来場して新たに知ったことや学んだことを具体的に記載してください。 例) 日系人としていまだに差別を受けている場合もあること、日本から移住した日系人の子孫が、現在では再度日本に移住している場合もあること、など。																
9	日本国内に暮らす日系人や、日本国内の日系人が多く住む地域の現状、抱えている課題について、資料館に来場して新たに知ったことや学んだことがありますか。 1. はい 2. いいえ																
10	日本国内に暮らす日系人や日本国内の日系人が多く住む地域の現状や抱えている課題について、資料館に来場して新たに知ったことや学んだこと具体的に記載してください。 例) 日系人であるのに、日本では外国人と扱われてしまう場合もあること、言語や文化の違いが壁となり、学校での勉強や行政サービスの利用において困難がある場合もあること、等																
11	以下の文章について、現在のあなたの気持ちにもっとも当てはまるものを「全くそう思わない」「そう思わない」「そう思う」「非常にそう思う」の中から選んでください。 ＊以下の文中にある「外国にルーツをもつ」という表現は、その人やその人の家族が異なる国や異なる国の文化的背景を持っていることを意味しています。 A) 外国人や外国にルーツをもつ人々が日本に移住してきた時にどのような困難・不安があったかに関心がある B) 外国人や外国にルーツをもつ人々が日本でどのように暮らしているかに関心がある C) 日本にいる外国人や外国にルーツをもつ人々がどのような差別や偏見の影響を受けて暮らしているかに関心がある D) 日本にいる外国人や外国にルーツをもつ人々が自分たちの習慣や文化の継承をどのようにしているのかに関心がある <table border="1"> <tr> <td>全く そう思わない</td> <td>そう思わない</td> <td>そう思う</td> <td>非常に そう思う</td> </tr> </table>							全く そう思わない	そう思わない	そう思う	非常に そう思う						
全く そう思わない	そう思わない	そう思う	非常に そう思う														
12	もし資料館を訪れていなかったら、以下の文章について、あなたの気持ちはどのようになっていたと思いますか。あなたの気持ちにもっとも当てはまるであろうものを「全くそう思わない」「そう思わない」「そう思う」「非常にそう思う」の中から選んでください。 A) 外国人や外国にルーツをもつ人々が日本に移住してきた時にどのような困難・不安があったかに関心がある																

	B) 外国人や外国にルーツをもつ人々が日本でどのように暮らしているかに関心がある C) 日本にいる外国人や外国にルーツをもつ人々がどのような差別や偏見の影響を受けて暮らしているか関心がある D) 日本にいる外国人や外国にルーツをもつ人々が自分たちの習慣や文化の継承をどのようにしているのか関心がある <table border="1"> <tr> <td>全く そう思わない</td><td>そう思わない</td><td>そう思う</td><td>非常に そう思う</td></tr> </table>	全く そう思わない	そう思わない	そう思う	非常に そう思う
全く そう思わない	そう思わない	そう思う	非常に そう思う		
13	以下の文章について、<u>現在のあなたの気持ち</u>にもっとも当てはまるものを「全くそう思わない」「そう思わない」「そう思う」「非常にそう思う」の中から選んでください。 A) <u>来場前と比べて</u>日本は異なる文化や言語をもつ人々がより暮らしやすい社会になることが大事だと感じる B) <u>来場前と比べて</u>日本にいる外国人や外国にルーツをもつ人々が、能力を存分に発揮して日本社会の一員として活躍して欲しいと感じる C) <u>来場前と比べて</u>周囲にいる異なる習慣や社会的ルールを持つ多様な人々により寛容になることが大事だと感じる <table border="1"> <tr> <td>全く そう思わない</td><td>そう思わない</td><td>そう思う</td><td>非常に そう思う</td></tr> </table>	全く そう思わない	そう思わない	そう思う	非常に そう思う
全く そう思わない	そう思わない	そう思う	非常に そう思う		
14	資料館来場をきっかけに日本国内に居住する日系人や外国人、外国ルーツの人々との相互理解に関する活動や、そうした人々の暮らしに役立つ活動等をしたと思うようになりましたか。「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」「どちらかと言えばそう思う」「そう思う」の中からもっとも当てはまるものを選んでください。 <table border="1"> <tr> <td>そう思わない</td><td>どちらかと言えば そう思わない</td><td>どちらかと言えば そう思う</td><td>そう思う</td></tr> </table>	そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う
そう思わない	どちらかと言えば そう思わない	どちらかと言えば そう思う	そう思う		
15	資料館来場後に、日本国内に居住する日系人や外国人、外国ルーツの人々との相互理解に関する活動や、そうした人々の暮らしに役立つ活動等をしたことがありますか。 1. はい 2. いいえ				
16	それはどのような活動か教えてください。(自由記述回答)				
17	もし資料館を訪れていなかったらその活動をしていたと思いますか。 1. はい、資料館を訪れていなくても活動していた 2. いいえ、資料館を訪れていなかったら、活動していなかった				

別添 2. 現地調査日程

【ブラジル】

日付	時間	行程	滞在場所
9月14日	土	成田→ドバイ	
9月15日	日	→ サンパウロ（移動）	サンパウロ
9月16日	月	09:00 JICA ブラジル事務所	
		11:00 サンパウロ日伯援護協会（援協）	
		13:30 ブラジル日本文化福祉協会（文協）	
		15:15 ブラジル日本都道府県人会連合会（県連）	
		16:15 ブラジル日報	
9月17日	火	17:30 日系社会研修帰国研修員	
		09:00 ブラジル日本移民史料館	
		13:30 ブラジル日本語センター	
		16:00 日系社会研修（日系サポーター）帰国研修員（オンライン）	
9月18日	水	17:10 日系社会研修帰国研修員	
		サンパウロ→ピニャール移住地（移動）	
		09:45 コロニア・ピニャール文化体育協会日本語学校	
9月19日	木	11:00 サンミゲル・アルカンジョ農業協同組合	
		日系社会研修帰国研修員 次世代育成研修（中学生）	
9月20日	金	15:15 援協サンミゲル・アルカンジョ病院	
		サンミゲル・アルカンジョ→ピラールドスール（移動）	
9月21日	土	09:00 サンパウロ柿生産者協会（APPC）	
		13:00 ピラールドスール文化体育協会日本語学校	
		14:00 次世代育成研修（大学生）帰国研修員	
		15:30 日系社会研修帰国研修員	
		16:00 日系社会研修帰国研修員	
9月22日	日	ピラールドスール→サンパウロ（移動）	
		09:00 日伯友好病院	
		11:15 憩の園	
		14:00 次世代育成研修（高校生）帰国研修員	
9月23日	月	15:00 日系社会研修帰国研修員	
		15:30 リーダー育成事業帰国研修員（オンライン）	
		資料整理	
		サンパウロ→クリチバ（移動）	
9月24日	火	09:00 パラナ日伯商工会議所	
		11:00 クリチバ日伯援護文化協会日本語学校・学生寮	
		14:00 日系社会研修帰国研修員	
		14:10 日系社会研修帰国研修員	
		15:00 パラナ日伯元留学生協会（APAEX）	
9月25日	水	17:00 クリチバ日伯文化援護協会	
		2024年度ブラジル日系社会ビジネスリーダー本邦招へい参加者	
9月26日	木	14:00 次世代育成研修（高校生）帰国研修員	
		クリチバ→サンパウロ（移動）	
9月27日	金	2024年度ブラジル日系社会ビジネスリーダー本邦招へい参加者	
		17:00 日系女性グループ（REN Brasil Mulheres、サルバドール等）（オンライン）	
9月28日	土	アマゾニア日伯援護協会（オンライン）	サンパウロ

日付		時間	行程	滞在場所
		10:30	トメアス総合農業協同組合 (CAMTA) (オンライン)	
		13:20	Associação Nippo Brasileira de Parintins (オンライン)	
		14:30	Associação de São Luis Nippo-Brasileira (オンライン)	
		15:30	次世代育成研修 (中学生) 帰国研修員	
		17:00	JICA 帰国研修員同窓会 (ABJICA)	
9月27日	金	10:00	サンパウロ総領事館表敬	
		14:00	サンパウロ日伯慈善協会サンタクルス日本病院	
		16:00	JICA 事務所報告	
9月28日	土		資料整理	
9月29日	日		サンパウロ→ (移動)	

【パラグアイ】

日付		時間	行程	滞在場所
9月29日	日		→アスンシオン→シウダー・デル・エステ (移動)	シウダー・デル・エステ
9月30日	月	8:00	日系社会研修帰国研修員 (オンライン)	
		19:00	リーダー育成事業帰国研修員 (オンライン)	
10月1日	火	9:00	エステ日本人会	イグアス
			エステ→イグアス (移動)	
		13:30	イグアス日本人会	
		14:30	次世代育成研修 (中学生) 帰国研修員	
		17:00	リーダー育成事業帰国研修員 (オンライン)	
10月2日	水	9:00	イグアス農協	アスンシオン
		13:00	日系社会研修帰国研修員	
			イグアス→アスンシオン (移動)	
		22:00	次世代育成研修 (高校生) 帰国研修員 (オンライン)	
10月3日	木	14:00	日本人会連合会	
		15:00	日系社会研修帰国研修員	
		18:00	日系社会研修帰国研修員 (オンライン)	
		20:00	次世代育成研修 (高校生) 帰国研修員 (オンライン)	
10月4日	金	8:00	日系社会研修帰国研修員 (オンライン)	
		11:00	日系社会研修帰国研修員 (オンライン)	
		15:00	次世代育成研修 (中学生) 帰国研修員	
		16:00	JICA 事務所表敬・報告	
10月5日	土	9:30	次世代育成研修 (大学生) 帰国研修員 (オンライン)	
		14:30	リーダー育成事業帰国研修員	
			アスンシオン→サンパウロ→ドバイ→成田 (移動)	

【ボリビア】

日付		時間	行程	滞在場所
9月29日	日		→サンタクルス（移動）	サンタクルス
9月30日	月	09:00 10:00 11:00 12:00 15:00 16:00 17:30 18:00 18:30	JICA ボリビア事務所サンタクルスオフィス 次世代育成研修（中学生）帰国研修員 次世代育成研修（高校生）帰国研修員 次世代育成研修（大学生）帰国研修員 日系社会研修帰国研修員 沖縄県人会 ボリビア日系協会連合会（ANBJ） 日系社会研修帰国研修員 日系社会研修帰国研修員	
10月1日	火	10:30 12:00 14:00 15:30	サンタクルス→サンフアン移住地（移動） サンフアン日ボ協会 日系社会研修帰国研修員 サンフアン農牧総合協同組合（CAISY） 日系社会研修帰国研修員 サンフアン移住地→サンタクルス（移動）	ラパス
10月2日	水	08:40 11:00 11:30 14:40 15:10	日系社会研修帰国研修員 サンタクルス→オキナワ移住地（移動） 日系社会研修帰国研修員 オキナワ日ボ協会 元沖縄県人会会長 Fundación Centro Tecnológico Agropecuario en Bolivia (CETABOL) オキナワ移住地→サンタクルス→ラパス（移動）	
10月3日	木	10:00 10:40 11:10 15:30 16:00 16:30 17:10 17:50 18:30	リーダー育成事業研修員（一時帰国中） 日系社会研修帰国研修員 日系社会研修帰国研修員 移住資料館 次世代育成研修（中学生）帰国研修員 リーダー育成事業帰国研修員 日系社会研修帰国研修員 日系社会研修帰国研修員 ラパス日本人会	
10月4日	金	14:00	JICA 事務所表敬・報告	
10月5日	土		ラパス→ボゴタ→ドバイ→成田（10/8 帰着）	